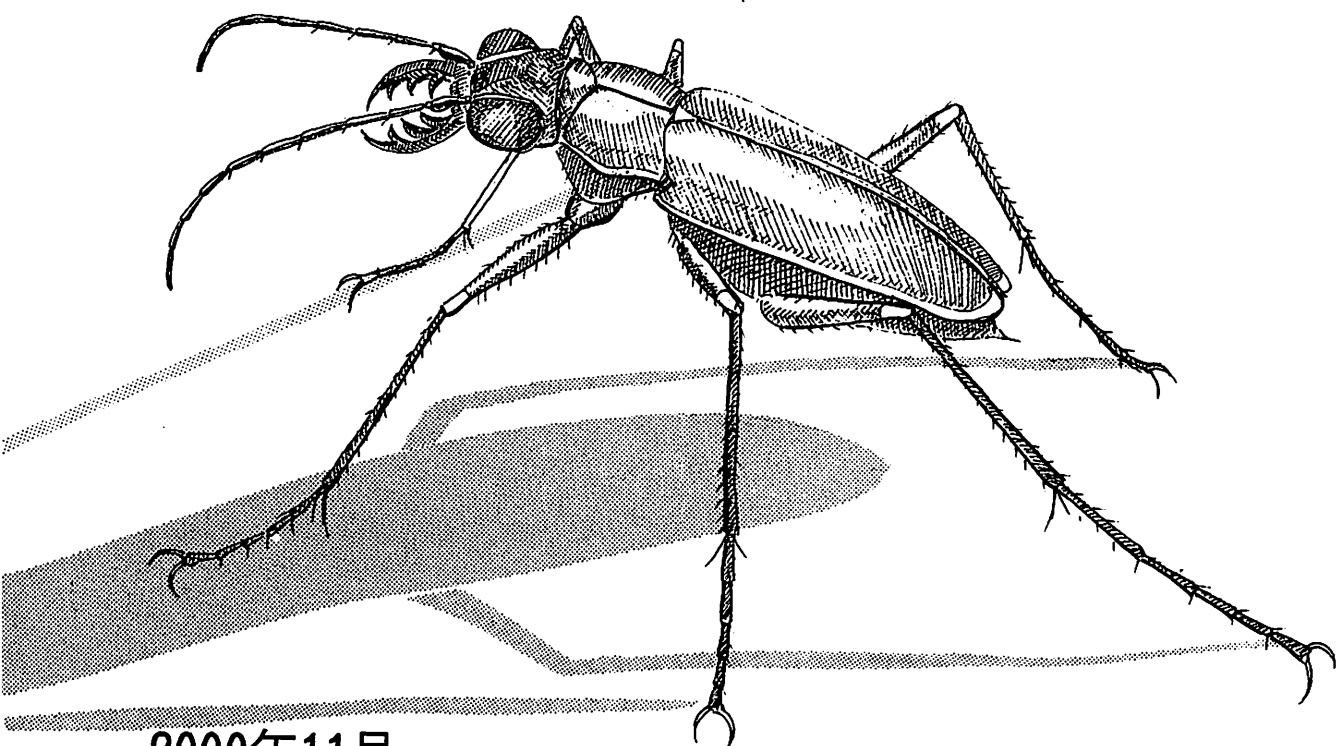
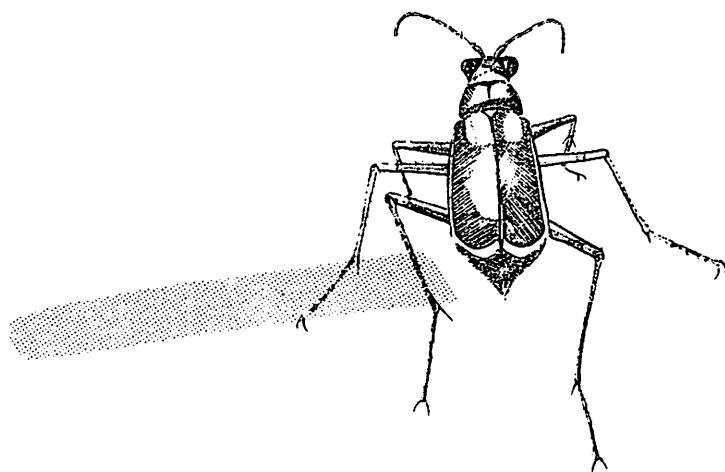


まべりはむし

第28巻 第2号



2000年11月

兵庫昆虫同好会

ヨドシロヘリハンミョウ
S. K

諏訪山公園の蝶 第2報 (飛来消長と年次変動について)

山口 福男

神戸市中央区にある諏訪山公園に飛来する蝶の種類と概況について、さきに本誌第23巻第1号に報告したが、内容は1985年から1994年までの10年間の観察結果をとりまとめたものであった。その後1999年まで調査を続けることができたので、ここに再び追加報告する。

前回の報告では飛来する蝶の種類の確認が主となっていて、飛来消長や個体数については単に観察による感じを概説したもので客観性に欠ける報告であった。そこで今回は公園に飛来する蝶を種類ごとに数えることで内容により具体性を持たせようと試みた。

調査方法

観察期間は1995年4月1日から1999年12月31日までとし、1週間に3～4日公園内の花壇と植え込み約1,500平方メートルを10時・12時・15時に巡回し飛来している蝶のすべてを種類別に記録した。

資料のまとめ

私の公園への出勤日が観察日のため毎日の数値が得られなかったため、月あるいは旬別の調査日数を揃える必要から数値を補正して考察した。補正の方法は年間300頭を超えた種類は旬ごとに1日あたりの飛来数を計算し、旬日数を掛けて旬あたりの数値とし、それより少ない蝶は月別に1日あたりの数値を求めて各月ごとの日数を掛けてその月の飛来数とした。なお年間10前後あるいはそれ以下の蝶は補正はしなかった。

飛来した蝶の種類

前回報告した1995年までの10年間の記録は53種であったが、今回はオオムラサキ・メスグロヒョウモン・ツマグロキチョウの飛来がなく、かわりにダイミョウセセリとツバメシジミが飛来したので最近の5年間は52種となり、過去15年の総数では55種となった。飛来数が5年の平均が100頭を超えたのは8種、50頭以上が6種であった。少ないが毎年飛来したのが10種で、他の31種は飛来数が極端に少ないか、年によっては姿を現すことのなかった種類であった。

種類ごとの個体数

年間飛来数が1,000頭を超えたのが3種あり、最多記録はモンシロチョウで1,752頭('98)、ついでヤマトシジミ1,489頭('97)、イチモンジセセリ1,480頭('98)であった。年平均100頭以上は5種で、最多記録を並べると、アゲハ564頭('95)、チャバネセセリ564頭('99)、アオスジアゲハ500頭('95)、ツマグロヒョウモン401頭('99)、キチョウ251頭('97)。平均値では100頭に満たないが1年でも100頭を超したのはウラナミシジミ116頭('98)、ホシミスジ128頭('98)の2種であった。年間記録50頭以上はクロアゲハ・ナガサキアゲハ・ムラサキシジミ・ベニシジミ・ルリタテハ・ウラギンシジミ・テングチョウ・ヒメアカタテハ・キマダラセセリの9種があげられる。年間わずか数頭ながら毎年途切れることなく飛来したのはモンキアゲハ・モンキチョウ・ツマキチョウ・コムシジ・キタテハ・ルリタテハ・アカタテハの7種であった(表1)。

種類ごとの飛来消長と年次変動

アゲハ 初飛来は早い年で4月10日('98)、遅いのは5月3日('96)で、平均すると4月19日となった。第1回成虫の最盛期は早いと4月中旬('98)、遅いと5月中旬('96)となるが、平均値は5月上旬である。第1回成虫は6月中旬までに終息するが、それよりも早く第2回成虫が飛来し春型と夏型が混合する。第2回成虫の初飛来日の変動は少なく、早くて6月5日、

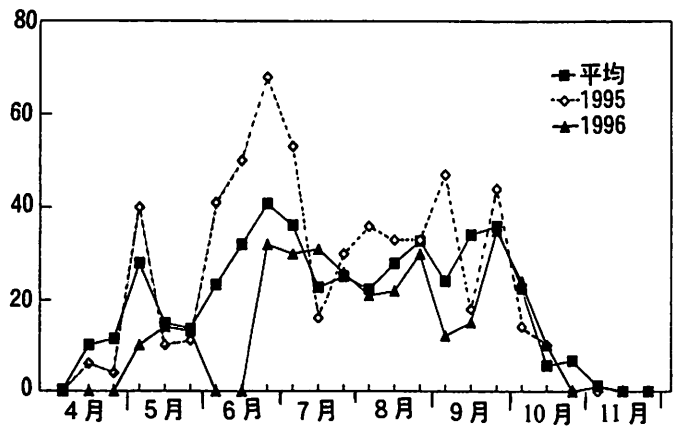


図1 アゲハチョウの年間発生消長

表1 諏訪山公園におけるチョウの種類別年次別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均	多/少	多/平均	少/平均
アゲハ	564	332	563	426	482	2367	473.4	1.7	1.19	0.7
アオスジアゲハ	500	401	369	474	340	2084	416.8	1.47	1.2	0.82
モンキアゲハ	24	12	20	15	12	83	16.6	2	1.45	0.72
クロアゲハ	32	28	55	94	50	259	51.8	3.36	1.81	0.54
ナカサキアゲハ	39	12	12	35	64	162	32.4	5.33	1.98	0.37
カラスアゲハ	4	1	3	0	0	8	1.6			
ミヤマカラスアゲハ	0	0	0	2	1	3	0.6			
キアゲハ	4	0	0	1	3	8	1.6			
モンシロチョウ	1576	1066	1402	1752	1101	6897	1379.4	1.64	1.27	0.77
スنگロシロチョウ	2	0	3	0	0	5	1			
モンキチョウ	2	1	1	1	4	9	1.8			
キチョウ	193	84	251	239	137	904	180.8	2.99	1.39	0.47
ツマキチョウ	6	5	1	4	5	21	4.2			
ムラサキシジミ	20	31	20	54	21	146	29.2	2.7	1.85	0.69
ウラコマダラシジミ	2	0	0	0	0	2	0.4			
アカシジミ	0	0	1	0	3	4	0.8			
トラフシジミ	0	4	0	0	2	6	1.2			
ヘニシジミ	20	18	11	53	22	124	24.8	4.81	2.14	0.44
ウラミシジミ	113	42	33	116	56	360	72	3.53	1.61	0.46
ヤマトシジミ	1327	1066	1489	1237	1410	6529	1305.8	1.4	1.14	0.82
ルリシジミ	11	63	16	53	14	157	31.4	5.73	2.01	0.35
ツバメシジミ	0	0	2	1	0	3	0.6			
ウラキシジミ	92	47	45	79	36	299	59.8	2.56	1.54	0.6
デンクチョウ	84	30	69	38	29	250	50	2.9	1.68	0.58
アサキマダラ	0	2	1	0	1	4	0.8			
ミドリヒョウモン	0	2	1	0	0	3	0.6			
ツマクロヒョウモン	41	4	55	152	401	653	130.6	100.3	3.06	0.03
イチモンジチョウ	1	0	0	0	0	1	0.2			
アサマイチモンジ	2	1	0	0	2	5	1			
コミスジ	12	2	4	6	2	26	5.2			
ミスジチョウ	1	1	1	0	0	3	0.6			
ホシミスジ	88	57	86	128	64	423	84.6	2.24	1.51	0.67
キタテハ	13	17	19	11	5	65	13	3.8	1.46	0.38
ヒオトシチョウ	6	4	0	0	0	10	2			
ルリシジミ	3	2	4	9	4	22	4.4			
ヒメアカタテハ	87	41	54	50	60	292	58.4	2.12	1.49	0.7
アカタテハ	14	22	16	13	3	68	13.6	7.33	1.62	0.22
イシカケチョウ	1	2	0	1	0	4	0.8			
コムラサキ	2	0	0	0	0	2	0.4			
コマダラチョウ	1	0	2	2	1	6	1.2			
ヒメウラナミシヤノメ	1	2	1	0	2	6	1.2			
ヒメシヤノメ	1	0	0	0	0	1	0.2			
クロヒカゲ	8	1	5	1	0	15	3			
ヒカゲチョウ	4	0	2	0	1	7	1.4			
サトキマダラヒカゲ	2	0	6	2	1	11	2.2			
クロノマチョウ	2	0	2	2	0	6	1.2			
ダイミョウセセリ	0	0	0	1	0	1	0.2			
コチャハネセセリ	2	0	0	0	0	2	0.4			
キマダラセセリ	46	33	48	11	27	165	33	4.36	1.45	0.33
オオチャハネセセリ	1	1	5	0	0	7	1.4			
イチモンジセセリ	1300	909	647	1480	225	4561	912.2	6.58	1.62	0.25
チャハネセセリ	303	296	302	437	567	1905	381	1.85	1.47	0.78
総計	6557	4642	5627	6980	5158	28964	5792.8	1.5	1.21	0.8

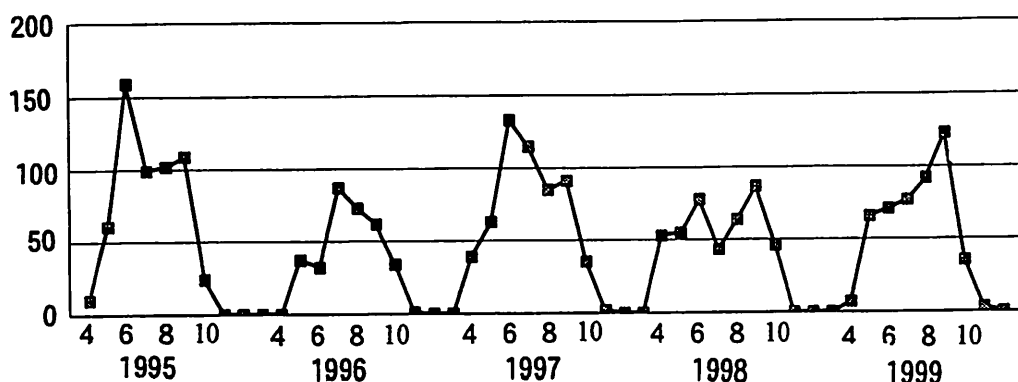


図2 アゲハチョウの5年間の発生消長

遅くても13日で平均値は6月9日となった。第2回成虫の最盛期は早いと6月中旬('99)のこともあるが他の年はすべて6月下旬であった。第3回以後は晩秋までに飛来が連続し、8月下旬から9月下旬の間に3回目、4回目のピークが見られる。終息日は天候に支配されているようで、暖かい晴天の続いた年は11月7日('96)まで飛来している。早いときは10月20日('95)で平均10月31日であった。年間の飛来数は最多が564頭('95)、最少が332頭('96)、平均473頭であった。最多と最少の比は1.7で、平均との差は19%増と30%減で、当初考えていたほどの年による差は大きくなかった。

年間の発生消長は図1に見られるように4回のピークが現れるが、出現の時期や高さなどは年によって変動が大きいことがうかがわれた。そこで5年分を並列して傾向をみることにした。旬別では煩雑すぎてわかりにくいため、月別の合計値を並列して単純化したのが図2である。これを見ると年ごとに飛来のパターンが変化していることがよく表現されている。さきに本種の飛来数については年次変動が大きいのではないかと感じていたのは季節的な変動を混同していたようである(表2, 図1・2)。

表2 アゲハチョウの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4 月上	0	0	0	2	0	2	0.4
4 月中	6	0	14	28	2	50	10
4 月下	4	0	25	23	5	57	11.4
5 月上	40	10	38	15	37	140	28
5 月中	10	14	10	20	20	74	14.8
5 月下	11	13	15	20	9	68	13.6
6 月上	41	0	43	15	18	117	23.4
6 月中	50	0	32	28	50	160	32
6 月下	68	32	58	35	11	204	40.8
7 月上	53	30	53	10	35	181	36.2
7 月中	16	31	32	13	22	114	22.8
7 月下	30	26	30	20	20	126	25.2
8 月上	38	21	16	15	24	112	22.4
8 月中	33	22	27	23	35	140	28
8 月下	33	30	42	26	33	164	32.8
9 月上	47	12	20	17	25	121	24.2
9 月中	18	15	38	50	50	171	34.2
9 月下	44	35	33	20	48	180	36
10 月上	14	24	28	23	24	113	22.6
10 月中	10	10	3	5	0	28	5.6
10 月下	0	0	4	18	11	33	6.6
11 月上	0	1	2	0	3	6	1.2
11 月中	0	0	0	0	0	0	0
11 月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	564	326	563	426	482	2361	472.2

初発日 4月17日 5月3日 4月17日 4月10日 4月16日
 終息日 10月20日 11月7日 11月1日 10月29日 11月4日

4月19日
 10月31日

アオスジアゲハ 初飛来日は早い年は4月16日('98)、遅いと5月9日('96)、平均4月28日で、いつもアゲハよりも遅れて飛来し、平均値で9日遅れとなっている。第1回成虫のピークは1998年が4月下旬で特別に早い、他の年は5月上中旬となっている。第2回成虫は早いと6月10日('99)、遅れても6月29日('95)、平均6月17日で、どの年も第1回成虫が終息してから第2回成虫が飛来した。第2回成虫の最盛期は7月中旬のことが多いが8月にずれこんだ年もあった。その後晩秋まで飛来が続くが9月下旬から10月中旬にかけてピークが現れる年と不明瞭な年があった。終息はアゲハと同様に天候に支配されていると思われるが、これとは必ずしも同調はしていない。終息日は10月26日('97)から11月8日('98)、平均10月31日であった。年間飛来数は最多500頭('95)、最少340頭('99)、平均417頭で、本種も年次変動は大きくなかった。最多と最少の比は1.5で、平均値に対して最多は20%増、最少は18%減であった。

表3 アオスジアゲハの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4 月上	0	0	0	0	0	0	0
4 月中	0	0	0	35	0	35	7
4 月下	1	0	2	138	0	141	28.2
5 月上	30	7	17	33	22	109	21.8
5 月中	20	20	18	30	10	98	19.2
5 月下	13	17	18	24	0	72	14.4
6 月上	7	13	2	10	2	34	6.8
6 月中	0	1	2	18	18	39	7.8
6 月下	2	2	30	33	0	67	13.4
7 月上	22	15	67	22	25	151	30.2
7 月中	32	47	38	25	32	174	34.8
7 月下	35	44	22	16	24	141	28.2
8 月上	44	34	16	18	22	134	26.8
8 月中	43	26	20	18	23	130	26
8 月下	44	9	15	15	20	103	20.6
9 月上	36	12	20	7	13	88	17.6
9 月中	23	30	26	10	27	116	23.2
9 月下	40	53	2	2	35	132	26.4
10 月上	34	50	28	7	42	161	32.2
10 月中	45	19	10	8	7	89	17.8
10 月下	29	2	18	0	18	67	13.4
11 月上	0	0	0	5	0	5	1
11 月中	0	0	0	0	0	0	0
11 月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	500	401	369	474	340	2084	416.8

初発日 4月27日 5月9日 4月27日 4月16日 5月2日 4月28日
 終息日 10月29日 10月31日 10月26日 11月8日 10月31日 10月31日

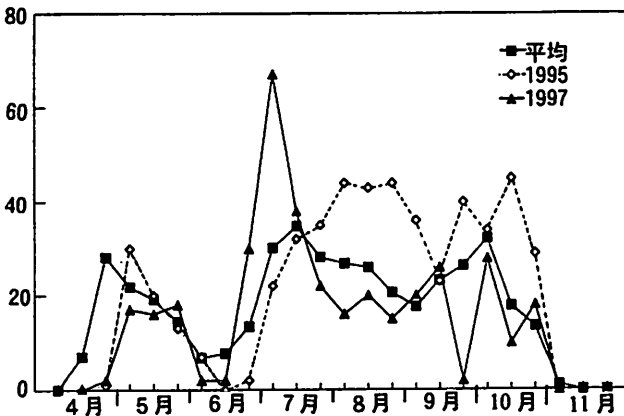


図3 アオスジアゲハの年間発生消長

1998年は第1回成虫の飛来が早かっただけでなく飛来数も異常に多かったが、その後の飛来が少なく総数474頭と平年と大差なくなった。逆に第1回成虫の少なかった1999年は7月以降に増加して平年の18%減までに回復している。年間の飛来消長を図4に示したが、発生のピークは3回あり、各年ごとにパターンが違っている。そこで旬ごとの飛来数を5ヶ年分並列して見たところ、季節的な変化が大きいことが一目瞭然であった。さらに月別にして単純化し

ても同様であった。本種も調査を始めるまではアゲハ以上に飛来数の年次変動が大きいと考えていたが、実際はそうではなかった。変動が大きいと感じたのは季節ごとの飛来数の差が大きく世代ごとの変動が大きいことが強く印象づけられたためと考えられる。前述のように第1世代が極端に多くても以後の飛来が少なく、逆に第1世代が少ないと次世代以降で回復して各年ごとの3世代を合計した総飛来数は大きな差はなくなっている(表3,図3-4)

モンキアゲハ 毎年飛来しているがその数は少なく、最多年('95)でも24頭に過ぎない。第1回成虫が飛来したのは'95年5月28日と'98年5月14日の2回だけで、第2回成虫の初飛来の確認ができたのも3回、7月13-22-25日であった。第1-2回成虫のピークは数が少なくて判然としないが第3回成虫と見られる9月の飛来が最多となる。飛来数の最多と最少の比は2.0で、年次変動は意外と少なかった(表4)。

クロアゲハ アゲハチョウ科の中で3番目に多い蝶であるが、飛来数は少なく年間28頭('96)から94頭('98)、平均52頭に過ぎない。最多と最少の比は3.7、平均との比率は81%増、46%減でアゲハなどに比べると年次変動は大きい。第1回成虫の初飛来は早いもので4月17日('98)、遅くて5月26日('95)、平均5月5日で、アゲハより16日、アオスジアゲハより7日遅い。第2回成虫の初飛来が早かったのは7月1日('99)、遅かったのは7月22日('95)、平均7月7日であった。飛来のピークは年間3回、5-7-9月に現れ世代ごとに増加し3回目が最高となる。終息は年によって大きくふれ、早い年は9月19日

('95)、遅いと11月1日('98)で平均すると10月2日となった(表5)。

ナガサキアゲハ クロアゲハより多く飛来した年も2回('95,'99)あったが、5年合計ではクロアゲハ259頭に対し本種は162頭で、比率は63%であった。飛来数の年次変動は大きく最多と最少の比は5.3、平均値との差は98%と63%減であった。第1回成虫は'96-'97-'99年に飛来しているがその数は少ない。

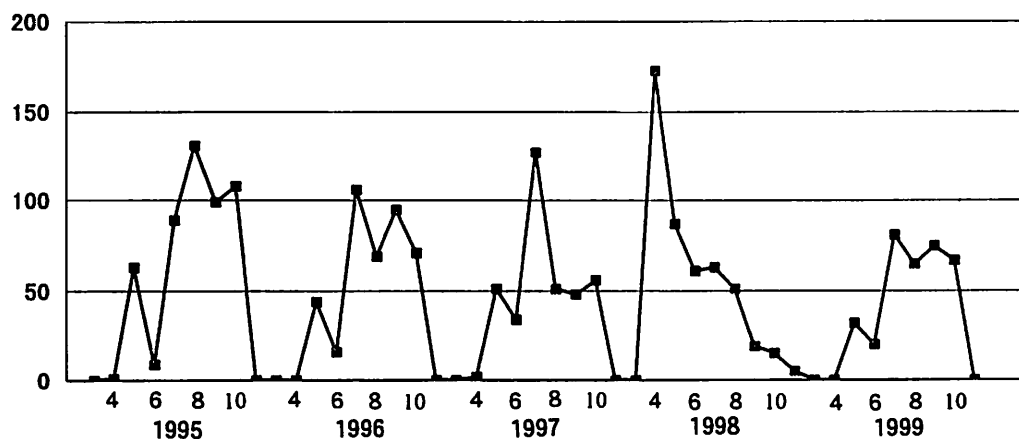


図4 アオスジアゲハの5年間の発消消長

表4 モンキアゲハの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	2	0	0	8	0	10	2
6月	0	7	0	2	0	9	1.8
7月	2	2	6	0	0	10	2
8月	2	3	4	0	4	13	2.6
9月	16	0	10	5	6	37	7.4
10月	2	0	0	0	2	4	0.8
合計	24	12	20	15	12	83	16.6

初発日 5月28日 6月21日 — 5月14日 — 5月21日
 終息日 10月15日 — 9月21日 9月27日 10月7日 10月3日

表5 クロアゲハの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	0	0	14	0	14	2.8
5月	4	2	4	16	6	32	6.4
6月	4	2	7	17	2	32	6.4
7月	2	4	11	16	12	45	9
8月	2	16	10	5	2	35	7
9月	20	4	23	21	24	92	18.4
10月	0	0	0	3	4	7	1.4
11月	0	0	0	2	0	2	0.4
合計	32	28	55	94	50	259	51.8

初発日 5月24日 5月25日 5月4日 4月17日 5月13日 5月5日
 終息日 9月25日 9月19日 9月25日 11月1日 10月1日 10月2日

初飛来日は早いときは5月6日('99)、遅いときは5月21日('96)で平均は5月12日となりクロアゲハより7日遅い。第1回成虫のピークは飛来数が少なくよくわからない。第2回成虫の初飛来は平均で7月4日

で、クロアゲハより3日早い。第2回成虫も少なく最盛期がいつなのかよくわからないが、比較的飛来の多かった'95-'99の両年は7月がピークとなっている。夏の終わり頃から増えはじめ秋の世代が年間で最多となる。終息日は早い年は9月26日('96)、遅いと10月30日('99)で平均10月14日となっている。終息日をよく見ると飛来数の少ない年は早く終息し、多い年は遅くまで飛来している。このことは簡単に考えればごくあたりまえのことで、少ないときは早くから姿が見えなくなって当然である。本種の終息日は黒いアゲハのなかで一番遅いとみてよいのではなかろうか(表6)。

ミヤマカラスアゲハ 初めての記録は1993年9月で、その後も少ないながら飛来を見ている。過去15年の記録は次のとおりで、近くの山地に定着している可能性が高い。

'93年9月1頭、'98年7月2日1頭、8月21日1頭、'99年7月2日1頭

カラスアゲハ 近くの山では普通なのに市街地で見ることが少ない蝶で、当公園への飛来もわずかで5年合計で8頭だけである。飛来は5月から9月で山間と変わりはない。

キアゲハ 近郊の田園地域ではごく普通にいる蝶なのに当公園に飛来することが少ない。市街地への

表6 ナガサキアゲハの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	8	2	0	6	16	3.2
6月	0	0	2	0	0	2	0.4
7月	10	0	4	5	21	40	8
8月	0	0	2	10	4	16	3.2
9月	22	4	0	10	21	57	11.4
10月	7	0	2	10	12	31	6.2
合計	39	12	12	35	64	162	32.4

初発日 — 5月23日 5月8日 — 5月6日
 終息日 10月12日 9月26日 10月3日 10月29日 10月30日

適応性が乏しいのかも知れない。圏内のセリ科植物で幼虫を見たのは1998年の秋だけで、それも僅かに2頭だけであった。過去5年のうち飛来したのは3ヶ年で飛来総数は8頭であった。飛来は春から秋まで長期に及ぶが9月が一番多い。

モンシロチョウ 年間飛来数が最多の蝶で早春から晩秋まで穏やかな晴天の日にはいつでも見られる。年間飛来数の最高は1,752頭('98)、少なかったのは1,066頭('96)で、最多と最少の比は1.6、平均値に対

5月12日
10月14日

し27%増と23%減であった。この数値を見る限り年次変動が大きいとはいえない。初飛来日は早いのが3月8日('98)、遅れても28日('96)、平均3月19日であった。ガラス室やビニールハウスなどでは2月上旬頃から羽化個体を見るが、これらは調査対象から除外した。第1回成虫の最盛期は4月中旬から5月上旬の間に現れる。第2回成虫は5月上旬から飛来しはじめるが、この頃はまだ第1回成虫の飛来が続いていて飛翔中の蝶を区別するのは難しい。5月下旬から6月下旬の間に第2回のピークが現れたあと急減し、8月に最低となる。秋冷とともに増加し10月に最盛期を迎えて11月下旬に終息する。終息日は早い年は11月15日('96)、遅くて28日('99)、平均は20日であった。年間にピークが3回見られるが第2回が一番高く、秋の第3回がこれに次ぐのが普通のパターンであるが、'99年は第3回が最高となった。月別合計を5ヶ年並列したのが図7であるが、'98年まで規則正しい消長が繰り返されていたのに'99年は突然これまでと異なるパターンであった。この変化の原因は全く見当がつかない(表7、図5-6)。

表7 モンシロチョウの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
3月上	—	0	0	2	0	2	0.4
3月中	—	0	0	6	2	8	1.6
3月下	—	4	29	24	3	60	12
4月上	31	5	33	72	9	150	30
4月中	56	23	99	95	28	301	60.2
4月下	39	54	105	58	18	274	54.8
5月上	75	20	70	50	8	223	44.6
5月中	31	22	38	150	8	249	49.8
5月下	124	24	176	262	31	617	123.4
6月上	97	113	93	165	60	528	105.6
6月中	138	124	138	113	78	591	118.2
6月下	167	146	128	70	23	534	106.8
7月上	63	95	113	64	42	377	75.4
7月中	46	64	78	33	62	283	56.6
7月下	38	50	19	20	51	178	35.6
8月上	54	14	20	20	56	164	32.8
8月中	67	30	13	13	33	156	31.2
8月下	68	3	18	18	50	157	31.4
9月上	61	24	30	40	43	198	39.6
9月中	90	33	26	45	35	229	45.8
9月下	119	48	23	70	50	310	62
10月上	44	76	20	113	90	343	68.6
10月中	93	33	55	83	57	321	64.2
10月下	50	59	64	70	99	342	68.4
11月上	20	17	8	80	128	253	50.6
11月中	5	5	0	16	17	43	8.6
11月下	0	0	6	0	20	26	5.2
合計	1576	1086	1402	1752	1101	6917	1383.4

初発日 4月6日 3月28日 3月21日 3月8日 3月18日 3月19日
 終息日 11月18日 11月15日 11月27日 11月15日 11月28日 11月20日

スジグロチョウ '95年までは毎年6月に数頭飛来していたが、'96年は飛来はなく、'97年9月と10月に1頭ずつ飛来したのち途絶えている。

モンキチョウ 毎年飛来しているが少なく、5年間に9頭飛来しただけで、時期も5月から11月に及び、一定の傾向は見られなかった。

キチョウ 早春から晩秋まで断続的であるが飛来が続く。しかし数は多くなく年間に84頭('96)から239頭('98)で年次変動が大きい。最多と最少の比率は3.0であり、平均値との差は39%増と53%減であった。越冬成虫が3月から5月にかけて飛来し4月に小さなピークをつくる。6月に第2回成虫が飛来するが少なく、その次の世代もさらに少ない。9月になると飛来が多くなり10月にピークとなる。秋世代の飛来数が最多となり、年間飛来数の80%に達した。終息は成虫越冬するためかなり遅く、早いときでも11月25日('98)、遅いのは12月12日で、平均値は12

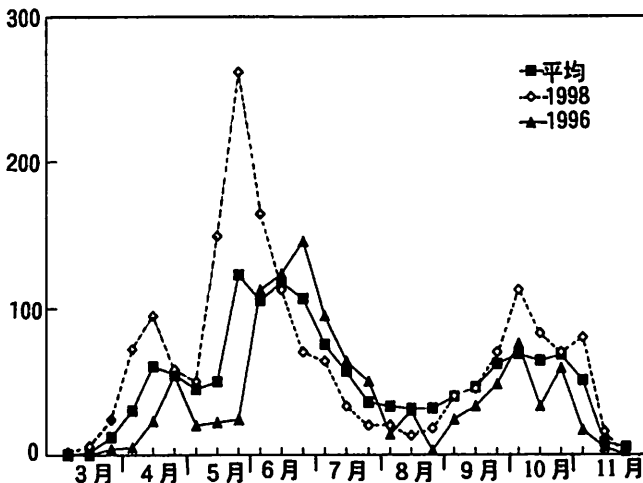


図5 モンシロチョウの年間発生消長

月4日であった。年ごとの飛来消長は春に小さなピークを作った後、夏の飛来は少なく秋に大きなピークとなるのが普通のパターンであるが、'96年だけは違っていて飛来数が少なく春と秋のピークの高さが同等となっている(表8, 図7-8)。

ツマキチョウ '85年から'94年までの10年間に飛来を見たのは3年だけであったが、'95年からは毎年飛来した。しかし数は少なく、5年合計で21頭にすぎなかった。飛来時期は4月5日から5月12日の間で近くの産地と大差なかった。

ツマグロキチョウ '94年頃までは秋遅くに飛来することもあったが、'95年以降は全く姿を見えていない。

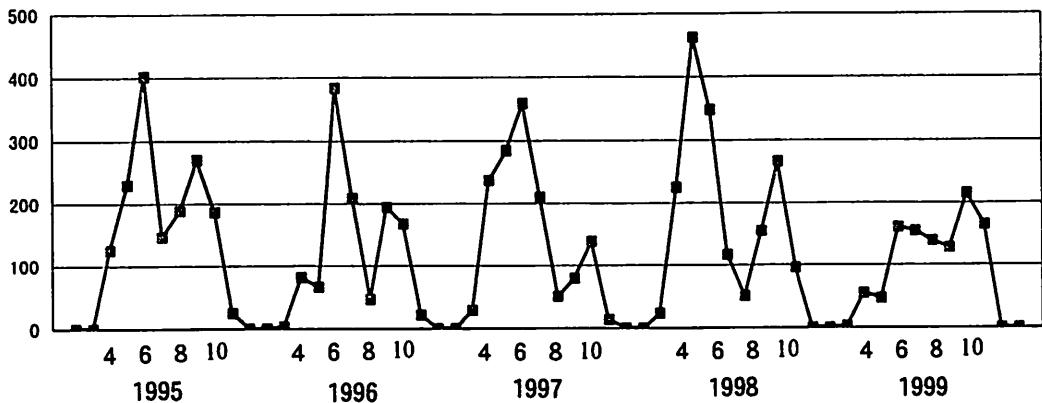


図6 モンシロチョウの5年間の発生消長

表8 キチョウの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
3月	—	18	6	14	2	40	10
4月	2	16	23	17	2	60	12
5月	0	2	0	6	2	10	2
6月	2	0	3	5	0	10	2
7月	10	0	3	3	6	22	4.4
8月	10	0	9	7	6	32	6.4
9月	53	10	36	32	14	145	29
10月	87	20	93	84	60	344	68.8
11月	25	16	78	71	43	233	46.6
12月	4	2	0	0	2	8	1.6
合計	193	84	251	239	137	904	182.8

初発日 — 3月14日 3月1日 3月19日 3月8日 3月11日
 終息日 12月1日 12月12日 11月30日 11月25日 12月4日 12月4日

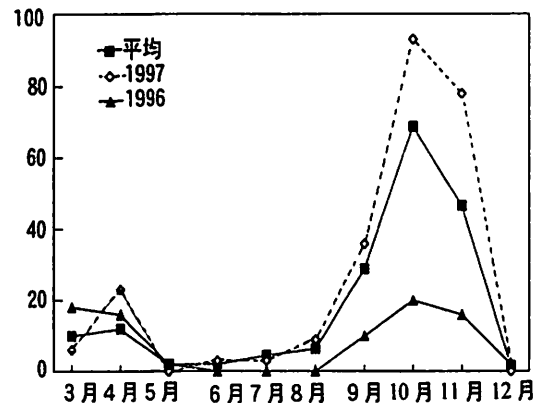


図7 キチョウの年間発生消長

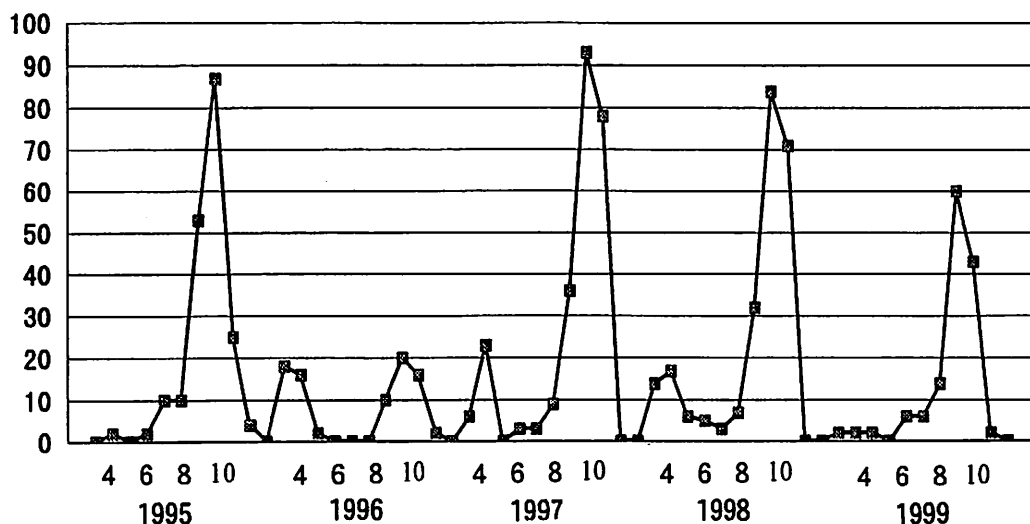


図8 キチョウの5年間の発生消長

表9 ムラサキシジミの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	0	0	10	4	14	2.8
5月	2	0	0	0	0	2	0.4
6月	2	0	0	5	2	9	1.8
7月	2	0	0	2	0	4	0.8
8月	0	0	0	0	2	2	0.4
9月	0	0	2	0	0	2	0.4
10月	7	14	2	14	2	39	7.8
11月	7	17	16	23	11	74	14.8
合計	20	31	20	54	21	146	29.2

初発日 5月4日 10月23日 9月18日 4月5日 4月3日 —
 終息日 11月18日 11月24日 11月10日 11月14日 11月20日 11月17日

表10 ベニシジミの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	2	0	0	2	0	4	0.8
5月	6	0	0	10	2	18	3.6
6月	0	2	0	2	0	4	0.8
7月	3	2	2	0	2	9	1.8
8月	7	2	2	5	2	18	3.6
9月	0	0	5	0	6	11	2.2
10月	2	6	2	34	8	52	10.4
11月	0	6	0	0	2	8	1.6
合計	20	18	11	53	22	124	24.8

初発日 4月21日 — — 4月24日 5月5日 —
 終息日 10月13日 11月10日 10月3日 10月25日 11月4日 —

ムラサキシジミ 毎年飛来しているが個体数は少ない。飛来消長には一定の傾向は見られず、年ごとに大きく変化している。春に越冬成虫が飛来したのは3回('95,'98,'99)で、これらの年は第1回成虫の飛来がわずかながら見られた。'96年の初飛来日は10月23日、'97年は9月18日で、この2年の初飛来の蝶は最終の世代と考えられる。終息は成虫越冬のためか、かなり遅く11月に入ってからで平均11月17日であった。飛来数の年間変動も大きく最多と最少の比率は2.7で、平均値との差は85%増と31%減であった(表9)。

ウラゴマダラシジミ '85年6月に1頭がイボタノキに訪花したのを観察してから10年ぶりに'95年6月15日、18日に各1頭ずつ飛来した。その後は飛来を見ていない。

アカシジミ 毎年飛来することのない蝶で、過去5年のうち'97年6月22日に1頭、'99年6月10日に1頭、11日に2頭が飛来した。

トラフシジミ 本種も飛来の少ない蝶で5年間の記録は次のとおりである。
 '96年5月11日1頭、23日2頭、26日1頭、
 '99年4月22日1頭、6月6日1頭

ツバメシジミ 近郊の田園地域ではごく普通の蝶であるが市街地で見るとは殆どなく、観察をはじめて15年の間に飛来したのは'97年7月3日1頭、8月17日1頭、'98年6月11日1頭だけであった。市街地では食草のクローバーなどが非常に少ないのと成虫の移動力が弱いことが原因ではなかろうか。

ベニシジミ 郊外では多産するのに市街地では少なく、当公園へは毎年飛来するがその数は少なく年間11～53頭で、しかも年次変動が大きい。初飛来

は4月、終息は11月で多発地と大差はない(表10)。

ウラナシジミ 初飛来は5ヶ年とも9月中旬以降で最も早かったのは9月16日('95)、遅かったのは10月5日('97)で、平均は9月23日となった。

初飛来を見てから飛来は連続し、急速に増加する。10月中に最盛期を迎え11月に終息する。終息日は早いのは11月7日('96)、遅いと12月1日('95)で平均11月16日であった。飛来数の年次変動は大きく最多年の合計数は116頭、最少は33頭でその比は3.5で

表11 ウラナシジミの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
9月上	0	0	0	0	0	0	0
9月中	2	0	0	7	0	9	1.8
9月下	18	2	0	26	10	56	11.2
10月上	8	16	16	13	20	73	14.6
10月中	42	16	8	28	17	111	22.2
10月下	15	4	7	29	7	62	12.4
11月上	20	4	0	13	0	37	7.4
11月中	4	0	2	0	2	8	1.6
11月下	2	0	0	0	0	2	0.4
12月上	2	0	0	0	0	2	0.4
12月中	0	0	0	0	0	0	0
12月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	113	42	33	116	56	360	72

初発日 9月16日 9月28日 10月5日 9月11日 9月23日 9月23日
終息日 12月1日 11月7日 11月16日 11月8日 11月18日 11月16日

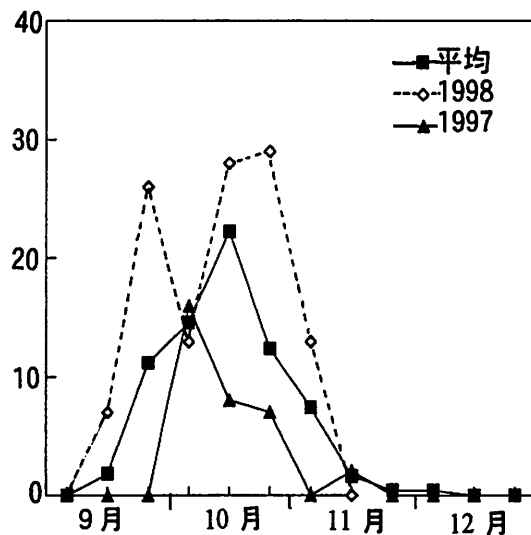


図9 ウラナシジミの年間発生消長

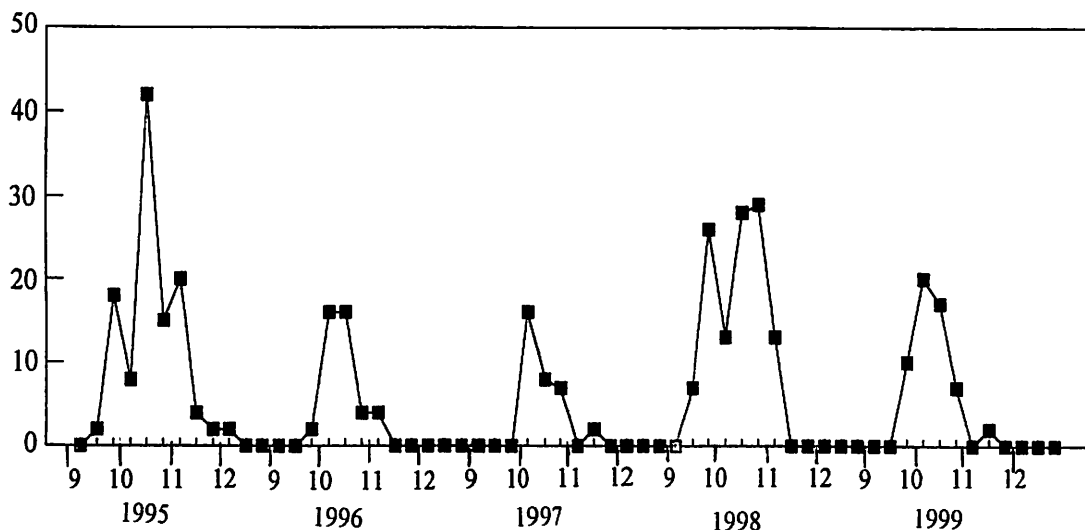


図10 ウラナシジミの5年間の発生消長

あった。平均値との差61%増と54%減となった。年間の飛来パターンはピークの高さが年ごとに違いがあるものの、形はほとんど変化がない(表11, 図9・10)。

ヤマトシジミ モンシロチョウに次いで飛来の多

表12 ヤマトシジミの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月上	0	0	0	0	0	0	0
4月中	0	0	0	28	0	28	5.6
4月下	3	0	5	30	0	38	7.6
5月上	3	0	13	15	13	44	8.8
5月中	19	10	26	7	14	76	15.2
5月下	15	33	2	2	18	70	14
6月上	3	14	8	10	2	37	7.4
6月中	0	0	12	33	14	59	11.8
6月下	7	48	43	35	13	146	29.2
7月上	25	40	70	20	57	212	42.4
7月中	20	34	35	60	40	189	37.8
7月下	20	18	39	79	33	189	37.8
8月上	74	46	80	38	48	286	57.2
8月中	99	54	43	27	88	311	62.2
8月下	101	44	154	95	38	432	86.4
9月上	153	66	99	107	143	568	113.6
9月中	223	72	174	128	180	777	155.4
9月下	214	140	118	122	140	734	146.8
10月上	86	132	92	103	132	545	109
10月中	118	89	160	98	143	608	121.6
10月下	97	106	136	95	156	590	118
11月上	38	61	78	55	85	317	63.4
11月中	7	48	80	50	28	213	42.6
11月下	2	11	20	0	25	58	11.6
合計	1327	1066	1487	1237	1410	6527	1305.4

初発日 4月27日 5月11日 4月27日 4月14日 5月1日 4月28日
終息日 11月15日 11月24日 11月30日 11月20日 12月4日 11月25日

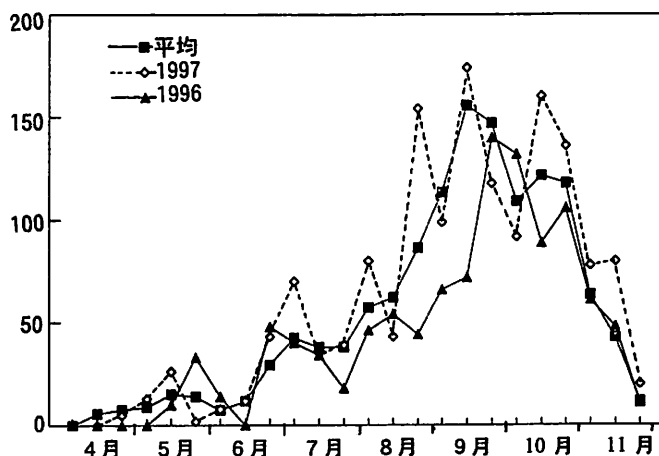


図11 ヤマトシジミの年間発生消長

い蝶であるが、初飛来は意外に遅く、早い年で4月14日('98)、遅いのは5月11日('96)、平均でも4月28日であった。第1回成虫のピークは5月中旬から下旬で、第2回のピークが6月下旬から7月上旬に見られた後は世代が重なって増加の一途をたどり秋に大きなピークを迎える。終息は早い年で11月15日

('95)で、遅いのは12月4日('99)、平均11月25日であった。飛来数の年次変動は小さく、最多が1,487('97)、最少が1,066('96)でその比率は1.4、平均との差は14%増と18%減であった。飛来消長は年による差は小さく、単純な繰り返しとなっている。食草が市街地に適応した丈夫なカタバミであり、しかも狭い地域で連続して育つことができ、世代数の多いことなどでこのような安定した発生が可能になったと考えられる(表12, 図11・12)。

ルリシジミ ごく普通種なのに意外に飛来の少ない蝶で、毎年飛来するが少なく、年間に11~63頭に過ぎない。第1回成虫の早かったのは3月12日('98)、遅かったのは4月17日('99)、平均4月7日であった。6月に第2回成虫の飛来を見るが数が少なくてピークははっきりしない。7月中旬からは全く飛来せず9月中旬に秋の世代が現れるが、春世代よりはるかに少ない。終息は早く10月中旬には姿を消した(表13)。

ウラギンシジミ 成虫越冬しているのに春に見ることは少ない。第1回成虫と思われるのが5月下旬から6月にかけて飛来するが少ない。本格的な飛来は7月からで、個体数が多くなるのは9月以降でピークは10月、終息は11月であった。年間の総飛来数は36頭から92頭で年次変動は大きい。最多と最少の比率は2.6、平均との差は54%増と40%減であった(表14, 図13)。

テングチョウ 越冬成虫が早春から飛来するが早い年で2月('97)から、遅い年では4月22日('99)であった。4月に越冬成虫の、6月には新成虫のピークがあり、その後7月から8月にかけて減少する。10月から11月にかけて秋世代の最盛となるが春に比べると少ない。年間飛来数は

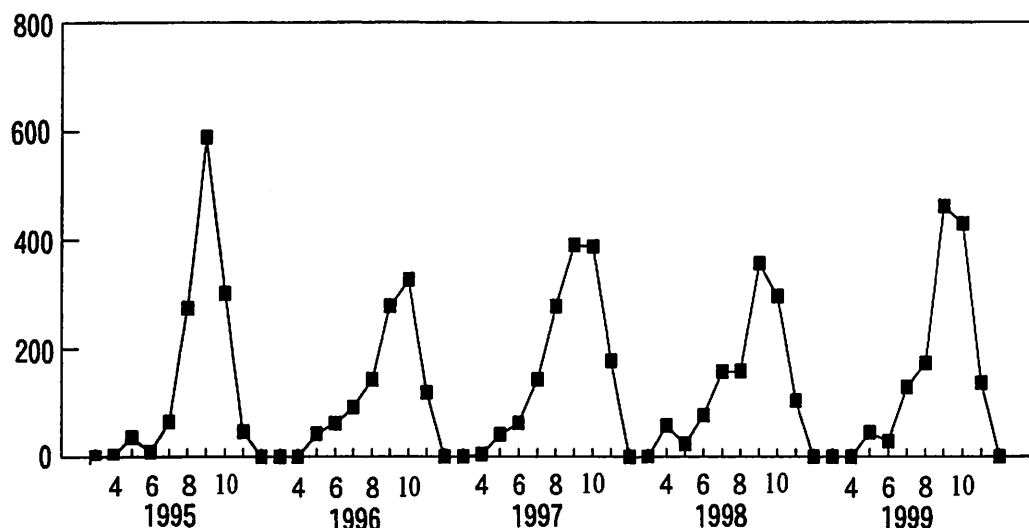


図12 ヤマトシジミの5年間の発生消長

表13 ルリシジミの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	4	4	0	2	10	2
5月	4	21	2	36	2	65	13
6月	7	25	0	10	10	52	10.4
7月	0	9	0	0	0	9	1.8
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	4	5	7	0	16	3.2
10月	0	0	5	0	0	5	1
合計	11	63	16	53	14	157	31.4

初発日 — 4月13日 4月17日 3月12日 4月17日 4月17日
 終息日 — 9月15日 10月2日 9月25日 — 9月24日

表15 テングチョウの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	15	7	9	2	2	35	7
5月	0	0	1	12	3	16	3.2
6月	43	9	34	20	0	106	21.2
7月	2	1	0	0	0	3	0.6
8月	2	0	0	0	0	2	0.4
9月	0	0	5	2	0	7	1.4
10月	13	12	4	2	7	38	7.6
11月	8	1	17	12	17	55	11
12月	1	0	0	0	0	1	0.2
合計	84	30	70	50	29	263	52.6

初発日 4月6日 3月21日 2月27日 3月13日 4月22日 —
 終息日 12月1日 11月23日 11月10日 11月11日 11月20日 11月19日

29～84頭で最多と最少の比は2.9で、平均との差は54%増、42%減であった。この数値から見てかなり年次変動が大きい。本種は時に突発的な大発生をすることが知られている。'85年と'91年は大発生とまでいかなかったけれど飛来数が多く、正確に計

表14 ウラギンシジミの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
5月上	0	0	0	0	0	0	0
5月中	0	0	0	0	0	0	0
5月下	0	0	0	4	0	4	0.8
6月上	0	0	0	0	0	0	0
6月中	0	0	0	0	2	2	0.4
6月下	0	0	0	0	0	0	0
7月上	0	0	0	0	0	0	0
7月中	0	1	0	0	2	3	0.6
7月下	1	0	0	11	0	12	2.4
8月上	0	0	0	3	0	3	0.6
8月中	0	2	0	3	0	5	1
8月下	0	0	0	2	0	2	0.4
9月上	1	2	13	0	3	19	3.8
9月中	4	0	6	3	5	18	3.6
9月下	4	5	10	2	0	21	4.2
10月上	2	8	6	10	10	36	7.2
10月中	30	11	8	5	0	54	10.8
10月下	24	11	0	15	9	59	11.8
11月上	25	3	2	15	5	50	10
11月中	1	0	0	6	0	7	1.4
11月下	0	4	0	0	0	4	0.8
合計	92	47	45	79	36	299	59.8

初発日 7月29日 7月13日 9月12日 5月22日 6月20日
 終息日 11月16日 11月23日 11月6日 11月12日 11月7日 11月13日

測していないが今回の5倍から10倍くらいはあったと思われた(表15, 図14-15)。

アサギマダラ 5年間に飛来したのは4頭だけで、記録は次のとおりであった。

図13 ウラギンシジミの年間発生消長

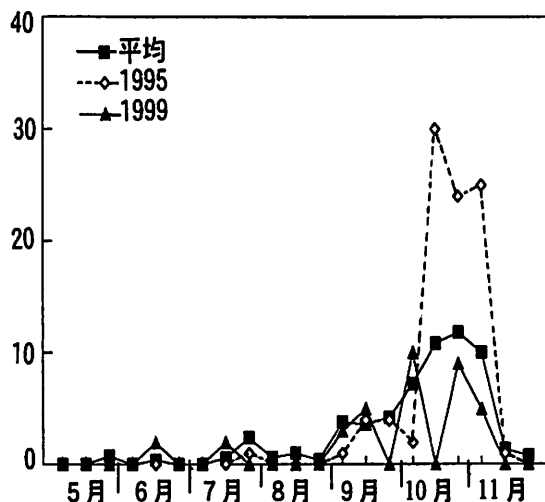


図14 テングチョウの年間発生消長

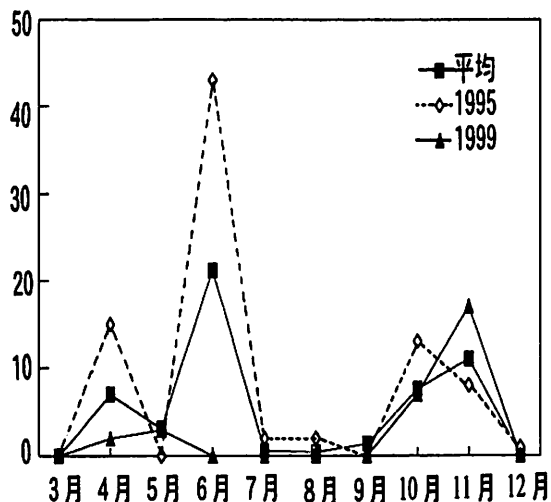


表16 ツマグロヒョウモン の5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月上	0	0	0	0	0	0	0
4月中	0	0	0	0	0	0	0
4月下	0	0	0	0	0	0	0
5月上	0	0	0	0	0	0	0
5月中	1	0	2	0	6	9	1.8
5月下	0	0	0	2	0	2	0.4
6月上	0	0	0	0	0	0	0
6月中	0	0	0	0	0	0	0
6月下	0	0	0	5	0	5	1
7月上	0	0	3	0	17	20	4
7月中	0	0	0	0	8	8	1.6
7月下	0	0	0	0	0	0	0
8月上	0	1	0	0	0	1	0.2
8月中	0	0	3	8	5	16	3.2
8月下	0	0	0	2	24	26	5.2
9月上	1	0	0	0	27	28	5.6
9月中	0	0	0	10	37	47	9.4
9月下	0	3	3	12	60	78	15.6
10月上	6	0	20	17	88	131	26.2
10月中	13	0	10	20	23	66	13.2
10月下	17	0	12	26	66	121	24.2
11月上	3	0	2	40	30	75	15
11月中	1	0	0	10	10	21	4.2
11月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	42	4	55	152	401	654	130.8

初発日 5月19日 — 5月18日 5月22日 5月14日 5月14日
 終息日 11月18日 9月27日 11月7日 11月15日 11月20日 11月15日

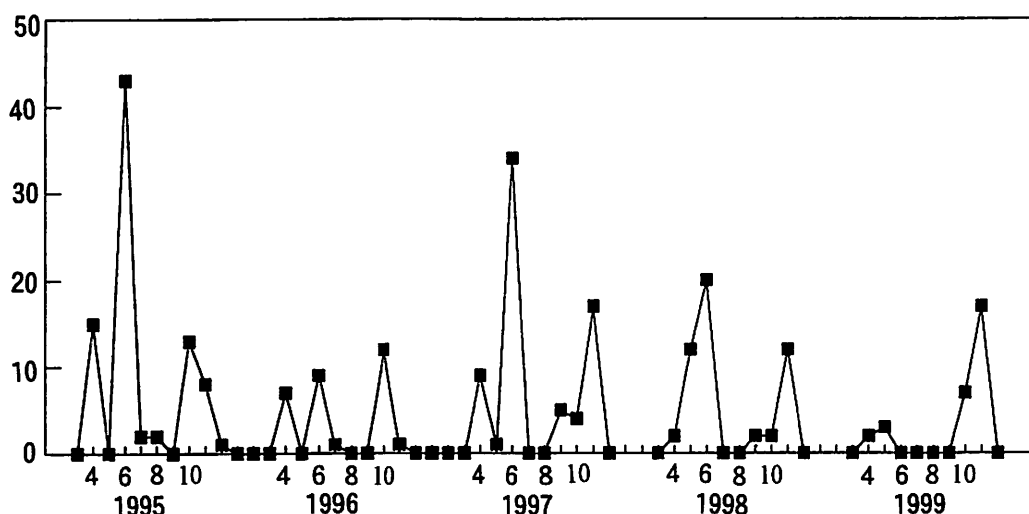


図15 テングチョウの5年間の発消長

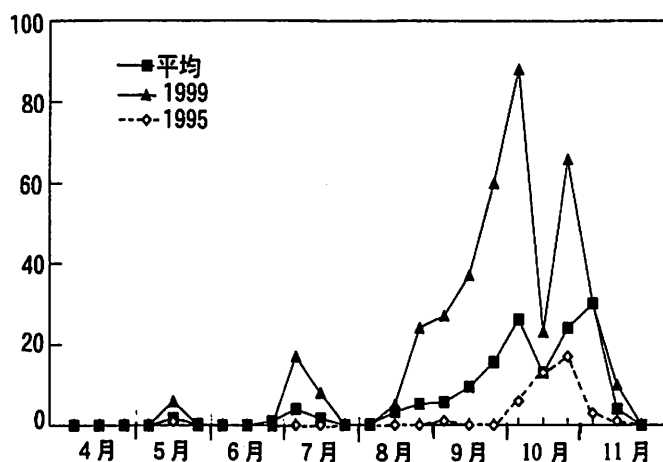


図16 ツマグロヒヨウモンの年間発消長

'96年10月11日1頭、11月7日1頭、'97年10月28日1頭、'99年5月28日1頭

ミドリヒヨウモン 毎年秋に飛来していたが、この5年間に飛来したのは'96年9月28日、29日に各1頭、'97年10月16日の1頭だけであった。

メスグロヒヨウモン '94年6月の1頭の雄蝶が飛来したのが15年間の唯一の記録であった。

ツマグロヒヨウモン 近年増加の傾向が著しい蝶であるが、年次変動が大きく'97年までは多い年に

は年間飛来数が50頭を超えることがあった一方で、少ない時は数頭を数えるに過ぎないような状況であった。ところが'98年から飛来が急増し、この年に152頭、'99年は401頭を数えた。初飛来日は変動が少なく5月14日から22日の間で、平均5月16日であった。5月の飛来は各年ともに少なく、6月下旬から7月中旬にかけて次の世代が飛来するが多くはない。8月になるとようやく増加傾向となって次第に数を増して10月にピークを迎える。終息は飛来の少なかった'96年は9月29日と早かったが、他の年は11月になってからで平均値は11月15日であった(表16, 図16)。

イチモンジチョウ 六甲山に普通なものに山から降りて市街地にまで飛来することは少なく、当公園での記録は過去15年間に1回だけであった。
'95年9月10日1頭

アサマイチモンジ 前種より飛来の回数は多いが、5年間の総数は5頭に過ぎなかった。飛来は6月から9月の間で近くの産地とかわりない。

ミスジチョウ 15年間に5回飛来を確認した。記録は次のとおりである。

'91年6月1頭、'92年6月1頭、'95年6月10日1頭、'96年5月31日1頭、'97年6月20日1頭

ホシミスジ 公園内のコデマリ、シジミバナ、ユキヤナギで世代を繰り返しているが、数としては多い蝶ではない。年間に64頭から128頭、平均85頭で年次変動は当初予想していたより大きかった。最多と最少の比率は2.3、平均値との差は51%増と33%減であった。初飛来日のふれが大きく、早い年は4月30日('98)、遅い年は6月2日('95)で、平均5月20日であった。第1回成虫の最盛期もふれが大きく5月中旬から6月下旬に及ぶ。第1回成虫の発生が終わる前に第2回成虫が出現し、その後も世代を重ねて秋まで飛来が続く。年間に最高のピークとなるのは第1回成虫で、その後のピークははっきりしない年

の方が多い。終息は通常9月中下旬であるが年によって10月から11月に少数出現することもあった(表17, 図17-18)。

コムシジ 毎年飛来するが数は少ない。多い年でも12頭('95)、少ない年('96,'99)は2頭に過ぎない。飛来時期は5月から10月に及ぶが8月に飛来した年はなかった(表18)。

キタテハ 毎年飛来するが数は少ない。越冬成虫が飛来したのは5年間に1回だけであり、第1回成虫を見たのも2回に過ぎない。よく飛来するのは秋世代で終息は11月下旬となる(表19)。

ルリタテハ 年間2頭から9頭とかなり少ない。越冬成虫は5年のうち3回飛来している。6月と7月に飛来した年はなく8月から11月に飛来している。過去15年間に公園内で幼虫を確認できたのは'99年の秋だけで数種あるホトトギス類の中でホトトギスとその品種だけが被害され、ジョウロウホトトギスなどは被害はなかった(表20)。

アカタテハ 本種も毎年飛来するが少なく年間3頭から22頭で5年平均13頭であり、キタテハとほぼ同数であった。10月から11月の飛来が多い(表21)。

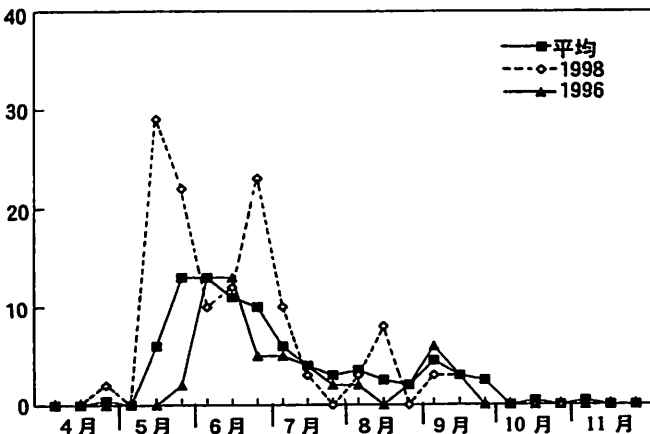


図17 ホシミスジの年間発生消長

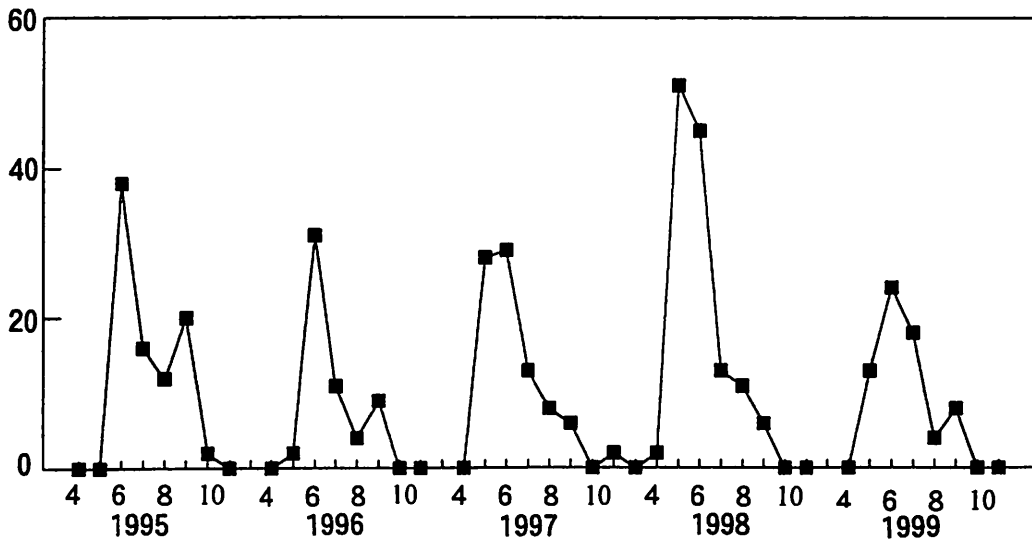


図18 ホシミスジの5年間の発生消長

表17 ホシミスジの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月上	0	0	0	0	0	0	0
4月中	0	0	0	0	0	0	0
4月下	0	0	0	2	0	2	0.4
5月上	0	0	0	0	0	0	0
5月中	0	0	2	29	0	31	6.2
5月下	0	2	26	22	13	63	12.6
6月上	14	13	8	10	18	63	12.6
6月中	14	13	8	12	6	53	10.6
6月下	10	5	13	23	0	51	10.2
7月上	2	5	7	10	7	31	6.2
7月中	6	4	4	3	4	21	4.2
7月下	8	2	2	0	4	16	3.2
8月上	6	2	4	3	2	17	3.4
8月中	4	0	0	8	0	12	2.4
8月下	2	2	4	0	2	10	2
9月上	11	6	0	3	2	22	4.4
9月中	0	3	6	3	3	15	3
9月下	9	0	0	0	3	12	2.4
10月上	0	0	0	0	0	0	0
10月中	2	0	0	0	0	2	0.4
10月下	0	0	0	0	0	0	0
11月上	0	0	2	0	0	2	0.4
11月中	0	0	0	0	0	0	0
11月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	88	57	86	128	64	423	84.6

初発日 6月2日 5月30日 5月17日 4月30日 6月23日
 終息日 10月14日 9月19日 11月7日 9月11日 9月23日

5月20日
 10月1日

ヒメアカタテハ 当公園に飛来するタテハチョウ科の中では多い種類であるがその数は年間41頭から87頭に過ぎない。最多と最少の比率は2.3、平均値との差は49%増と30%減であった。初飛来日は年によって振れが大きく、早い年で3月19日('98)、遅い年では8月下旬('97)によって飛来をみている。春から夏までは時々姿を見せる程度であるが、8月下旬から飛来が目立ち始め9月から10月にかけてピークを迎える。終息は遅く5ヶ年ともに11月に入ってからで、もっとも遅いのは30日('97)、早くても8日('98)、平均が23日であった(表22, 図19)。

ヒオドシチョウ かなり気まぐれな飛来状況で、毎年出現するとは限らない。過去5年のなかで飛来したのは'95, '96年だけで、両年ともに少ないながら越冬成虫が飛来した後で新成虫が出現している(表23)。

イシガケチョウ 過去15年の飛来状況は次のとおりで、この記録から定着の可能性はかなり高いと思われる。

表18 コミスジの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
5月	2	1	0	1	1	5	1
6月	2	1	0	0	0	3	0.6
7月	1	0	0	0	0	1	0.2
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	5	0	1	3	0	9	1.8
10月	2	0	3	2	1	8	1.6
合計	12	2	4	6	2	26	5.2

表20 ルリタテハの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	0	0	3	0	3	0.6
5月	2	0	0	1	1	4	0.8
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	1	1	1	1	4	0.8
9月	1	0	1	3	1	6	1.2
10月	0	1	1	1	1	4	0.8
11月	0	0	1	0	0	1	0.2
合計	3	2	4	9	4	22	4.4

表19 キタテハの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	0	0	1	0	1	0.2
5月	0	0	0	0	1	1	0.2
6月	0	0	1	0	0	1	0.2
7月	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	3	0	5	0	8	1.6
10月	10	13	11	3	0	37	7.4
11月	3	1	7	2	4	17	3.4
合計	13	17	19	11	5	65	13

表21 アカタテハの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	0	7	2	5	0	14	2.8
5月	1	0	0	3	0	4	0.8
6月	0	2	0	1	0	3	0.6
7月	0	0	1	0	0	1	0.2
8月	2	0	0	0	0	2	0.4
9月	0	2	0	0	1	3	0.6
10月	6	8	3	3	0	20	4
11月	5	3	10	1	2	21	4.2
合計	14	22	16	13	3	68	13.6

表22 ヒメアカタテハの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
3 月上	0	0	0	0	0	0	0
3 月中	0	0	0	1	0	1	0.2
3 月下	0	0	0	0	0	0	0
4 月上	0	0	0	0	0	0	0
4 月中	0	2	0	0	0	2	0.4
4 月下	0	2	0	1	0	3	0.6
5 月上	0	2	0	0	0	2	0.4
5 月中	0	2	0	0	0	2	0.4
5 月下	0	0	0	0	0	0	0
6 月上	1	0	0	1	0	2	0.4
6 月中	0	1	0	0	0	1	0.2
6 月下	0	4	0	0	0	4	0.8
7 月上	0	0	0	0	0	0	0
7 月中	0	0	0	0	2	2	0.4
7 月下	0	2	0	0	0	2	0.4
8 月上	0	1	0	0	2	3	0.6
8 月中	0	0	0	0	0	0	0
8 月下	7	3	14	4	2	30	6
9 月上	3	0	3	0	8	14	2.8
9 月中	0	2	8	12	7	29	5.8
9 月下	13	2	10	2	8	35	7
10 月上	8	4	0	17	12	41	8.2
10 月中	18	10	3	5	0	36	7.2
10 月下	22	2	6	2	8	40	8
11 月上	10	1	0	5	5	21	4.2
11 月中	3	0	2	0	3	8	1.6
11 月下	2	1	8	0	3	14	2.8
合計	87	41	54	50	60	292	58.4

初飛日 6月10日 4月18日 8月28日 3月19日 7月16日
 終息日 11月25日 11月24日 11月30日 11月8日 11月28日

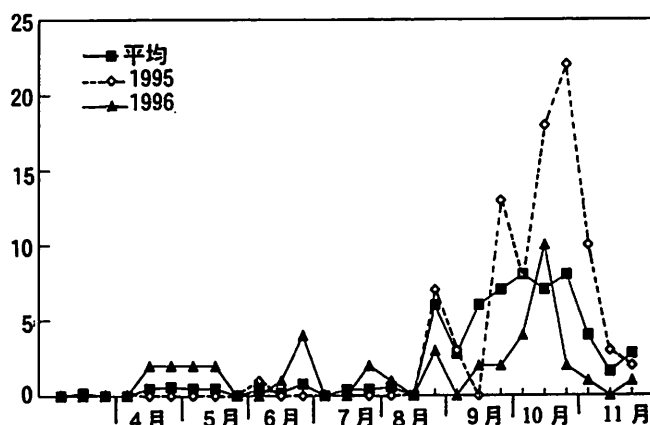


図19 ヒメアカタテハの年間発生消長

'89年12月1頭、'95年6月4日1頭、'96年6月14日1頭、
 6月23日1頭、'98年5月15日1頭

コムラサキ 普通種なのに姿を見せることの少ない蝶で5年の間に飛来したのは'95年8月17日と9月3

日に1頭ずつだけであった。

ゴマダラチョウ 公園内には幼虫の餌のエノキも、成虫の餌の樹液もそろっているのに飛来が少なく5ヶ年合計が6頭だけである。飛来日は5-7月で近くの産地と等しい。

オオムラサキ '90年と'93年のいずれも8月上旬にかなり傷んだ雌蝶が飛来してからその後姿を見ていない。比較的近いところに発生地があるのでこれから飛来の可能性は十分あると思う。

ヒメウラナミジャノメ 近郊ではごく普通の本種が当公園では少ない。飛来するのは年に1-2頭、或いは飛来しない年もある。飛来時期は5月から9月の間で特定の月に集中することはなかった。

ヒメジャノメ 田園地域で普通の本種もまた少なく、過去5ヶ年に1頭飛来しただけであった。

'95年8月31日1頭

クロヒカゲ 当公園に飛来するジャノメチョウ科の蝶のなかで一番多い種類であるが、5ヶ年合計してもわずか15頭である。年次変動が大きく比較的多かったのは'95年と'97年で他の年は飛来しなかったり、飛来しても1頭だけであった。飛来日は5月と9月に集中するようであるが7月にも飛来している。

ヒカゲチョウ 本種も少なく5ヶ年合計でわずかに7頭で、飛来は6月と9月であった。

サトキマダラヒカゲ 5ヶ年合計で11頭でジャノメチョウ科の中では多い部類である。5月に飛来したこともあるが8-9月に集中している。

クロコノマチョウ '95年の秋に初めて飛来し、翌年('96)5月にかなり傷んだ秋型の蝶を採集できた。'98年9月にも飛来している。

'95年10月27日1頭、11月3日1頭、'96年5月2日1頭、'98年9月24日、25日1頭

表23 ヒオドシチョウの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
4月	2	1	0	0	0	3	0.6
5月	0	1	0	0	0	1	0.2
6月	4	2	0	0	0	6	1.2
合計	6	4	0	0	0	10	2

ダイミョウセセリ '98年5月22日に1頭飛来したのが過去15年間の唯一の記録であった。

コチャバネセセリ '95年までは毎年飛来していたが'96年以降は全く飛来していない。記録としては下記だけである。

'95年5月6日1頭、7日1頭

キマダラセセリ 初飛来は6月に入ってからで、早いのは3日('99)、遅いと26日('98)で平均は18日であった。第1回成虫の飛来数は少なく、まとまった飛来があったのは'97年の29頭だけで他の年は1~2頭であった。第1回成虫の終息は6月下旬から7月中旬で、その後しばらく中断し8月下旬頃から第2回成虫の飛来が始まる。早い年で8月22日('97)、遅くて9月6日、平均8月29日であった。最盛期は早い年で9月中旬('98)、遅いと10月上旬('99)であるが他の3年は9月下旬であった。

終息の早い年は9月18日('98)、遅い年は10月17日('96)、平均10月5日であった。年間の飛来数は変動が大きく多い年は48頭('97)、少ない年では11頭('98)に過ぎず、最多と最少の比率は4.4、平均との

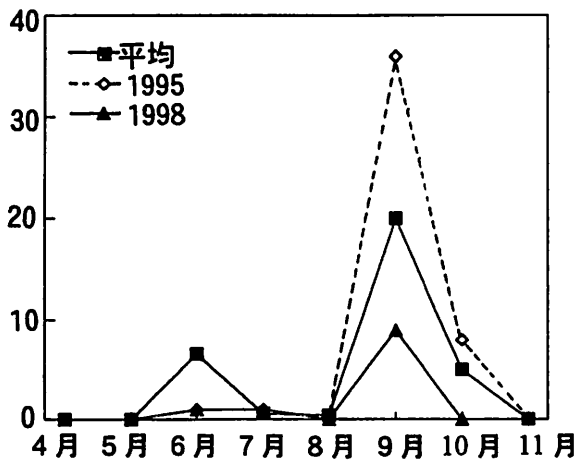


図20 キマダラセセリの年間発生消長

表24 キマダラセセリの5年間の月別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
5月	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	1	29	1	1	33	6.6
7月	1	0	0	1	1	3	0.6
8月	0	1	1	0	0	2	0.4
9月	36	25	17	9	15	102	20.4
10月	8	6	1	0	10	25	5
合計	46	33	48	11	27	165	33

初発日 6月22日 6月23日 6月14日 6月26日 6月3日 6月18日
終息日 10月7日 10月17日 10月9日 9月18日 10月2日 10月5日

差は45%増と67%減であった(表24、図20)。

オオチャバネセセリ '90年頃までは当公園の花壇の常連で、イチモンジセセリやチャバネセセリが少ない6月から7月にかけてよく見かけていた。ところが次第に少なくなり記録を取り始めた'95年と'96年はそれぞれ1頭だけであったのが、'97年には5頭飛来したので回復の兆しかと思われたが、予想に反して翌年から全く飛来していない。

チャバネセセリ 第1回成虫の飛来のなかったのは'95年だけであった。初飛来の早い年は5月14日('98)、遅いのは6月4日('99)で平均5月24日であった。第1回成虫が連続して飛来したのは'97年で他の年は少なかった。7月に入ると第2回成虫が飛来するが、'95年だけは飛来はしていない。初飛来は7月10日('98)から15日('99)、平均12日で変化が少なかった。第2回成虫の飛来数は年次変動が大きく、前述のように'95年は飛来がなく、'97、'98年も僅かであった。第3回と思われるのが8月中旬頃から飛来し始めるが第2回成虫との区別は難しい。9月から本格的な発生時期となり9月下旬から10月上旬にピークを迎えた後秋遅くまで飛来する。終息の遅い年は12月2日('99)、早い年で11月10日('96)、平均11月20日であった。年間の総飛来数の最多は567頭('99)、最少は296頭('96)、最多と最少の比は1.9で、平均との差は47%増と22%減で年次変動はそう大きくはなかった(表25、図21-22)。

イチモンジセセリ 第1回成虫の飛来は時期も量も年次変動が大きい。初飛来の早い年は5月9日('97)、遅い年は6月16日('95)で平均は5月26日であった。飛来量が少しまとまっていたのは'97年の15頭と'98年の13頭だけで、他の年は各年とも1頭飛来したに過ぎなかった。第2回成虫も年次変動が大きく初飛来日を見ても早い年は7月3日('98)、遅い年は8月6日('99)で、1ヶ月以上も差があった。飛来数

は第3回成虫と重なっていて世代ごとの数を分離することは困難であるが、8月上旬までを第2回成虫とみなして計算すると95年6頭、96年90頭、97年10頭、98年69頭、99年4頭となった。8月中旬からは第3回と見られる蝶が連続して飛来するようになる

が、最盛期は年によって大きくふれ、早いと8月下旬('98)、遅いと9月下旬('95, '96)で1ヶ月のずれがあった。飛来数はこの世代が最も多く年間飛来数の90%以上を占めている。第3回成虫の飛来数も年次変動が大きく最多と最少の比は6.6に達している。

終息は早い年で10月17日('96)、遅いと11月12日('98)、平均10月27日でチャバネセリより20日以上早い。年間飛来数は前述のように秋に集中していて当公園に飛来する蝶の中で年次変動は最大である。

最多は1,480頭('98)、最少は224頭('99)で比率は6.6、平均との差は62%増と75%減であった(表26、図23・24)。

まとめ

神戸市の市街地のほぼ中央に所在する諏訪山公園は、六甲山系の一部を公園域に含むこともあって、都市公園としては飛来した蝶の種類・量ともに豊富といえよう。この公園が山裾の森林と市街地の接点に所在し多くの蝶の飛翔コースにあり、花壇には年中多種の花が咲いていて飛来する蝶にとって絶好の餌場となっているためと考えられる。このことは飛来する蝶の大部分が花蜜を餌とし、移動性の大きい種類であることからもうなずける。しかし、このような性質をもちながら飛来の少ない蝶もいる。カラスアゲハやキアゲハ、モンキチョウがそれで近くの産地ではごく普通なのに、これらの蝶は市街地に馴染めないといしか考えようがない。ベニシジミとツバメシジミの少ないのは移動力が小さいことと、市街地に幼虫の食草が少なく発生がないからと推定される。普通種であっても訪花性がないか弱い蝶は当然飛来数は少ない。飛来したジャノメチョウ科のすべてとタテハチョウの仲間がそれに含まれる。急に飛来が少なくなったオオチャバネセリとコチャバネセリについては原因となることながら思いつかない。飛来消長は種類ごとにそれぞれ特徴があり、近縁の種類でも同じ経過をたどるとは限らない。しかし消長を大まかに分類することはできる。年間の発生が1回のいわゆる1化性の蝶のなかでテングチョウを除いては飛来数が少なく、検討できなかった。テングチョウが1化性なのか2化性かにつ

表25 チャバネセリの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
5 月上	0	0	0	0	0	0	0
5 月中	0	0	2	7	0	9	1.8
5 月下	0	2	9	0	0	11	2.2
6 月上	0	0	30	0	4	34	6.8
6 月中	0	2	4	0	2	8	1.6
6 月下	0	8	3	0	0	11	2.2
7 月上	0	0	0	2	0	2	0.4
7 月中	0	4	2	0	1	7	1.4
7 月下	0	7	0	0	4	11	2.2
8 月上	0	9	0	0	4	13	2.6
8 月中	0	30	0	3	3	36	7.2
8 月下	0	11	7	0	15	33	6.6
9 月上	16	14	0	13	23	66	13.2
9 月中	20	38	4	0	28	90	18
9 月下	79	43	7	94	103	326	65.2
10 月上	30	54	60	83	106	333	66.6
10 月中	80	26	58	70	76	310	62
10 月下	42	37	48	72	58	257	51.4
11 月上	27	11	36	83	75	232	46.4
11 月中	9	0	20	10	45	84	16.8
11 月下	0	0	12	0	18	30	6
12 月上	0	0	0	0	2	2	0.4
12 月中	0	0	0	0	0	0	0
12 月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	303	296	302	437	567	1905	381

初発日 9月3日 5月30日 5月17日 5月14日 6月4日 5月24日
終息日 11月16日 11月10日 11月30日 11月14日 12月2日 11月20日

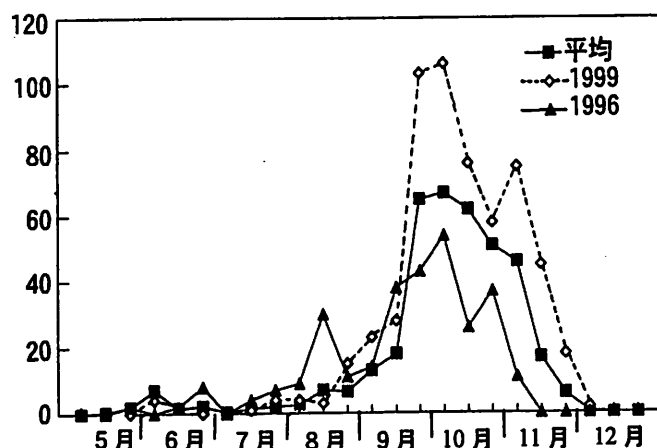


図21 チャバネセリの年間発生消長

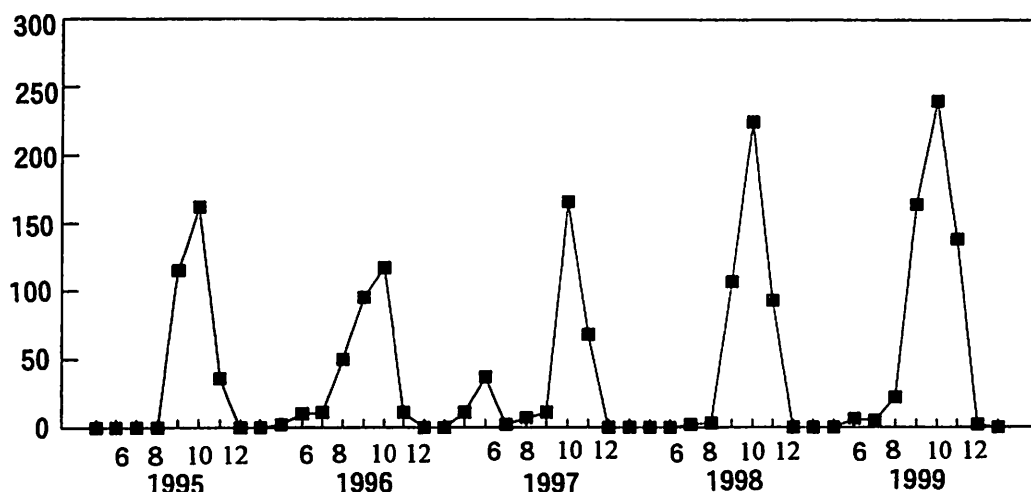


図22 チャバネセセリの5年間の発生消長

いては論議が残されているが、7・8月に飛来したのを第2回成虫とするとこの頃に飛来したのは'95年だけであった。飛来のピークは越冬明け、新成虫、越冬前の3回あって6月の新成虫が最多なのが普通と考えられるが毎年同じパターンとは限らず発生消長の複雑さが推定される。つぎに年に2回発生する種

類のなかで飛来数が少しまとまっていたのがキマダラセセリで、第1回が少なく第2回が多いのが例年のパターンであるが、97年だけは6月の第1回成虫の飛来が秋の第2回より多かった。他の2化性の蝶は飛来が少なく検討はできなかった。飛来数が多くて飛来消長のよくわかるのは年3回以上発生する多

化性の種類である。世代を重ねるごとに飛来数を増して秋の世代が最高となるグループがある。代表的なのがヤマトシジミで飛来消長のパターンは5ヶ年間大きな変化はなかった。同じ消長であったのはウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、モンキアゲハなどであったが、ヤマトシジミのようなきれいなピークではなかった。多化性であっても毎年ある一定の世代が最多となる種類があった。モンシロチョウがそれで5月から6月にかけて発生する夏型の初めての世代が最高となるのが普通であるが'99年だけは年間の最後の世代の10月から11月にピークとなった。キチョウはモンシロチョウとは違い秋の世代が多かった。越冬した蝶が4月を中心として小さなピークをつくるが、その後の世代の飛来は少なく、9月から飛来が増え始め、10月に最盛期を迎える。'96年は飛来が少なく秋のピークが低い数値であったが飛来数は春世代よりはるかに多数であった。ホシミスジは5ヶ年と

表26 イチモンジセセリの5年間の旬別飛来数

	1995	1996	1997	1998	1999	合計	平均
5月上	0	0	1	0	0	1	0.2
5月中	0	0	6	7	0	13	2.6
5月下	0	2	8	6	2	18	3.6
6月上	0	0	0	0	0	0	0
6月中	2	0	0	0	0	2	0.4
6月下	0	0	0	0	0	0	0
7月上	0	0	0	4	0	4	0.8
7月中	0	7	2	8	0	17	3.4
7月下	4	57	2	4	0	67	13.4
8月上	2	26	6	53	4	91	18.2
8月中	0	44	2	423	18	487	97.4
8月下	33	215	77	458	37	820	164
9月上	186	250	170	107	27	740	148
9月中	255	120	112	163	35	685	137
9月下	579	102	178	86	60	1005	201
10月上	108	30	66	76	38	316	63.2
10月中	28	41	10	45	0	124	24.8
10月下	5	15	7	16	4	47	9.4
11月上	0	0	0	20	0	20	4
11月中	0	0	0	4	0	4	0.8
11月下	0	0	0	0	0	0	0
合計	1200	909	647	1480	225	4461	892.2

初発日 6月11日 5月31日 5月9日 5月14日 5月27日
 終息日 10月29日 10月17日 10月24日 11月12日 10月24日

5月26日
 10月27日

もに3回の発生で、常に第1回成虫が最多であった。多化性なのに世代ごとの飛来数がいつも変化していたのはアゲハとアオスジアゲハであった。

つぎに飛来数の年次変動についてであるが、標準偏差値を求めて論議するのが正しいと思うが、調査年数が5ヶ年に過ぎないので省略し、最多年の飛来数が最少年の何倍であるかを計算することにした。その結果は表1の中に示してある。ただし年平均10頭以下の種類は除外している。最大値はツマグロヒョウモンの100倍で、アカタテハ7.3、イチモンジセセリ6.6、ルリシジミ5.8、クロアゲハ5.3などが年次変動の大きい種類と見なされた。倍数が最少であったのはヤマトシジミの1.4、これに次いで少ない種類をあげるとアオスジアゲハ1.5、モンシロチョウ1.6、アゲハ1.7、チャバネセセリ1.9、モンキアゲハ2.0などで、他の種類は2倍から5倍までの間であった。変動の大きかったツマグロヒョウモンは'98年から急増し、'99年は401頭を数え、この年のアオスジアゲハより多くアゲハに次ぐ飛来数であった。今後このまま増加を続けるか、'99年をピークに減少するのか動静については全く予測できない。これまでに変動の激しい種類として知られていたイチモンジセセリは調査した5ヶ年だけでも大きな変動値を示したが、突発的な大発生があればさらに大きな数値となるはずである。変動が大きいと予測していたテングチョウ、ウラナミシジミの

数値は3倍前後であり5年ぐらゐの調査では多発期を捉えることができなかったと考えられる。年間飛来数の多かった6種(ツマグロヒョウモンを除く)の年次変動を図26に示した。なお飛来した全種の年間総合計数が最大であったのが'98年で6,980頭、最少が'96年の4,642頭で、倍数は1.5であった。種類ごとにそれぞれ独自に発生経過を繰り返しているはずと考えられるのに、'96年はイチモンジセセリとアオスジアゲハ以外がすべて少発生であったが、これは偶然なのかすべての種類に共通した原因が働いたのかよくわからない。これに対して'98年はモンシロチョウとイチモンジセセリの多発が大きな数値となった要因である。それから注目される種類である

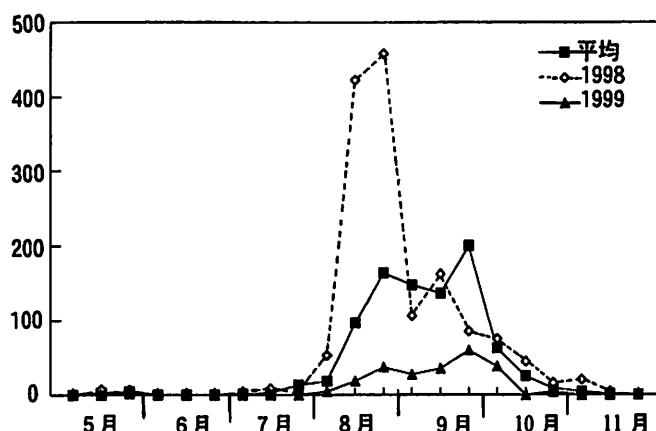


図23 イチモンジセセリの年間発生消長

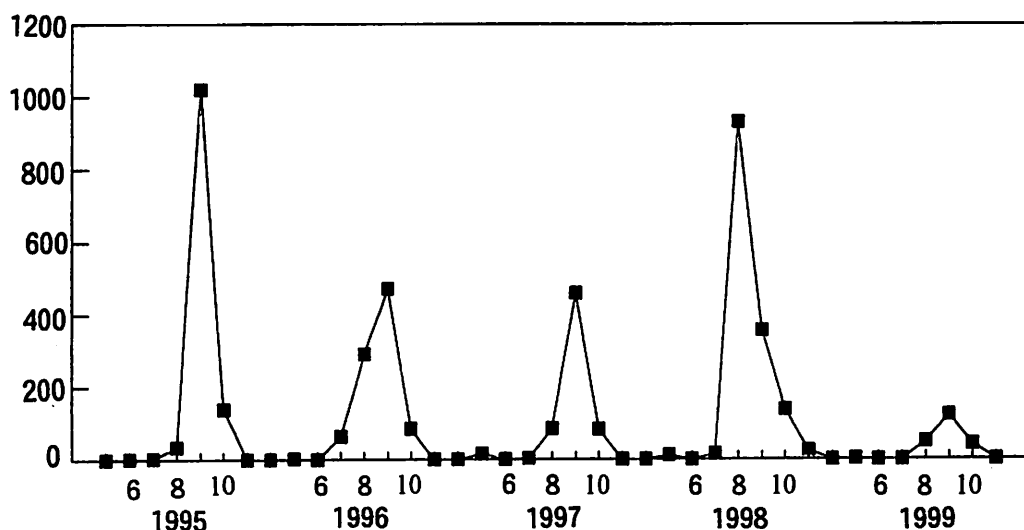


図24 イチモンジセセリの5年間の発生消長

が、まずオオムラサキ、これまでの飛来は2頭に過ぎないが、原因は流蜜する餌木がないせいのように、公園の周辺での採集や目撃情報が年々増えている。ミヤマカラスアゲハ、イシガケチョウ、クロコノメチョウもとぎれとぎれながら飛来していて、公園の近隣での定着が推定される。また従来大都会の市街地では考えられなかったミスジチョウが断続的ながら飛来しているが、ホシミスジが市街地に進出したのと同じ経過を辿るかもしれない。

以上、5ヶ年の諏訪山公園の蝶の飛来状況について述べたが、調査方法について一寸気がかりなことがあった。1日のうちにできるだけ多くの蝶に出会えるように日に3回巡回し数えているが、午前10時にいた蝶がそのまま午後3時まで居続けている可能性があり、また同一個体が数日にわたって飛来することも考えられる。今回の調査ではこのことを無視して計算している。これらのことを明らかにする方法を模索する意味で予備的に簡単な調査をしてみたことがあった。午前の調査時に捕獲し、サインペンでマークして放す方法で、モンシロチョウ、アゲハ、アオスジアゲハで試みた。春から夏にかけては3種ともにマークした蝶を再確認することは殆どなかったが、モンシロチョウは10月から11月にかけて気温の低下とともにマークした蝶の再捕獲が増加し、

時には飛来した蝶の半数近くがマーク蝶で、なかには7日前にマークした個体まであった。アゲハはマークできた蝶が少なかったためか一度も再捕獲できなかった。アオスジアゲハは10月下旬に飛来した蝶のなかで数頭が再捕獲できただけであった。このことから活動の活発な季節は同一個体を重複計測することは少ないが、早春や晩秋の気温の低い時の数値はかなり割り引く必要があるであろう。したがって今回の調査結果から晩秋の飛来数を誤差としてしまうか、補正して計算し直すかが宿題となった。

追記

原稿作成中に新しく次の2種の蝶が飛来した。

2000年6月4日 ジャコウアゲハ♀1頭

7月21日 コジャノメ1頭

この2種が加わったので当公園の蝶は57種となった。今後飛来の可能性のあるのはコツバメ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、ジャノメチョウ、ミヤマセセリが考えられる。

(YAMAGUCHI FUKUO)

神戸市須磨区神ノ谷3丁目6-4)

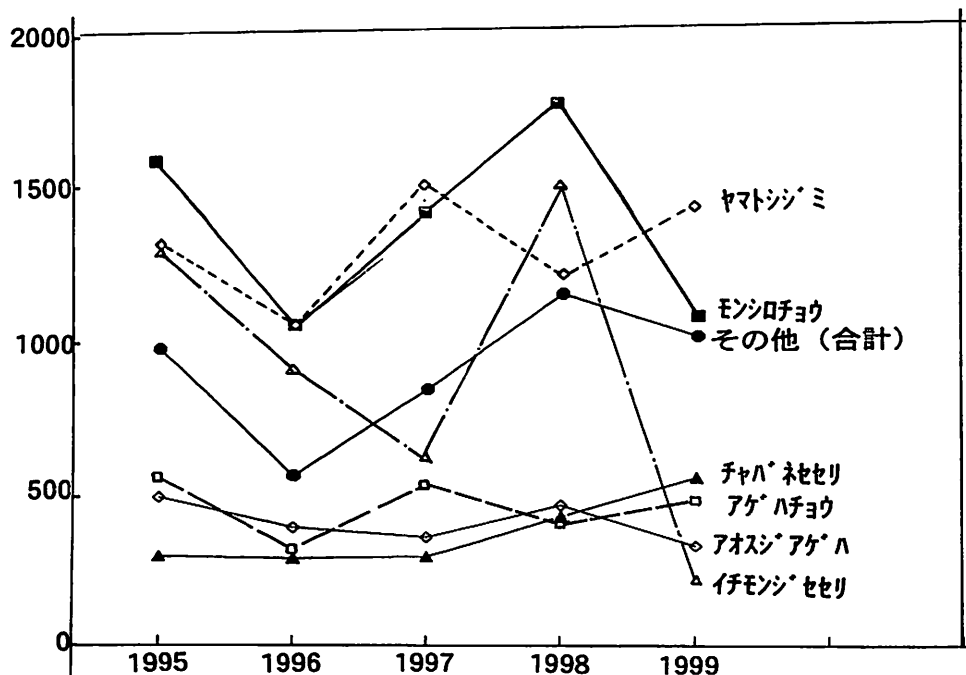


図25 よく見られるチョウの5年間における個体数の推移(上位5種)

蝶類の観察記録 一 訪花・吸蜜植物等一

近藤 伸一

兵庫県内で過去に観察した蝶類の訪花・吸蜜植物等の記録を報告する。いざまとてみると意外に記録を残していなかったが、幸い広畑政巳氏、山口福男氏の数多い観察記録の提供を受けることができ、また手元にある県内の文献の一部から気付いたものをピックアップしてリストに加えた。

記載の方法は蝶が訪花・吸蜜していた植物について1例だけ、科、種名、観察場所、観察日時の順に記載している。植物の種名が確認できなかったもの、例えばアザミ類、ヒヨドリバナ類、タンポポ類、キイチゴ類等についてはそれぞれアザミ、ヒヨドリバナ、タンポポ、キイチゴとした。最近外国産の園芸種が多くなり、今回の報告でも数多く登場しているが、これらは園芸で呼ばれている名を使用し、花の色が多種あるものは花卉等の色を併記したものもある。また花の蜜以外に樹液や腐果汁、獣糞などの吸汁記録もあわせて記載した。記録末尾に(H)とあるのは広畑政巳氏、(Y)は山口福男氏、(U)は内海功一氏の観察記録である。

今回の調査にあたり、広畑政巳、山口福男、内海功一の各氏には観察記録をご教示いただくとともに、貴重なアドバイスをいただいた。厚くお礼申し上げる。

1 蝶の吸蜜行動について

実際に蝶が吸蜜しているかどうかの確認は難しいもので、花にとまり口吻を伸ばしていれば吸蜜していると判断しているが、山口福男氏の観察によると、アゲハチョウ科の仲間はよく訪花し、口吻を伸ばして蜜を探るが、短時間で花から離れ、実際に吸蜜していないと思われる場合が多いということである。このような場合、植物は蝶を何らかの要素で引きつけ、蜜はわたさずに花粉の運搬だけを押しつけているわけで、植物の側からみれば極めて有利な戦略といえる。よく注意して観察すれば、蝶に無償で花粉を運ばせている植物が見つかるかも知れない。今後の課題である。

2 訪花・吸蜜植物の種類数

蝶が吸蜜する植物の内訳をみると、県下で97種のチョウの訪花・吸蜜が確認され、各蝶が吸蜜した植物の数を合計すると964例を数えた。これらの植物を種ごとに分類すると、70科269種の植物を記録した。圧倒的に多いのがキク科植物で、964例の3割

にあたる279例がキク科であり、種数は62種に及んだ。次いでマメ科が88例で27種、以下アブラナ科15種、バラ科15種、シソ科13種、ツツジ科8種、スミレ科7種、タデ科7種、クマツヅラ科5種、ユリ科5種、モクセイ科5種、ミカン科5種、ナデシコ科5種、セリ科5種、ウリ科5種などが主なものであった。なお、以下植物の種名は半角カタカナで示す。

3 訪花・吸蜜植物の種類が多い蝶

蝶の種類によって、よく訪花する種と全くしないものがある。20種以上の植物に訪花・吸蜜した蝶を紹介する。モンシロチョウが65種の植物で吸蜜しており一番多い。次いでイチモンジセリが48種、以下キチョウ39、ヤマトシジミ39、ツマグロヒョウモン38、ベニシジミ37、アゲハチョウ34、ヒメアカタテハ33、ウラナシジミ31、チャバネセリ29、キタテハ29、スジグロシロチョウ28、キアゲハ25、ヒメウラナミジャノメ25、アサギマダラ24、モンキチョウ21、クロアゲハ20、アカタテハ20であった。

4 チョウが特に好きな植物

チョウに一番人気があったのはアザミ類で、アザミに25種、アザミに15種の計40種のチョウが吸蜜に来た。ヒヨドリバナ、ウツギ、オトラノオ、ランタナ、ヒメジョオンなどにも20種以上のチョウの吸蜜が観察された。以下訪花した蝶の種類数の多い順に並べると下記のとおりであり、これらがチョウの好む植物のようである。40種の蝶が吸蜜 アザミ(アザミ)

- 24種 オトラノオ
- 23種 ウツギ、ヒヨドリバナ、ランタナ
- 20種 ヒメジョオン
- 17種 セイヨウタンポポ(タンポポ)
- 16種 クリ
- 15種 セイタカアワダチソウ、ヒキナシソウ、ソバ
- 14種 シロツメクサ、アトノリ
- 13種 レンゲソウ、コハナランタナ
- 11種 キク、マリーゴールド、ネギ、ヨメナ
- 10種 カラスナシソウ、キツネマゴ、キツネガシ、ネズミソウ
- 9種 アトノリ、ニラ
- 8種 ヒメジョオン、オオムラサキ、アメリカセンダングサ、スターチス、ブルーサルビア、コスモス、ジョウ、ルビー、オトコシ、クサギ、ヤマザクラ(サクラ)
- 7種 ダイコン、センブリ、タニウツギ

6種 キンボウウケ、カスノエントウ、クミ、ホトケザ、ヤブジラミ、ケイトウ

5 樹液の吸汁

14種の樹木から、延べ40例の樹液の吸汁が観察されている。クミで吸汁した例が最も多く9種の蝶が吸汁した。次いでアヘマキに7種の蝶の吸汁が観察されている。ただ県下にクミが分布する地域は極めて限られ、アヘマキをクミとする例が多いので注意を要する。6種ナラ、5種ニレ類、3種ヤナギ類、2種カワ、ナラカシ、他にヒメ、ミスミ、アラカシ、イタヤカシ、ホアラ、トナリで吸汁が確認された。

6 果実の腐果汁の吸汁

果実名の確認出来たものではナギが最も多く8例、イチジクが3例、スイカ2例、他にモモ、ナトオレンジで吸汁が確認された。

7 その他の吸汁

鳥獣等の糞13例、堆肥2例、動物の死体2例、タニコンの腐敗したもの2例、ウメのアブラムシ分泌物2例、海草、人の汗、濡れ炭などでも吸汁が確認された。

8 種別記録

ウスバシロチョウ

[バラ科] キイチゴ 千種町内海 26.V.1985
[グミ科] ナワシロクミ 波賀町赤西溪谷 18.V.- (H)
[スイカズラ科] タニウツギ 千種町内海 26.V.1985
[キク科] マーガレット 大河内町川上 3.V.1984 (H)
タンホホ 波賀町赤西溪谷 15.V.1983 (H)
シスターズ 波賀町道谷 .V.1985 (Y)
[オミナエシ科] カノコウ 千種町内海 26.V.1985
[マメ科] シロツメクサ 千種町鷹巣 2.V.1985
レンゲツク 千種町川井 15.V.1999 (H)
[アブラナ科] キハハツ 千種町鷹巣 2.V.1985
タネツクナ 新宮町上筋原 13.V.1979 (H)
[キンボウゲ科] キンボウウケ 美方町石寺 28.V.1988
キンボウタン (H)
[ケシ科] ムラサキマン 竹野町河南谷 21.V.1989
[ユリ科] ナギ 千種町内海 26.V.1985
アサギ 千種町鷹巣 2.V.1985

ギフチョウ

[バラ科] ヤマザクラ 三木市正法寺 18.V.1993
ソメイヨシノ (25)
[ツツジ科] コハナミツハツツジ 加古川市権現 12.V.1998
ササキ 朝来町奥田路 18.V.1975 (25)
ツツジ 三木市本町 4.V.1978 (8)
[グミ科] クミ 三木市本町 4.V.1978 (8)
[スミレ科] シハスミレ 加古川市権現 12.V.1998
ニオイタツボスミレ 西脇市出合 18.V.1982 (H)
タチツボスミレ 西区神出町 -.V.1975 (Y)
スミレ (25)
[キク科] タンホホ 三木市本町 4.V.1978 (8)
[シソ科] ムラサキキコケ 西脇市出合 11.V.1982 (H)
[ユリ科] ショウジョウハカマ 宝塚市大原野 5.V.1981 (H)

ジャコウアゲハ

[ツツジ科] ヒトツツジ 姫路市林田町八幡 13.V.1984
モツツジ 北区森林植物園 10.V.1998
ヤマツツジ 北区森林植物園 10.V.1998
ツツジ (H)
[スイカズラ科] タニウツギ 北区森林植物園 10.V.1998
[アブラナ科] タニコ 吉川町 -.V.- (Y)
アブラナ (41)
[キク科] アサギ (H)

アオスジアゲハ

[モクセイ科] セイウチ 加古川市城山 29.V.1986
セイウチ 西区岩岡町 28.V.1995
ネズミ 西区岩岡町 21.V.1987
トウネズミ 中央区下山手通 30.V.1987
[ミカン科] カラスノショウ 西区寺谷 12.V.2000
[バラ科] シラシラ 中央区諏訪山公園 -.V.1985 (Y)
[トベラ科] トベラ 灘区 29.V.1988
[ブドウ科] ヤブガラシ 西区岩岡町 2.V.1999
[クマツヅラ科] ランタナ<ヒノキ> 中央区諏訪山 2.X.1993
コハナミツハツ<ヒノキ> 中央区諏訪山公園 20.V.2000
[ユキノシタ科] セイウチイカガキ 中央区諏訪山公園 -.V.1988 (Y)
[キク科] アサギ 姫路市林田町奥佐見 1.V.1980 (H)
[ヤマゴボウ科] ヨウシュヤマゴボウ 西区岩岡町 27.V.1985
[ナデシコ科] ナデシコ 西区寺谷 21.V.2000
[シソ科] アサギ 中央区諏訪山公園 6.X.2000 (Y)

[ユリ科]
 科 三木市別所町 20.V.1977

キアゲハ

[ツツジ科]
 ヒト'ツツジ' 千種町鷹巣 26.V.1985
 コハ'ミツハ'ツツジ' 社町 5.V.- (H)
 サツキ 市川町上牛尾 18.V.2000 (H)

[クマツヅラ科]
 ランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山 24.K.2000 (Y)
 コハ'ランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山公園 24.K.2000 (Y)

[アオイ科]
 ムクゲ' 西区岩岡町 25.VII.1999

[キク科]
 タムラソウ 西区岩岡町 22.VII.1982
 ノアサ'ミ 西区岩岡町 24.VII.1982
 タンポ'ホ' 夢前町熊部 28.N.1985
 ヒマワリ 西区岩岡町 5.K.1999
 ヒヤクニチソウ 西区岩岡町 5.K.1999
 マリーゴ'ールト' 西区岩岡町 24.K.1999
 コスモス 西区岩岡町 24.K.1999
 チトニア 須磨区神ノ谷 -.K.1992 (Y)

[アブラナ科]
 フ'ロコロー 須磨区神ノ谷 -.V.1995 (Y)

[イソマツ科]
 ステラチス 西区寺谷 26.V.2000

[ハナシノブ科]
 シハ'サ'クラ 一宮町草木 13.V.1984

[セリ科]
 ミツハ' 夢前町熊部 28.N.1985
 セリ 西区寺谷 5.VII.2000

[ナデシコ科]
 ハマナデ'シ 西淡町慶野松原 16.VII.1987
 セキキ 市川町上牛尾 20.V.1979 (H)

[シュウカイドウ科]
 ハ'ゴ'ニア 西区岩岡町 14.V.1987

[アヤメ科]
 ク'ラサ'オラス<ヒ'ソク> 西区岩岡町 20.VII.1985

[ユリ科]
 オユリ 西区岩岡町 23.VII.1985

[ヒガンバナ科]
 ヒガ'ソハ'ナ 加古川市志方町 23.K.1990

アゲハチョウ

[ツツジ科]
 ヒト'ツツジ' 尼崎市大庄西町 (3)

[スイカズラ科]
 アハ'リヤ 西区岩岡 23.V.1985

[モクセイ科]
 トウキス'ミチ 明石市高丘 5.VII.1985
 ネス'ミチ 西区岩岡 21.V.1987
 オオイト'タ 尼崎市大庄西町 (3)

[ミカン科]
 サンショウ 夢前町熊部 3.V.1985
 カラスガ'ソショウ 西区寺谷 21.V.2000
 イヌガ'ソショウ 西区寺谷 5.VII.2000

[ブドウ科]
 ヤブ'ガラシ 23.VII.1987

[フジウツギ科]
 フ'ット'レア 西区岩岡 17.V.1998

[アオイ科]

ムクゲ' 西区岩岡町 25.VII.1999
 タチアオイ<赤> 中央区諏訪山公園 20.K.2000

[センダン科]
 センダン' 尼崎市大庄西町 (3)

[ミソハギ科]
 サルスベ'リ 尼崎市大庄西町 (3)

[マチン科]
 カライシ'ヤスミ 中央区諏訪山公園 -.N.1995 (Y)

[キク科]
 ヒヤクニチソウ<橙> 上郡町宇野山 16.K.1985
 ノアサ'ミ 長田区雲雀丘 21.V.1999
 ルト'ハ'キヤ 津名町志筑 18.VII.1987
 マリーゴ'ールト' 中央区諏訪山公園 6.X.2000

[マメ科]
 カラス'エント'ウ 夢前町熊部 3.V.1985
 ヤマハ'キ 長田区雲雀丘 11.K.1997

[クマツヅラ科]
 ランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山 5.X.1995
 コハ'ランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山公園 20.K.2000
 クサキ' (41)

[アブラナ科]
 キヤ'ハ'ツ 西区岩岡 5.V.1999
 タ'イコン 中央区諏訪山公園 -.V.1989 (Y)

[マチン科]
 カライシ'ヤスミ 中央区諏訪山公園 -.N.1995 (Y)

[カタバミ科]
 ムササキ'タハ'ミ 長田区雲雀丘 21.V.1999

[イソマツ科]
 ステラチス 西区寺谷 26.V.2000

[シソ科]
 サルビ'アレウカンサ(アミ'ストセイジ') 中央区諏訪山 8.X.2000 (Y)

[ツリフネソウ科]
 ナキ'セツカ 三木市 -.V.1977 (8)

[ヒガンバナ科]
 ヒガ'ソハ'ナ 加古川市志方町 23.K.1990

[シュウカイドウ科]
 ハ'ゴ'ニア 西区岩岡町 14.V.1987

[ユリ科]
 科 尼崎市大庄西町 (3)
 堆肥 関宮町東鉢伏 5.K.1993

モンキアゲハ

[ツツジ科]
 サツキ 市川町上牛尾 20.V.1999 (H)

[クマツヅラ科]
 クサキ' 三木市 (8)
 ランタナ 中央区諏訪山公園 -.K.1993 (Y)

[ミカン科]
 カラスガ'ソショウ 西区寺谷 5.VII.2000

[スイカズラ科]
 アハ'リヤ 香住町 -.K.1979 (Y)

[ブドウ科]
 ヤブ'ガラシ 須磨区板宿 30.VII.1999

[キク科]
 ノアサ'ミ 姫路市林田 16.V.1985
 ルト'ハ'キヤ 津名町志筑 18.VII.1987
 ヒヤクニチソウ 市川町上牛尾 19.K.1999 (H)

[カンナ科]
 カナ 城崎町 -.X.1980 (Y)

[ヒガンバナ科]
 ヒガ'ソハ'ナ 西区寺谷 17.K.2000

[ナス科]

ハ・チュニア<赤> 中央区諏訪山公園

よく訪花し口物を伸ばすが、いつも短時間で離れ吸蜜しているかどうか確認出来ない (Y)

クロアゲハ

[ツツジ科]

ヒト'ツツジ' 赤穂市春日 2.V.1983

[クマツツラ科]

クサキ' 高砂市時光寺町 23.VI.1980

ランタナ<ビ'ツク'橙> 中央区諏訪山 (Y)

[リョウブ科]

リョウブ' 大屋町加保坂 13.VI.1984

[ユキノシタ科]

ウツキ' 一宮町小原 16.VI.1985

[スイカズラ科]

ア'リア' 中央区元町 12.K.1991

[ミカン科]

カラス'ツショウ' 西区寺谷 5.VI.2000

[ブドウ科]

ヤブ'ガラシ' 西区岩岡町 24.VI.1985

[ガガイモ科]

キジ'ヨラン' 南光町瑠璃寺 夏季 (U)

[キク科]

ルト'ハ'キ' 津名町志筑 18.VI.1987

ヒメ'シ'ヨオン' 西区寺谷 18.VI.2000

ノア'ミ' 西区岩岡町 4.VI.1999

[ノウゼンカズラ科]

ノケ'ンカス'ラ' 西区岩岡 13.K.1998

[ツリフネソウ科]

イン'ハ'チェンス' 中央区諏訪山公園 - .K.1987 (Y)

[ヒルガオ科]

ヒル'ガ'オ' 姫路市青山 - .K.1985 (H)

[イソマツ科]

スター'チス' 西区寺谷 18.VI.2000

[シン科]

サル'ビ'ア' 姫路市青山 - .K.1985 (H)

[セリ科]

シ'クト' 市川町上牛尾 14.VI.1981 (H)

[ユリ科]

オ'ニ'リ' 西区岩岡町23.VI.1985

[ナス科]

ハ'チュニア<赤> 中央区諏訪山公園

よく訪花し口物を伸ばすが、いつも短時間で離れ吸蜜しているかどうか確認出来ない (Y)

ダ'イ'コン'の腐敗したもの 姫路市林田町奥佐見 1.VI.1980 (H)

ナガサキアゲハ

[ツツジ科]

モ'チ'ツツジ' 宝塚市野上 10.V.1980 (1)

ツツジ' 西宮市神原 10.V.1985 (14)

ヒト'ツツジ' 西区岩岡町 8.V.1985

[クマツツラ科]

クサキ' 高砂市時光寺町 23.VI.1980

[アオイ科]

ム'ケ' 西区岩岡町 21.K.1989

ハ'ビ'ス'カス' (41)

[スイカズラ科]

ア'ハ'リア' 西区岩岡町 11.VI.1999

タ'ニ'ウツキ' 伊丹市昆陽池 9.V.1980 (1)

[トベラ科]

ト'ベ'ラ' (H)

[ミカン科]

ミ'カン' 西区岩岡町 8.V.1985

[ノウゼンカズラ科]

ノ'ケ'ンカス'ラ' 西区岩岡町 30.VI.1985

[ブドウ科]

ヤブ'ガラシ' 須磨区板宿 30.VI.1999

[キク科]

ノア'ミ' 西区岩岡町 21.VI.1986

[ツリフネソウ科]

オ'ウ'セ'ン'カ' 香住町小原 11.X.1999

イン'ハ'チェンス' 中央区諏訪山公園 - .X.1988 (Y)

[アカネ科]

サン'タン'カ' (41)

[キンボウゲ科]

ウ'マ'ノ'シ'ガ'タ' 福崎町 - .V.- (H)

[ヒガンバナ科]

ヒ'ガ'ン'ハ'ナ' 太子町太田 14.K.1980 (H)

[ナス科]

ハ'チュニア' 中央区諏訪山 28.VI.2000 (Y)

オナガアゲハ

[ツツジ科]

ヒト'ツツジ' 大河内町 - .V.1998 (Y)

ヤマ'ツツジ' 大河内町 (Y)

[スイカズラ科]

タ'ニ'ウツキ' 大河内町砥峰 - .V.1985 (Y)

[クマツツラ科]

クサキ' 大河内町砥峰高原 (11)

[キク科]

ノア'ミ' 丹南町竜蔵寺 1.VI.1996

カラスアゲハ

[ツツジ科]

ヒト'ツツジ' 大河内町川上 3.VI.1984 (H)

[ユキノシタ科]

ウツキ' 西区寺谷 4.VI.2000

[グミ科]

ナ'シ'ロ'ク'ミ' 波賀町赤西 18.V.1975 (H)

[クマツツラ科]

クサキ' 三木市別所町 - .VI.1977 (8)

コ'ハ'ノ'ラン'タナ<ビ'ツク'橙> 中央区諏訪山 28.VI.- (Y)

ラン'タナ<ビ'ツク'橙> 中央区諏訪山 28.VI.- (Y)

[スイカズラ科]

タ'ニ'ウツキ' 波賀町赤西 18.V.1975 (H)

[キク科]

ノア'ミ' 相生市三濃山 31.V.1982 (H)

ミヤマカラスアゲハ

[ツツジ科]

ヒト'ツツジ' 大河内町 (Y)

ヤマ'ツツジ' 大河内町 (Y)

サ'ツ'キ' 波賀町赤西 18.V.1975 (H)

[グミ科]

ナ'シ'ロ'ク'ミ' 夢前町熊部 3.V.1975 (H)

[クマツツラ科]

クサキ' 赤穂市周世 (20)

ラン'タナ' 中央区諏訪山 - .K.1993 (17)

[スイカズラ科]

タ'ニ'ウツキ' 波賀町赤西溪谷 18.V.1975 (H)

ア'ハ'リア' 須磨区一ノ谷 - .K.1980 (Y)

[ブドウ科]

キツネノマゴ科
ツツミ 御津町室津 15.X.1982 (20)
[マメ科]
ツツミ 波賀町赤西溪谷 18.V.1975 (H)
ネム 山崎町土万 19.V.1985
[ハナシノブ科]
シハ'サ'クラ (H)
濡れ炭 千種町阿踏 22.X.2000

モンキチヨウ

[モクセイ科]
オオ'イ'タ 尼崎市大庄西町 (3)
[リョウブ科]
リョウブ 大屋町加保坂 13.VI.1984
[クマツヅラ科]
ランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山 11.VI.2000 (Y)
コハ'ノランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山 11.VI.2000 (Y)
[マメ科]
ムラサキメクサ 西宮市山崎町 17.V.1985
ヤマハキ' 千種町 4.VI.1994
ツルマメ 西区岩岡町 5.X.1999
レンゲ'ソウ 姫路市打越 11.V.1980
[ヤマゴボウ科]
ヨウシュヤマゴボウ' 西区岩岡町 20.VI.1985
[キク科]
マリゴ'ー'ルト' 西区岩岡町 26.VI.1985
セイヨウタンポポ' 西区岩岡町 25.V.1999
ノア'ミ 村岡町鑑山 4.VI.1987
セikatアワタ'チソウ 西区岩岡町 3.XI.1999
ヒメジ'ヨソ 西区寺谷 18.V.2000
ヒクニチソウ 太子町太田 31.VI.1999 (H)
コスモス 市川町上牛尾 5.X.1998 (H)
アキ'ノリソウ 市川町上牛尾 5.X.1998 (H)
シロタキ'ク 中央区諏訪山公園 - .V.1995 (Y)
アメリケンサ'ク'サ 西区寺谷 14.X.2000
[キツネノマゴ科]
キツネノマゴ' 西区寺谷 17.X.2000
[タデ科]
ソハ' 三日町町広山 19.X.1997 (24)

キチヨウ

[モクセイ科]
オオ'イ'タ 尼崎市大庄西町 (3)
[バラ科]
ヒ'イ'チ' (19)
[クマツヅラ科]
ランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山 5.X.1995
[マメ科]
コメツ'ウマ'ギ'シ 山崎町五十波 27.IV.1985
ヤハス'ソウ 上郡町赤松 16.X.1985
ヤマハキ' 千種町 4.VI.1994
ツルマメ 西区岩岡町 5.X.1999
ハキ' 三木市 (8)
クララ (19)
カラス'エント'ウ (19)
ヌヒ'トハキ' (19)
ネコハキ' (19)
メ'ト'ハキ' 関宮町葛畑 12.X.1986
クス' (19)
カラケツメ' (19)
[キク科]

セikatアワタ'チソウ 西宮市西福町 13.X.1985
ヨメナ 西区岩岡町 8.X.1985
セイヨウタンポポ' 西区岩岡町 11.V.1999
アメリケンサ'ク'サ 西区岩岡町 14.XI.1999
アキ'ノリ'シ 西区岩岡町 14.XI.1999
アサ'ミ'類 (19)
キンミズ'ヒキ (19)
ノジ'キ'ク (19)
ルト'ハ'キ' 中央区諏訪山公園 7.X.2000 (Y)
キク 中央区諏訪山公園 7.X.2000 (Y)
ホソハ'ヒクニチ 中央区諏訪山公園 7.X.2000 (Y)
[シン科]
ウツホ'グ'サ 山東町宝山の西 8.VI.1995
ホト'ノ'サ' 加古川市志方町 9.XI.1984
ア'ル'サ'ル'ア' 中央区諏訪山公園 6.X.2000
[スミレ科]
スミレ'類 (19)
ニオイ'スミレ 中央区諏訪山公園 - .XI.1990 (Y)
[アブラナ科]
イヌ'カ'ラシ (19)
[タデ科]
イヌ'タデ' (19)
ソハ' (19)
[オオバコ科]
オオ'ハ'コ (19)
[ゴマノハグサ科]
オオ'イヌ'フ'クリ 加古川市志方町 9.XI.1984
[スベリヒユ科]
スベ'リ'ヒユ (19)
[ラン科]
キンラン (19)
ネジ'ハ'ナ (19)
獣糞 (19)
堆肥 (19)

ツマグロキチヨウ

[クマツヅラ科]
コハ'ノランタナ<ヒ'ソク> 中央区諏訪山 12.X.2000 (Y)
[マメ科]
ヤマハキ' 関宮町葛畑 24.VI.1985
カラケツメ' 関宮町葛畑 6.X.1981
シロメクサ 垂水区舞子 10.X.1982 (12)
[キク科]
アメリケンサ'ク'サ 須磨区桜木町 - .XI.1981 (Y)
牛糞 関宮町葛畑 27.VI.1980 (H)

スジボソヤマキチヨウ

[リンドウ科]
リント'ウ 温泉町丹土 3.XI.1993 (40)
[サクラソウ科]
オオ'トラ'オ (4)
[オミナエシ科]
オト'コ'エ'シ (4)
[タデ科]
ソハ' (4)
[ヒユ科]
ケイトウ (4)
[キク科]
ヨシ'ノ'ア'ミ (5)
ノア'ミ (6)
ツツ'キ (6)

オカカワ 波賀町道谷 3.X.1982 (H)

モンシロチョウ

[スイカズラ科]
アベリ 中央区元町 29.VI.1991

[クマツツラ科]
ランタ<ヒ>ツク・橙> 中央区諏訪山 5.X.1995
コハノランタ<ヒ>ツク> 中央区諏訪山公園 20.K.2000

[トウダイグサ科]
アサガシ 西区岩岡 7.VI.1985

[ユキノシタ科]
アジサイ 西区岩岡 8.VI.1985

[フジウツギ科]
ブッドレア 市川町上牛尾 5.X.1986 (H)

[キク科]
ヨメ 西区岩岡 13.VI.1985
ソシ 西区岩岡 13.VI.1985
ホト・ア・キ 西区岩岡 13.VI.1985
ヒメニシソウ 西区岩岡町 27.VI.1985
コ・ホ・ウ 西区岩岡 7.VI.1985
ニガナ 西区岩岡町 4.VI.1985
アレキク 西区岩岡町 4.VI.1985
ヒメシ・ヨシ 西区岩岡町 11.VI.1985
セイタカアワダチソウ 西宮市西福町 13.X.1985
アキノナシ 西区岩岡町 4.XI.1985
セイヨウタンポポ 西区岩岡町 4.XI.1985
キク<ヒ>ツク> 西区岩岡町 4.XI.1985
ハルノナシ 西区岩岡町 11.N.1999
マカ・レット 西区岩岡町 18.V.1985
アキノキリンソウ (H)
ノアミ 市川町上牛尾 6.V.1999 (H)
カンサイトンポ 西区岩岡町 11.N.1999
ブ・タ 西区岩岡町 29.V.1999
カ・ヘラ<黄> 西区岩岡町 29.V.1999
アメリケンタ・ツク・サ 西区岩岡町 14.XI.1999
メランボ・ジ・ユム<黄> 中央区諏訪山公園 19.K.2000
メランボ・ジ・ユム<白> 中央区諏訪山公園 20.K.2000

[オミナエシ科]
オミナエシ 西区岩岡町 25.VI.1999

[キンボウゲ科]
キンボウゲ 夢前町熊部 28.N.1985

[アブラナ科]
ナノハ 夢前町熊部 28.N.1985
キハツ 西区岩岡 12.V.1985
イヌカラシ 西区岩岡 7.VI.1985
ダ・イコ 小野市下来住町 29.N.1986
セイヨウカラシ 北区道場町 5.V.1995
ハクサイ 西区岩岡町 29.V.1999

[フウチヨウソウ科]
クレメ 市川町上牛尾 14.VI.1980 (H)

[スミレ科]
ハ・ンジ - <白・紫> 中央区元町 29.V.1985
ヒ・オ 西区岩岡町 5.V.1999

[ウリ科]
スイカ 西区岩岡 7.VI.1985
キュウリ 西区岩岡 13.VI.1985
ウリ 西区岩岡町 20.VI.1985
ホ・チ 西区岩岡町 21.VI.1985

[イソマツ科]
スターチス 西区岩岡 13.VI.1985

[シソ科]
ブル・サル・ア 中央区諏訪山公園 6.X.2000
タイム 中央区諏訪山公園 - .K.1986 (Y)

[スベリヒユ科]
スベリヒユ 西区岩岡町 27.VI.1985

[カタバミ科]
カタバミ 西区岩岡町 27.VI.1985

[ミソハギ科]
サル・ヘリ<赤・白> 西区岩岡町 27.VI.1985

[ヤマゴボウ科]
ヨウシュヤマゴボウ 西区岩岡町 4.VI.1985

[ヒユ科]
ケイトウ 上月町上秋里 6.K.1985

[セリ科]
ヤブ・ジ・ラミ 西区岩岡町 7.VI.1985

[フウロソウ科]
アメリカワ 西区岩岡町 22.V.1999

[マメ科]
シロツメクサ 西区岩岡町 11.VI.1985
ミヤコグサ 西区岩岡町 29.V.1999
ムラサキツメクサ 西区岩岡町 5.V.1999
コチマンネンク・サ 西区岩岡町 5.V.1999
ソラマメ 夢前町熊部 3.V.1985 (26)
エンドウ 夢前町熊部 3.V.1985 (26)
レンゲ・ツク 千種町川井 15.V.1999 (H)

[タデ科]
ソハ 三日月町広山 19.X.1997 (24)

[キツネノマゴ科]
キツネノマゴ 市川町上牛尾 11.X.1999 (H)

[ゴマノハグサ科]
オオノハグサ 市川町上牛尾 3.N.1983 (H)

[ユリ科]
キ 千種町鷹巣 2.V.1985
ニラ 西区岩岡町 26.VI.1985

スジグロシロチョウ

[ツツジ科]
コノ・マツジ 夢前町坂根 29.N.1983 (H)

[バラ科]
キイチ 青垣町稲土 28.N.1986
スモ 大河内町川上 4.V.1980 (H)
サクラ 23.II.1982 (H)
ユキナギ 大河内町川上 4.V.1980 (H)

[クマツツラ科]
ランタ<ヒ>ツク・橙> 中央区諏訪山 13.X.2000 (Y)

[ブドウ科]
ヤブ・ガラシ 須磨区板宿 30.VI.1999

[ミツバウツギ科]
ミツハ・ウキ 夢前町熊部 3.V.1985

[フジウツギ科]
ブッドレア 10.X.- (H)

[アブラナ科]
ヒロハコソソウ 夢前町熊部 28.N.1985
ナノハ 夢前町熊部 28.N.1985
ダ・イコ 夢前町熊部 3.V.1985 (26)
オハ・タネツク・ナ 夢前町熊部 3.V.1985 (26)
セイヨウカラシ 山崎町高所 6.V.2000 (H)

[キク科]
タンポポ 夢前町熊部 28.N.1985
ノアミ 姫路市林田 16.V.1985
ヒメシ・ヨシ 日高町神鍋 9.V.1987
アメリケンタ・ツク・サ 市川町上牛尾 10.X.1999 (H)

[マメ科]
ソラマメ 夢前町熊部 28.N.1985
エンドウ 夢前町熊部 3.V.1985 (26)
レンゲ・ツク 千種町川井 15.V.1999 (H)

[ムラサキ科]
オタルカスラ 中央区諏訪山 4.V.1985
[キンボウゲ科]
キンボウゲ 北区藍那 (Y)
[サクランウ科]
オタルカスラ 波賀町道谷 15.VI.1985
[スミレ科]
オタルカスラ スミレ 青垣町稲土 28.N.1986
[シソ科]
オタルカスラ 夢前町熊部 3.V.1985 (26)
カキトウシ 市川町上牛尾 4.VI.1980 (H)
ウツボクサ 中央区諏訪山公園 - .V.1985 (Y)

エゾスジグロシロチョウ

[アブラナ科]
ハクサンハタゴ 市川町小室 18.N.1999 (H)

ツマキチョウ

[マメ科]
レンゲツク 西区寺谷 22.N.2000
[ケシ科]
ムササビ 夢前町熊部 3.V.1983 (H)
[アブラナ科]
タネツケハナ 夢前町熊部 3.V.1983 (H)
ナタネ 三木市大村 30.N.1978 (8)
ハナタン 中央区諏訪山公園 (17)
ハナ 中央区諏訪山公園 (17)

ムラサキシジミ

[キク科]
ノースポール(クリサンセム) 須磨区神ノ谷 - .III.1993 (Y)
[バラ科]
コデマリ 中央区諏訪山公園 - .V.1985 (17)

ウラゴマダラシジミ

[ブナ科]
クリ 猪名川町三草山 (38)
[モクセイ科]
イボタ 中央区諏訪山公園 - .V.1985 (17)
セイヨウイボタ 中央区諏訪山公園 15.V.1995 (Y)
ネズミギ (41)

ウラキシジミ

[ブナ科]
クリ 三木市 - .V.1977 (8)

アカシジミ

[ブナ科]
クリ 相生市三濃山 24.V.1995

ウラナミアカシジミ

[ブナ科]
クリ 猪名川町三草山 (38)

ミズイロオナガシジミ

[ブナ科]

クリ 洲本市中川原町 15.V.1978

ミドリシジミ

[ブナ科]
クリ (41)

ウラジロミドリシジミ

[ブナ科]
クリ 猪名川町三草山 (38)

ジョウザンミドリシジミ

[ブナ科]
クリ 浜坂町本谷 - .V.1993 (35)

オオミドリシジミ

[ユキノシタ科]
ウツギ 中央区市ヶ原 21.N.1964 (8)
[モクセイ科]
ネズミギ (41)
[ブナ科]
クリ (41)
[サクランウ科]
オタルカスラ (41)

ヒロオビミドリシジミ

[ブナ科]
クリ 猪名川町三草山 (38)

トラフシジミ

[ツツジ科]
コハバタツツジ 西区寺谷 22.N.2000
[ミツバウツギ科]
ミツバウツギ 一宮町小原 18.V.1980 (H)
[ユキノシタ科]
ウツギ 西区寺谷 4.V.-2000
[マメ科]
レンゲツク 西区寺谷 22.N.2000
[セリ科]
ナツヅラミ 加古川市氷室 1.VI.1984
[キク科]
ヒメジョオン 西区寺谷 18.V.2000
ブタ 西区寺谷 18.V.2000
マカレット 川西市黒川 22.N.2000
[ユリ科]
アザミ 千種町鷹巣 2.V.1985

コツバメ

[ツツジ科]
アヒ (41)
[キブシ科]
キブシ (41)
[カエデ科]
カエデ 三木市 - .N.1978 (8)
[ゴマノハグサ科]
オオイナガリ 西宮市山口町 29.N.1981

キマダラルリツバメ

- [ブナ科]
クリ 夢前町山富 8.VI.1978 (H)
[クロウメモドキ科]
イソギ 夢前町山富 8.VI.1978 (H)

ベニシジミ

- [クマツツラ科]
ハマコウ 西淡町慶野松原 16.VI.1987
[バラ科]
オレバイチゴ 山崎町五十波 27.V.1985
[ミカン科]
カラスザンショウ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
[キク科]
ニガナ 夢前町熊部 28.V.1985
ノアサミ 加古川市大沢 30.V.1985
ヒメジヨオン 加古川市大沢 30.V.1985
ハルジヨオン 姫路市の形 9.V.1985 (H)
ヨメナ 西区岩岡 13.VI.1985
ハルノケシ 津名町志筑 14.VI.1985
タカサワロウ 西区岩岡町 18.VI.1985
セイトカワダチソウ 加古川市北在家 3.XI.1985 (32)
キハナコスモス 西区岩岡町 12.XI.1999
コスモス<白> 西区岩岡町 12.XI.1999
セイヨウタンポポ 西区寺谷 18.V.2000
カンザイタンポポ 西区寺谷 18.V.2000
マーガレット 波賀町育木 6.V.2000 (H)
[オミナエシ科]
オトコシ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
[マメ科]
シロツメクサ 千種町内海 26.V.1985
レンゲソウ 山崎町五十波 27.V.1985
カラスノエンドウ 加古川市城山 29.V.1986
[キンボウゲ科]
キンボウゲ 夢前町熊部 28.V.1985
キツネノハミ 夢前町熊部 28.V.1985 (41)
[アブラナ科]
ナハナ 夢前町熊部 28.V.1985
タニコ 小野市下住町 29.V.1986
ナスナ 小野市下住町 29.V.1986
セイヨウカラシナ 山崎町高所 6.V.2000 (H)
[セリ科]
ヤブシラミ 西区岩岡 7.VI.1985
[ミソハギ科]
サルスベリ<白・赤> 西区岩岡町 27.VI.1985
[ケシ科]
クサノオウ 大河内町 -.V.1977 (Y)
[ヒユ科]
ケイトウ 西区岩岡町 11.VI.1985
センニチコウ 西区岩岡町 2.X.1999
[フウロソウ科]
アメリカフウロソウ 西区岩岡町 5.V.1999
[サクラソウ科]
オトラノオ 西区寺谷 26.V.2000
[タデ科]
ソハ 三日月町広山 19.X.1997 (24)
[ユリ科]
キキ 千種町内海 26.V.1985
アサギ 千種町鷹巣 2.V.1985
ニラ 西区岩岡町 26.VI.1985

ウラナミシジミ

- [クマツツラ科]
ランタナ<ヒソク・橙> 中央区諏訪山 5.X.1995
[キク科]
マリゴ<白> 西区岩岡 5.XI.1984
キンセンカ 西区岩岡 5.XI.1984
ヤクハルマソウ<紫> 西区岩岡町 4.XI.1985
セイトカワダチソウ 垂水区舞子 21.X.1987
センタノソウ 長田区高取山山頂付近 14.X.1999
コウボウキ 長田区雲雀丘 29.X.1999
ヒメジヨオン 上郡町赤松 18.X.1985 (H)
[ゴマノハグサ科]
オオイトナグサ 西区岩岡 9.XI.1984
[シソ科]
ホトケナ 西区岩岡 9.XI.1984
ブルーサルビア 中央区諏訪山 6.XI.1995
ローズマリー 中央区諏訪山公園 6.X.2000 (Y)
サルビア 西区岩岡 5.XI.1984
サルビアレウカンサ 中央区諏訪山 15.X.2000 (Y)
アキノタムラソウ 山崎町与位 3.X.1982 (H)
[マメ科]
フジマメ 明石市 -.X.1978 (Y)
コマツナキ 上郡町赤松 16.X.1985
アサキ 香住町今後浦 16.X.1988
エントウ 南淡町灘黒岩 10.XI.1991
クス 西区岩岡町 2.X.1999
シロツメクサ 西区岩岡町 4.XI.1999
ヤブツルアサキ 西区寺谷 17.X.2000 (41)
[タデ科]
ソハ 宍垣町大名草 25.X.1999
タデ 夢前町宮置 25.X.1981 (H)
ミヅソハ 西区寺谷 14.X.2000
[カタバミ科]
カタバミ 西区岩岡町 14.XI.1999
[ヒユ科]
イコスチ 西区岩岡 24.X.2000
センニチコウ 明石市 -.XI.1997 (Y)
[キツネノマゴ科]
キツネノマゴ (H)
[ナデシコ科]
ハナデシコ 南淡町灘 22.X.1978
牛蒡 上郡町大枝新 25.X.1988 (27)

ヤマトシジミ

- [クマツツラ科]
ランタナ<ヒソク・橙> 中央区諏訪山 5.X.1995
コハノランタナ<ヒソク> 中央区諏訪山公園 19.X.2000
[バラ科]
ミハナツクリ 姫路市大石中 5.V.1999 (H)
[アカネ科]
ハクチョウ 西区岩岡 15.X.2000
[キク科]
シオン 西区岩岡 13.X.1985
セイトカワダチソウ 加古川市北在家 3.XI.1985 (32)
キク<白・黄> 西区岩岡町 4.XI.1985
ヒヤクニチソウ 西区岩岡町 23.VI.1999
セイヨウタンポポ 西区岩岡町 14.XI.1999
オニタビラコ 西区寺谷 17.X.2000
クジヤクスター 西区岩岡町 14.X.2000
メランボシヨウ<黄・橙> 中央区諏訪山公園 19.X.2000

19.X.2000

ヨメ 市川町上牛尾 10.X.1981 (H)
 ヤクソウ 福岡町神谷 3.XI.1985 (H)
 アキ/キリソウ (H)
 ルト'ハ'キ 中央区諏訪山公園 -.VII.1994 (Y)
 [マメ科]
 コマツナキ' 加古川市氷室 30.V.1985
 シロツメクサ 西区岩岡町 11.VI.1985
 レンゲ'ソウ 三日月町末広 15.V.1999 (H)
 コツバ'ウマゴ'ヤシ 西区岩岡町 4.XI.1999
 [ゴマノハグサ科]
 オオノノ'フリ 西区岩岡 9.XI.1984
 [サクランウ科]
 オオトラノ 加古川市氷室 30.V.1985
 [ミソハギ科]
 サルサ'リ<赤> 西区岩岡町 29.VI.1985
 クヱ'イ(ハナナキ') 中央区諏訪山 7.X.2000 (Y)
 [スミレ科]
 ハ'ンゾ'ー<紫・黄> 西区岩岡 7.VI.1985
 [スベリヒユ科]
 スベ'リヒユ (41)
 [シソ科]
 フ'ルサ'ル'ア 中央区諏訪山 16.XI.1995
 ホ'ケ'サ' 西区岩岡町 21.XI.1999
 シ 西区寺谷 1.X.2000
 [カタバミ科]
 カ'ハ'ミ 西区岩岡町 14.XI.1999
 [フクロソウ科]
 ケ'ンショウ 西区岩岡町 3.XI.1999
 [ヤマゴボウ科]
 ヨウシュ'マゴ'お'ウ 西区寺谷 14.VI.2000
 [キツネノマゴ科]
 キツ'ネ'マゴ' 西区寺谷 2.K.2000
 [アブラナ科]
 スイ'ア'リ'ヤム<白> 中央区諏訪山公園 19.X.2000
 [ヒユ科]
 セ'ニ'コウ 中央区諏訪山公園 -.VII.1989 (Y)
 [タデ科]
 ソ'ハ' 三日月町末広山 19.X.1997 (24)
 オ'ハ'テ'<ヒ'ソ'> 中央区諏訪山公園 6.X.2000
 ミ'ジ'ハ' 西区寺谷 14.X.2000
 [ベンケイソウ科]
 ミ'セ'ハ'ヤ 中央区諏訪山公園 -.X.1994 (Y)

シルビアシジミ

[マメ科]
 コマツナキ' 洲本市安坂 8.VI.1977
 ミヤコ'サ 垂水区舞子 10.X.1982 (12)
 シロツメクサ 伊丹市河原 12.V.1985 (38)
 [キク科]
 ヒメ'ジョウ 上郡町赤松 16.K.1985 (H)
 ニ'ガ'ナ (H)
 [キツネノマゴ科]
 キツ'ネ'マゴ' 上郡町赤松 8.X.2000
 [カタバミ科]
 カ'ハ'ミ 上郡町赤松 8.X.2000

ルリシジミ

[ユキノシタ科]
 ウ'キ' 一宮町小原 16.V.1985
 [モクセイ科]
 ネ'ス'ミ'ヤ 西区岩岡町 15.V.1986
 [ブドウ科]

ヤマ'ト'ウ 日高町神鍋 9.VI.1987
 [マメ科]
 ヤ'ハ'キ 日高町神鍋 9.VI.1987
 ク'ス' 西区岩岡町 12.VI.1999
 [タデ科]
 ソ'ハ' 青垣町大名草 25.K.1999
 [キク科]
 タ'ホ'ホ' 北区山田町 29.III.1978 (10)
 ヒメ'ジョウ 西区岩岡町 20.V.1999
 腐果 (41)
 鳥獣糞 (41)

スギタニルリシジミ

[トチノキ科]
 ト'チ'ノ'キ 波賀町赤西溪谷 5.V.1983 (H)
 鳥の糞 夢前町雪彦山 (H)

ツバメシジミ

[キク科]
 ヒメ'ジョウ 西区寺谷 18.V.2000
 [マメ科]
 レンゲ'ソウ 山崎町五十波 27.V.1985
 コマツナキ' 加古川市氷室 30.V.1985
 ツル'マ'メ 西区岩岡町 5.K.1999
 ミヤコ'サ 姫路市広畑区 18.VI.1982 (H)
 カ'ス'ノ'エ'ント'ウ 市川町上牛尾 25.V.1999 (H)
 ス'ス'メ'ノ'エ'ント'ウ 市川町下瀬加 2.V.1999 (H)
 ヤ'ハ'ス'ソウ 上郡町赤松 28.K.1980 (H)
 シロツメクサ 北淡町野島 5.V.1999 (H)
 [セリ科]
 ヤ'ブ'シ'ラ'ミ 加古川市氷室 1.VI.1984

クロツバメシジミ

[キク科]
 ヒ'ヤ'ニ'ソウ 龍野市大手 23.VI.1978 (H)
 [ベンケイソウ科]
 ヴ'ル'ソ'ク' 上郡町柏野 24.X.1977 (H)
 マ'ル'ハ'マ'ネ'ン'ク'サ 上郡町柏野 9.VI.2000 (H)

ウラギンシジミ

[マメ科]
 ク'ス' 西区岩岡町 12.VI.1999
 姉の腐果汁 須磨区桜木町 -.XI.1987 (Y)

テングチョウ

[ツツジ科]
 ア'ヒ' 中央区諏訪山公園 -.N.1985 (Y)
 [バラ科]
 ヤ'サ'ク'ラ 三木市正法寺 18.V.1993
 [ユキノシタ科]
 ウ'キ' 一宮町小原 16.V.1985
 [キク科]
 セ'イ'カ'ア'ワ'タ'チ'ソウ 西区寺谷 14.X.2000

ノ'ス'ト'ール 中央区諏訪山公園 -.N.1994 (Y)
 マ'リ'ゴ'ール'ト' 須磨区神の谷 -.XI.1991 (Y)
 ヨ'メ' (41)
 [サクランウ科]
 プ'リ'ム'ラ'マ'ロ'イ'テ'ス 中央区諏訪山公園 -.III.1985 (Y)

[タデ科]

ソハ' 三日月町広山 19.X.1997 (24)
鳥獣糞 (41)

アサギマダラ

[フジウツギ科]

フジ'ウツギ' 東灘区岡本六甲山 12.VI.1997

[ウコギ科]

クラ 三木市志染町 -.V.1977 (8)

[ガガイモ科]

キジ'ヨラン 南光町瑠璃寺 夏季に多い (U)

[キク科]

アサ'ミ 西淡町大唐原 6.X.1977
ヒヨ'リハ'ナ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986
フジ'ハ'マ(外来種) 南光町瑠璃寺 8.X.2000
ゴ'マナ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986
オニ'ビ'ラコ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986
コウ'ホ'ウキ 北区丹生山 10.X.1993
アサ'ミ 温泉町畑ヶ平 1.VI.1999
セイ'カ'アワ'カ'チ'ソウ 長田区高取山山頂付近 14.X.1999
コス'モス 須磨区神の谷 -.X.1998 (Y)
マリ'ゴ'ール'ト' 須磨区神の谷 -.X.1993 (Y)
ホ'ナ'ナ'コス'モス 西区岩岡町 8.VI.2000
ヨ'マナ 市川町上牛尾 10.X.2000 (H)

[オミナエシ科]

オ'ト'コ'シ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986

[サクランソウ科]

オ'ト'ラ'ノ'オ (41)

[ムラサキ科]

ス'ビ'キ'ウ 竹野町切浜 10.V.1995 (34)

[タデ科]

イ'ト'リ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986

[アブラナ科]

タ'ネ'ツ'カ'ハ'ナ 夢前町熊部 3.V.1983 (H)

[マメ科]

ソ'ラ'メ 夢前町熊部 3.V.1983 (H)

[クマツツラ科]

コ'ハ'ナ'ラン'ナ'キ'ン'ソ'ク 中央区諏訪山 13.X.2000 (Y)

[キンボウゲ科]

サ'ラ'シ'ョウ'マ 市川町上牛尾 10.X.1999 (H)

[リンドウ科]

ア'ケ'ハ'ノ'ウ 南光町瑠璃寺 8.X.2000

海草(海岸に打ち上げられたもの)
竹野町育井 -.V.1976 (34)

ウラギンスジヒョウモン

[ブナ科]

クリ 三木市 -.V.1977 (8)

[ユキノシタ科]

ウ'ツ'キ' 芦屋市 (21)

[バラ科]

ノ'イ'ハ'ラ 三木市大村 (29)

[サクランソウ科]

オ'ト'ラ'ノ'オ 加古川市志方町氷室 11.V.1983

[キク科]

ア'サ'ミ 加西市繁昌町 18.V.1993

ヒ'メ'ジ'ヨ'ン 三木市大村 (29)

[サクランソウ科]

オ'ト'ラ'ノ'オ 三木市内 (29)

オオウラギンスジヒョウモン

[ユキノシタ科]

ノ'ウ'ツ'キ' 関宮町鉢高原 -.V.1971 (Y)

[キク科]

ヒ'ヨ'リ'ハ'ナ 村岡町大笹 13.VI.1984

ア'サ'ミ 大屋町杉が沢 5.K.1993

[サクランソウ科]

オ'ト'ラ'ノ'オ 但東町奥藤 12.VI.1988

ミドリヒョウモン

[フジウツギ科]

フジ'ウツギ' 北区森林植物園 10.K.2000

[ウルシ科]

ス'ル'デ 三木市 -.V.1977 (8)

[ウコギ科]

ウ'ト' 三木市 (30)

[ミカン科]

カ'ラ'サ'シ'ョウ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)

[マメ科]

コ'マ'ツ'ナ'キ' 上郡町柏野 16.X.1983 (H)

[クマツツラ科]

ラ'ン'タ'ナ'キ'ン'ソ'ク 中央区諏訪山公園 6.X.2000

コ'ハ'ナ'ラン'ナ'キ'ン'ソ'ク 中央区諏訪山公園 6.X.2000

[キク科]

ヒ'ヨ'リ'ハ'ナ 波賀町道谷 15.VI.1985

ノ'ア'サ'ミ 波賀町道谷 7.K.1986

ヒ'ヨ'リ'ハ'ナ 三木市 -.V.1977 (8)

ア'サ'ミ 三木市 -.V.1977 (8)

セイ'カ'アワ'カ'チ'ソウ (41)

シ'ヨ'ン 西区寺谷 1.X.2000

ヒ'メ'ジ'ヨ'ン 芦屋市 (21)

オ'ト'カ'ラ'コウ 波賀町道谷 3.X.1982 (H)

ア'ケ'ラ'タ'ム(カ'コウ'ア'サ'ミ) 中央区諏訪山公園
-.VI.1985 (Y)

マリ'ゴ'ール'ト' 須磨区神の谷 -.VI.1990 (Y)

[ミカン科]

カ'ラ'サ'シ'ョウ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)

[サクランソウ科]

オ'ト'ラ'ノ'オ 西区寺谷 26.VI.2000

クモガタヒョウモン

[ブナ科]

クリ 三木市鍛冶 -.V.1978 (8)

[アオイ科]

フ'ヨウ'キ'ン'ソ'ク 三木市大村 (30)

[キク科]

ヨ'マナ 宝塚市切畑

ヒ'ヨ'リ'ハ'ナ 三木市大村 (30)

メスグロヒョウモン

[ブナ科]

クリ 三木市 -.V.1977 (8)

[スイカズラ科]

ス'イ'カ'ズ'ラ 三木市 -.V.1977 (8)

[フジウツギ科]

ア'ウ'ト'レ'ア' 市川町上牛尾 15.K.1980 (H)

[アオイ科]

フ'ヨウ' 三木市 (29)

[キク科]

ア'サ'ミ 緑町中条中筋 18.K.1977

ノ'ア'サ'ミ 三木市 (29)

ヒ'ヨ'リ'ハ'ナ 三木市 (29)

シオン 西区寺谷 1.X.2000
 ヤクシツ 市川町上牛尾 10.X.1981 (H)
 [サクランソウ科]
 オトラノオ 加古川市志方町氷室 11.V.1983
 [タデ科]
 イタドリ 三木市 (29)

ウラギンヒョウモン

[ブナ科]
 クリ 三木市 -.V.1977 (8)
 [キク科]
 ヒヨドリバナ 波賀町道谷 15.VI.1985
 アザミ 大河内砥峰 5.VI.1987
 ノハラアザミ 大屋町杉が沢 5.X.1993
 セルアザミ 大屋町杉が沢 5.X.1993
 ヒヤクニチソウ 三木市善祥寺 秋 14時 (30)
 ヒヨドリバナ 芦屋市 (21)
 [ナデシコ科]
 ムシトリナデシコ 生野町 -.V.1987 (Y)
 [タデ科]
 イタドリ 三木市 -.V.1977 (8)
 ヨハ 三日月町広山 19.X.1997 (24)

オオウラギンヒョウモン

[キク科]
 アザミ 大屋町杉が沢 24.VI.1980
 ヒヨドリバナ 関宮町葛畑 6.X.1980
 コウリカ 大河内砥峰高原 9.VI.1981 (H)
 [サクランソウ科]
 オトラノオ 関宮町葛畑 27.VI.1980

ツマグロヒョウモン

[リョウブ科]
 リョウブ 三木市 -.V.1978 (8)
 [スイカズラ科]
 アヘリ 宝塚市光明町 -.V.1990 (15)
 [アオイ科]
 フヨウ <ヒメ> 三木市 (30)
 [クマツヅク科]
 ランタナ <ヒメ> 中央区諏訪山 2.X.1993
 ヨハノランタナ <ヒメ> 中央区諏訪山公園 19.X.2000
 クサキ <ヒメ> 三木市 (30)
 [ブドウ科]
 ヤブガラシ 宝塚市武庫川町 15.X.1991 (15)
 [キク科]
 ヒヤクニチソウ <橙> 西区岩岡町 1.X.1985
 ノアザミ 姫路市林田 16.V.1985
 セイヨウタンポポ 西区岩岡町 14.XI.1999
 キク 西区岩岡町 21.XI.1999
 セイタカアワダチソウ 西区岩岡町 21.XI.1999
 ヒヨドリバナ 三木市 (30)
 サワヒトリ 芦屋市 (21)
 ノジキ <白> <ヒメ> 三木市 (30)
 ミヤコウスレ <ヒメ> 三木市 (30)
 ノアザミ 三木市 (30)
 シオン 三木市 (30)
 マリーゴールド 西区岩岡町 26.VI.1985
 カンサイタンポポ 三木市 (30)
 キンケイキク 宝塚市光明町 10.VIII.1991 (15)
 コスモス 市川町上牛尾 10.X.1999 (H)
 ヨメナ 市川町上牛尾 1.XI.1998 (H)

[シソ科]
 ホトケサ 西区岩岡町 14.XI.1999
 サルビア <赤> 三木市 (30)
 ベニハミ 三木市 (30)
 [イソマツ科]
 スターチス 西区岩岡町 18.V.2000
 [ヒユ科]
 センブリ 西区岩岡町 2.X.1999
 [ミソハギ科]
 ミソハギ 北区森林植物園 10.X.2000
 [サクランソウ科]
 オトラノオ 三木市 -.V.1977 (8)
 [ナデシコ科]
 ナナハシ 三木市 (30)
 カラナハシ <ヒメ> 三木市 (30)
 [スミレ科]
 ハナヅル 宝塚市小林 下旬.XI.1990 (15)
 [キキョウ科]
 フリカネシ 西区寺谷 1.X.2000
 [マメ科]
 レンゲソウ 三木市 (30)
 シロツメクサ 三木市 (30)
 [ユリ科]
 ニラ 西区岩岡町 26.VI.1985
 桔梗 三木市 (30)

ウスイロヒョウモンモドキ

[サクランソウ科]
 オトラノオ 村岡町大笹 4.VI.1987

イチモンジチョウ

[スイカズラ科]
 タニウキ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
 [ヒユ科]
 ケイトウ 生野町 -.X.1977 (Y)
 獣糞 波賀町 (11)

アサマイチモンジ

[ユキノシタ科]
 ウキ 一宮町小原 16.V.1985
 [ユリ科]
 桔梗 千種町鷹巣 2.V.1985

コムシジ

[ユキノシタ科]
 ウキ 西区寺谷 4.V.2000
 [ミツバウツギ科]
 ミツハ ウキ 一宮町小原 18.V.1980 (H)
 [ブドウ科]
 ヤブガラシ 中央区諏訪山公園 -.X.1995 (Y)
 [キク科]
 ヒメジョオン 西区寺谷 18.V.2000

ミスジチョウ

[ユキノシタ科]
 ウキ 佐用町若州 5.V.1980 (18)
 獣糞 一宮町小原 16.V.1985

ホシミスジ

- [ユキノシタ科]
ウキ 中央区諏訪山公園 - .M.1995
[キク科]
キク<黄> 中央区諏訪山公園 6.X.2000
[セリ科]
ウキョウ 中央区諏訪山公園 - .M.1995 (Y)
[ヒユ科]
イノコ 赤穂市神保 16.X.1984
モの腐果実 三木市志染町 26.VI.1984

サカハチチョウ

- [ユキノシタ科]
ウキ 一宮町小原 16.V.1985
[アブラナ科]
オハナ 夢前町熊部 28.N.1985
[キク科]
ヒョトリハナ 温泉町畑ヶ平 1.VI.1999
[セリ科]
ヤブジラミ 波賀町赤西 10.V.1981 (H)

キタテハ

- [ツツジ科]
アヒ 姫路市打越 22.III.1981 (H)
[バラ科]
ヤマザクラ 三木市正法寺 18.N.1993
[ジンチョウゲ科]
ミヤマ 姫路市打越 22.III.1981 (H)
[モクセイ科]
ネミ 中央区諏訪山公園 - .M.1995 (Y)
[クマツツラ科]
ランタナ<橙> 中央区諏訪山公園 7.X.2000
コナ<ランタナ> 中央区諏訪山公園 7.X.2000
[フジウツギ科]
フットレ (41)
[キク科]
キク<黄> 西区岩岡 5.XI.1984
キク<赤> 西宮市西福町 13.X.1985
カガキ<黄> 西区岩岡町 4.XI.1985
ヒョトリハナ 生野町栃原
キク 宝塚市安倉 19.X.1995
カサヤナ 西区寺谷 9.N.2000
タンボ 1(H)
ヒメジョオン 西区寺谷 18.V.2000
ノアミ 西区寺谷 18.V.2000
アサカセンダングサ 西区寺谷 17.X.2000
セタカアワダチソウ 尼崎市大庄町 (3)
マリゴ 芦屋市 (21)
ジョウ 西区寺谷 1.X.2000
コスモス 市川町上牛尾 11.X.1999(H)
ノジキ 須磨区桜木町 - .X.1998 (Y)
オキナゲキ 中央区諏訪山公園 - .X.1991 (Y)
[ナデシコ科]
ハナデシコ 西淡町慶野松原 16.VI.1987
[サクラソウ科]
オカラノ (41)
[セリ科]
セリ 西区寺谷 5.VI.2000
[タデ科]
ソハ 三日月町広山 19.X.1997 (24)
ミソハ (41)

[ゴマノハグサ科]

- オハナ 市川町上牛尾 3.N.1983 (H)
ヤキ 樹液 三木市 - .M.1977 (8)
ウメのアワダチ分泌物 市川町上牛尾 29.V.1983 (22)
腐果 (41)
クサキ 樹液 (41)
アサキ 樹液 (41)

ヒオドシチョウ

- [ユキノシタ科]
ウキ 一宮町小原 16.V.1985
[バラ科]
ヤマザクラ 三木市正法寺 18.N.1993
モ 中央区諏訪山公園 (17)
ソメイヨシノ 中央区諏訪山公園 (17)
[キク科]
ヒョトリハナ 波賀町道谷 15.VI.1985
アサミ 類 (41)
[ナデシコ科]
ムトウシロ 大河内町川上 - .M.1975 (Y)
クサキ 樹液 (41)
カラの樹液 (41)

アカタテハ

- [グミ科]
ナシロクミ 夢前町坂根 18.V.1975 (H)
[ツツジ科]
トウゲツツジ 市川町上牛尾 3.N.1983 (H)
[バラ科]
ヤマザクラ 三木市正法寺 18.N.1993
ナシロクミ 夢前町雪彦山 3.V.1980 (H)
カラ 姫路市広峰山 4.N.1982 (H)
[ユキノシタ科]
ウキ 関宮町氷ノ山 10.VI.1995
[クマツツラ科]
ランタナ 中央区諏訪山公園 11.X.1994 (Y)
[ジンチョウゲ科]
ミヤマ 姫路市打越 22.III.1981 (H)
ジンチョウゲ 市川町上牛尾 3.N.1983 (H)
[フジウツギ科]
フットレ 市川町上牛尾 14.VI.1980 (H)
[アブラナ科]
グイコン 夢前町熊部 3.V.1985
[キク科]
タンボ 北区山田町 29.III.1978 (10)
ノアミ 一宮町小原 16.V.1985
コスモス (H)
キク 西区岩岡町 14.XI.1999
セタカアワダチソウ 尼崎市大庄町 (3)
[シソ科]
カト 寄垣町稲土 29.N.1987
[タデ科]
ソハ 三日月町広山 19.X.1997 (24)
[ユリ科]
キク 大河内町川上 24.V.1987
ニラ 上郡町赤松 9.X.1979 (H)
キクの実 太子町太田 14.X.1980 (H)

ヒメアカタテハ

- [フジウツギ科]
フットレ 市川町上牛尾 15.X.1980 (H)

- [モクセイ科]
 ネスミチ 明石市松蔭新田 21.V.1987
- [ニガキ科]
 ニガキ 日高町神鍋 9.V.1987
- [クマツヅラ科]
 ランタナ<ヒソク> 中央区諏訪山 5.X.1995
 ハーベナ 西区岩岡町 15.I.2000
- [キク科]
 キク <白・うすいヒソク・濃いヒソク・赤・黄の5色の中で
 濃いヒソクに吸蜜にくる回数が圧倒的に多かった>
 西区岩岡 27.XI.1983
- ヒソクニソク<ヒソク> 西区岩岡町 11.V.1985
 セイヨウタンポポ 西区岩岡町 4.XI.1985
 ヒソクニソク<黄・ヒソク> 西区岩岡町 4.XI.1985
 コスモ 西区岩岡町 -.K.1986
 ルトヘキ 西区岩岡町 -.K.1986
 キクイモ 宝塚市安倉 19.K.1995
 アメリケンサダソク 西区岩岡町 14.XI.1999
 キハナコスモ 西区岩岡町 14.XI.1999
 キンセンカ 西区岩岡町 21.XI.1999
 ノキリソク 西区岩岡町 4.XI.1999
 プタナ 西区岩岡町 12.XI.1999
 セイヨウタンポポ 西区岩岡町 26.I.2000
 テーグー 市川町上牛尾 20.V.1979 (H)
 ヒョトリハナ 芦屋市 (21)
 マリゴールト 芦屋市 (21)
- [ゴマノハグサ科]
 オオヌノヅクリ 西区岩岡 9.XI.1984
- [アブラナ科]
 タイコン 西区岩岡 9.XI.1984
- [フウチョウソウ科]
 セイヨウフウチョウソウ 西区岩岡町 26.V.1985
- [シソ科]
 ホトナギ 西区岩岡 23.XI.1984
- [マメ科]
 ムササキツメクサ 津名町志筑 14.V.1985
 シロツメクサ 西区岩岡町 11.V.1985
- [ナデシコ科]
 ハナデシコ 西淡町慶野松原 16.V.1987
- [ヒユ科]
 センチコウ 西区岩岡町 2.X.1999
- [タデ科]
 ソハ 三日町町広山 19.X.1997 (24)
 ミツソハ 西区寺谷 14.X.2000
- [ユリ科]
 ニラ 西区岩岡町 8.K.1985
 特 千種町鷹巣 2.V.1985
 干し柿 三木市 -.1977 (8)

ルリタテハ

- [ユキノシタ科]
 ウツキ 一宮町小原 16.V.1985
- [ツツジ科]
 アヒ 中央区諏訪山公園 -.N.- (Y)
- [ジンチョウゲ科]
 ミツマタ 姫路市打越 22.III.1981 (H)
 ヒナキ樹液 加古川市氷室 6.V.1992
 ミスミ樹液 朝来町佐養 22.V.1993
 アヘマキ樹液 西区寺谷 1.V.2000
 コアラ樹液 西区寺谷 1.V.2000
 クヌキの樹液 三木市 1977-78 (8)
 ニレの樹液 三木市 1977-78 (8)

柿の腐熟果 須磨区桜木町 -.V.1978 (Y)

イシガケチョウ

- [キク科]
 セイカアワダチソウ 相生市矢野町 23.X.1996 (23)
 ヒョトリハナ 相生市矢野町 23.X.1996 (23)
 ヨメナ 相生市矢野町 23.X.1996 (23)
- [タデ科]
 イトリ 相生市矢野町 23.X.1996 (23)
 ソハ (Y)

スミナガシ

- クヌキの樹液 三木市戸田 -.V.1978 (8)
 イナカデ樹液 波賀町音水溪谷 (11)

コムラサキ

- [ミカン科]
 カラスノソウ 須磨区須磨浦公園 1.V.1988 (2)
 カナナギの樹液 三木市 -.V.1977 (8)
 オブラの樹液 三木市 -.V.1977 (8)
 ナギの樹液 三木市 -.V.1977 (8)
 クヌキの樹液 三木市 -.V.1977 (8)
 ニレの樹液 三木市 -.V.1977 (8)
 スイカの腐果汁 丹南町 (Y)
 人の汗 大河内町峰山 20.V.1990
 獣糞 波賀町坂の谷 8.V.1999

ゴマダラチョウ

- [ミカン科]
 カラスノソウ 須磨区須磨浦公園 1.V.1988 (2)
 アヘマキ樹液 西区寺谷 12.V.2000
 クヌキの樹液 三木市 (8)
 ニレの樹液 三木市 (8)
 アキレ樹液 尼崎市大庄西町 (3)
 スイカの果 尼崎市大庄西町 (3)

オオムラサキ

- クヌキの樹液 川西市笹部 (38)
 アヘマキ樹液 西区寺谷
 コアラの樹液 北区山田町森林植物園
 ナガシの樹液 夢前町菅生潤 30.V.2000 (H)

ヒメウラナミジャノメ

- [ユキノシタ科]
 ウツキ 西区寺谷 4.V.2000
- [カエデ科]
 イロハモジ 山崎町五十波 27.N.1985
- [バラ科]
 ナリシロイコ 西区岩岡 12.V.1985
 オヒイコ 相生市天ヶ台 13.V.1980 (H)
 ユキナギ (H)
 オヒマリ (H)
- [キク科]
 ハルシオン 西区岩岡 12.V.1985
 ヒョトリハナ 加古川市志方町 23.K.1990
 ヒメシオン 西区寺谷 18.V.2000
- [オミナエシ科]
 オミナエシ 西区岩岡町 8.K.1985

トコシ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
 [ゴマノハグサ科]
 オイノフカリ 山崎町五十波 27.N.1985
 [マメ科]
 カスノエントウ 山崎町五十波 27.N.1985
 シロツメクサ 姫路市奥佐見 1.V.1980 (H)
 レンソウ (H)
 [キンボウゲ科]
 キンボウウケ 山崎町五十波 27.N.1985
 キンボウタン (H)
 センソウ 姫路市林田町下伊勢 18.K.1980 (H)
 [スミレ科]
 ハンゾウ<黄・紫> 中央区諏訪山 4.V.1985
 [アブラナ科]
 セイヨウカラシナ 山崎町与位 14.V.2000 (H)
 [ヒユ科]
 イコスチ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
 [セリ科]
 ヤブジラミ 西区岩岡 13.VI.1985
 [キツネノマゴ科]
 キツネマゴ 西区寺谷 2.K.2000
 [ユリ科]
 アサギ 千種町鷹巣 2.V.1985
 ニラ 西区岩岡町 8.K.1985

ジャノメチョウ

[キク科]
 ヒョトリハナ 大屋町杉が沢 5.K.1993
 アサミ 大屋町杉が沢 5.K.1993
 [フジウツギ科]
 フジウツギ 東灘区岡本六甲山 12.VI.1997
 [キツネノマゴ科]
 キツネマゴ 北区森林植物園 10.K.2000
 [ミカン科]
 カラスノショウ 須磨区須磨浦公園 1.VI.1988 (2)
 [マメ科]
 シロツメクサ 上郡町黒石 4.VI.1982 (H)
 クロハ<赤> 北区森林植物園 -.V.1995 (Y)
 [サクラソウ科]
 オトラオ (41)
 [シソ科]
 ウツホクサ (41)
 腐果 (41)
 鳥獣糞 (41)

ヒカゲチョウ

アハマキ樹液 西区寺谷 1.VI.2000
 コナ樹液 西区寺谷 1.VI.2000
 腐果 (41)
 鳥獣糞 (41)
 動物の死体 (41)

クロヒカゲ

[キク科]
 ヒョトリハナ 芦屋市奥池南町 3.K.1983 (21)
 カシ樹液 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
 クヌギの樹液 三木市 -.VI.1977 (8)
 トナリ樹液 波賀町音水溪谷 (11)
 果実の腐汁 三木市 -.VI.1977 (8)
 人の汗 (41)

コジャノメ

[モクセイ科]
 秘ミチ 三木市 -.VI.1977 (8)
 秘タ 三木市 -.VI.1977 (8)
 腐果 (41)

ヒメジャノメ

アハマキの樹液 西区寺谷 1.X.2000
 クヌギの樹液 三木市 -.VI.1977 (8)
 仔ジクの樹液 尼崎市大庄西町 (3)
 仔ジクの果実 明石市 (Y)
 蜂の果実 太子町太田 14.K.1980 (H)
 腐果 (41)
 鳥獣糞 (41)
 動物の死体 (41)

ヒメヒカゲ

[キク科]
 タンボク (41)

ヒメキマダラヒカゲ

[ユキノシタ科]
 ウツギ 一宮町小原 16.VI.1985
 [キク科]
 ヒョトリハナ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986
 オカラコ 生野町 -.K.1982 (Y)
 [タデ科]
 イタリ 波賀町坂の谷林道 7.K.1986
 [セリ科]
 シシウド 波賀町坂の谷林道 7.K.1986

サトキマダラヒカゲ

アハマキ樹液 西区寺谷 5.VI.2000
 コナ樹液 西区寺谷 5.VI.2000
 カシ樹液 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
 ウメのアハラム分泌 市川町上牛尾 29.V.1983 (22)
 蜂の果実 太子町太田 (H)

キマダラモドキ

ナガシの樹液 夢前町菅生潤 30.VI.2000 (H)

クロコノマチョウ

コナ樹液 宝塚市大原野 7.VI.1999
 アハマキ樹液 西区寺谷 26.VI.2000
 蜂の腐汁 西区寺谷 24.K.2000
 ナイトレシの腐果汁 洲本市安乎町北谷
 28.VI.1998 (39)

ウスイロコノマチョウ

仔ジク果実の腐汁 三木市別所町 21.K.1991 (28)
 アハマキ樹液 芦屋市奥山 29.K.1985 (13)
 蜂の腐果汁 -.X.- (Y)

ミヤマセセリ

[バラ科]
 キマダラ 加古川市中才 17.N.1983

[マメ科]
フジ 芦屋市奥山 10.V.1996
レンゲツウ 西区寺谷 4.V.2000
[スミレ科]
スミレ 市川町河内 (H)

ダイミョウセセリ

[フジウツギ科]
アト'レア 市川町上牛尾 14.VI.1980 (H)
[マメ科]
レンゲツウ 新宮町奥善定 13.V.1979 (H)
[アカネ科]
ヘクソカス'ラ 浜坂町新市 6.X.1988
[タデ科]
マコノシタ'イ 宝塚武田尾 9.X.1998

キバネセセリ

[リョウブ科]
リョウブ' 浜坂町城山 24.VI.1993 (40)
[ミカン科]
カラスガ'ンジョウ 村岡町川会 9.VI.1993 (40)

アオバセセリ

[グミ科]
グミ 上月町西新宿 5.V.1999 (H)
[ミツバウツギ科]
ミツハ'ウツギ 夢前町熊部 3.V.1985
[ユキノシタ科]
ウツギ' 一宮町小原 16.V.1985
ノリウツギ' 関宮町鉢伏高原 ー.VI.1971 (Y)
[ユリ科]
ニラ 三木市 ー.X.1978 (8)
ネギ' 夢前町熊部 3.V.1985

ギンイチモンジセセリ

[キク科]
サワオ'ガ'ルマ 千種町鷹巣 16.V.1982 (H)

ヘリグロチャバネセセリ

[キク科]
ヒメジ'ヨオン 猪名川町出会 26.V.1958 (38)
アサ'ミ (41)
[サクラソウ科]
オオトラ'オ (41)

コキマダラセセリ

[マメ科]
カラス'イント'ウ 千種町鷹巣 2.V.1985
[キク科]
ヒメジ'ヨオン 西区寺谷 18.V.2000
アサ'ミ 関宮町葛畑 8.VI.2000

ヒメキマダラセセリ

[ユキノシタ科]
ウツギ' 一宮町小原 16.V.1985
[モクセイ科]
イ'タ 姫路市奥佐見 1.V.1980 (H)

[キク科]

アサ'ミ 姫路市林田 16.V.1985
ヒョト'リハ'ナ (41)
[サクラソウ科]
オオトラ'オ (41)
ダ'イコソの腐敗したもの 姫路市林田町 1.V.1980 (H)

コチャバネセセリ

[フジウツギ科]
アト'レア 市川町上牛尾 14.VI.1980 (H)
[モクセイ科]
イ'タ 姫路市奥佐見 1.V.1980 (H)
ネズ'ミチ (41)
[ユキノシタ科]
ウツギ' (41)
[バラ科]
ジャリ'ソハ'イ 中央区諏訪山公園 (Y)
[キク科]
アサ'ミ 山崎町小河内 19.V.1985
ヒョト'リハ'ナ 波賀町道谷 15.VI.1985
ヒヤクニ'チソウ 太子町太田 14.X.1980 (H)
[マメ科]
シロツメクサ 太子町大石中 5.V.1999 (H)
[サクラソウ科]
オオトラ'オ 波賀町道谷 15.VI.1985
[ユリ科]
ネギ' (H)
獣糞 一宮町小原 16.V.1985

ホソバセセリ

[キク科]
ヒメジ'ヨオン 西区寺谷 14.VI.2000
[シソ科]
ウツボ'ク'サ 山東町宝山の西 8.VI.1995

キマダラセセリ

[クマツヅラ科]
ランタ' 中央区諏訪山公園 6.X.2000
[ブナ科]
クリ 川西市黒川 13.VI.1996 (33)
[ユキノシタ科]
ウツギ' (41)
[マメ科]
シロツメクサ 西区岩岡 7.VI.1985
マルハ'ハギ' 三木市 ー.VI.1978 (8)
[サクラソウ科]
オオトラ'オ 西区寺谷 26.V.2000
[キク科]
ヒメジ'ヨオン 西区寺谷 18.V.2000
ハルジ'ヨオン 市川町上牛尾 20.V.1999 (H)
[オミナエシ科]
オトコシ 浜坂町城山 28.VI.1993 (36)
[カタバミ科]
カタハ'ミ 西区寺谷 1.X.2000
[キツネノマゴ科]
キツネ'ノマゴ' 西区寺谷 1.X.2000
[シソ科]
ブルー'サル'ビ'ア 中央区諏訪山公園 6.X.2000
[イソマツ科]
スター'チス 明石市 1950年代 (Y)

オオチャバナセセリ

- [ユキノシタ科]
ノリウキ 関宮町鉢高原 - .Ⅷ.1979 (Y)
- [フジウツギ科]
フジウツギ 中央区再度山 17.K.1999
- [サクラソウ科]
オオトラノオ 加古川市氷室 1.Ⅶ.1984
- [キク科]
ノリウキ 加古川市大沢 30.Ⅶ.1985
ノリウキ 大屋町杉が沢 4.Ⅶ.1987
- [ツルナ科]
マツナギク 明石市 - .Ⅶ.1985 (Y)

ミヤマチャバナセセリ

- [キク科]
ノリウキ 姫路市才 13.Ⅶ.1981 (H)
- [サクラソウ科]
ヒヨトリハナ 養父郡 1994-96 (37)
- [アオイ科]
オオトラノオ 養父郡 1994-96 (37)
- [ユリ科]
オニユリ 山崎町与位 8.Ⅷ.1985

チャバナセセリ

- [クマツヅラ科]
ランタナ<セ>・橙> 中央区諏訪山 2.X.1993
ランタナ<白> 中央区諏訪山公園 20.K.2000
ハ・ハ・ナ 西区岩岡町 12.K.1999
ハモウ 西淡町慶野松原 16.Ⅷ.1987
- [スイカズラ科]
ア・リ 中央区諏訪山 5.X.1995
- [ユキノシタ科]
ウツギ 西区寺谷 4.Ⅶ.2000
- [キク科]
シオン 西区岩岡町 20.Ⅶ.1985
セイトウワダチソウ 加古川市北在家 3.XI.1985 (32)
- カイガラキ<黄>・セ・ソ 西区岩岡町 4.XI.1985
- マリ・ゴ・ルト 香住町今後浦 5.X.1988
- セイトウワダチソウ 西区岩岡町 14.XI.1999
- ノキ・リソウ 西区岩岡町 4.XI.1999
- ヒョクニソウ 西区岩岡町 23.Ⅷ.1999
- [オミナエシ科]
オミナエシ 西区岩岡町 25.Ⅶ.1999
- [マメ科]
ムササギメクサ 津名町志筑 14.Ⅶ.1985
ハキ (41)
- [ナデシコ科]
ナデシコ 西区岩岡町 13.X.1985
ハナナデシコ 西淡町慶野松原 16.Ⅷ.1987
- [シソ科]
ブルーサルビア 中央区諏訪山 6.XI.1995
オトケナギ 西区岩岡町 14.XI.1999
- [イソマツ科]
スターチス 西区岩岡町 21.XI.1999
- [ヒユ科]
センニチソウ 三木市三木山 - .X.1997
ケイトウ 西区寺谷 26.Ⅷ.2000
- [タデ科]
マコノシリヌギイ 宝塚武田尾 9.K.1998
ソハ 三日月町広山 19.X.1997 (24)
- [ヒルガオ科]
ヒルガオ 西区岩岡町 18.Ⅷ.1999

[キツネノマゴ科]

- キツネノマゴ 西区寺谷 2.K.2000
- [アカバナ科]
オオマヨイグサ 西区岩岡町 8.K.2000
- [ユリ科]
ニラ 西区岩岡町 8.K.1985

イチモンジセセリ

- [バラ科]
ハ・ラ<赤> 高砂市美保理 1973-74 (7)
スモ 大河内町川上 4.V.1980 (H)
- [クマツヅラ科]
ランタナ<セ>・橙> 中央区諏訪山 2.X.1993
ランタナ<白> 中央区諏訪山公園 20.K.2000
コハ・ランタナ<セ>・ソ> 中央区諏訪山公園 19.K.2000
ハ・ハ・ナ 西区岩岡町 12.K.1999
- [フジウツギ科]
フジウツギ 北区森林植物園 10.K.2000
- [アオイ科]
ムクゲ<セ>・ソ> 加西市古法華 3.K.1985
- [スイカズラ科]
ア・リ 西区岩岡町 12.Ⅷ.1998
- [ユキノシタ科]
ウツギ 西区寺谷 4.Ⅶ.2000
- [モクセイ科]
オオハナ 尼崎市大庄西町 20.Ⅷ.1950 (3)
- [キョウチクトウ科]
キョウチクトウ<赤> 高砂市美保理 1973-74 (7)
- [ミカン科]
キンカン<白> 高砂市美保理 1973-74 (7)
- [ミソハギ科]
ミソハギ 北区森林植物園 10.K.2000
サルス・リ<赤> 西区岩岡町 29.Ⅶ.1985
- [キク科]
ノリウキ 山崎町小河内 19.V.1985
シオン 西区岩岡町 24.Ⅷ.1985
ヒメシ・シオン 西区岩岡町 24.Ⅷ.1985
キク<黄> 西区岩岡町 24.Ⅷ.1985
ヨメ 西区岩岡町 1.K.1985
ヒョクニソウ<橙> 上郡町宇野山 16.K.1985
セイトウワダチソウ 西区岩岡町 20.X.1985
キク<黄>・白> 西区岩岡町 4.XI.1985
ヒョトリハナ 大屋町杉が沢 12.K.1986
ノリウキ 大屋町杉が沢 12.K.1986
ノ・ハ・キ 津名町志筑 18.Ⅷ.1987
ヒョクニソウ 西区岩岡町 23.Ⅷ.1999
コウヤク・ウキ 芦屋市奥山 30.K.1999
ア・リ・セ・ソ・ソ・ソ 西区岩岡町 24.K.2000
ヒマワリ<黄> 高砂市美保理 1973-74 (7)
マンジ・キク 高砂市美保理 1973-74 (7)
- [アブラナ科]
イヌガラシ 西区岩岡町 11.Ⅷ.1985
- [マメ科]
ア・キ 上郡町赤松 16.K.1985
ア・キ 西区寺谷 17.K.2000
- [ナデシコ科]
ナデシコ 西区岩岡町 8.K.1985
- [イソマツ科]
スターチス 西区岩岡町 8.K.1985
- [キツネノマゴ科]
キツネノマゴ 上郡町赤松 16.K.1985
- [ヒユ科]
センニチソウ 三木市三木山 - .X.1997

- ケイトウ 西区寺谷 26.Ⅷ.2000
 [タデ科] マコノシリヌグイ 上郡町赤松 16.Ⅹ.1985
 [ヒルガオ科] ヒルガオヒソカ 西区岩岡町 21.Ⅷ.1985
 [アカバナ科] ヒシ 西区岩岡町 1.Ⅹ.1985
 オオマツヨクサ 西区岩岡 2.Ⅹ.2000
 [キキョウ科] ツリカネニンジン 福崎町田口 26.Ⅷ.1990
 [ウリ科] ハチマ 尼崎市大庄西町 20.Ⅷ.1950 (3)
 [ツリフネ科] オウゴンヒソカ 高砂市美保理 1973-74 (7)
 [ナス科] ハチマ 高砂市美保理 1973-74 (7)
 [ユリ科] ニラ 上郡町赤松 16.Ⅹ.1985
 <参考文献>
 (1) 新家 勝(1982) 宝塚市内におけるナガサキアゲハ春型の採集報告 きべりはむし10(2):22
 (2) 蜂谷幸雄(1988) カラスザンショウに吸蜜に訪れた蝶について きべりはむし16(2):50
 (3) 新家 勝(1990) 尼崎西南部の昆虫 きべりはむし18(1):5-7
 (4) 小坂利明(1994) 猪名川流域の蝶 詩画工房・大阪
 (5) 仲田元亮(1982) 能勢の昆虫 自刊
 (6) 広畑政巳(1996) 兵庫県のスジボソヤマキチョウ きべりはむし24(1):14-17
 (7) 森田真澄(1975) イチモンジセセリの小観察 きべりはむし3(2):20-23
 (8) 小倉 滋・高橋久夫(1978) 三木市内の蝶について きべりはむし6(1/2):8-16
 (9) 三木 進(1979) 六甲山系の蝶 きべりはむし7(1):2-7
 (10) 田中 梓(1981) こうべ自然誌 のじぎく文庫・神戸
 (11) 神戸新聞社(1992) 兵庫昆虫ウォッチングのじぎく文庫 神戸
 (12) 勝屋 潤(1984) 鳴呼舞子ビラーシルビアシジミの産地消滅 きべりはむし12(1):31
 (13) 西 隆広(1988) 芦屋市内におけるクロコノマチョウの採集例 きべりはむし16(1):8-9
 (14) 田中 稔(1989) 西宮市でナガサキアゲハを採集 きべりはむし17(1):8
 (15) 新家 勝(1992) 街に住みついたツマグロヒョウモン きべりはむし20(1):19-24
 (16) 加藤信一郎(1992) 宝塚市清荒神のチョウ(追報8) きべりはむし20(1):25
 (17) 山口福男(1995) 諏訪山公園の蝶 きべりはむし23(1):22-26

- (18) 広畑政巳(1980) 兵庫県における蝶5種の新産地 てんとうむし(6):30
 (19) 木村三郎(1981) 兵庫県におけるキチョウについて てんとうむし(7):15-19
 (20) 唐土洋一(1982) 西播のミヤマカラスアゲハ採集例 てんとうむし(8):49
 (21) 西 隆広(1984) 芦屋市の蝶 てんとうむし(9):28-38
 (22) 広畑政巳(1987) アブラムシの分泌物を吸う蝶2例 てんとうむし(10):38
 (23) 唐土洋一(1997) イシガケチョウの記録 てんとうむし(11):81
 (24) 唐土洋一(1998) ソバの花にきたチョウ てんとうむし(12):66
 (25) 尾崎 勇(1979) 兵庫県ギフチョウ ひろおび(4):26-34
 (26) 広畑政巳・近藤伸一(1989) 春季におけるモンシロチョウ属2種の生態 ひろおび(8):11-13
 (27) 広畑政巳(1989) 兵庫県の蝶雑記(2) ひろおび(8):14
 (28) 永幡嘉之・芝 直幸(1992) ウスイロコノマチョウを追って 因幡のむし(27):7-16
 (29) 永幡嘉之(1989) 三木市のヒョウモンチョウ類 釜城生物 2:7-16
 (30) 永幡嘉之(1990) 三木市のヒョウモンチョウ類(2) 釜城生物 3:2-15
 (31) 近藤伸一(1984) 兵庫県におけるヒメアカタテハについて ひろおび(7):1-14
 (32) 近藤伸一(1987) 初冬の蝶の1日 てんとうむし(10):65
 (33) 福原 整ほか(1997) 黒川の昆虫
 (34) 山本一幸(1996) 竹野町の海岸で目撃されたアサギマダラ IRATSUME(20):36
 (35) 永幡嘉之(1994) 浜坂町久斗山のゼフィルス の記録 IRATSUME(18):43
 (36) 永幡嘉之(1994) 浜坂町城山、初秋の蝶 IRATSUME(18):44-45
 (37) 大東康人(1997) 兵庫県の蝶・観察と知見 (1) IRATSUME(21):34-38
 (38) 大阪昆虫同好会(1989) 北摂の蝶
 (39) 堀田 久(1999) クロコノマチョウの吸汁について PARNASSIUS(48):17
 (40) 永幡嘉之(1994) 但馬の蝶6題 IRATSUME(18):1-4
 (41) 加藤昌宏・武衛晴雄(1981) 神戸の蝶 神戸市立教育研究所 (KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

めざせ50種！兵庫のゲンゴロウ

八木 剛

あまり知られていないが、兵庫県は、わが国屈指の「ゲンゴロウ県」である。森・北山(1993)によると、兵庫県からは45種のゲンゴロウ類(ムカシゲンゴロウ科、コツブゲンゴロウ科、ゲンゴロウ科)が記録されており、北海道の51種に次いで、全国2番目の種数となっている。県土が広いから当たり前といえはそれまでだが、地下水性の2種がいずれも記録されていること、青野ヶ原に小型稀少種が集中して分布していることなど、他県にはない条件に恵まれていることも事実である。その一方で、流水性種の記録が少ないなど、まだ全容の解明に至っていないことをうかがわせる。

その後、高橋(1997)は、過去の文献によるゲンゴロウ類の記録を整理した。それによると、ゴマダラチビゲンゴロウの古い記録が追加され、兵庫県のゲンゴロウ類は46種となった。その一方で、過去数十年間に一度も記録のない種が多いことも明らかとなった。本稿では、今までに記録のない2種をあらたに追加するとともに、今後再確認の必要がある種、発見の可能性のある種をピックアップし、生息環境の情報を付して会員諸兄の注意を喚起したいと思う。

1. 新たに追加または再確認された種

いずれも渓流性か、それに近い性質を持つ種である。これらを加えると兵庫県のゲンゴロウは48種となる。標本はすべて兵庫県立人と自然の博物館に保管されている。

ゴマダラチビゲンゴロウ *Neonectes natrix* (図1)

[採集記録]

青垣町西芦田加古川 alt.120m 135° 01' E, 35°

14' N, 2000.VI.23, 38exs. 八木 剛採集

流水性の小型種(2.9–3.7mm)。顕著な斑紋により見誤ることはない。水上郡佐治で古い記録がある(山本,1958)ことが高橋(1995)で紹介されているが、その後記録がなかった。今回見つかった産地は、トンボ類の採集地として有名な「ゆりやま橋」付近の加古川(佐治川)本流である。伏流水のしみ出し口や本流脇の水たまりの隙間に多数生息し、モンキマメゲンゴロウと共存していた。採集してみればわかるが、

本種は通常の水生昆虫の調査法ではまずみかからない。礫をそっとひっくり返し水底を歩いている個体を発見して丹念に採集するか、砂礫を虫がつぶれるくらい激しくかき混ぜて目の細かい網ですばやくすいとる必要がある。丹波の伏流河川に固有のものか、広く分布するものなのか、要注目である。

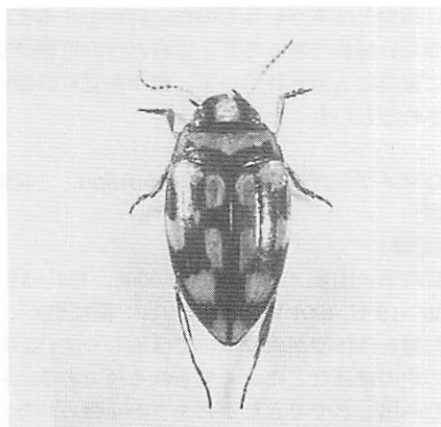


図1 ゴマダラチビゲンゴロウ
青垣町西芦田産 ♂

サワダマメゲンゴロウ *Platambus sawadai* (兵庫県初記録)

[採集記録]

温泉町扇ノ山 1992.V.? 標高等不明 3exs.

八木 剛採集

波賀町引原ダム(灯火) alt.480m 134° 33' E, 35°

14' N, 1998.VI.30. 2exs. 八木 剛採集

モンキマメゲンゴロウの無紋タイプに似るが、全体にざらついた感じがするので慣れれば同定は容易。大岩が連続するような溪流脇の水たまりなど、ゲンゴロウ類の中では最も上流部に現れる種である。しかし、生息しているのは流れがないか緩やかなたまり部である。扇ノ山では、水流のほとんどない源流部の、落ち葉のつもったたまりで得られ、引原ダムの灯火では、多数のモンキマメゲンゴロウ、オナガミズスマシと同時に得られた。各地に分布しているものと思われるが、平野部や浅い山地にはまず見られないだろう。

(余談であるが、扇ノ山のデータはメモを紛失したため不明だ。あるべからずの失態ではあるが、虫屋の認知パターンを考察する上でよい材料なので、私の記憶を紹介しよう。この3個体は、私が大学院の2年のとき、神戸大学の内藤親彦教授と私の一級下の学生のシダハバチ幼虫のサンプリングに同行した際に得たものである。しかし、どうしても地図上での場所が思い出せない。憶えているのは、同行者、周辺の環境、同日タニウツギの花でフタスジカタビロハナカミキリを採集したことだけである。主体性のない採集とはそういうものだ。いいかえると、主体性のない採集であっても、これだけの情報は私の記憶に確実に入力されていて、標本を見れば即座に検索されるということである。)

コクロマメゲンゴロウ *Agabus insolitus* (兵庫県初記録)

[採集記録]

波賀町氷ノ山坂ノ谷林道 alt.1,000m 134° 31' E, 35° 19' N, 1991.VII.5 4exs. 八木 剛採集

近似種とは体型が異なるので区別しやすい。高層湿原の中の細流などによく見られる種である。林道脇のしみ出し水でできた水たまりから得られた。クロマメゲンゴロウかホソクロマメゲンゴロウと共存していることが多いが、本種の方が流れのある部分を好むようである。ていねいに探せば各地で発見されることと思う。

2. 文献記録あるいは古い記録のみで再確認の必要がある種

コセスジゲンゴロウ *Copelatus parallelus*

原産地が「Settsu」だから、兵庫県にも○がついているのだろう。大阪府淀川河川敷での洪水採集(大雨の後の河川敷のゴミあさり)で得られたというから、円山川や加古川が狙い目だろう。見つければ快挙である。

テラニシセスジゲンゴロウ *Copelatus teranishii*

セスジゲンゴロウ属は、いずれもパイオニア的性質が強く、河川敷の水たまりなど不安定な環境が狙い目である。しかし、普通種のホソセスジゲンゴロウを除くと、嗜好する環境の幅が狭いようで、私も未だ本種の生息環境を確実にイメージできない。本種はセスジゲンゴロウやカンムリセスジに酷

似しており、ゲンタリヤで区別する。とりあえずそれらを採り貯めておき、標本を詳しく調べるしかないだろう。

キベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus*

流水性の種である。モンキマメゲンゴロウとは、体型や斑紋で容易に区別できる。モンキマメやゴマダラチビゲンゴロウよりも下流側が主な生息環境らしいが、私はいまだかつて姿を見たことがない。武庫川、猪名川、氷上で古い記録がある(高橋,1997)。近隣県でも文献記録が多いようで、ひょっとするとカワラバタのようにいつのまにか姿を消している種なのかもしれない。要注目である。

スジゲンゴロウ *Hydaticus satoi*

全国的に近年の記録がほとんどなく、絶滅が心配されている。平地の止水域を主たる生息地とする種であると思われるが、過去の情報からは特殊な環境に生息しているというわけではなく、手がかりがないのが現状だ。

マダラシマゲンゴロウ *Hydaticus thermocctoides*

本種も全国的に絶滅が心配される種である。ジュンサイやヒツジグサの生える、貧栄養なため池、湧水の豊富な休耕田に生息する。本種のいそうな環境はあちこちにあるのだが、稀な種である。貧栄養な池や休耕田で、コシマゲンゴロウが一すくいでも何匹も入るような状況ならば要注意。サイズや動作がそっくりなので見落としがちだが、腹面が濃色なので、あれっ?と思ったらよく見てみるべきだ。

マルコガタノゲンゴロウ *Cybister lewisianus*

コガタノゲンゴロウ *Cybister tripunctatus*

スジゲンゴロウ同様、この両種はほぼ絶望的である。

3. 未記録だが今後発見の可能性のある種

次の5種は、発見される可能性を持っているが、どの種も手強い。なお、近年、クワガタほどではないが、ゲンゴロウの飼育も趣味として拡がりつつある。それ自体はけっこうなことであるが、「カゴヌケ」が多発する前に、今現在の分布をきちんとおさえておきたいところだ(特にオオイチモンジシマ、シャープゲンゴロウモドキ)。

ナガマルチビゲンゴロウ *Leiodytes kyushuensis*

岡山県犬島と九州で記録されたかなりの珍品。止水性の小型種である(1.7–1.9mm)。私は本種の採集経験がないのでよくわからないが、一般に小型種が多い場所というのは不思議なもので、かたまっている種が見られるものである。ツブゲンゴロウの類がやたら多かったりマルケシの類が見つければ、要注意で、攻め方を変えるべきだ。通常の水アミではもれてしまうので、水草ごとすくい上げ、車のボンネットやブルーシートの上にぶちまけて丹念に探すことが必要である。岡山の犬島は瀬戸内海の島なので、家島や淡路が狙い目か。

シマケシゲンゴロウ *Coelambus chinensis*

三重県から九州までの間、分布が空白となっている。関東地方では平地にも生息しており、環境がどうのということではなさそうだ。私の採集経験では、いずれも海岸に近い平野部のやや富栄養な池や沼で、トンボが多く見られそうな環境である。本来は「砂丘モノ」(砂地の池を好む種)なのかもしれない。

キボシツブゲンゴロウ *Japanolaccophilus nipponensis*

渓流性の種である。森・北山(1993)を引用すると、高知県黒尊川の例では「かなり上流部で、5月上旬、本流の岩の影でやや流れの緩やかな木の枝や落葉などがたまった所や岩に生えたコケの間など」だそうである。本人らも本種の採集にはかなり苦労したらしい。渓流を丹念に探すしかなさそうだ。見つかる可能性はあると思う。

オオイチモンジシマゲンゴロウ *Hydaticus conspersus*

シマゲンゴロウより一回り大きく(16–17mm)、独特の斑紋があるのでまちがえることはない。生息環境は、湧水に涵養されていて、落葉や枯れ枝が蓄積した林内の薄暗い池、である。水生植物はほとんどないことが多い。だから、スギ林内の水たまりでよく得られている。スギは水分条件のよいところに植栽されているからだろう。本種のいそうな水たまりはあちこちにある。そのたびに網を入れるのだが、たいていはマメゲンゴロウかアメリカザリガニしか入らない。しかし、あきらめてはいけない。きっといるはずだ。灯火で得られることもある。京都府、滋賀県で最近の記録がある。

シャープゲンゴロウモドキ *Dytiscus sharpi*

ゲンゴロウより小型で、脚が長く、体腹面は黒色である。メスの上翅には爪で引っ掻いたような溝がある。滋賀県、京都府、山口県でも得られており、兵庫県の威信にかけてぜひとも発見すべき種である。なぜなら、本種の生息地はトキやコウノトリの生息地とよく一致しているからだ。ということは、狙いは豊岡盆地しかないだろう。しかし、私の乏しい調査経験からして、当地は圃場整備が進みすぎ、加えて「ザリガニ帝国」と化している。昔ながらの田んぼが谷一つでも残っておれば可能性はあると思うが、どうだろうか。「コウノトリの郷公園」は、地形的には私の知る生息環境のイメージに近い。

本種は、普通のゲンゴロウ採集の感覚ではまず得られない。丘陵地の休耕田や未整備の水田の水路の、コナギやヒルムシロ、カンガレイなどが生えた泥深いところに生息しており、他のゲンゴロウ同様夜行性で昼間は泥にもぐっている。だから表面をなでるような優しい採集ではダメである。植物を踏み倒し、泥をグチャグチャかき混ぜる。しばらくすると、ヌタ場と化した水面に、ガムシやコオイムシに混じってポコリ浮いてくる。ゲンゴロウ(タダゲン)と混棲することは稀である。

<参考文献>

- 森 正人・北山 昭(1993) 図説日本のゲンゴロウ 文一総合出版 217pp.
高橋寿郎(1995) 兵庫県の水棲甲虫に関する文献目録(1) きべりはむし23(2),p.1–9.
高橋寿郎(1997) 兵庫県産水棲甲虫目録(1) きべりはむし25(1),p.2–10.

(YAGI TSUYOSHI 三田市弥生が丘6

兵庫県立人と自然の博物館系統分類研究部)

兵庫県のクワガタムシ(2)

故高橋寿郎氏遺稿集No. 8

兵庫昆虫同好会事務局編

Genus *Prismognathus* Motschulsky, 1860

9. *Prismognathus angularis* Waterhouse, 1874

オニクワガタ

本種は Waterhouse により G. Lewis の採集した 1♀で新種記載された (Ent. Monthly Mag., XI: 6, 1874).

黒沢良彦博士は、産地を Kawachi としているが (1976), 原記載には産地は記入されておらず Japan とのみ記されている。

北海道には多くいる種である。本州、四国、九州ではやや山地性のようで、そうたくさんいる種ではなさそうである。

1975年、黒沢良彦博士は屋久島から新種ヤクシマオニクワガタ *Prismognathus tokui* Y. Kurosawa, 同時に宮崎県青井岳、北九州の長崎県雲仙岳、福岡県英彦山などの高所に分布するオニクワガタの新亜種

P. angularis morimotoi Y. Kurosawa を記載した (Mem. Nat. Sci. Mus. No. 8: 154-160, pl. 15).

1994年、水沼哲郎・永井信二は「世界のクワガタムシ大図鑑」(p. 237-238)において、*P. tokui* Y. Kurosawa は *P. angularis* の亜種に取り扱うのがよいとした。

本種はブナの朽木の中に生活するようで、その幼虫、蛹については林 長閑博士の報告がある (ニューエントモロジスト Vol. 9, No. 1/2, p. 32-34, pl., 1960). 同じ属の *P. subaeneus* (シベリアから北朝鮮に分布) は Medvedev, S. I. の記載がある (Fauna USSR, 47: 44-45, 1952).

兵庫県では北部ブナ帯に分布しているようであるが、川西市の妙見山でも採集されている。六甲山にもブナがあるので、あるいはそのあたりに棲息しているかもしれない。

産地。

川西市妙見山 [田中, 1987]

城崎郡香住町三川山山頂付近 [加野, 1983]

養父郡氷ノ山 [高橋, 1959, 1981]

美方郡扇ノ山 [辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981, 但馬むしの会, 1984, 谷角, 1985, 1988, 足立, 1986]

Genus *Prosopocoilus* Hope et Westwood, 1845

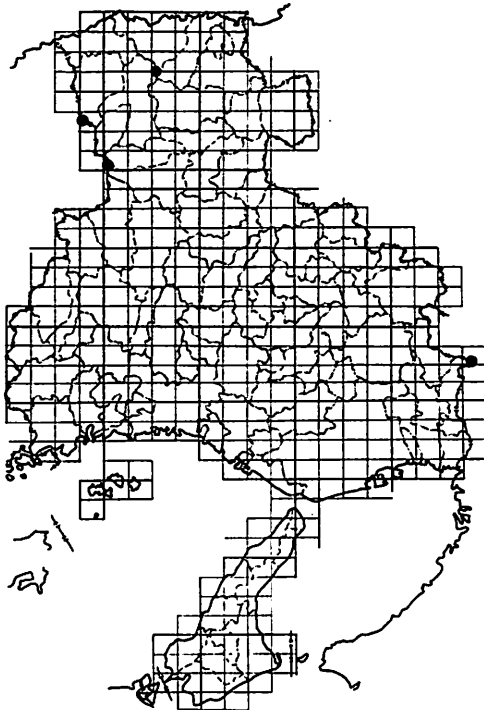
10. *Prosopocoilus inclinatus* (Motschulsky, 1857)

ノコギリクワガタ

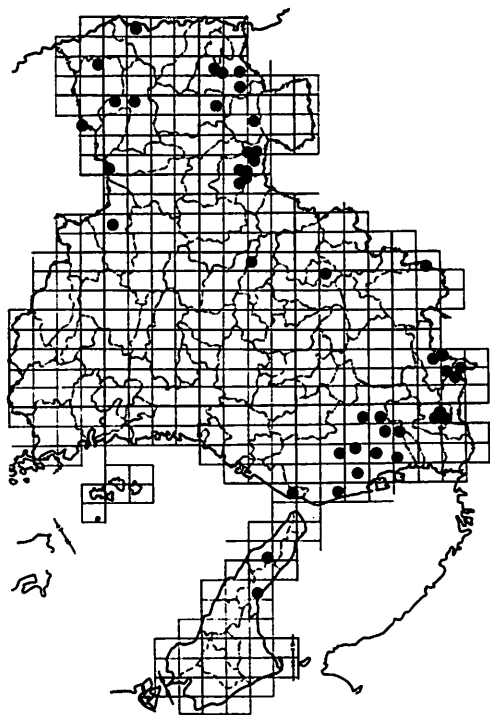
本種は Motschulsky によって下田産の標本で *Lucanus* (*Hexarthrus*?) 属で記載されたものである (Etud. Ent., XL, p. 29, f. 11, 1957). このタイプ標本は中根猛彦博士が1971年モスコウ大学動物学博物館で検している。タイプ標本は♂であるが、体の前部がなかったと記している (1972). Motschulsky は 1862, 1865年に *Psolidognathus* 属の種として扱っている (I. C., p. 55, 1862., I. C., p. 13, 1866).

現在、属名は Hope et Westwood が *Lucanus caviformis* Hope et Westwood, 1845 をタイプとして創設した *Prosopocoilus* 属 (Cat. Lucan. Coleop., p. 4, 1845) の種として扱われている。

本種は大腿の変化が割合あるので、学名についてもいろいろ混乱があったのではと思っていたが、意



兵庫県におけるオニクワガタの分布



兵庫県におけるノギリクワガタの分布

外と問題はないようである。

Harold が *var. inflexus* として記録したもの (Abh. Naturw. Ver. Bremen, IV, p.288, 1875), Thomson が *Cladognathus mandibularis* としたもの (Ann. Soc. Ent. Fr. II(4) : 417, 1862), さらに Lewis が *Cladognathus* 属のものとして取り扱ったもの (Trans. ent. Soc. London, p.33, 1883) は、いずれも本種のことである。

本種の幼虫ならびに生活史については、断片的ではあるが林 (1956), 越智 (1968), 西山 (1971) の報文がある。クヌギ, ニレ, コナラ, ヤナギ等に来る。時に落葉下に隠れているものもあり、灯火に来ることもある。県下には広く分布していて、個体数も多いようである。神戸市内あたりではミヤマクワガタより多いように思われる。ただし、多いとっても全般的にはその数を減少しつつあるように思われる。開発などでその生活の場が失われつつある傾向にある。産地。

津名郡志筑 [堀田, 1973], 常陸寺山 [堀田, 1973, 1976]

川辺郡猪名川町木間生, 日生タウン [仲田, 1978,

1982], 三草山 (1♀, 5.VII.1980) [水沼, 1991]

川西市笹部, 見野, 山東, 大和, 横地 [仲田, 1978, 1982]

伊丹市荒牧 [河上, 1984]

宝塚市南口2丁目 [新家, 1988], 売布が丘生明町 [田中, 1992]

神戸市御影 [関, 1933, 後藤, 1940], 摩耶山 [増田, 橋本, 1938], 六甲山 (1♂, 15.VII.1956), 逢山峡 (4♂ 3♀, 1.VII.1986), 鳥原 (3♂, 18.VII.1971, etc.), 山の街 (2♂, 27.VII.1957, etc.), 藍那 (1ex., 28.VII.1993), 五社 (1♀, 8.VII.1959), 八多町屏風 (1♂ 2♀, 22.VII.1953), 須磨 [戸澤, 1936]

明石市明石公園 (1♂ 1♀, 15.VI.1978, etc.)

多可郡千ヶ峰 [西脇, 1965]

宍粟郡音水 (1♂, 20.VII.1969)

氷上郡 [山本, 1958]

多紀郡雨石山 [Hayashi etc., 1955]

朝来郡和田山町牧岡, 土田, 和田, 法興寺, 柳原, 竹ノ内, 内海, 比治 [谷角, 1988]

出石郡出石町川原, 桐野 [高橋, 1963, 1975, 1981]

豊岡市福田 [高橋, 1975, 1981], 三開山, 弥栄町, 大師山, 下陰, 中陰 [谷角, 1988]

城崎郡日高町上ノ郷 [谷角, 1988]

養父郡水ノ山 (2♂, 27.VII.1958)

美方郡扇ノ山 [辻, 1963., 辻・岸田, 1972, 谷角, 1975, 岡島・山口, 1938, 谷角, 1988], 村岡町入江, 浜坂町鎧, 村岡町祖岡, 温泉町井上 [谷角, 1988]

Genus *Aegus* Macleay, 1819

11. *Aegus laevicollis subnitidus* Waterhouse, 1873

ネプトクワガタ

Aegus 属は1819年 MacLeay によって創設された属で、模式種は *Aegus chelifera* MacLeay である。同属に含まれる種の多くは、東洋区、オーストラリア区に広く分布し、一部が旧北区に及んでいる。日本の本州に分布しているこの種は *Aegus* 属の北限種である。本種は Waterhouse によって G. Lewis が日本から持って帰ったいくらかの標本によって命名された (産地の記入はない。Ent. Monthl. Mag., IX, p.277, 1873)。

なお、記載には「*formosae* に酷似すれど、点刻がより少なく、大腿は円筒形を呈し、基部の小歯は次第に細まらずして急に鋭く突出する。♀においては *laevicollis* とははっきりした区別点は見られない」と記している。三輪勇一郎博士は支那原産の *A. laevi-*

collis Saunders(1854)の forma として取り扱った(台湾博物学会々報第23巻, 128/129号, p.367-368, 1933). 現在は亜種として取り扱われている。同時に三輪勇一郎博士は *formosae* も *laevicollis* の forma としているが, こちらは現在独立種として取り扱われている。また, ともに八重山諸島石垣島にヤエヤマネブトクワガタ subsp. *ishigakiensis* Nomura が野村 鎮によって記載されている(Toho Gakuho, No.10 : 43, 1960)。

1928年には Didier が奄美大島から亜種アマミネブトクワガタ subsp. *taurulus* を記載した(Lucanid du Globe, I, p.55)。

1976年, 市川敏之・今西 修は, 沖縄本島, 沖永良部島, トカラ列島, 伊豆諸島から4新亜種を記載した。トカラネブトクワガタ subsp. *abei* (Elytra, Vol.3, No.1/2 : 10-11, pl.1,2), ハチジョウネブトクワガタ subsp. *fujitai* (1.C., p.10,12, pl.1,2), オキナワネブトクワガタ subsp. *nakanei* (1.C., p.9,10, pl.1,2), エラブネブトクワガタ subsp. *tamanukii* (1.C., p.10-11, pl.1,2)。

さらに1985年, 市川敏之・藤田 宏は与那国島産亜種ヨナグニネブトクワガタ subsp. *mizunumai* を記載した(Gekkan Mushi, No.170, p.9,11, pl.1,2)。このように南方の島ごとに亜種が記載されている。

また, 日本産の本属には小笠原諸島母島に *A. ogasawarensis* Okajima et Kobayashi, 1975がいる。

本種ははじめに記したように南方系の種であり, 兵庫県では北摂地域に多産することが古くから知られていたが, 最近の開発によって数が少なくなっているようである。

県下の北部方面での産はあまり知られていない。最近三木市でも見つかったというし, 佐用郡あたりにも記録があるので, 少ないながらも県の中央部から南側には広く分布していると思われる。ただし, 全体的には個体数は減少しつつあるようである。

産地。

三原郡沼島[楠井, 1992]

洲本市先山[堀田, 1959, 1978]

川辺郡猪名川町上阿古谷, 内馬場[仲田, 1978, 五十嵐, 1987]

川西市一の鳥居(2♂2♀, 27.VI.1952, etc.), [岡田, 1974], 笹部(3♂1♀, 21.VII.1959, Tsukaguchi

leg.), 笹部, 見野, 大和, 芋生[仲田, 1978, 1982], 笹部, 岩根山, 若宮[五十嵐, 1987]

宝塚市売布神社[田中, 1992]

西宮市仁川百合野町[田中, 1987]

神戸市西区神出町, 太山寺[田中, 1987]

三木市朝日丘(1♂, 16.VI.1980, S.Ogura leg., 高橋, 1981)

小野市山田町(3♂, 17.IX.1987)

佐用郡瑠璃寺[1♂, 19.VIII.1954, 奥谷]

多紀郡篠山(現篠山市)[1♂, XI.1952, 奥谷]

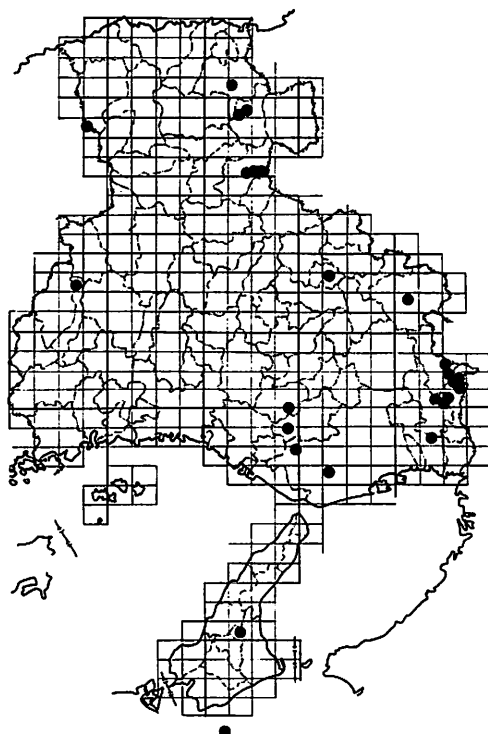
水上郡[山本, 1958]

出石郡出石町鳥居, 荒木[高橋, 1963, 1981]

朝来郡和田山町岡田, 宮[山崎, 1987, 谷角, 1988], 柳原, 桑原[谷角, 1988]

豊岡市枋岡[高橋, 1976, 1981], 妙楽寺[前平, 1987, 谷角, 1988]

美方郡扇ノ山[辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981]



兵庫県におけるネブトクワガタの分布

Genus *Dorcus* Macleay, 1819

12. *Dorcus curvidens binodulosus* Waterhouse, 1874 オオクワガタ

オオクワガタは, 茶の産地調査のため中国大陸を旅行した Fortune が採集した標本によって E. Saunders が1854年 *Platyprosopus* 属の種として記録(原産地, 上海[Shanghai], Trans. ent. Soc. Lond., III,

p.58,1854)したのが最初である。日本からは Harold が *Dorcus hopei* として記録した(Abhandl. Naturw. ver. Bremen, IV, p.287, 1985)。Lewis も同じ学名で Kobe, Kyoto, Sendai を産地として記録した(Trans. ent. Soc. London, p.338, 1883)。

日本人による一番古い記録は、松村松年博士が北海道から記録したものになるかと思われる(動物学雑誌 Vol.6, No.65, p.84-97, 1906)。ただこの記録は産地やデータが全くなく、単に学名と和名を羅列しただけのものである(*Dorcus Hopei* Saund. クワガタムシとある)。北海道での記録は現在でもあまりはつきりしたものが知られておらず、確実に分布しているかどうかかわからない。

1907年、松村松年博士は「日本千虫図解第3巻(警醒社・東京)」(p.713, 図は1906年の第2巻にある……f.35, ♂, Vol. II, 1906)に説明がある。鈴木元次郎も1923年「通俗昆虫雑誌」に図説している(Vol.1, No.1, p.14, pl.1, f.3)。

三輪勇四郎博士は1927年, "A List of Lucanidae, with description of one new Species (Ins. Mats., II, 1, pp.25-31, 1927)"の中で *Dorcus hopei* で記録している。

1929年、趙 福成は「朝鮮産锹形虫科に就て」(朝鮮博物学会雑誌 XII : 56-60, pl.3, f.11)の中で朝鮮からオホクワガタ(*D. hopei*)を記録している。

1931年、三輪勇四郎博士は「大日本锹形虫科の種の研究(4) (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, XXI, No. 117, pp.315-325, p.362, pl. I, f.1, 2)」において「本邦に広く分布すれど個体数多からず、本種は非常に変異性に富み大小形状の差異著しく、北部印度より支那大陸を経て北方に広範なる分布区域を有す」と述べている。

1933年、加藤正世「分類原色日本昆虫図鑑第8輯・鞘翅目(pl.8, f.4) (厚生閣・東京)」, 平山修次郎「原色千種昆虫図譜(pl.61, f.1, 1933) (三省堂・東京)」, 神谷一男・安立綱光「原色甲虫図譜(pl.50, f.4, 1933) (三省堂・東京)」などともに *D. hopei* で図説されている。

三輪勇四郎・中條道夫両博士著「日本産鞘翅目分類目録 Pars.2, p.7-9, 1936」, 昆虫趣味の会調査「全日本産锹形虫科一覧目録(昆虫界 Vol.5, No.45, p.768, 1937)」, 平山修次郎「原色甲虫図譜(pl.1, f.1, p.1, 1940) (三省堂・東京)」もすべて *D. hopei* で図説、記録されている。このように、戦前はオオクワガタの学名は *D. hopei* のみである。戦後では、1950年中根猛彦博士は「日本昆虫図鑑・改訂版(北隆館・東京)」の中で *D. hopei* で図説(f.3759, p.1303)している。また、中

根猛彦博士は1955年, 「原色日本昆虫図鑑甲虫篇(保育社・大阪)」において *D. hopei* で図説(pl.28, f.600, 601, p.88)している。

1960年の B. Benesh の W. Junk Coleop. Cat. Supplementa Pars.8, Lucanidea においては *Dorcus hopei* Saund, Japan となっている(p.91)。

1960年、野村 鎮は「日本産コガネムシ類目録(Toho Gakuho, No.10, p.39-79)」の中でオオクワガタの学名を *Dorcus curvidens* (Hope) の亜種 ssp. *hopei* (Saunders) とした(p.42)。また、野村 鎮は1963年「原色昆虫大図鑑第2巻(甲虫編)(北隆館・東京)」の中で, *Dorcus curvidens hopei* Saunders で図説している(pl.54, f.1, p.107)。

1975年の林 長閑博士の「学研中高生図鑑 昆虫II (学研・東京)」においては *D. curvidens hopei* で図説されている(p.66, 201)。

1976年、黒沢良彦博士の「日本産甲虫目録 No.1, クワガタムシ科(甲虫談話会・東京)」並びに同博士による「昆虫標本ラベル, 日本産クワガタムシ科(月刊むし No.102, 付録, 1979)」とともに *D. hopei* として収録されている(p.9)。

永井信二の"Coleopterorum Catalogus, World Lucanidae (Mokuyo-sha, Tokyo, 1985)"においては *D. curvidens hopei* で示されている(p.114)。

黒沢良彦博士は1985年「原色日本甲虫図鑑(II) (保育社・大阪)」において *D. hopei* でカラー図説をしている(pl.63, f.1, p.344)。

1986年、市川敏之は「オオクワガタについて(月刊むし No.165, p.4-12)」において種々の検討の結果, *D. curvidens* の亜種 *hopei* (E. Saunders) を使用することを提唱した。

1988年、岡島秀治・山口 勇は「検索入門クワガタムシ(保育社・大阪)」を出版、その中でオオクワガタを *D. hopei* で図説(p.130-132, 146-151)している。

1992年、永井信二による「昆虫標本ラベル: 日本産クワガタムシ(カブト刊)」では *D. curvidens hopei* となっている。

1994年、水沼哲郎・永井信二による「世界のクワガタムシ大図鑑(むし社・東京)」において(p.266), 「日本産の亜種名に関しては永らく中国産(基準産地はおそらく福建省)の亜種名である ssp. *hopei* (Saunders) を使っていたが、本書では日本産を中国産と区別できる個体群とみなして別亜種として扱った。日本産の亜種名は G. Lewis の採集品で記載された *binodulus* Waterhouse を使用した。— *binodulus* の基準産地は日本とだけしか記されていない(Ent.

Monthl. Mag., XI, p. 6, 1874) 』として上記亜種名で示された。

1995年、吉田賢治による「カラー図鑑クワガタムシ・カブトムシ(p. 12, 32. 78. 84. 成美堂出版・東京)」、同じく1996年吉田賢治の「日本産クワガタムシ大図鑑(虫研・埼玉, p. 6, 62, 66-69)」ではいずれも *D. curvidens binodulus* を用いている。1999年の鈴木知之「日本産クワガタラベル81(松香製作所刊)」のものは *D. curvidens* となっている。

オオクワガタの生態については、最近のクワガタムシ飼育ブームに関連してオオクワガタの飼育指導書が多く出版されていて、それを見るとオオクワガタの生態もよくわかる。ここにはそのうちの代表的な文献を紹介しておく。これらにはオオクワガタのみならず、ミヤマクワガタ、ノコギリクワガタ、ヒラタクワガタ、コクワガタ、ヒメオオクワガタの生態についても記されている。

吉田賢治 オオクワガタの世界(虫研出版・埼玉, 1990)

吉田賢治ほか オオクワガタの本(虫研出版・埼玉, 1994)

小島啓史 クワガタムシの飼育のスーパーテクニック(むし社・東京, 1996)

吉田賢治 クワガタムシとカブトムシの飼い方(成美堂・東京, 1998)

吉田賢治 クワガタムシを飼う! オオクワガタ飼育大作戦(成美堂・東京, 1998)

ワイルドブライド オオクワガタの世界(KUWA TA 別冊No. 1・愛知県, 1999)

兵庫県下では本種は特に川西市笹部付近、川辺郡猪名川町での産は広く知られており、現在でも昔のような多産とまでいかなくとも、やはりかなり産する地域である。その他の県下での産は散発的であり、特に北部、西部での産はほとんど知られていない。分布している地域が片寄っているように思われる。全般に減少しつつある種の一つであろう。

産地。

兵庫県[高橋, 1982, 1996, 田中, 1987]。

川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田, 1978, 平山, 1987, 五十嵐, 1987], 仁部[水沼, 1991]。

川西市見野[仲田, 1978], 笹部(3♂, 9.VII. 1961, etc.), [仲田, 1971, 1978, 五十嵐, 1972, 1987, 岡田, 1974, 弘世, 1978, 平山, 1987], 大和, 花折橋付近, 横地, 黒井, 芋生[仲田, 1978, 1982], 多田[芳賀, 1974], 能勢三草山[水沼, 永井, 1994]。

宝塚市切畑[田中, 1992]。

神戸市灘区, 西鈴蘭台[芳賀, 1958], 烏原(1♂1♀, 21.VII. 1938)。

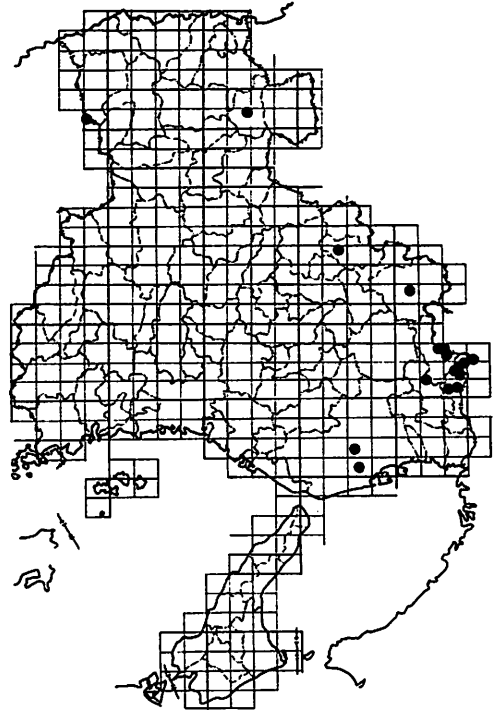
多紀郡篠山町(現篠山市)[鈴木, 1958]。

多可郡西中裏の林[西脇, 1965]。

氷上郡氷上町春日部, 黒井[山本, 1958]。

出石郡出石町松ヶ枝[高橋, 1963, 1981]。

美方郡扇ノ山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981]。



兵庫県におけるオオクワガタの分布

13. *Dorcus montivagus* (Lewis, 1883)

ヒメオオクワガタ

本種は G. Lewis により Chiuzenji, Junsai, Nanae (後の2つは北海道)産6♂8♀で *Macrodercus montivagus* として記載された(Trans. ent. Soc. London, p. 337-338, pl. XIV, f. 2, ♂, 1883)。

1927年、三輪勇四郎博士が北海道より *Eurytrachelus ezoensis* として記載されたもの(Ins. Mats., Vol. 2, No. 1, p. 27)は本種のことである。

三輪勇四郎博士は1933年「大日本鍬形虫科の種の研究(4) (台湾博物学会々報 Vol. 23, No. 128-129, pp. 353-370, pl. 1, f. 3)」の中で、その当時 *montivagus* として取り扱われ、諸種の図鑑に掲載されている種類は総てコクワガタの矮小型であるとして真の「ヒメ

クハガタ」*Dorcus montivagus* Lewis (当時はこの和名が用いられた)を示された。当時の図鑑に図示されたものは次のとおりである。

1933. 平山修次郎 原色千種昆虫図譜(三省堂・東京) pl.61,f.7.

Eurytrachelus montivagus Lewis ヒメクハガタとして「ナミクハガタに似るも小形」とあるが図からすればコクワガタである。

1933. 神谷一男・安立綱光 原色甲虫図譜 pl.48,f.5.

Eurytrachelus montivagus Lewis ヒメクハガタとしてコクワガタが図示されている。

1933. 加藤正世 分類原色日本昆虫図鑑第八輯(厚生閣・東京) pl.3,f.3.

ヒメクハガタ *Eurytrachelus montivagus* Lewis とある。図示されているものから見てコクワガタである。

1937. 平山修次郎 原色千種続昆虫図譜 pl.61,f.6,p.128.

ヒメクハガタは図からすればヒメオオクワガタである。1933年出版で図示されたものはクハガタムシの小形種である。「従来ヒメクハガタと称せしものはナミクハガタの矮小形であり、北海道に産するエゾヒラタクハガタとせられしものはヒメクハガタとすべきことが明らかとなり、学名も上記のごとく訂正せられたり」として *Dorcus montivagus* で図説されたものは立派なヒメオオクワガタの♂の図である。

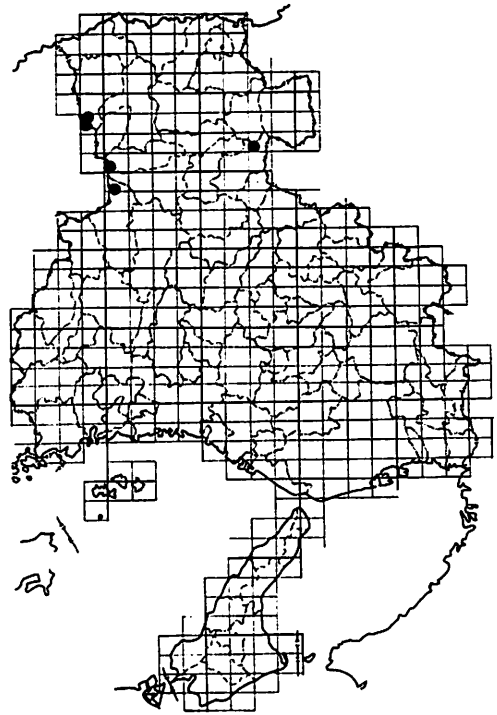
1940. 平山修次郎 原色甲虫図譜(三省堂・東京) pl.17,f.6,p.38.

同上。立派な岩手県産1♂を図示されている。

戦前は *Dorcus montivagus* ヒメクハガタで推移したが、1950年出版の日本昆虫図鑑改訂版において中根猛彦博士は *Dorcus montivagus* にヒメオオクワガタの和名を示した(p.1303)。1955年の原色日本昆虫図鑑甲虫編(保育社・大阪)において中根猛彦博士は *Dorcus montivagus* ヒメオオクワガタとしてカラー図説(pl.28,f.602,603,p.88)し、これ以後ヒメオオクワガタの和名が用いられるようになった。

1960年、野村 鎮・黒沢良彦博士は、*Eurytrachelus rubrofemoratus* アカアシクワガタをタイプに *Nipponodorcus* 属を創設した(Toho Gakuho,No.10,p.41)。その際ヒメオオクワガタもこの *Nipponodorcus* 属の種に取り扱われたが、現在は再び *Dorcus* 属の種として取り扱われている。

日本全土に産するが、九州に産するものは亜種 *subsp.adachii* Fujita et Ichikawa とされる(Gekkan



兵庫県におけるヒメオオクワガタの分布

Mushi,No.193,pp.17-20,1987).

県下においては但馬地方にのみ分布しているようである。扇ノ山あたりでは個体数を多く産した時期があったようであるが、近年の開発で個体数は減少しているのではないと思われる。

産地。

宍粟郡坂の谷[1♀,22.VII.1979,S.Ogura leg.].

朝来郡竹ノ内[谷角,1988].

養父郡氷ノ山(1♀,12.VII.1963,M.Yoshizawa leg, etc.),[高橋,1981,田中,1987,谷角,1988].

美方郡扇ノ山(1♂1♀,T.Takahashi leg.),[辻,1963,辻岸田,1972,高橋,1981,但馬むしの会,1984,谷角,1985,1988,岡島,山口,1988],畑々平[足立,1987,田中,1987].

14. *Dorcus titanus pilifer* (Snellen van Vollenhoven, 1861) ヒラタクワガタ

Siebold が日本で採集した2♂標本で Snellen van Vollenhoven が *Dorcus pilifer* として記載したものである(Tijdschr., Ent.IV, p.112,t.6,f.4,1851)。このタイプ標本はオランダの Leiden 自然史博物館にあり、

中根猛彦博士はその2♂とも写真にとって示された(北九州の昆虫Vol.26, No.1, p.1-2, pl.1, 1979). 原記載に描かれたものはそのうちの大きな方であるとのことである。

茶の産地調査のために支那大陸を旅行した Fortune の採集によるものを材料として Saunder が記載した *Platyprosopus platymelus* を, Harold は Lenz の採集品による甲虫類の報告の中で, *Eurytrachelus platymelus* であるとして Hiogo より記録した(Lenz は神戸在住の商人であるから Lenz の採集したものは Hiogo-神戸産のものであると考えられる)(Abhandl. Nat. Ver. Bremen, IV, p.287, 1875).

Saunder は *P. platymelus* の記載と同時に *Dorcus lateralis*, *D. obscurus*, *D. marginalis* を中国から記載したが, 総て同一種の個体変異と考えられる。

なお, 最初に記載された *lateralis* は *D. lateralis* Dejean, 1837 (= *Serognathus bucephalus* Perty, 1831) に与えられ, 次に記載された *platymelus* がこれらの種を記載する有効名となる(Trans. ent. Soc. Lond., 1ser. III, p.50, t.3, f.7, 1854).

E. platymelus はその後 Heyden が Hiogo から記録しており(Deut. Ent. Zeit., XXIII, p.838, 1879), Lewis は日本から記録した(Trans. ent. Soc. London, p.333, 1883). 同時に Motschulsky が対馬から記録した *Serognathus castanicolor* (Etud. Ent. p.12, ♂, 1861) を本種と同一種に取り扱った(Motschulsky の記録は新属, 新種であり, 現在 *D. titanus* の亜種として取り扱われている)。

1920年, R. Kriesche はスマトラ, ボルネオから知られている *Eurytrachelus titanus* Boisduval, 1835 の地理的変異について論じ, *platymelus* (中南支), *consentaneus* (中北支), *pilifer* (日本) をそれぞれ *titanus* の亜種として *castanicolor* を日本産 *pilifer* の異名とした(Arch. Natargesch., A. LXXXVI, 1920, p.117)。

三輪勇四郎博士は日本, 朝鮮, 琉球, 台湾, 支那, インド産を全て *E. platymelus* に統一し, 亜種の扱いもしていない(台湾博物学会々報Vol.23, No.128, 129, p.356-357, pl.2, f.1-11, 1933)。このように, 戦前のヒラタクワガタは *E. platymelus* が使用されていた。

1960年, Benesh は *consentaneus*, *platymelus* を *titanus* の亜種として *castanicolor*, *pilifer* を *platymelus* の異名としている(W. Junk Coleop. Cat. Suppl. Pars. 8, p.86-88)。

中根猛彦博士は1955年出版の原色日本昆虫図鑑・甲虫編(保育社・大阪)の中で, 本種を *Eurytrachelus titanus platymelus* としてカラーで図示してい

る(pl.27, f.587, 588, pl.86)。

野村 鎮は *Dorcus* (*Serognathus*) *titanus* の亜種に扱った(Toho Gkuho, No.10, p.42, 1960)。

黒沢良彦博士は♂交尾器が異なることから, インドからスマトラ, ボルネオなどにかけて分布する *titanus* Boisduval, 1835 とは異なり, 従来用いられていた *platymelus* Saunders, 1854 を種名とした(国立科学博物館報第3号, p.292, 1970)。

さらに1976年の日本産甲虫目録No.1, クワガタムシ科においては *Serognathus platymelus pilifer* (Snellen van Vollenhoven) においてもそのまま使用(pl.62, f.1, p.434, 1985)した。

1963年の野村 鎮による原色昆虫大図鑑II(甲虫編)では *Dorcus titanus pilifer* として図説され(pl.54, f.2, p.107)現在の学名が使用されている。

水沼哲郎・永井信二の「世界のクワガタムシ大図鑑(pl.162, f.403-39~43, p.269, 1994)」(むし社・東京)においてもカラー図説の中でこの学名が使われている。

本種には日本産として次のような亜種が知られている。

subsp. *castanicolor* Motschulsky, 1861 ツシマヒラタクワガタ

Distr. Japan (Tsushima), Korea, S. Manchuria

subsp. *daitoensis* Fujita et Ichikawa, 1986 ダイトウヒラタクワガタ

Distr. Japan (Minamidaito-jima, Kitadaito-jima)

subsp. *elegans* (Boileau, 1899) アマミヒラタクワガタ

Distr. Ryukyu Is. - Amami group.

subsp. *hachijoensis* (Fujita et Okuda, 1989) ハチジョウヒラタクワガタ

Distr. Hachijo-jima

subsp. *okinawanus* (Kriesche, 1922) オキナワヒラタクワガタ

Distr. Okinawa-honto, Kume-jima, Minami-

Daito-jima, Ie-jima, Kouri-jima

subsp. *okinorabuenensis* Fujita et Ichikawa, 1985 オキノエラブヒラタクワガタ

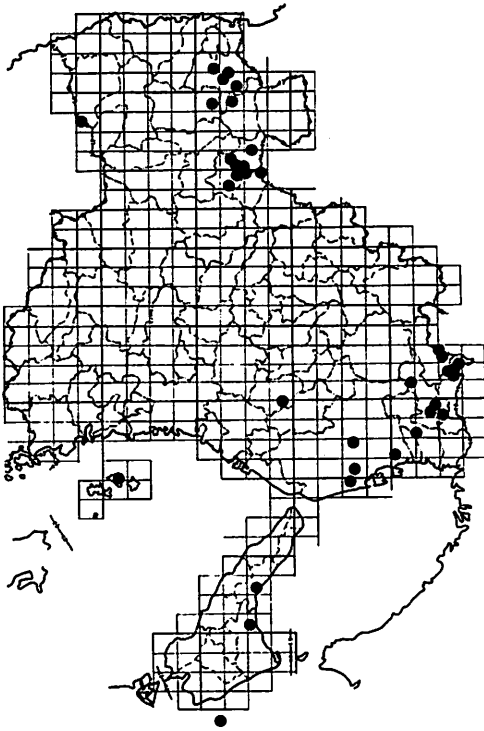
Distr. Okinorabu-jima, Amami Is.

subsp. *sakishimanus* (Nomura, 1964) サキシマヒラタクワガタ

Distr. Ryukyu Is., Yaeyama group, Yonaguni-jima

subsp. *takaraensis* Fujita et Ichikawa, 1985 タカラヒラタクワガタ

Distr. Takara-jima - Tokara Is.



兵庫県におけるヒラタクワガタの分布

subsp. *tokunoshimaensis* Fujita et Ichikawa, 1985 トクノシマヒラタクワガタ

Distr. Tokunoshima, Yoron-jima

本州、四国、九州に分布している亜種 *pilifer* は、本州では関東以西の西南日本に割合産するが、関東地方では希少となり東北地方の大部分には産しないとのことで、南方系種の様子がうかがえる。

兵庫県下では分布は広く、北部の山地帯あたりでも記録はある。ただ、最近では個体数がやや減少している傾向がうかがえる。

産地。

三原郡沼島[楠井, 1992].

洲本市安乎町[堀田, 1973].

津名町志筑[堀田, 1959, 1973, 1976].

川辺郡猪名川町上阿古谷[仲田, 1978], 三草山(1♀, 8.VI.1980).

川西市一庫, 山原, 見野, 笹部, 横地, 大和[仲田, 1978].

伊丹市荒牧[河上, 1984], 園田, 宝塚[水沼, 永井, 1994].

宝塚市南口2丁目[新家, 1988], 大原野, 売布が丘, 南口2丁目[田中, 1992].

西宮市角石町[芦田, 1983].

Hiogo[3♂2♀, Heyden, 1879].

神戸市御影[関, 1933], 烏原(1♂, 22.IX.1939.etc.), 山の街(1♂, 23.IX.1954.etc.), 長田(1♂, 16.VII.1938)

小野市山田(1♂, 22.VII.1987).

飾磨郡家島[上田, 1981, 楠井, 1992].

多可郡寺山[西脇, 1965].

朝来郡和田山町林垣, 立原, 竹田殿町, 柳原, 桑原, 内海, 寺谷[谷角, 1988].

出石郡出石町三木[高橋, 1963, 1981], 山東町宝山[谷角, 1988].

豊岡市愛宕山, 立野[高橋, 1975, 1981], 三開山, 大師山, 妙楽寺, 中陰[谷角, 1988].

城崎郡日高町上ノ郷[谷角, 1988].

美方郡扇の山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 高橋, 1981].

15. *Dorcus rectus* (Motschulsky, 1857)

コクワガタ

本種は Motschulsky により日本から1♂をもとに *Macrodercus rectus* として新種記載された(Etud. Ent., 6, p. 28, 1857). このタイプ標本はモスコウ大学動物学博物館に保管されていて、これを検した中根猛彦博士は中型の♂標本であると記している(1972).

本種は形状及び大小の差異が多様である関係で、古来から幾多の異名が知られている。体色が赤味がるものに *Macrodercus rugipennis* という学名が与えられた(Etud. Ent., p. 16, ♀, 1861)が、このタイプ標本もモスコウ大学動物学博物館に保管されていて、小さい型の♂であるという(中根猛彦博士, 1972).

それから Snellen van Vollenhoven が *Dorcus nipponensis* として記載した種(Tijdschr. Ent., IV, p. 113, t. 7, f. 3, 1861)は、三輪勇二郎博士が「大腿の中歯の上になお1個の小歯の出でたる」として forma *nipponensis* の扱いをした(1933)が、実はこれはスジクワガタの大型の♂であることが山本 弘によって指摘され(新昆虫5巻12号, p. 40, 1952), スジクワガタのシノニムとして考えられていたが, Vollenhoven の記載の図と、さらにオランダの Leiden 自然史博物館でタイプ標本を検した中根猛彦博士は *rectus* の小形の♂であることを示した(北九州の昆虫26巻1号, p. 1-2, pl. 1, 1978).

さらに長い間 Motschulsky が *Dorcus binervis* として命名記載(Etud. Ent., 9, p. 16, 1860)されたものがスジクワガタのシノニムとして考えられていたが、このタイプ標本を検した中根猛彦博士は *rectus* の

♀であることを確認発表している(1972)。

松村松年博士が日本千虫図解に本種の小型のものを *M. montivagus* Lewis ヒメクワガタとして掲載したことから、ヒメクワガタなる種が誤って報告された時期があった。三輪勇四郎博士は *rectus* を *Eurytrachelus* 属に取り扱っている(1933)。

黒沢良彦博士の目録(1985)、石田正明、松岡昌介の目録(1988)、並びにこの項には *Macrodercus* 属の種として扱われてきたが、現在では *Dorcus* 属に扱われている。

生活史は小島啓史の「クワガタムシ飼育のスーパーテクニック」(むし社・東京,1996)に詳しく出ている(p.30-47)。

本種は全国的に普通に見られる種であり、兵庫県下においても普通に見られる。

産地。

三原郡沼島[楠井,1992]。

洲本市先山[久松,1973,堀田,1973,1976],安乎町[堀田,1973]。

津名町常陸寺山[堀田,1992]。

川辺郡猪名川町木間生,上阿古谷[仲田,1978],一庫,民田[水沼,1991],三草山(1♂2♀,5.VII.1980)。

川西市一の鳥居(1♂,22.VI.1952,etc.),見野,笹部,花折橋付近,横地,山原,芋生,大和[仲田,1978,1982],能勢妙見山(1♀,30.VII.1982),能勢町民田[水沼,永井,1994]。

伊丹市[河上,1984]。

宝塚市佐曾利(1♂,-.V.1983,Y.Hachitani leg.),南口2丁目[新家,1988],武庫川町,武田尾駅,売布が丘[田中,1992]。

西宮市船坂(1♀,4.IX.1987)。

Hiogo[4♂6♀,Heyden,1879]。

神戸市裏山[関,1934],御影[関,1933],二十渉(1♀,26.VI.1955),鳥原(1♂,3.VIII.1974,etc.),大池(1♀,22.VII.1938),藍那(1♂3♀,26.VIII.1993,etc.),白川(1♂,22.II.1979),押部谷町木見(1♀,20.VII.1980,etc.),木津(1♂,28.VIII.1984),逢山峡(1♂,28.VII.1987,etc.),西区寺谷(1♂2♀,24.IX.1993)。

三木市美薮川川原(1♂,28.VIII.1978,etc.),口吉川町(1♂1♀,14.VII.1986)。

小野市大上(1♀,8.VII.1987),山田(1♂1♀,17.IX.1987,etc.)。

加東郡社町三草(1♂,22.V.1989)。

加西市畑(1♀,29.VI.1974,etc.)。

多可郡三谷(1♀,13.IX.1975),鳥羽(1♂,8.V.1976,

etc.),鹿野[西脇,1965]。

神崎郡大河内町川上(1♀,6.VIII.1977)。

飾磨郡家島[上田,1981,楠井,1992]。

揖保郡新宮町福原(1♀,3.IX.1992)。

赤穂市生島[相坂ほか,1995]。

相生市三濃山(1♀,6.VII.1973)。

佐用郡大撫山(1♀,13.III.1976)。

宍粟郡水谷(1♀,17.VII.1981),音水(1♀,20.VII.1959,etc.)。

多紀郡篠山町(現篠山市)[鈴木,1958],雨石山[Hayashi etc.,1995]。

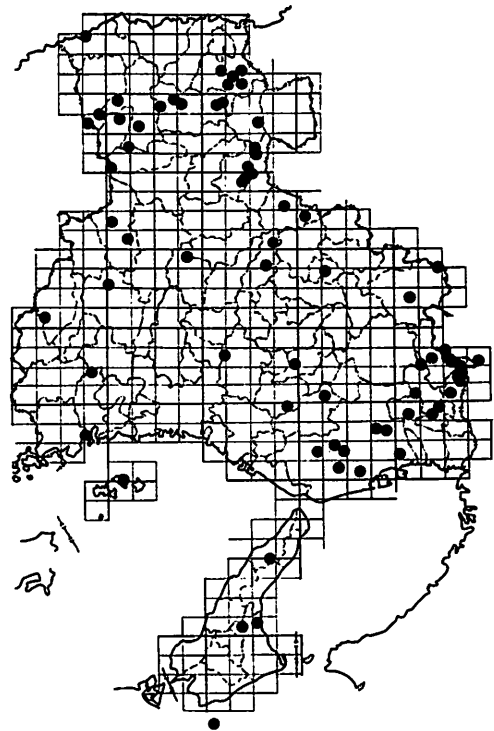
氷上郡[山本,1958]。

出石郡出石町桐野[高橋,1963,1975,1981],山東町[谷角,1988]。

朝来郡和田山町竹ノ内,玉置,枚田岡,比治,柳原,寺谷,内海,桑原[谷角,1988]。

城崎郡日高町西芝[高橋,1975,1981],上ノ郷,名色,栃本[谷角,1988],三草山,蘇武岳[高橋,1981]。

豊岡市立野[高橋,1975,1981],弥栄町,大師山,妙楽寺,三開山,下陰[谷角,1988]。



兵庫県におけるコクワガタの分布

養父郡氷の山(2♀, 2.VIII.1953, etc.), 村岡町粗岡
[谷角, 1975, 1988], 広谷, 別宮[谷角, 1988].

美方郡扇ノ山[辻, 1963, 辻, 岸田, 1972, 谷角, 1985],
梶和野, 小代溪谷, 浜坂町城山, 温泉町村上, 肥前畑
[谷角, 1988], 浜坂町城山[黒井, 1995].

16. *Dorcus rubrofemoratus* (Snellen von Vollenhoven, 1865) アカアシクワガタ

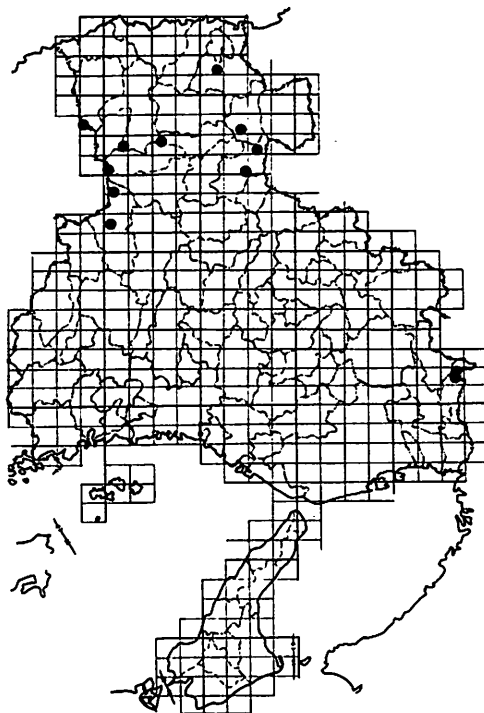
Siebold 及び Burger が日本で採集した2♂2♀の標本によって *Eurytrachelus rubrofemoratus* として Snellen van Vollenhoven によって新種記載された種である(Tijdschr. V. Ent. 8:152, pl.2-f.1, 2, 1865). このタイプ標本はオランダの Leiden 自然史博物館に保管されていて, 同博物館を訪れた中根猛彦博士は写真を撮り紹介している(1979). また, 同博士は Motschulsky が *Macrodercus rectus* として発表(Etude. Ent. 10:16, 1861)した♀標本をモスクー大学動物学博物館で検し, この標本は *rubrofemoratus* の♀であったと報告している(1972).

Lewis は日本各地産を *Macrodercus* 属の種として報告した(Lake of Hakone, Chiuzenji, Kiushiu on Oyayama. Trans. ent. Soc. Lond., p.337, 1883).

朝鮮からは河野広道が記録した(Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa XVI, No.84, p.88, 1926). 三輪勇四郎博士は台湾から記録(Ins. Mats., Vol.II, No.1, p.29, 1927)したが, その後の報告(Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa Vol.23, No.128, 129, p.361, 1933)で, 腿節が赤色を呈せず肢全体黒色を呈せる種で, いずれも♂ばかりなので種の決定をなし得ずと記している. 加藤正世博士は *Eurytrachelus* sp. タイワンアカアシクワガタとして原色で図説した(分類原色日本昆虫図鑑, 8輯, pl.7, f.2, 1933). これも肢に赤味がないと記している. 形態とも合わせてともに三輪勇四郎博士が1937年記載した *Macrodercus yamadai* (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, Vol.37, No.166, p.166-168)のことであろうと考えられる.

千島列島(国後島)からは桑山 覚博士の記録がある(南千島昆虫誌, p.338, 1967).

ビルマに産する *Hemisodorus arrowi* Boileau (Trans. Ent. Soc. London, p.49, 1911), 中国, 朝鮮に産する *Eurytrachelus haitschunus* Didier et Seguy (Rev. Fr. Etud. Vol.19, No.4, p.227, fig.5, 1952)の2種は本種のシノニムと見なされているが, 黒沢良彦博士によると *arrowi* は本種の亜種と考えてもよいとのことである(1930). とともに標本がないのでなんともいえない.



兵庫県におけるアカアシクワガタの分布

以上のように分布の広い種のようにであり, 日本の全般に分布している種である. 1960年, 本種をタイプとして野村 鎮, 黒沢良彦博士により *Nipponodorcus* 属が創設された(Toho Gakuho, No.10:41)が, 現在では *Dorcus* 属の種として扱われている.

兵庫県では中央部から北に広く分布しているが, 南部の海岸線に近い地域にはほとんど見出されない. 川西市あたりでも個体数は少ないようで, 県下においては北方種である. 氷ノ山山麓あたりでは個体数は極めて多い. 生態については小島啓史のものがあ(1996).

産地.

川西市笹部, 大和[仲田, 1978, 1982].

宍粟郡音水(1♂, 11.VII.1978). 坂の谷(1♀, 22.VII.1979, S.Miki leg.).

多可郡寺山[西脇, 1965].

朝来郡和田山町柳原, 竹ノ内[谷角, 1988].

出石郡出石町和尾[高橋, 1963, 1981].

豊岡市中喰[高橋, 1963].

養父郡氷の山(31♂14♀, 25.VII.1955, etc.) [高橋, 1981]. 八鹿町妙見山, 関宮町栃岡.

美方郡浜坂町諸寄[高橋,1976,1981]. 扇ノ山[辻, 1963, 辻・岸田,1972, 谷角,1985,1988], 鉢北高原 [谷角,1985].

17. *Dorcus striatipennis* (Motschulsky,1861)

スジクワガタ

本種は Motschulsky により Yezo 産で *Macro-dorcus striatipennis* と新種記載されたものである (Etud. Ent. 10: 17,1861). このタイプ標本は中型の ♂ で上翅に弱い点刻条線を有すると中根猛彦博士は述べている (1972). Lewis は Oyayama and Tanegashima から記録した (Trans. Ent. Soc. Lond., p.333, 328,1883).

Motschulsky が *M. cribellatus* として記載したものの (Etud. Ent. 10: 17,1861) も小型の ♂ で上翅上に深い条線を有するものである (中根,1972).

また, Waterhouse が Hakodate から記載した *M. opacus* も本種のことである (Ent. Monthly Mag., VI: 208,1870). 三輪勇四郎博士は *Eurytrachelus* 属で扱っている (1933).

野村 鎮は, Motschulsky が *Dorcus binervis* として記載した (Et. Ent. X, p.16, ♀, 1860) ものの学名を本種に充てた (Toho Gakuho No.10, p.41, 1960) が, 現在では *Dorcus* 属の種として扱われている.

本種も県下に広く分布しているようであるが, 個体数は必ずしも多くない.

産地.

洲本市先山[堀田,1959,1973,1976], 安乎町[堀田, 1973].

川辺郡猪名川町肝川[仲田,1978,1982]

川西市一の鳥居 (1♂, 22.VI.1952, etc.) [仲田,1970], 見野, 笹部, 横地, 芋生 [仲田,1978,1982], 赤松 [水沼, 永井, 1994], 能勢妙見山 (1♀, 30.VII.1982).

宝塚市武庫川町, 南口 2 丁目 [新家, 1988], 売布が丘, 南口 2 丁目 [田中, 1992].

神戸市裏山 [関, 1934], 六甲山 (1♀, 29.VIII.1951, 1♂, 10.VII.1955), 藍那 (1♂, 19.VIII.1978, etc.), 鈴蘭台大山公園 (1♂, 5.VII.1990), 木津 (2♂, 28.VIII.1984), 八多町屏風 (1♂, 2.IX.1993, etc.).

加西市畑 (1♀, 27.VII.1974).

揖保郡新宮町福原 (6♂, 17.VII.1992, etc.).

多可郡寺山 [西脇, 1965].

相生市三濃山 (1♀, 8.VI.1974).

宍粟郡坂の谷 (2♂ 6♀, 22.VII.1979).

氷上郡 [山本, 1958].

出石郡但東町, 出石町カジャ [高橋, 1963, 1981].

山東町宝山 [谷角, 1988].

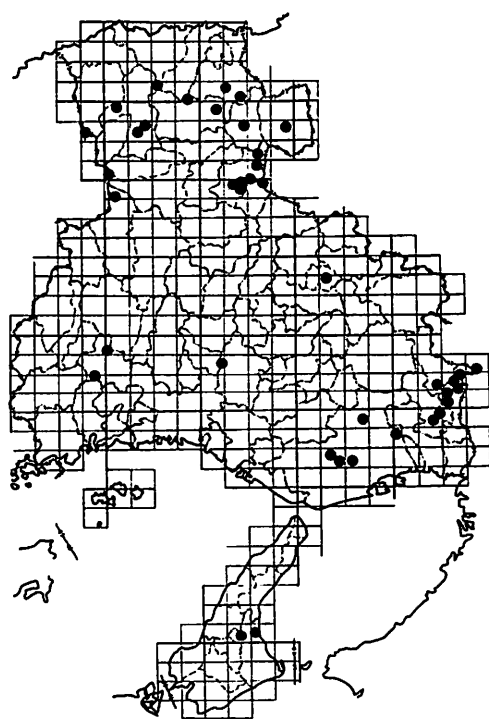
豊岡市神武山, 市内, 文教府, 長谷 [高橋, 1975], 妙楽寺 [高橋, 1981, 谷角, 1988].

朝来郡和田山町比治, 枚田, 桑原, 法興寺, 宮, 内海, 竹ノ内, 柳原 [谷角, 1988].

城崎郡日高町上郷, 大岡山, 香住町三川山 [谷角, 1988].

養父郡氷の山 (1♀, 25.VIII.1955, etc.).

美方郡扇ノ山 [辻, 1963, 辻・岸田, 1972, 谷角, 1988], 村岡町祖岡 [谷角, 1975, 1988], 兎和野, 輝山 [谷角, 1988].



兵庫県におけるスジクワガタの分布

アイヌハンミョウの兵庫県下における生息状況

柴田 剛

アイヌハンミョウ *Cicindela gemmata* Faldermann は、河原とその付近の草地に局所的に多いとされているが、兵庫県下の生息状況については、武庫川峡谷と美方郡温泉町に在るという情報を得ていた程度であった。今年の5月に武庫川の河原での生息を確認することができ、同じような環境の場所を中心に県下の主要河川の河原を調べたのでその結果を報告する。また、過去の採集記録もいくつかご教示いただくことができたので、あわせて取りまとめた。本稿を草するにあたり、県下の採集記録をご教示いただいた近藤伸一氏、県立人と自然の博物館の中西明徳系統分類研究部長、八木剛研究員に厚くお礼申し上げる。

1 生息が確認できた場所

① 武庫川水系

神戸市北区道場町生野(有馬川合流点の河原)

1♂1♀ 6.V.2000

② 市川水系

神崎郡市川町浅野(市川の河原)

1♂2♀ 18.V.2000

③ 揖保川水系

宍粟郡山崎町五十波(揖保川の河原)

3♂ 18.V.2000

宍粟郡山崎町岸田(揖保川の河原)

1♀ 18.V.2000

宍粟郡山崎町清野(揖保川の河原)

1♂2♀ 18.V.2000

④ 円山川水系

城崎郡日高町赤崎(円山川の河原)

3♀ 13.V.2000

2 過去の採集記録

① 武庫川水系

神戸市北区道場町生野(船坂川合流点の河原)

3exs. 29.IV.1994 近藤伸一

7exs. 5.V.1995 近藤伸一

宝塚市川面(武庫川峡谷の河原)

3exs. 24.IV.1996 近藤伸一

② 岸田川水系

美方郡温泉町熊谷

1♀ 20.V.1992 鈴木 寿也

(県立人と自然の博物館収蔵標本)

3 生息が確認できなかった場所

① 武庫川水系

西宮市苅葉台(武庫川の河原) 6.V.2000

西宮市塩瀬町名塩(尼子谷の河原) 6.V.2000

西宮市越水字社家郷山(仁川の河原) 8.V.2000

② 加古川水系

高砂市高砂町向島町(加古川の河口) 15.V.2000

加古川市神野町西之山(加古川の河原) 6.V.2000

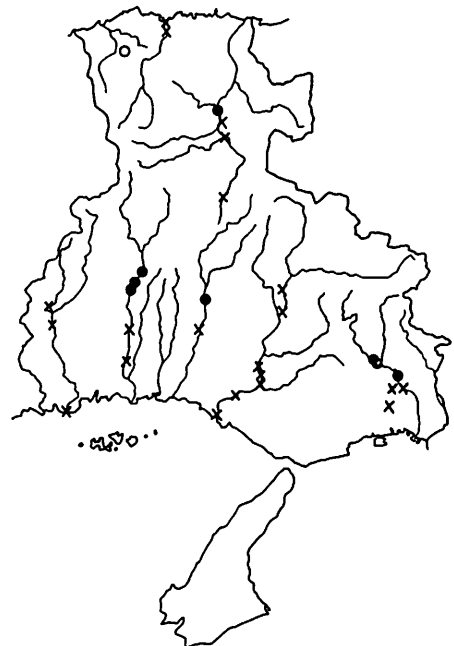
小野市黍田町(加古川の河原) 20.V.2000

小野市大島町(加古川の河原) 20.V.2000

小野市粟生町(加古川の河原) 20.V.2000

西脇市堀町(加古川の河原) 21.V.2000

多可郡黒田庄町黒田(加古川の河原) 21.V.2000



●確認できた場所 ○文献記録のある場所
×今回確認できなかった場所

兵庫県下のアイヌハンミョウの分布状況

- ③ 市川水系
神崎郡福崎町南田原(市川の河原) 18.V.2000
- ④ 揖保川水系
龍野市龍野町日山(揖保川の河原) 8.VI.2000
揖保郡新宮町下野(揖保川の河原) 8.VI.2000
- ⑤ 千種川水系
赤穂市尾崎(千種川の河口) 8.VI.2000
佐用郡上月町小赤松(千種川の河原) 18.V.2000
佐用郡上月町早瀬(佐用川の河原) 18.V.2000
- ⑥ 円山川水系
養父郡八鹿町伊佐(円山川の河原) 14.V.2000
養父郡養父町藪崎(円山川の河原) 4.VI.2000
朝来郡朝来町多々良木(円山川の河原) 3.VI.2000
- ⑦ 矢田川水系
城崎郡香住町矢田(矢田川の河口) 14.V.2000
城崎郡香住町間室(矢田川の河原) 14.V.2000

4 調査結果について

今回アイヌハンミョウの生息が確認できた場所の環境は、いずれも河川上流域から中流域の広い河原で、径10~30センチメートルの丸い泥のついていない礫のあるところであった。また、同じ河原でも砂地のところにはコニワハンミョウが見られ、住み分けているようである。

加古川と千種川については今回の調査では確認できなかったが、もう少し上流や支流を調べてみる必要があると考えている。

但馬地域の河川についてはあまり調査ができていないため、円山川の支流や矢田川、岸田川の河原などではまだ見つかる可能性があると思われる。

今回県内の主要河川を粗く回ってみた印象からいえば、アイヌハンミョウはやはり局所的な分布をずるものようであり、生息環境となる自然性の高い広い河原は以外に少なく、このような環境はさわらずにそのまま残していったほしいものである。

(SHIBATA TAKESHI 明石市太寺天王町2970-7)

ナナフシモドキを飼育して

近藤 伸一

5月28日、加古川市志方町で採集したナナフシモドキの幼虫を飼育した。食草がわからなかったため、採集地に普通にある植物を中心に適当な葉を飼育箱に入れた(アケビ、ノイバラ、モチツツジ、ハンノキ、コナラ、イロハモミジ、マルバアオダモ、マンサク)。アケビとコナラをよく食べたので6月11日~17日まではこの2種で飼育した。アケビとコナラの葉の食べた面積はほぼ同じであった。17日の体長は5.2cm。

6月18日~24日にかけては、イタヤカエデ、ソメイヨシノ、マルバアオダモで飼育したが、イタヤカエデとソメイヨシノを食べ、マルバアオダモは食べなかった。

6月24日には脱皮しており、一回り大きくなった。なんと脱皮殻が足までそのままの形で残っている。

6月25日~29日にかけては、フジ、エノキ、ハンノキ、ネズミモチ、ノブドウで飼育した。フジを最も好み、次いでエノキをよく食べた。ハンノキは少し食べただけで、ノブドウ、ネズミモチは全く食べなかった。

6月30日~7月6日にかけては、アベマキ、シリブ

カガシ、イヌビワ、コクサギ、マルバアオダモで飼育した。アベマキを最も好み、シリブカガシを少し食べイヌビワ、コクサギ、マルバアオダモは全く食べなかった。

7月11日、脱皮に失敗したようで、頭部と胸部の間で折れ曲がり、まもなく死亡した。

ナナフシモドキの植物嗜好状況

◎好んで食べる ○食べる ×好まない ・不明
ブナ科 ◎コナラ ◎アベマキ ○シリブカガシ
バラ科 ◎ソメイヨシノ ・ノイバラ
ハンノキ科 △ハンノキ
ニレ科 ○エノキ
アケビ科 ◎アケビ
カエデ科 ◎イタヤカエデ ・イロハモミジ
ツツジ科 ・モチツツジ
モクセイ科 ×マルバアオダモ ×ネズミモチ
マンサク科 ・マンサク
マメ科 ◎フジ
ブドウ科 ×ノブドウ
イチジク科 ×イヌビワ
ミカン科 ×コクサギ

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

池田市北部の蛾

ヤガ科アツバ亜科・クルマアツバ亜科

木下 修一

前回に引き続いて、池田市北部のマンションに集まる蛾を毎朝観察した結果を報告する。今回はヤガ科の仲間であツバ亜科、クルマアツバ亜科に分類される小さい蛾を特集する。これらの仲間はいずれも顔の前に長い下唇鬚を有しているのが特徴である。これらの亜科にはアオアツバとトビモンアツバという私のマンションでの観察種の中でも個体数の上位10位以内に入る蛾が2種も入っているの、なんとなく注目することになってしまった。

アオアツバは講談社の「日本産蛾類大図鑑」には個体数が少ない旨書かれているが、池田市北部では特に個体数が多い。アオアツバは8月から10月にかけて毎年かなり規則正しく発生しているが、この様子は個体数の等高線表示をした図1をみるとよくわかる。大体発生のピークは9月ごろであるが、年によってそのピークは1ヶ月ほどシフトすることもあり、特に発生の中心が近年次第に早くなっているのは注目される。

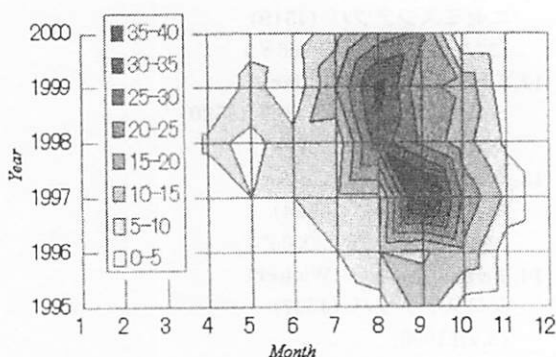


図1 1995年～1999年に池田市北部で観察されたアオアツバの月別個体数の等高線表示

ヤマトアツバは1987年に記載されたものであるが、京都、大阪で記録があるという珍種である。最近、高島により兵庫県川西市黒川で採集された旨が報告され[1]、兵庫県初記録となった。筆者は1995年と1999年の2回にわたり池田市北部のマンションの廊下で採集する機会を得た。

表1にはいつものように月別、年別の発生個体数を示した。個体数については視認によるものなので

必ずしも正確でないことをご承知願いたい。また、この中で、オオアカマエアツバの欄が空欄になっているのは、次種のニセアカマエアツバと視認によっては区別がつかないため、次種とあわせて個体数を表した。

採集目録を次に示すが、「写真」と記したものは、標本はなく写真のみの記録によるものを示す。

採集目録

Hypeninae アツバ亜科

1. *Latirostrum bisacutum* Hampson
テングアツバ (4448)
(26.III.1995;写真)
2. *Harita belinda* (Butler)
ナカジロアツバ (4450)
(28.IV.1996, 12.V.1996, 16.IV.1997)
3. *Hypena claripennis* (Butler)
キシタアツバ (4452)
(21.X.1997)
4. *Hypena amica* (Butler)
クロキシタアツバ (4453)
(8.VI.1996, 7.IX.1996, 10.IX.1996, 29.IX.1996, 2.XI.1996, 18.V.1997)
5. *Hypena trigonalis* (Guenée)
タイワンキシタアツバ (4454)
(18.V.1996, 16.V.1997)
6. *Hypena ella* Butler
ソトムラサキアツバ (4455)
(5.IX.1998 ♀, 6.IX.1998 ♀)
7. *Hypena strigatus* (Fabricius)
ナミテンアツバ (4461)
(1.V.1996 ♀, 6.IX.1996, 7.V.1997, 8.IV.1998 ♀, 12.VIII.1998 ♂, 26.X.1998 ♀, 28.VIII.1999 ♀, 25.XI.1999 ♂, 11.VI.2000 ♂)
8. *Hypena occata* Moore
オオトビモンアツバ (4465)
(21.X.1996, 23.X.1996, 15.XI.1996, 22.XI.1996, 5.XII.1996, 5.XI.1998 ♂)

9. *Hypena innocuoides* Poole
ウスチャモンアツバ (4466)
(11.XI.1997, 1.XI.1998 ♀, 1.IX.2000 ♂)
 10. *Hypena indicatalis* Walker
トビモンアツバ (4467)
(11.VII.1999 ♀, 11.XI.1999 ♀ など)
 11. *Hypena subcyanea* Butler
アオアツバ (4470)
(18.V.1996, 21.V.1996, 29.IX.1996, 5.V.1998 ♂, 30.VIII.2000 ♀ など)
 12. *Hypena pulverulenta* Wileman
コテングアツバ (4476)
(21.IX.1995; 写真, 15.XI.1995; 写真)
 13. *Hypena abducalis* Walker
サザナミアツバ (4477)
(29.III.1998 ♀)
 14. *Hypena kengkalis* Bremer
ソトウスナミガタアツバ (4478)
(13.XI.1995; 写真)
 15. *Bomolocha stygiana* (Butler)
ヤマガタアツバ (4481)
(3.VII.1997, 7.VIII.1997, 10.IX.1997, 22.IV.1998 ♀, 9.V.1998 ♀)
 16. *Bomolocha squalida* (Butler)
ハングロアツバ (4483)
(7.IX.1996, 4.X.1997, 5.VI.1999 ♀, 13.VI.2000 ♀, 29.VII.2000 ♂)
 17. *Bomolocha zilla* (Butler)
シラクモアツバ (4486)
(4.VI.1996, 1.V.1997, 14.VII.1997, 30.VII.1997, 9.V.1998 ♀, 5.VII.1998 ♀, 20.V.1999 ♀)
- Herminiinae クルマアツバ亜科
1. *Adrapsa simplex* (Butler)
シラナミクロアツバ (4496)
(27.VI.1996, 11.VIII.1997, 24.VI.2000 ♂)
 2. *Adrapsa notigera* (Butler)
フジロアツバ (4497)
(11.VI.1996, 2.IX.1996, 3.VI.1997)
 3. *Hydrillodes lentalis* Guenee
ソトウスグロアツバ (4499)
(27.X.1996, 12.XI.1996, 17.V.1997, 5.X.1997, 16.XI.1997 など)
 4. *Hydrillodes morosa* (Butler)
 - ヒロオビウスグロアツバ (4500)
(12.V.1996 ♀)
 5. *Edessena hamada* (Felder & Rogenhofer)
オオシラホシアツバ (4503)
(22.VI.1997)
 6. *Hadennia nakatanii* Owada
ヒメハナマガリアツバ (4506)
(2.VII.1996 ♀, 16.IX.1996, 19.VI.1997 ♀, 7.IX.1997, 26.V.1998 ♂, 7.VI.2000 ♂)
 7. *Mosopia sordida* (Butler)
フサキバアツバ (4507)
(30.VII.1997 ♂, 28.VII.2000 ♂)
 8. *Cidariplura gladiata* Butler
ハナオイアツバ (4508)
(28.VIII.1997 ♂, 18.VIII.1998 ♂, 8.IX.1999 ♂)
 9. *Paracolax japonica* Owada
ヤマトアツバ
(19.VI.1995, 16.VI.1999 ♂)
 10. *Paracolax trilinealis* (Bremer)
ミスジアツバ (4518)
(3.IX.1996, 11.IX.1996, 22.V.1997, 14.VI.1999 ♂, 3.VI.2000 ♀)
 11. *Paracolax bilineata* (Wileman)
ニセミスジアツバ (4519)
(27.V.1996 ♀, 2.VI.1996 ♀)
 12. *Paracolax pryri* (Butler)
シロテンムラサキアツバ (4520)
(8.V.1998 ♂, 26.V.1999 ♂)
 13. *Paracolax fentoni* (Butler)
ホソナミアツバ (4524)
(28.VI.1996, 17.VI.2000 ♂)
 14. *Bertula spacoalis* (Walker)
シロスジアツバ (4527)
(3.VII.1996)
 15. *Nodaria tristis* (Butler)
ヒゲブトクロアツバ (4529)
(13.V.1996 ♀, 9.VII.1996 ♂, 8.IX.1996 ♀, 26.IX.1996 ♀, 5.X.1996 ♀, 10.X.1996 ♀, 27.IX.1997 ♂, 26.IV.1998 ♀)
 16. *Simplicia niphona* (Butler)
オオアカマエアツバ (4532)
(10.VI.1996, 16.VI.1996, 31.VIII.1996, 17.IX.1996, 11.X.1996, 16.X.1996, 5.XII.1996, 31.V.1997, 10.V.1998 ♂)
 17. *Simplicia xanthoma* Prout
ニセアカマエアツバ (4533)

表1 1995年～1999年に池田市北部で観察されたアツバ亜科とクルマアツバ亜科の蛾の月別、年別個体数

アツバ亜科

	MONTH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	SUM	1995	1996	1997	1998	1999
1	テングアツバ			1										1	1				
2	ナカジロアツバ				9	1								10	1	3	3	2	
3	キシタアツバ						1				1			2	1		1		
4	クロキシタアツバ				1	3	1	1	1	9	1	1		18	4	5	6	3	
5	タイウンキシタアツバ					7	1	3	2	6	5			24	4	5	12	3	
6	ソトムラサキアツバ									2				2				2	
7	ナミデシアツバ				1	3		1	2	2	1	1		11		3	1	5	2
8	オオトビモンアツバ	1			2	1			2	4	6	18	2	36	10	8	10	6	2
9	ウスチャモンアツバ								1	1		4		6	2	1	1	1	1
10	トビモンアツバ			15	41	8	5	7	15	18	26	53	4	192	31	31	67	39	24
11	アオアツバ				6	21	16	39	81	100	63	18		344	27	44	96	88	86
12	コテングアツバ									1		1		2	2				
13	サザナミアツバ			1										1				1	
14	ソトウスナミガタアツバ											1		1	1				
15	ヤマガタアツバ				1	2		1	1	3				8	3		3	2	
16	ハングロアツバ						1	1		1	1			4		1	1	1	1
17	シラクモアツバ					9	1	3	1	1				15	1	1	6	6	1
	SUM	1	0	17	61	55	26	56	106	148	104	97	6	677	88	102	207	159	117

クルマアツバ亜科

	MONTH	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	SUM	1995	1996	1997	1998	1999
1	シラナミクロアツバ						1		1					2		1	1		
2	フジロアツバ						2		1	2				5		2	1	1	1
3	ソトウスグロアツバ					41	9	1	1	3	55	19	1	130	35	36	33	13	13
4	ヒロオビウスグロアツバ					3					1			4	1	3			
5	オオシラホシアツバ					1	1	1	4					7	1		4	1	1
6	ヒメハナマダリアツバ					1	6	2	1	5				15	3	2	3	4	3
7	フサキバアツバ							1	1					2	1		1		
8	ハナオイアツバ								7	1	1			9	1		4	1	1
9	ヤマトアツバ						2							2	1				1
10	ミスジアツバ					9	6		4	3				22	9	3	3	4	3
11	ニセミスジアツバ					1	2		3					6		3	3		
12	シロデシムラサキアツバ					3	2			1				6	2	2		1	1
13	ホソナミアツバ						1		1					2	1	1			
14	シロスジアツバ							1		1				2	1	1			
15	ヒゲブトロアツバ				6	8		3		5	4	3		29	6	10	7	3	3
16	オオアカマエアツバ	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
17	ニセアカマエアツバ				9	12	5	9	4	7	8	2		56	14	16	13	7	6
18	ツマオヒアツバ						3	1	1	3				8	3	1	4		
19	ホソドコブヒゲアツバ						2							2				1	1
20	ウスグロアツバ					3	1							4	3	1			
21	キイロアツバ					2	1		3					6	1		2	2	1
22	ウラジロアツバ							1						1	1				
23	シラナミアツバ						1	1						2	2				
24	ウスキミスジアツバ					3		6	2	1				12	1	4	2	2	3
25	トビスジアツバ					15	2	2		2				21	2	1	10	4	4
26	オオシラナミアツバ					1			3	2	12	2		20	2	7	8	3	
27	ムモンキイロアツバ					1			1					2			2		
28	ネグロアツバ					1		1						2				2	
	SUM	0	0	0	6	102	54	26	43	33	80	32	3	379	91	94	101	49	42

(3.VI.1996, 5.VI.1996, 15.IX.1996, 10.V.1997, 9.VIII.1997)

18. *Zanclognatha griselda* (Butler)

ツマオビアツバ (4538)

(26.VI.1996♂, 30.VI.1997♀, 16.VII.1997♀)

19. *Zanclognatha curvilinea* (Wileman & South)

ホンドコブヒゲアツバ (4541)

(7.VI.1998♂, 4.VI.1999♀)

20. *Zanclognatha fumosa* (Butler)

ウスグロアツバ (4544)

(11.VI.1996♀)

21. *Zanclognatha helva* (Butler)

キイロアツバ (4546)

(5.VI.1997, 22.VIII.1997, 22.XIII.1997, 18.V.1998

♂, 25.V.1998♀, 11.VIII.1999♀)

22. *Zanclognatha violacealis* Staudinger

ウラジロアツバ (4551)

(20.VII.2000♀)

23. *Herminia innocens* Butler

シラナミアツバ (4558)

(25.V.2000♂, 12.IX.2000♂)

24. *Herminia arenosa* Butler

ウスキミスジアツバ (4560)

(30.V.1996, 15.VII.1996, 19.VII.1996, 31.VIII.1996,

16.V.1997, 26.V.1997, 15.VIII.1998♀, 17.IX.1998♀, 17.VII.1999♀, 23.V.2000♀)

25. *Herminia tarsicrinalis* (Knoch)

トビスジアツバ (4562)

(1.VI.1996, 13.V.1997, 15.V.1997, 12.VII.1997, 15.VII.1997, 19.IX.1997, 3.V.1998♀, 5.V.1998♂, 7.V.1998♀)

26. *Hipoepa fractalis* (Guenée)

オオシラナミアツバ (4563)

(29.IX.1996, 6.X.1996, 9.X.1996, 19.X.1996, 10.XI.1996, 31.V.1997, 16.XI.1997, 16.XI.1997)

27. *Stenhyphenia nigripuncta* (Wileman)

ムモンキイロアツバ (4564)

(3.V.1997♀, 26.VIII.1997♂)

28. *Sinarella punctalis* (Herz)

ネグロアツバ (4567)

(25.V.1998♂, 28.VII.1998♂, 12.VII.2000♂)

<参考文献>

- 1) 高島昭 (1998) ヤマトアツバを兵庫県で採集, 誘蛾燈 (151), p.1.

(KINOSHITA SHUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)

庭の昆虫雑文(2)

森口 紀

西表島のメスアカムラサキを産卵させ、家の中で飼育、羽化した蝶を庭のゲージ(きべりはむし第26巻第1号で紹介)に放したところ、まもなく交尾し、数日後ゲージ内に並べている鉢植えのスベリヒユに蝶が産卵しているのが確認された。

若齢幼虫をそのままにして観察していたところ、隣のオオバコに鉢植えに幼虫が数匹移動していた。その後、オオバコに食痕が確認され、幼虫がオオバコを食している可能性が生じてきた。そのことを確認するため、幼虫が移動しているオオバコの鉢植えをゴースで覆い、家に持ち込んで観察を続けた。

それらの幼虫は順調に生長し、スベリヒユで飼育した場合と同じか、それよりもやや大きいぐらいの終齢幼虫へと順調に成長した。

不勉強な私は、メスアカムラサキがオオバコを食することを知らなかったので大変興味深く観察していたが、同じ職場の近藤伸一さんのお宅におじゃましたとき、図書にオオバコも食することが載っていることを教えられ納得したものである。

ゲージ内に放蝶し不思議に思っていたことがある。それは、1日、2日と経つうちに蝶の数が激減してしまうことで、長らくその原因がわからなかったが、羽だけが落ちていることもあり、まったく跡形もなく姿を消していることもあった。その犯人がトカゲなのかヤモリなのか、その他の天敵なのか長らく不思議に思っていた。しかし、最近その原因の一部が明らかになった。注意深く観察していると、ある日、カマキリが蝶を捕獲しているのが観察され、同日1cmに満たない白い蜘蛛が蝶を捕らえているのを見つけた。羽を広げたまま動かない蝶の様子がおかしいので手にとってみると、小さな蜘蛛が蝶にしがみついていた。その蝶をルーペで詳しく観察したが目立った外傷はなく、それにもかかわらずじっとして動かない蝶の姿はむしろ不思議でさえあった。多分、蜘蛛の麻酔で仮死状態にされていたのではないかと思うが、蜘蛛の生態についても、もっと調べてみたいと結論は出せない。そのほか考えられる原因としては、照明に集まるヤモリ、蜂等が考えられるが今後観察を続けたい。

(MORIGUCHI TADASHI)

神戸市西区伊川谷町有瀬77-1)

兵庫県のヨトウガ亜科

(兵庫県産蛾類分布資料・18)

高島 昭

筆者はこれまで数回にわたり兵庫県の蛾についてのまとめを行っているが、今回はヨトウガ亜科について報告する。記載要領は既報に準じる。

文献データは1999年12月31日までに入手できた資料に基づいた。未発表記録については本年度のデータも整理済みのものは掲載している。また、兵庫県立人と自然の博物館の収蔵標本を調査する機会があり、注目すべき2～3の種についてはデータを掲載した(末尾に*印を付した)。

なお、相坂耕作、近藤伸一、柴田 剛、八木 剛、山本義丸の各氏には未発表データの提供、各種の分布状況や文献等について御教示を賜った。また、兵庫県立人と自然の博物館の中西明德氏、八木 剛氏には収蔵標本の調査並びにデータの公表についてご快諾いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げる。

<ヨトウガ亜科 HADENINAE>

ヨトウガ亜科はヨトウガ類のほか早春に出現するキリガ類、草原性のキョウトウ類の3群に大別され、概して冷温帯性、草原性の種が多い。

全国では103種が知られており、兵庫県からは56種が記録されているが、そのうちウスベニキョウトウは記録に疑問があるため県産種としての扱いを保留し、ここでは55種を報告する。

地域別に見ると、神戸33種、阪神北摂38種、中東播南部22種、中東播北部25種、西播南部26種、西播北部30種、南但28種、北但16種、丹波22種、淡路北部15種、淡路南部31種である。

種類数が30を超えるのは神戸、阪神北摂、西播北部、淡路南部などでいずれも昔からよく調査が行われている地域である。とくに早春に1回だけ出現する種群を多く含むこの仲間では調査密度によって既知種類数が大きく左右するものと思われる。

種群別に見ると、ヨトウガ類は一部に分布の限られる種が含まれるが、広域分布種や作物の害虫として著名なものも含まれ、総じて分布状況はよく把握できていると思われる。キリガ類は人気が高いグループであるが、早春に発生するため採集調査場所が限られ、未確認の地域が多いようである。また、キョウトウ類は概して報告が少ない。局地的な種が多いこと、蛾相が貧弱な草原、川原、湿原等を生息域と

する種が多いこと、やや同定がやっかいなことなどがその要因と思われる。

兵庫県で注目すべき種としては、冷温帯性、山地性のオオシモフリヨトウ、ムラサキヨトウ、ミヤマヨトウ、ヒメムラサキヨトウ、モモイロフサクビヨトウ、コハイイロヨトウ、アオヤマキリガ、ミヤマフタオビキヨトウ、暖地性のハマオモトヨトウ、局地性の高いヨモギキリガ、ウスベニキリガ、ミカワキヨトウ、草原性のタンポキヨトウ、ツマアカキヨトウ、カバイロキヨトウ、ウスイロキヨトウ、アカイロキヨトウ、ノヒラキヨトウ、ナカスジキヨトウなどがあげられる。

1. *Polia goliath* (Oberthür) (3554)

オオシモフリヨトウ 注目種

北海道から本州の山地に産し、四国の石鎚山にも記録がある。年1回、7～9月に出現する。幼虫はコナラ、ウメ、サクラ、ヤナギを食べることが確認されている。県下では氷ノ山周辺の山地で得られているが局地的である。

【採集記録】

関宮町(氷ノ山, -.-, 1955, 1♂, 山本義丸⁵⁸: 鉢伏高原, 24.VII.1974, 1♀, 山本義丸⁶²)

2. *Melanchra persicariae* (Linnaeus) (3557)

シラホシヨトウ

北海道から九州まで普通に産する。年1回、夏に発生する。従来、近縁種の *M. postalba* Sugi アトジロシラホシヨトウと混同されていたが、この種は本州中部以北にしか分布しないので、県下の記録は混同のおそれがない。県下では、内陸部の山地帯に限って産し、個体数も多くない。

【採集記録】

波賀町(音水, 10.VIII.1987, 1ex., 高島昭³⁵: 引原, 29.

VII.1988, 1♂: 7.IX.1988, 1♀, 高島昭³⁵: 坂の谷,

12.VIII.1998, 3♂, 高島昭)

朝来町(須留ヶ峰, 31.VII.1975, 目, 遊磨正秀⁶⁶)

大屋町(田淵山, 5.VIII.1975, 目, 遊磨正秀⁶⁶: 横行溪谷,

8.VIII.1999, 1♂, 高島昭)

関宮町(氷ノ山, -.-, 1954, -, 山本義丸⁵⁷)

柏原町(柏原, -.-, -, 山本義丸⁶¹)

青垣町(神楽, -.-, -, 山本義丸⁶¹)

3. *Mamestra brassicae* (Linnaeus) (3559)

ヨトウガ

各種作物の害虫として著名である。北海道から九州、対馬、屋久島に分布する。年2回の発生である。県下では各地にごく普通に産する。とくに耕作地周辺では個体数が多く、農作物の重要害虫となっている。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁶: 諏訪山公園, -.
X.1990, -, 山口福男⁵⁶: 伊川谷町, 1.V.1998, 1♂, 高島昭)

尼崎市(南塚口町, 10.V.1982, 1♀; 12.V.1982, 1♂; 13.V.1982, 1♀; 30.IX.1983, 1♂, 夏秋優¹⁷)

西宮市(上葭原町, 25.IX.1968, 1♂; 20.V.1971, 1♂, 東正雄⁴³: 中葭原町, 25.V.1976, 1♀, 東正雄⁴³)

宝塚市(南口2丁目, 15.X.1978, -, 新家勝¹⁹: 武庫川町, 9.VII.1988, -, 19.VII.1988, -, 新家勝²⁴: 光明町, 12.IX.1988, -, 新家勝⁴³: 宝梅1, 20.V.1992, 1♀, 東たか⁴³: 西谷西部, 14.V.1977, 1♂, 東正雄⁴³: 武田尾, 29.V.1992, 3♂, 東正雄⁴³)

川西市(黒川, 20.IX.1997, 1♂, 高島昭³⁹)

高砂市(-, 20.IX.1967, 1ex.; 6.IX.1970, 1ex., 岡本清²⁶)

黒田庄町(喜多, 21.IV.1959, 1ex.; 28.IV.1959, 1ex.; 6.IX.1960, 1ex., 岡本清²⁷)

波賀町(坂の谷, 25.IX.1998, 1♂, 高島昭)

相生市(瓜生, 13.V.1989, 1♂, 高島昭³⁶)

上郡町(船坂, 4.X.1997, 1♂, 高島昭: 行頭, 27.IV.1995, 1♂; 15.V.1995, 1♂, 高島昭³⁷)

豊岡市(山本, 2.IV.1973, -, 山根政之³³: 正法寺, 21.IV.1998, 1♂, 柴田剛: 同, 16.IX.1998, 1ex., 柴田剛: 同, 21.IX.1998, 1ex., 柴田剛)

氷ノ山(-.-.-, -, 遠山ほか³¹)

鉢伏山(-.-.-, -, 遠山ほか³¹)

氷上郡(-.-.-, -, 山本義丸⁵⁰)

洲本市(物部, 28.IV.1981, 1ex., 林俊雅⁶)

三原町(八木養宜, 21.IV.1992, -, 藤宮正昭⁶)

南淡町(阿万上町, -.IV~V.-, -; -.IX~X.-, -, 藤平明²: 同, 25.V.1959, -; 11.X.1959, -; 2.V.1960, -, 藤平明³: 同, 25.IX.1958, -, 藤平明⁴: 灘大川, 14.IV.1994, -, 藤平明⁴: 福良向谷, 10.X.1996, -, 藤平明⁴: 灘黒岩, 19.V.1998, -, 藤平明⁴)

4. *Lacanobia contigua* (Denis & Schiffermüller)

(3560) ムラサキヨトウ 注目種

北方系の種で、北海道、岩手、秋田、中部地方の山地に分布する。年1化、夏に出現する。県下では鉢伏高原で得られており、局地的ながら氷ノ山周辺の火山性山地草原には分布している可能性がある。

[採集記録]

関宮町(鉢伏高原, 24.VII.1974, 1♀, 山本義丸⁵²)

5. *Lacanobia contrastata* (Bryk) (3561)

ミヤマヨトウ 注目種

北海道から本州中部の内陸山地に分布する。年1化、6~8月に出現する。県下では、鉢伏山で1例記録されており、前種と同様、局地的ながら但馬地域の火山性草原に分布していると思われる。なお、本種は岡山県北部山地でも記録があるという。

[採集記録]

鉢伏山(-.-.-, -, 遠山ほか³¹)

6. *Sarcopolia illoba* (Butler) (3566)

シロシタヨトウ

北海道から九州、対馬にかけて分布し、各地に普通である。年2回の発生で、初夏と初秋に見られる。幼虫は多食性である。県下では各地に普通で個体数も多い。

[採集記録]

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁶: 同, -.-.-, -, 岡村八郎²⁹: 諏訪山公園, -.X.1987, -, 山口福男⁵⁶)
宝塚市(南口2丁目, 8.V.1983, -, 新家勝²¹: 武庫川町, 14.V.1988, -, 新家勝²⁴)

川西市(平野, 27.V.1992, 1♂, 東良雄⁴³: 黒川, 7.IX.

1996, 1♂; 12.X.1996, 1♂, 高島昭³⁹)

猪名川町(上阿古谷, 25.VIII.1981, 2♂, 夏秋ほか¹⁴)

黒田庄町(喜多, -.X.1958, 1ex.; 9.IV.1959, 1ex.; 13.IV.1959, 1ex.; 20.IV.1959, 2exs.; 30.IV.1959, 3exs.; 2.V.1959, 1ex.; 3.IX.1959, 1ex.; 10.X.1959, 1ex.; 14.IV.1960, 2exs.; 19.IV.1960, 1ex.; 27.IV.1960, 1ex.; 16.V.1960, 1ex.; 6.IX.1970, 1ex.; 17.X.1960, 1ex., 岡本清²⁷)

姫路市(南畝町, -.1968, 1♂, 相坂耕作: 西庄, 13.V.1982, 1♂1♀, 相坂耕作: 広嶺山, 11.IV.1982, 1♂, 相坂耕作: 同, 22.IV.1982, 1♂, 相坂耕作)

波賀町(引原, 8.VI.1974, 1♂; 22.VI.1974, 1♂; 2.VI.1975, 1♂; 22.V.1975, 2♀, 遊磨正秀⁶⁴: 同, 11.VIII.1987, 1♂; 16.V.1988, 1♀; 7.VI.1989, 1♀; 7.IX.

1988, 1♀, 高島昭³⁵: 坂の谷, 4.IX.1998, 1♂, 高島昭)

上郡町(行頭, 2.V.1995, 1♂, 高島昭)

三日月町(下本郷, -.V.1984, -; -.VI.-, -, 川副昭人¹¹)

豊岡市(正法寺, 26.IV.1998, 1♂, 柴田剛)

関宮町(氷ノ山, -.1954, -, 山本義丸⁵⁷)

氷上郡(-.-.-, -, 山本義丸⁵⁰)

津名町(大町畑, 3.IV.1972, 4♂; 12.IV.1972, 2♂, 登日邦明⁴⁹: 同, 3.V.1972, 1♀, 登日邦明³⁰)

洲本市(物部,28.IV.1981,1ex.,林俊雅⁶:先山,一,一.
1973,一,石原ほか⁷:厚浜,1.VI.1973,一,藤富正昭⁵)
南淡町(阿万上町,一.IV~V,一,一;一.IX~X,一,一,藤平
明²:同,29.X.1959,一;10.V.1959,一;11.X.1959,一,
藤平明³:同,20.IV.1986,一,藤平明⁴)

7. *Dictyestera dissecta* (Walker) (3569)

キマクヨトウ

東北地方以南の各地に分布しているが、最近北海道南部、御蔵島でも発見された。年数回の発生と思われる、近畿地方では6月頃に第一化が羽化する。アマチャヅル、カラスウリなどウリ科植物を食草としている。県下では記録が少なく、東播地域、丹波地域では記録が見られないが、おそらく広く分布しているものと思われる。

【採集記録】

西宮市(中葭原町,29.XI.1975,1♂,東正雄⁴³)
猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,1♂,夏秋ほか¹⁴)
波賀町(引原,7.X.1988,1♂,高島昭³⁵)
温泉町(扇ノ山,25.VIII.1984,1ex.,谷田昌也⁴⁷)
北淡町(常陸寺山,19.VIII.1970,1♀,登日邦明⁵¹:同,7.
VII.1972,1♂;5.VIII.1972,1♂,登日邦明⁵²)
南淡町(灘黒岩,11.X.1998,一,藤平明⁴)

8. *Sideridis unica* (Leech) (3573)

ヒメムラサキヨトウ 注目種

南方系の種で関東南部、石川県付近を北限とし、九州、対馬まで分布しているが個体数は少ない。年1回、秋に出現する。県下では神戸市と高砂市の古い記録があるだけで、分布状況についての詳しいことはわからない。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,一,一,一,岡村八郎²⁹)
高砂市(一,22.IX.1965,1ex.,岡本清²⁶)

9. *Sideridis honeyi* (Yoshimoto) (3576)

フサクビヨトウ

北海道から九州に至る本土域と対馬に分布し、年2回の発生である。ナデシコ科植物を食草としており、カーネーションの害虫としても知られる。最近、フシグロからも幼虫が発見されている。県下では記録は少なく、淡路地域からは報告がない。淡路はカーネーションの産地として知られているが、今のところ本種による重大な被害はないようである。個体数は少ないもののおそらく県下全域に広く分布していると思われる。

【採集記録】

猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,1♀,夏秋ほか¹⁴)

黒田庄町(喜多,20.IV.1962,1ex.;11.V.1962,1ex.,岡本清²⁷)

波賀町(引原,8.VI.1974,2♂,遊磨正秀⁶⁴:同,18.VI.

1988,1♂;25.VII.1988,1♂,高島昭³⁵)

三日月町(下本郷,一.VI,一,一,川副昭人¹¹)

氷ノ山(一,一,一,一,遠山ほか³¹)

氷上郡(一,一,一,一,山本義丸⁵⁹)

10. *Sideridis mandarina* (Leech) (3577)

モモイロフサクビヨトウ 注目種

斑紋は前種に似るが、翅表はややピンク色を帯び、横線はやや太く形がくずれ、輪郭が鮮明でないことなどで区別できる。北海道から九州に至る本土域から記録されているがあまり多い種ではないようである。年1回、夏に出現し、幼虫はナデシコ科を食べる。県下では、氷ノ山で1例の報告があるが、それ以外には記録はなく、産出状況の確認は今後の調査に期待される。

【採集記録】

氷ノ山(一,一,一,一,遠山ほか³¹)

11. *Hadena aberrans* (Eversmann) (3578)

コハイロヨトウ 注目種

北海道から九州、対馬にかけて分布する。年1回、8~9月に出現する。幼虫はナデシコ科を食べると予想されていたが、フシグロを食べることがわかった。少ない種で、県下では神戸市と氷ノ山で記録されているだけである。

【採集記録】

神戸市(有馬,23.VIII.1960,一,森 博³⁰)

関宮町(氷ノ山,一.VIII.1954,一,山本義丸⁵⁷)

12. *Protomiselia bilinea* (Hampson) (3580)

フタスジヨトウ

日本の特産種で、東北地方を北限とし、本州、四国に産する。年2回の発生であるが、幼虫はスギ、ヒノキを食べることがわかっている。県下では各地で記録があり、発生地では個体数も多い。

【採集記録】

宝塚市(武庫川町,10.IV.1985,一,新家勝²³:西谷西部,
1.VIII.1987,3♂;6.VIII.1988,1♀;20.VIII.1988,4♂
;8.VI.1991,3♂1♀;15.V.1977,1♂;23.VI.1979,
1♀,東正雄⁴³:武田尾,25.V.1992,1♂,東正雄⁴³)

川西市(黒川,2.VIII.1997,1♂,高島昭³⁹)

猪名川町(上阿古谷,25.VIII.1981,1♂;21.VII.1982,
1♂;12.VIII.1982,1♂,夏秋ほか¹⁴)

黒田庄町(喜多,5.V.1961,1ex.;12.VI.1961,1ex.;1.IX.
1961,1ex.;5.IX.1962,1ex.,岡本清²⁷)

大河内町(長沢,29.VI.2000,1♀,高島昭)
 波賀町(引原,5.VII.1973,1♀; 8.VI.1974,1♂; 22.VI.
 1974,2♂; 29.VI.1974,2♂,遊磨正秀⁶⁴; 同,9.VII.
 1988,2♀; 9.VIII.1988,1♀,高島昭³⁵; 坂の谷,12.VI.
 1998,1♂,高島昭; 同,12.VIII.1998,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,17.VI.1989,2♂,高島昭³⁶)
 三日月町(下本郷,Ⅰ.VI.Ⅰ,川副昭人¹¹)
 和田山町(久世田,26.IV.1998,2♂,柴田剛)
 氷上郡(Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,山本義丸⁵⁰)
 南淡町(阿万上町,5.V.1983,Ⅰ; 3.VII.1986,Ⅰ,藤平明³,
 14.VII.1994,Ⅰ; 22.IX.1994,Ⅰ; 14.IX.1995,Ⅰ,藤平
 明⁴; 賀集,26.VII.1995,Ⅰ,藤平明⁴; 灘黒岩,1.IX.
 1997,Ⅰ,藤平明⁴)

13. *Brithys crini* (Fabricius) (3581)

ハマオモトヨトウ 注目種

房総半島から九州にかけての南岸沿いに分布し、種子島、屋久島にも産する。これは、食草であるハマオモトの分布とほぼ一致している。しかし、奄美大島以南からは発見されていない。また、海岸沿いでない岐阜県養老町などからも見つかり、植栽されたハマオモトに発生することもあるようだ。県下では、津名町で植栽されたハマオモトより得られた幼虫を羽化させた例があるほか、神戸市の沿岸部で得られている。土着しているかどうかは不明であるが、ハマオモトの植栽地など今後も県下で採集される可能性はある。兵庫県版レッドデータブックではCランク種に指定されている。

【採集記録】

神戸市(須磨裏通,19.XI.1997,幼虫多数,村瀬すみ¹³)
 津名町(佐野,24.VIII.1978,1♂(飼育),藤富正明⁵³)

14. *Xylopolia bella* (Butler) (3582)

クロスジキリガ

日本の特産種で、宮城県以南、奄美大島、沖縄まで分布する。幼生期は不詳である。年1回、3月頃から出現する。県下では平地から低山地にかけて記録があるが比較的少ない種である。中東播地域や丹波地域でも得られるだろう。

【採集記録】

川西市(一の鳥居,2.IV.1985,3♂; 6.IV.1985,7♂1♀,夏秋ほか¹⁸)
 猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,1♂,夏秋ほか¹⁶)
 相生市(瓜生,18.IV.1996,1♂,高島昭⁴⁰)
 上郡町(行頭,7.IV.1995,1♂,高島昭³⁷)
 豊岡市(正法寺,5.IV.1998,1♂,柴田剛³²)
 南淡町(賀集,25.IV.1994,Ⅰ,藤平明⁴; 福良甲,13.IV.

1996,Ⅰ,藤平明⁴; 福良向谷,22.IV.1997,Ⅰ,藤平明⁴)

15. *Egira saxeae* (Leech) (3583)

ケンモンキリガ

♂と♀とでは色彩が異なり、♂では暗い灰黒色に褐色を混じるが、♀では褐色部を欠き一様な銀灰色となる。北海道南部から九州、屋久島まで分布する。年1回、4月頃に出現する。幼虫はヒノキ、スギを食べることがわかっている。県下では、中東播南部地域を除いて記録がある。神戸・阪神地域と西播地域との間に広い分布空白域があるが、おそらく広く分布するものと思われる。発生地での個体数は多く、少なくとも西播の山地では最も普通で多産するキリガである。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,田中蕃⁴⁶; 同,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,岡村八郎²⁰)
 宝塚市(武庫川町,9.IV.1985,Ⅰ,新家勝²³; 西谷西部,14.IV.1990,1♂; 18.IV.1992,1♀,東正雄⁴³)
 猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,1♂,夏秋ほか¹⁶)
 大河内町(長沢,14.IV.2000,1♀,高島昭)
 安富町(大河溪谷,16.IV.1999,1♂,高島昭; 同,26.IV.1999,1♀,高島昭)
 波賀町(引原,22.IV.1975,2♂; 22.IV.1977,6♂6♀; 8.V.1977,2♂1♀; 3.V.1979,32♂11♀,遊磨正秀⁶⁴; 同,18.IV.1982,1♂1♀; 27.IV.1982,2♂2♀; 4.V.1983,2♀,稲田和久⁸; 同,24.III.1988,1♀; 28.IV.1988,3♂2♀; 16.V.1988,1♀,高島昭³⁵; 同,10.IV.1998,2♂3♀,高島昭; 同,24.IV.1998,1♂,高島昭; 坂の谷,17.IV.1998,7♂1♀,高島昭)
 上郡町(行頭,7.IV.1995,2♂1♀; 2.V.1995,1♂,高島昭³⁷)

三日月町(下本郷,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,川副昭人¹¹)
 温泉町(扇ノ山,2.VI.1984,1♀,谷田昌也⁴⁷)
 大屋町(横河溪谷,17.IV.1999,2♂,高島昭; 氷ノ山,5.V.2000,1♂,高島昭)
 関宮町(大段ヶ平,2.VI.2000,目,高島昭)
 柏原町(柏原,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,山本義丸⁵¹)
 市島町(妙高山,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,Ⅰ,山本義丸⁵¹)
 南淡町(阿万上町,25.IV.1958,Ⅰ,藤平明⁴)

16. *Panolis japonica* Draudt (3584)

マツキリガ

本州から九州にかけてと対馬、屋久島に分布する。マツ属を食べることが知られており、とくにアカマツの分布と本種の分布が一致している。年1回、4月頃に出現する。県下では広く分布し、但馬地域を除く全域に記録がある。県下のキリガでは前種と

もに普通種のひとつである。但馬地域にも産すると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁶: 諏訪山公園, -.
IV.1988, -, 山口福男⁵⁶)

宝塚市(中山寺, 8.IV.1978, 1♂, 東正雄⁴³: 西谷西部,
13.IV.1990, 1♂; 13.IV.1991, 1♀, 東正雄⁴³)

川西市(一の鳥居, 2.IV.1985, 2♂2♀; 6.IV.1985, 5♀;
26.IV.1985, 3♀, 夏秋ほか¹⁶: 黒川, 8.IV.1996, 1♂, 高
島昭³⁹)

黒田庄町(喜多, 3.IV.1959, 1ex.; 15.III.1960, 1ex.; 19.
IV.1960, 1ex., 岡本清²⁷)

姫路市(広嶺山, -.-.1982, -, 木村三郎¹²: 同, 5.IV.
1982, 1♂, 相坂耕作: 同, 11.IV.1982, 1♀, 相坂耕作:
太市, 21.III.1995, 2♂, 高島昭)

安富町(大河溪谷, 16.IV.1999, 1♂, 高島昭)

波賀町(引原, 7.IV.1975, 3♂; 22.IV.1975, 1♂, 遊磨正
秀⁴⁴: 同, 2.V.1981, 1♂; 18.IV.1982, 1♂; 4.IV.
1983, 1♂, 稲田和久⁹: 同, 10.IV.1998, 1♂1♀, 高島
昭)

相生市(三濃山, 13.IV.2000, 1♂1♀, 高島昭)

上郡町(行頭, 31.III.1995, 1♂1♀, 高島昭³⁷: 同, 9.IV.
1999, 1♀, 高島昭)

三日月町(下本郷, -IV.-, -; -.V.1984, -, 川副昭人¹¹)

柏原町(柏原, -.-.-, 山本義丸⁹¹)

洲本市(中津川, 7.IV.1972, 1♂3♀, 登日邦明⁴⁹: 厚浜,
4.IV.1978, -; 1.IV.1979, -, 藤富正昭⁵: 宇山, 12.IV.
1981, 1ex., 林俊雅⁹)

南淡町(阿万上町, 13.IV.1963, -; 15.IV.1967, -, 藤平
明²: 同, 9.III.1998, -, 藤平明⁴)

17. *Clavipalpus aurariae* (Oberthür) (3587)

キンイロキリガ

前翅外縁部は波状を呈する。北海道から九州に至る本土域と対馬に産する。年1回、4月頃に出現する。幼虫は各種の広葉樹につく。県下では、各地に普通に見られるが、中東播南部や丹波地域、淡路北部からは記録がない。前2種よりも個体数は少ないようで、発生時期もやや遅めのものである。記録がない地域の山地帯からも見つかるだろう。

【採集記録】

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁶: 同, -.-.-, 岡
村八郎²⁹: 布引公園, 1.IV.1982, 1ex.(目), 八木剛⁵⁶)

宝塚市(西谷西部, 20.V.1978, 1♀, 東正雄⁴³)

川西市(一の鳥居, 26.IV.1985, 1♀, 夏秋ほか¹⁶: 黒川,
3.V.1997, 1♂, 高島昭³⁹)

大河内町(長沢, 23.V.2000, 1♂, 高島昭)

安富町(大河溪谷, 7.V.1999, 1♂, 高島昭)

波賀町(引原, 18.IV.1974, 1♂; 22.IV.1975, 1♂; 22.V.
1976, 1♀; 22.IV.1977, 1♀, 遊磨正秀⁴⁴: 同, 22.V.
1981, 1♀; 7.VI.1981, 1♀; 18.IV.1982, 1♀; 4.IV.
1983, 1♂2♀, 稲田和久⁹: 同, 28.IV.1988, 3♀, 高島昭³⁶: 同, 10.IV.1998, 2♂, 高島昭: 同, 24.IV.1998, 1♀,
高島昭)

相生市(三濃山, 13.IV.2000, 1♂, 高島昭)

上郡町(行頭, 2.V.1995, 1♂1♀, 高島昭³⁷)

温泉町(扇ノ山, 2.VI.1984, 1ex., 谷田昌也⁴⁷)

大屋町(横河溪谷, 2.V.1999, 1♂, 高島昭)

氷ノ山(-.-.-, -, 遠山ほか³¹)

関宮町(大段ヶ平, 2.VI.2000, 1♂, 高島昭)

南淡町(賀集, 3.V.1995, -, 藤平明⁴)

18. *Perigrapha hoenei* Püngeler (3588)

スギタニキリガ

胸背中の冠毛は稜状に隆起する。北海道から九州に至る本土域と対馬、屋久島に分布する。年1回、温暖地では3月から出現する。多食性であることが知られている。県下では前種と同様、やや産地は限られ、神戸・阪神地域、中東播北部、西播地域、但馬地域から記録されている。個体数はそれほど多くない。人の気配にかなり敏感で糖蜜採集時にもすぐに飛び立つ。灯火に飛来する。

【採集記録】

神戸市(有馬, 5.IV.1970, 1♀; 10.IV.1972, 1♂, 遊磨正
秀⁴⁴: 布引公園, 16.III.1985, 1ex.(目), 八木剛⁵⁶)

西宮市(生瀬, 5.IV.1972, 1♂, 遊磨正秀⁴⁴)

川西市(東多田, 19.III.1983, 1♂, 夏秋ほか¹⁶: 一の鳥
居, 27.III.1984, 3♂, 夏秋ほか¹⁶)

香寺町(中村, 19.III.1983, 1♀, 稲田和久⁹)

大河内町(長沢, 14.IV.2000, 1♂, 高島昭)

安富町(大河溪谷, 27.III.1999, 4♂, 高島昭)

波賀町(引原, 2.IV.1976, 1♂1♀, 遊磨正秀⁴⁴: 坂の谷,
17.IV.1998, 1♂2♀, 高島昭)

上郡町(行頭, 7.IV.1995, 1♂, 高島昭³⁷: 同, 9.IV.1999,
1♀, 高島昭)

三日月町(下本郷, -III.1984, -, 川副昭人¹¹)

豊岡市(山本, 31.V.1973, -, 山根政之³³)

大屋町(横河溪谷, 17.IV.1999, 1♀, 高島昭)

19. *Orthosia evanida* (Butler) (3591)

カバキリガ

前翅は灰褐色ないし紫灰色で、亜外縁線は太く黄褐色を呈し鮮明である。北海道から九州にかけて分布し、温暖地では3月下旬から出現する。幼虫は各

種の広葉樹につく。県下では、神戸・阪神地域のほか、西播地域、淡路地域などで記録がある。山地よりむしろ平地から里山にかけてが分布の中心域のようである。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁶: 同, -.-.-, 岡村八郎²⁹: 布引公園, 16.III.1985, 1♂, 八木剛⁵⁶: 諏訪山公園, - .III.1988, -, 山口福男⁵⁶)

宝塚市(武田尾, 24.III.1989, 1♂, 東正雄⁴³)

川西市(一の鳥居, 24.III.1985, 1♂; 2.IV.1985, 1♀, 夏秋ほか¹⁶: 東多田, 27.III.1983, 2♂3♀, 夏秋ほか¹⁶)

猪名川町(上阿古谷, 6.IV.1983, 1♂1♀; 27.III.1984, 3♂, 夏秋ほか¹⁶)

大河内町(長沢, 29.IV.2000, 1♂, 高島昭)

波賀町(引原, 7.IV.1975, 12♂1♀; 30.III.1976, 1♂; 2.IV.1976, 1♂, 遊磨正秀⁴⁴: 坂の谷, 17.IV.1998, 1♂, 高島昭)

三日月町(下本郷, - .III.1984, -, 川副昭人¹¹)

洲本市(中津川, 7.IV.1972, 1♂2♀, 登日邦明⁴⁹: 宇山, 16.III.1981, 1ex.; 22.III.1981, 2exs., 林俊雅⁶)

南淡町(阿万上町, 27.II.1993, -, 藤平明⁴: 福良向谷, 26.III.1997, -, 藤平明⁴)

20. *Orthosia aoyamensis* (Matsumura) (3592)

アオヤマキリガ 注目種

北海道から九州にかけて分布するが山地性の種である。年1回春に出現し、各種広葉樹を食べることが知られているが、近畿地方ではあまり記録がないと思われる。県下では筆者が氷ノ山南東麓の山地帯で記録している。大型種で目立つうえ、個体数はそれほど少ないものではないと思われるが、これまで未記録であったのは早春の高地帯ではこれまでほとんど調査されていないためであろう。県北の山地帯、六甲山地では探せば産地が見つかると思われる。灯火によく飛来する。

〔採集記録〕

波賀町(引原, 24.IV.1998, 1♂, 高島昭⁴¹: 坂の谷, 17.IV.1998, 2♂, 高島昭⁴¹)

大屋町(氷ノ山, 5.V.2000, 1♂, 高島昭)

21. *Orthosia nigromaculata* (Höne) (3593)

カギモンキリガ

暖地性の種で佐渡、宮城県を北限として、九州、対馬、屋久島にかけて分布する。幼虫は常緑樹林内のツルグミ、ナツグミを食べる。年1回、3~4月に羽化する。県下での産出は南部地域に限られ、しかも淡路地域以外は局地的で少ないようである。これまで川西市、三日月町、津名町、洲本市、三原町

から報告されている。常緑林が残っている寺社林などを調べると案外産地が見つかるかもしれない。

〔採集記録〕

川西市(満願寺, 19.IV.1933, 1♂, 東正雄⁴³)

三日月町(下本郷, - .IV.-, -, 川副昭人¹¹)

津名町(大町畑, 12.IV.1972, 1♂, 登日邦明⁴⁹)

洲本市(中津川, 7.IV.1972, 1♂3♀, 登日邦明⁴⁹: 厚浜, 15.IV.1978, -, 藤富正昭⁵: 宇山, 6.IV.1981, 1ex., 林俊雅⁶)

三原町(八木養宜, 6.IV.1992, -, 藤富正昭⁵)

22. *Orthosia lizetta* Butler (3594)

クロミミキリガ

亜外縁は前縁の下方で小さく角をなして屈曲し、以下後縁まではほぼ外縁に平行して走り、M₂脈付近で両側を暗色影に挟まれる。腎状紋の下半は通常暗色に染められる。北海道から九州にかけて広く分布する。年1回、3月下旬から出現する。幼虫は各種の広葉樹につく。県下では広く分布しているが、東播、北但地域からは記録がない。おそらく普遍的に分布するものと思われる。山地帯よりむしろ平地に多い。

〔採集記録〕

神戸市(摩耶山, -.-.-, 田中蕃⁴⁶)

川西市(一の鳥居, 24.III.1985, 1♂; 2.IV.1985, 1♂2♀, 夏秋ほか¹⁶)

猪名川町(上阿古谷, 6.IV.1983, 2♀, 夏秋ほか¹⁶)

姫路市(広峰神社, 26.III.1983, 2♀, 稲田和久⁹)

香寺町(中村, 19.III.1983, 1♀, 稲田和久⁹)

御津町(室津赤碕, 25.II.1985, 1♂; 22.III.1985, 3♀, 稲田和久⁹)

波賀町(引原, 6.V.1974, 1♂2♀; 7.IV.1975, 1♀, 遊磨正秀⁴⁴: 同, 27.IV.1982, 1♀, 稲田和久⁹)

上郡町(行頭, 31.III.1995, 1♂, 高島昭³⁷)

三日月町(下本郷, - .IV.-, -; - .V.1984, -, 川副昭人¹¹)

大屋町(横行溪谷, 8.V.1999, 1♂, 高島昭)

柏原町(柏原, -.-.-, -, 山本義丸⁹¹)

津名町(大町畑, 3.IV.1972, 2♀; 5.IV.1972, 1♀; 12.IV.1972, 2♀, 登日邦明⁴⁹: 中津川, 7.IV.1972, 3♂1♀, 登日邦明⁴⁹: 宇山, 6.IV.1981, 1ex., 林俊雅⁶)

南淡町(阿万上町, 27.III.1993, -, 藤平明⁴: 灘大川, 30.III.1994, -, 藤平明⁴)

23. *Orthosia paromoea* (Hampson) (3595)

ブナキリガ

前種に似るが、亜外縁線は翅頂下方で角を作ることなく全長にわたって外縁に平行する。環状紋、腎

状紋は大きく、淡色冠で縁取られ、腎状紋下半部は通常暗色に染められない。日本特産種で、北海道から九州にかけて広く分布する。年1回、3～4月に発生する。幼虫は各種広葉樹につく。県下では、比較的記録例は少なく、主に神戸・阪神地域、西播地域、淡路南部の低山地で得られているが、筆者は播但山地でも確認しており、山地帯にも広く分布していると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,30.III.1962,1♂¹; 14.IV.1963,1♀,田中蕃⁴⁶:布引公園,16.III.1985,3♂1♀,八木剛⁵⁵)
川西市(東多田,19.III.1983,1♀; 27.III.1983,1♂; 29.III.1984,1♀,夏秋ほか¹⁶:一の鳥居,24.III.1985,1♂1♀,夏秋ほか¹⁶)
猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,1♂¹; 27.III.1984,1♂²♀,夏秋ほか¹⁶)
御津町(室津赤碕,5.III.1985,5♀,稲田和久⁹)
姫路市(太市,23.IV.1995,1♂,高島昭)
波賀町(引原,2.IV.1976,1♂,遊磨正秀⁶⁴:同,28.IV.1988,1♀,高島昭)
上郡町(行頭,31.III.1995,1♂,高島昭³⁷:八保,9.IV.1999,1♂,高島昭)
三日月町(下本郷, - .III.1984, -, 川副昭人¹¹)
南淡町(阿万上町,1.IV.1993, -, 藤平明⁴:灘大川,30.III.1994, -, 藤平明⁴)

24. *Orthosia fausta* Leech (3596)

クロテンキリガ

日本特産種である。宮城県・福井県以南九州、奄美、沖縄、西表島、八丈島にかけて分布する。暖帯性でその分布域はカギモンキリガとほぼ重なる。前翅の色彩の変異は大きい。幼虫は多食性で、各種の落葉、常緑広葉樹につく。年1回、3～4月に出現する。県下では神戸・阪神地域、中西播地域、淡路地域で記録されているだけであるが、これらの地域では平地から低山地にかけて普通に見られ、カギモンキリガより分布は広い。おそらく東播地域にも広く分布していると思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山, - . - . -, 田中蕃⁴⁶:布引公園,12.III.1983,4♂; 25.III.1983,1♂; 30.III.1983,1♀; 16.III.1985,3♂,八木剛⁵⁵:鉢伏山,21.II.1990,1♂1♀,八木剛⁵⁶)
宝塚市(宝梅1,24.III.1992,1♂,東たか⁴³)
川西市(一の鳥居,2.IV.1985,1♀; 6.IV.1985,1♀,夏秋ほか¹⁶:東多田,19.III.1983,2♂,夏秋ほか¹⁶:笹部,20.III.1983,2♂,夏秋ほか¹⁶:黒川,3.V.1997,1♂,高島昭³⁹)

姫路市(広峰神社,26.III.1983,2♀,稲田和久⁹:豊富町神谷,18.III.1984,1♂,稲田和久⁹)
香寺町(中村,19.III.1983,4♂3♀,稲田和久⁹)
御津町(室津賀茂神社,16.III.1981,1♂,稲田和久⁹:稲富,17.III.1981,1♀,稲田和久⁹)
相生市(三濃山,24.III.1983,1♀,稲田和久⁹)
上郡町(行頭,31.III.1995,1♂³⁷; 2.V.1995,1♀,高島昭³⁷)
三日月町(下本郷, - .IV. -, - .V.1984, -, 川副昭人¹¹)
津名町(大町畑,3.IV.1972,1♂³⁷; 5.IV.1972,1♀,登日邦明⁴⁹)
洲本市(中津川,7.IV.1972,3♂1♀,登日邦明⁴⁹)
南淡町(賀集,6.IV.1994, -, 藤平明⁴:灘大川,30.III.1994, -; 14.IV.1994, -, 藤平明⁴)

25. *Orthosia angustipennis* (Matsumura) (3597)

ホソバキリガ

前翅の色彩には変異がある。斑紋はクロミキリガによく似ているが、亜外縁線の後縁近くで内方へ小さく角張ること、腎状紋の外方は内方に「く」字状に切れ込むことで区別できる。北海道から九州、対馬にかけて分布する。年1回、3～4月に出現する。県下では、東播地域を除いて記録がある。おそらく普遍的に分布するものと思われる。

【採集記録】

神戸市(有馬,5.IV.1970,1♂¹; 16.III.1971,1♂,遊磨正秀⁶³:布引公園,16.III.1985,5♂,八木剛⁵⁵:諏訪山公園, - .III.1987, -, 山口福男⁵⁶:鉢伏山,21.II.1990,4♂2♀,八木剛⁵⁶)
川西市(東多田,19.III.1983,1♂,夏秋ほか¹⁶:一の鳥居,24.III.1985,2♂1♀; 2.IV.1985,2♀,夏秋ほか¹⁶:平野,9.III.1993,1♂,東良雄⁴⁴)
姫路市(広峰神社,26.III.1983,1♂,稲田和久⁹)
御津町(室津赤碕,5.III.1983,1♀; 9.III.1983,1♀; 25.II.1985,5♂1♀,稲田和久⁹:稲富,17.III.1983,2♀,稲田和久⁹)
波賀町(引原,7.IV.1975,1♀; 2.IV.1976,1♀,遊磨正秀⁶⁴:同,24.III.1988,1♀,高島昭³⁵)
三日月町(下本郷, - .III.1984, -; - .IV. -, -, 川副昭人¹¹)
豊岡市(正法寺,18.III.1998,1♀,柴田剛)
柏原町(柏原, - . - . -, 山本義丸⁹¹)
南淡町(阿万上町,26.III.1985, -, 藤平明³:同,6.II.1994, -, 藤平明⁴)

26. *Orthosia ella* (Butler) (3598)

ヨモギキリガ 注目種

北海道から四国にかけて分布し、幼虫はヨモギの生長点を綴る。年1回、4～5月に羽化するが、比較的少ない種で標本は得にくい。県下では神戸市摩耶山で得られた1例が知られるだけであったが、人と自然の博物館所蔵標本を調査した結果、大河内町産の標本を確認した。山地帯の草原に稀ながら分布しているようである。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,4.VI.1965,1♂,田中蕃⁴⁶)
大河内町(砥峰高原,13.V.1991,1♂,八木剛*)

27. *Orthosia limbata* (Butler) (3599)

シロヘリキリガ

東北地方から九州、対馬にかけて分布するが、北海道早来町でも記録があるという。年1回春に出現し、幼虫はサクラを食べる。県下では、東播地域、丹波地域を除く全域で得られている。おそらくこれらの地域にも広く分布すると思われる。

【採集記録】

神戸市(布引公園,16.III.1985,2♂,八木剛⁵⁵:諏訪山公園,-,III.1985,-,山口福男⁵⁶)
宝塚市(武庫川町,10.IV.1985,-,新家勝²³)
川西市(東多田,27.III.1983,1♂,夏秋ほか¹⁰:一の鳥居,24.III.1985,1♂;2.IV.1985,1♀,夏秋ほか¹⁰)
猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,2♂,夏秋ほか¹⁰)
姫路市(広嶺山,31.III.1982,1♂,相坂耕作:同,22.IV.1982,1♂,相坂耕作:広峰神社,26.III.1983,1♀,稲田和久⁹)
御津町(室津赤碕,5.III.1985,1♂3♀,稲田和久⁹)
波賀町(引原,7.IV.1975,1♂2♀;2.IV.1976,1♂,遊磨正秀⁶⁴:同,4.IV.1983,1♂;27.IV.1983,1♀,稲田和久⁹)
相生市(瓜生,28.III.1995,1♀,高島昭³⁶:三濃山,24.III.1983,1♀,稲田和久⁹)
上郡町(行頭,31.III.1995,2♂,高島昭³⁷)
三日月町(下本郷,-,III.1984,-;-IV.-,-,川副昭人¹¹)
豊岡市(山本,24.X.1973,-,山根政之³⁴)
津名町(大町畑,5.IV.1972,1♂,登日邦明⁴⁰)
洲本市(厚浜,20.IX.1981,-,藤富正昭⁵:宇山,18.III.1982,1ex.,林俊雅⁹:中津川,7.IV.1972,3♀,登日邦明⁴⁰)
三原町(八木養宜,1.IV.1992,-;3.IV.1993,-,藤富正昭⁵)
南淡町(阿万上町,31.III.1974,-,藤平明²:同,15.III.1986,-,藤平明²:賀集,14.IV.1994,-,藤平明⁴)

28. *Perigrapha munda* (Denis & Schiffermüller)

(3601) スモモキリガ

亜外縁線の内側に2個の小黒点を表すことで区別できる。個体によってはこの小黒点は消失するが、そのあとに必ず淡褐色の痕跡を残す。北海道から九州にかけてと対馬に分布する。年1回、3月から出現する。幼虫は各種広葉樹につき、スモモに固有なわけではない。県下では、東播地域を除く全域で見られ、個体数も多いようである。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中蕃⁴⁶:布引公園,12.III.1983,2♂;8.IV.1983,1♂;16.III.1985,1♂2♀,八木剛⁵⁵:鉢伏山,21.II.1990,5♂,八木剛⁵⁵)
宝塚市(武田尾,2.VI.1987,1♀,東正雄⁴³)
川西市(東多田,19.III.1983,1♂3♀,夏秋ほか¹⁰:一の鳥居,24.III.1985,1♂,夏秋ほか¹⁰:平野,8.IV.1992,1♂;12.IV.1992,1♂,東良雄⁴³)
猪名川町(上阿古谷,27.III.1984,1♂6♀,夏秋ほか¹⁰)
姫路市(広嶺山,8.IV.1982,1♂,相坂耕作)
御津町(室津赤碕,17.II.1983,1♂;5.III.1983,1♂;9.III.1983,1♂,稲田和久⁹:稲富,17.III.1983,1♀,稲田和久⁹)
波賀町(引原,7.IV.1975,2♂10♀;22.IV.1975,1♂;2.IV.1976,2♂1♀,遊磨正秀⁶⁴:同,18.IV.1982,1ex.;4.IV.1983,2♀;27.IV.1983,1♂,稲田和久⁹:同,27.III.1988,1♂;28.IV.1988,1♂,高島昭³⁵)
相生市(瓜生,28.III.1995,1♂,高島昭³⁶)
上郡町(行頭,9.IV.1999,1♀,高島昭)
三日月町(下本郷,-,III.1984,-;-IV.-,-,川副昭人¹¹)
豊岡市(山本,21.X.1972,-,山根政之³⁴)
氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁵⁰)
洲本市(中津川,7.IV.1972,1♀,登日邦明⁴⁰:宇山,20.III.1981,1ex.,林俊雅⁹)
南淡町(阿万上町,12.III.1961,-,藤平明²:同,20.III.1963,-,藤平明²:同,27.II.1992,-,藤平明⁴)

29. *Orthosia odiosa* (Butler) (3602)

チャイロキリガ

前翅は暗赤色で斑紋は鮮明でないが、亜外縁線外側の白色影は常に現れ、本種の識別点として利用できる。北海道から九州に至る本土域に分布し、年1回、4月に出現する。幼虫は各種広葉樹につく。県下では同属の各種に比べるとやや少ないが平地から山地まで広く産する。東播地域、北但地域、丹波地域からは未記録である。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中蕃⁴⁶:諏訪山公園,-,IV.1997,-,山口福男⁵⁶)

川西市(一の鳥居,2.IV.1985,1♀; 6.IV.1985,2♀,夏秋ほか¹⁶⁾)

猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,1♀,夏秋ほか¹⁶⁾)

姫路市(広嶺山,-.-.1982,-,木村三郎¹²⁾: 太市,23.IV.1995,1♀,高島昭)

大河内町(長沢,14.IV.2000,1♂,高島昭)

安富町(大河溪谷,27.III.1999,1♂,高島昭)

波賀町(引原,7.IV.1975,3♂1♀; 2.IV.1976,1♂; 22.IV.1977,1♀,遊磨正秀⁶⁴⁾: 同,18.IV.1982,1ex.; 4.IV.

1983,1♀,稲田和久⁹⁾: 同,24.III.1988,1♂; 28.IV.

1988,1♂,高島昭³⁵⁾: 坂の谷,17.IV.1998,2♂,高島昭)

相生市(三濃山,13.IV.2000,1♂1♀,高島昭)

大屋町(横行溪谷,17.IV.1999,1♂,高島昭)

津名町(大町畑,14.III.1973,1♂,登日邦明⁶⁰⁾)

南淡町(阿万上町,29.III.1992,-,藤平明⁴⁾)

30. *Orthosia cedermarki* (Bryk) (3605)

ウスベニキリガ 注目種

胸背及び前翅は肉紅色、後翅は白色、先端部は紅色を帯びる。北海道から九州に至る本土域に分布する。一般に少ない種であるという。年1回、4月下旬に出現する。県下での採集記録は少なく、神戸・阪神地域、東播地域と淡路南部に限られている。よく探せば少ないながら他の地域にも分布していると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,21.IV.1968,1♂,岡村八郎²⁹⁾)

西宮市(角石町,10.V.1980,2exs.; 15.V.1981,2exs.,西山ほか¹⁾)

宝塚市(武庫川町,24.IV.1982,-,新家勝²⁰⁾)

黒田庄町(喜多,-.V.1959,1ex.; 1.V.1960,1ex.,岡本清²⁷⁾)

南淡町(阿万上町,15.IV.1988,-,藤平明⁴⁾)

31. *Orthosia gothica* (Linnaeus) (3607)

カシワキリガ

北海道から九州に至る本土域に産する。年1回、4月に出現し、幼虫は多食性で各種広葉樹につく。和名は特定の食樹を示すものではない。県下では東播地域を除いて記録されている。おそらく普遍的に分布すると思われる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃⁶⁾: 布引公園,25.III.1982,-(目); 30.III.1983,-(目); 16.III.1985,1ex.

(目),八木剛⁵⁵⁾: 諏訪山公園,-.V.1988,-,山口福男⁵⁶⁾)

川西市(一の鳥居,24.III.1985,1♀; 2.IV.1985,3♀; 6.

IV.1985,2♀,夏秋ほか¹⁶⁾: 平野,8.IV.1992,1♂; 12.IV.1992,1♂1♀,東良雄⁴³⁾)

猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,2♀,夏秋ほか¹⁶⁾)

姫路市(太市,21.III.1995,1♂,高島昭: 同,8.IV.1995,1♂,高島昭)

御津町(室津賀茂神社,12.III.1981,1♂,稲田和久⁹⁾: 稲富,17.III.1983,1♀,稲田和久⁹⁾)

波賀町(引原,7.IV.1975,1♂2♀; 22.IV.1977,3♀,遊磨正秀⁶⁴⁾: 坂の谷,28.IV.1998,1♀,高島昭)

相生市(瓜生,23.III.1995,1♂,高島昭³⁵⁾: 同,31.III.1997,1♂,高島昭)

上郡町(行頭,7.IV.1995,1♂,高島昭³⁷⁾)

三日月町(下本郷,-.III.1984,-;-.-.IV.-,-,川副昭人¹¹⁾)

豊岡市(正法寺,22.III.1998,1♂,柴田剛)

氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁵⁹⁾)

津名町(大町畑,5.IV.1972,1♀,登日邦明⁶⁰⁾)

洲本市(宇山,22.III.1981,1ex.; 7.IV.1981,1ex.,林俊雅⁶⁾)

南淡町(阿万上町,20.III.1963,-,藤平明²⁾: 同,13.IV.

1983,-,藤平明³⁾: 灘大川,30.III.1994,-,藤平明⁴⁾)

32. *Orthosia carnipennis* (Butler) (3608)

アカバキリガ

キリガの仲間では大型。北海道から九州、対馬にかけて分布し、産出は普遍的。年1回、3~4月に出現する。幼虫は多種の広葉樹につく。県下では全域に普通に産するが、個体数はそれほど多くない。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,田中蕃⁶⁾: 新神戸駅,8.IV.

1983,1♂,八木剛⁵⁵⁾: 諏訪山公園,-.III.1988,-,山口福男⁵⁶⁾)

宝塚市(武庫川町,24.IV.1982,-,新家勝²⁰⁾: 売布神社,19.IV.1990,1♂,東正雄⁴³⁾)

川西市(一の鳥居,2.IV.1985,4♂; 6.IV.1985,1♂1♀,夏秋ほか¹⁶⁾: 平野,8.IV.1992,1♂; 12.IV.1992,1♂1♀,東良雄⁴³⁾)

猪名川町(上阿古谷,6.IV.1983,3♂2♀,夏秋ほか¹⁶⁾)

黒田庄町(喜多,3.IV.1959,1ex.; 9.IV.1962,1ex.; 11.IV.1962,1ex.,岡本清²⁷⁾)

姫路市(広嶺山,-.-.1982,-,木村三郎¹²⁾: 同,5.IV.

1982,2♂,相坂耕作: 同,8.IV.1982,1♀,相坂耕作: 11.IV.1982,1♂,相坂耕作: 同,22.IV.1982,1♂,相坂耕作)

大河内町(長沢,14.IV.2000,1♂,高島昭)

御津町(室津賀茂神社,16.III.1982,1♂; 22.III.1985,1♂3♀,稲田和久⁹⁾)

波賀町(引原,18.IV.1982,1♂,稲田和久⁹⁾: 同,7.IV.

1975,4♂⁷ ; 3.V.1978,1♂⁷ ; 3.V.1979,1♂⁷ 1♀,遊磨正秀⁶⁴ ; 同,27.IV.1982,1♂⁷ 1♀ ; 4.IV.1983,1♂⁷,稲田和久⁹ ; 同,24.III.1988,1♂⁷ ; 28.IV.1988,1♂⁷,高島昭³⁵⁾

三日月町(下本郷,-.IV.-,- ; -.V.1984,-,川副昭人¹¹⁾

氷上郡(-,-.-,-,山本義丸⁵⁹⁾

津名町(大町畑,12.IV.1972,1♀,登日邦明⁴⁹⁾

洲本市(厚浜,6.IV.1978,- ; 26.III.1979,-,藤富正昭⁶⁾

南淡町(阿万上町,11.IV.1983,-,藤平明³ ; 同,27.III.1993,-,藤平明⁴⁾

33. *Mythimna turca* (Linnaeus) (3610)

フタオビキヨトウ

前翅は強く赤褐色を帯び、後翅も同様である。腎状紋の白色条は下端で脹らむことなく、ほぼ単調な直線状。北海道から九州、対馬まで分布し、本属中では最も普通種である。幼虫はヨシ、ピロードスゲ、カワラスゲを食べる。年2回の出現で5~6月及び9月に出現する。県下では各地に普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,-,田中蕃⁴⁰ ; 同,-.-.-,-,岡村八郎²⁰ ; 谷上,2.IX.1933,1♂⁷ ; 5.X.1934,1♀,東正雄⁴³⁾

宝塚市(南口2丁目,18.V.1982,-,新家勝²⁰ ; 武庫川町,2.VI.1989,-,新家勝²⁴ ; 西谷西部,14.V.1977,1♂⁷ ; 20.V.1978,1♂⁷,東正雄⁴³⁾

川西市(黒川,7.IX.1996,1♂⁷ ; 7.VI.1997,1♂⁷,高島昭³⁹⁾

猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,5♂⁷,夏秋ほか¹⁴⁾

黒田庄町(喜多,16.V.1960,1ex. ; 21.V.1960,1ex. ; 29.VI.1960,1ex.,岡本清²⁷⁾

姫路市(太市,-.-.-.1991,-,丸谷ほか¹⁶⁾

波賀町(引原,8.VI.1974,1♀ ; 2.VI.1975,1♂⁷ 1♀,遊磨正秀⁶⁴ ; 坂の谷,12.VIII.1998,1♂⁷,高島昭)

三日月町(下本郷,-.VI.-,- ; -.IX.-,-,川副昭人¹¹⁾

上郡町(行頭,15.V.1995,1♂⁷,高島昭)

豊岡市(山本,26.V.1973,- ; 2.VI.1973,-,山根政之³³ ; 正法寺,10.IX.1998,1ex.,柴田剛)

氷ノ山(-.-.-,-,遠山ほか³¹⁾

氷上郡(-,-.-.-,-,山本義丸⁵⁹⁾

津名町(大町畑,29.IV.1972,1♀ ; 3.V.1972,1♀ ; 5.V.1972,1♂⁷ 1♀,登日邦明⁴⁹⁾

南淡町(阿万上町,14.V.1959,- ; 3.VI.1969,-,藤平明² ; 同,19.V.1993,-,藤平明⁴ ; 筒井,15.V.1993,-,藤平明⁴ ; 福良向谷,5.VI.1996,-,藤平明⁴⁾

34. *Mythimna matsumuriana* (Bryk) (3611)

ミヤマフタオビキヨトウ 注目種

前種と近縁であるが大型で、前翅は一般に灰黄色。腎状紋の白色状の上半部は細い暗色に縁取られて下端で膨らみ、その内側に暗色点を表す。北海道から九州まで分布するが、西南日本では前種より局地的で少ない。年1回、夏に出現する。幼虫はカモガヤ、ススキ、ヤマヌカボから見つかった。能勢妙見山で得られているが、県内の他の地域からは記録がなく、本県産の種といえるかどうか微妙であるが、とりあえずリスト中に含めておいた。いずれにしても近畿地方では本属中の最稀種である。

[採集記録]

妙見山(29.VIII.1983,1♀ ; 18.VIII.1984,2♀,夏秋ほか¹⁶⁾

35. *Mythimna grandis* Butler (3612)

オオフタオビキヨトウ 注目種

前翅の色調は変化が著しい。腎状紋の淡色部は太めの「く」字状、下端で大きく脹らみ黒色点を外側から包む。外横線は鋸歯状で後縁直前でやや大きく外方に角をなす。北海道から九州にかけて分布するが、西南暖地では高地に限られる。年1回、夏に出現する。幼虫はカモガヤ、ススキ、ナガハグサを食べる。県下では六甲山系と鉢伏山周辺で得られているだけである。播但山地から氷ノ山、温泉町扇ノ山にかけての山地草原には広く分布している可能性がある。

[採集記録]

神戸市(六甲山,-.-.-.1933,-,堀江聡男⁵⁴ ; 摩耶山,8.VIII.1985,1ex.,岡村八郎²⁰⁾

鉢伏山(-.-.-,-,遠山ほか³¹⁾

関宮町(鉢伏高原,24.VII.1974,3♂⁷ ; 23.VII.1975,1♂⁷,山本義丸⁶² ; 大段ヶ平,21.VII.2000,1♂⁷,高島昭)

36. *Mythimna divergens* Butler (3613)

ナガフタオビキヨトウ

前翅は灰黄色で暗赤褐色を帯びる。内横線は中室付近で角張ることなく外湾する。腎状紋はやや輪郭の甘い淡色影として現れ、下端に黒色点を一つ含み、腎状紋の外側は大きく暗赤褐色にぼかされるので他種と識別できる。北海道から九州にかけて分布する。かつてコフタオビキヨトウと呼ばれたが前種より大型であることが多く実態に合わないので改称された。幼虫はピロードスゲから発見された。年1回、夏に出現する。県下では、西播から但馬、丹波にかけての中央山地を中心に記録がある。

[採集記録]

波賀町(引原,5.VIII.1978,1♀,遊磨正秀⁶⁴ ; 同,11.VIII.

1987,1♂ ; 25.VII.1988,1♂ ; 29.VII.1988,1♀ ; 20.VIII.1988,1♂,高島昭³⁵ : 坂の谷,24.VII.1998,1♀,高島昭 : 同,31.VII.1998,1♀,高島昭)

豊岡市(山本,29.VII.1973,-,山根政之³⁴)

朝来町(須留ヶ峰,31.VII.1975,1♂1♀,遊磨正秀⁶⁵)

生野町(段ヶ峰,7.VIII.1953,1♀,山本義丸⁶²)

大屋町(横行溪谷,8.VIII.1999,1♂,高島昭)

関宮町(氷ノ山,-.-.1955,-,山本義丸⁶⁸ : 同,-.-.-, - ,遼山ほか³¹)

青垣町(粟鹿山,13.VIII.1952,1♀,山本義丸⁶¹)

37. *Mythimna pallens* (Linnaeus) (3617)

タンボキヨトウ 注目種

前翅は明るい淡黄色。翅脈間の細条は微弱で、中室端に小さい暗色点を表す。外横線は微かな小点列をなすが、前縁部では消失する。幼虫はハマニンク、カモガヤ、ホッスガヤ、ススキなどを食べるという。年2回発生する。北海道から中部山地にかけて産する種とされるが、県下にも宝塚市、波賀町で記録されている。宝塚市は市街地で得られており、おそらくどこからか飛来したものと思われるが、注目に値する。

[採集記録]

宝塚市(武庫川町,1.VI.1982,-,新家勝²⁰)

波賀町(引原,2.VI.1975,2♂ ; 22.V.1976,1♂1♀,遊磨正秀⁶⁴)

38. *Mythimna placida* Butler (3619)

クロシタキヨトウ

クロキシタヨトウともいう。前翅は明るい淡黄色で、腎状紋の下端は膨らみ、小黒点を含み、その外方には小さな暗色影を伴う。後翅は一樣な黒褐色。北海道から九州、対馬にかけて分布し、年2回の発生である。県下では各地に普通に見られる。

[採集記録]

神戸市(六甲山,-.-.1933,-,堀江聡男⁵⁴ : 摩耶山,-.-.-,田中蕃⁶⁰)

宝塚市(南口2丁目,17.VI.1982,-,新家勝²⁰ : 同,7.VI.1988,-,新家勝²⁴ : 光明町,27.VIII.1988,-,新家勝⁴³ : 西谷西部,17.IX.1988,1♀ ; 17.VI.1989,1♂,東正雄⁴³ : 武田尾,15.VIII.1990,1♂ ; 25.V.1992,1♂1♀,東正雄⁴³)

川西市(黒川,13.VII.1996,1♂1♀ ; 12.X.1996,1♂ ; 7.VI.1997,1♀,高島昭³⁹)

猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,2♂1♀ ; 1.IX.1982,1♂4♀,夏秋ほか¹⁴)

三田市(香下,7.XI.1991,1♀,東正雄⁴³)

黒田庄町(喜多,4.V.1959,1ex. ; 26.V.1959,2exs. ; 2.

VII.1959,1ex. ; 16.V.1960,1ex. ; 17.VIII.1960,1ex. ; 9.V.1962,1ex.,岡本清²⁷)

姫路市(太市,-.-.1991,-,丸谷ほか¹⁸ : 同,28.VI.

1995,1♂,高島昭)

龍野市(的場山,30.VI.1967,1♀,相坂耕作)

相生市(瓜生,17.VI.1989,1♂,高島昭³⁶)

上郡町(行頭,23.VI.1995,1♀,高島昭³⁷)

三日月町(下本郷,-.VI.-.- ; -.IX.-.-,川副昭人¹¹)

豊岡市(正法寺,18.V.1998,1♂ ; 22.V.1998,1♂,柴田剛)

氷上郡(-.-.-.-,山本義丸⁶⁹)

南淡町(阿万上町,7.VI.1959,-,藤平明² : 同,30.V.

1968,-,藤平明³ : 同,27.V.1960,-,藤平明⁴ : 筒井,12.IX.1993,-,藤平明⁴ : 賀集,24.V.1995,-,藤平明⁴)

39. *Mythimna bani* (Sugi) (3620)

ミカワキヨトウ 注目種

大図鑑では大井川中流域、愛知県稲武町、津貝村、設楽町、兵庫関宮町、剣山、英彦山、熊本内陸山地が産地としてあがっているが、筆者の手元には県内で記録されたという文献がなく、具体的なデータはわからない。局地的な種であるという。最近では山梨県、岐阜県、愛媛県、高知県、霧島山などから記録されている。

[採集記録]

関宮町(-.-.-.-, - ,¹⁰)

40. *Mythimna flavostigma* (Bremer) (3621)

マダラキヨトウ

中室下角の小黒色点は、その下方で翅脈に沿う白色短条に接する。北海道から九州にかけてと御蔵島に産する。年2回以上の発生を見る。県下では各地に普通に産する。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-.-,田中蕃⁶⁰)

宝塚市(武庫川町,11.XI.1983,-,新家勝²¹ : 西谷西部,27.V.1978,1♂1♀ ; 8.VIII.1987,1♂,東正雄⁴³ : 武田尾,12.VIII.1991,1♂,東正雄⁴³)

川西市(黒川,7.IX.1996,1♂,高島昭³⁹)

猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♀ ; 20.VIII.1982,3♂1♀ ; 1.IX.1982,1♂1♀,夏秋ほか¹⁴)

黒田庄町(喜多,27.IV.1959,1ex. ; 30.IV.1959,1ex. ; 13.IV.1960,1ex. ; 11.VIII.1960,1ex. ; 9.V.1962,1ex.,岡本清²⁷)

姫路市(太市,-.-.1991,-,丸谷ほか¹⁸ : 同,6.VI.1995,2♂,高島昭 : 同,17.V.1995,2♂,高島昭)

大河内町(長沢,6.VI.2000,1♂1♀,高島昭)

波賀町(引原,1.VI.1974,1♂; 8.VI.1974,1♂; 22.VI.1974,1♀; 22.V.1976,1♀,遊磨正秀⁶⁴: 坂の谷,12.VIII.1998,1♀,高島昭: 同,19.VIII.1998,1♂,高島昭)
 三日月町(下本郷,-.V.1984,-,川副昭人¹¹)
 氷ノ山(-.-.-,遠山ほか³¹)
 関宮町(氷ノ山,-.-.1955,-,山本義丸⁶⁰)
 柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸⁶¹)
 津名町(大町畑,3.V.1972,2♂1♀; 5.V.1972,1♂,登日邦明⁴⁰)
 南淡町(阿万上町,6.V.1972,3♂3♀,登日邦明⁴⁰: 同,2.V.1986,-,藤平明³)

41. *Mythimna inornata* (Leech) (3622)

ツマアカキヨトウ 注目種

前翅には前種のような暗色鱗片を混じない。横線の発達が悪く、中室下角の小黒色点は下方で白色部に包まれる。縁毛は薄いピンク色で、腎状紋の外方、及び翅頂部に発する微かな斜条もピンク色を呈する。東北地方から九州まで産するが少ない。年1回、6~7月に出現する。県下では氷ノ山、柏原町で記録があるだけで局地的で少ない種である。

[採集記録]

氷ノ山(-.-.-,遠山ほか³¹)
 柏原町(柏原,-.-.-,山本義丸⁶¹)

42. *Mythimna iodochra* (Sugi) (3623+3624)

カバイロキヨトウ 注目種

年2回の発生で季節型があり、春に出現するものはかつて *A. perstriata* Sugi ヒトツメキヨトウと呼ばれていた。湿地との結びつきが強いとされ、極めて局地的な分布をする。これまで、岩手県、秋田県、新潟県、兵庫県で採集されている。県下では、黒田庄町、関宮町、西紀町で記録があり、最近筆者は大屋町でも確認した。ここでの生息環境は湿地ではなく溪谷中のちょっとした草原である。

このうち関宮町福定で採集された1♂は、本種のHolotypeに指定されている。

[採集記録]

黒田庄町(喜多,3.VIII.1961,1ex.,岡本清²⁷)
 大屋町(横行溪谷,8.V.1999,1♀,高島昭⁴²)
 関宮町(福定,20.V.1972,1♂,遊磨正秀¹⁰: 大久保,3.VIII.1961,1♀,岡本清¹⁰)
 西紀町(下板井,12.VIII.-,1ex.,西隆広²⁵)

43. *Mythimna hamifera* (Walker) (3626)

ウラギンキヨトウ

前・後翅とも裏面は金属様の銀色鱗片を密布する。以前は *A. preyri* (Leech) とされていたが、種名が

改められた。暖地性の種で、関東南部以南の西南日本に産し、南西諸島にまで分布する。県下では、南部の平地から低山地にかけて広く分布しているようである。淡路地域からも記録がある。

[採集記録]

神戸市(摩耶山,-.-.-,岡村八郎²⁰: 谷上,24.VIII.1933,1♀,東正雄⁴³)
 西宮市(生瀬,11.IX.1970,1♀,遊磨正秀⁶³)
 宝塚市(南口2丁目,24.VIII.1984,-,新家勝²²: 武庫山,30.VIII.1968,1♂,大倉⁴³)
 川西市(平野,1.VII.1992,1♂,東良雄⁴³)
 猪名川町(上阿古谷,20.VIII.1982,1♀; 1.IX.1982,1♂1♀,夏秋ほか¹⁴)
 黒田庄町(喜多,11.IX.1962,1ex.; 1.X.1962,1ex.,岡本清²⁷)
 姫路市(太市,28.VI.1995,1♂,高島昭)
 相生市(瓜生,22.VIII.1997,1♀; 25.IX.1997,1♀,高島昭⁴⁰)
 上郡町(行頭,7.IX.1995,1♂1♀,高島昭³⁷)
 南淡町(阿万上町,-.V~VI.-,同; 3.IX.1960,-,藤平明²: 同,26.V.1961,-,藤平明³: 同,8.IX.1962,-,藤平明⁴: 福良向谷,5.VI.1996,-; 7.IX.1996,-,藤平明⁴)

44. *Mythimna radiata* (Bremer) (3630)

フタテンキヨトウ

前翅は黄白色でやや灰色を帯びる。翅脈間の暗色細条は繊細、中室下端は淡褐色に縁取られる。中室下角に微小な1黒色点を表す。北海道から九州、対馬にかけて普通に産する。年2回の発生である。県下では、神戸・阪神地域では比較的報告されているが、それ以外は局地的で、氷ノ山周辺地域から報告されているだけである。草地周辺を探索せば新しい産地は見つかると思われる。

[採集記録]

神戸市(六甲山,-.-.1933,-,堀江聡男⁵⁴: 摩耶山,-.-.-,田中蕃⁴⁰)
 宝塚市(武庫川町,19.VIII.1984,-,新家勝²²)
 猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,2♀; 20.VIII.1982,1♂3♀,夏秋ほか¹⁴)
 波賀町(引原,8.VI.1974,1♂; 29.VI.1974,2♀; 2.VI.1975,1♀,遊磨正秀⁶⁴: 同,1.IX.1988,1♀,高島昭³⁵: 坂の谷,5.VI.1998,1♂,高島昭)
 大屋町(横行溪谷,28.V.1999,1♂,高島昭: 同,25.VI.1999,1♂,高島昭: 同,20.VIII.1999,1♂,高島昭)
 氷ノ山(-.-.-,遠山ほか³¹)

兵庫県におけるヨトウガ亜科分布一覧表

	神戸	阪神北摂	中東播南部	中東播北部	西播南部	西播北部	南但	北但	丹波	淡路北部	淡路南部	記録地数	備考
1. オオシモフリヨトウ							○					2	注目種 山地性
2. シラホシヨトウ						○	○		○			9	
3. ヨトウガ	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	30	
4. ムラサキヨトウ							○					1	注目種 山地性
5. ミヤマヨトウ							○					1	注目種 山地性
6. シロシタヨトウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	23	
7. キミヤクヨトウ		○				○		○		○	○	6	
8. ヒメムラサキヨトウ	○		○									2	注目種
9. フサクビヨトウ		○		○	○	○	○		○			6	
10. モモイロフサクビヨトウ							○					1	注目種
11. コハイロヨトウ	○						○					2	注目種
12. フタスジヨトウ		○		○	○	○	○		○		○	16	
13. ハマオモトヨトウ	○									○		2	注目種 暖地性
14. クロスジキリガ		○			○			○			○	8	
15. ゲンモンキリガ	○	○		○	○	○	○	○	○		○	17	
16. マツキリガ	○	○	○	○	○	○	○		○		○	19	
17. キンイロキリガ	○	○		○	○	○	○	○			○	15	
18. スギタニキリガ	○	○	○	○	○	○	○	○				14	
19. カバキリガ	○	○		○	○	○					○	15	
20. アオヤマキリガ						○	○					3	注目種 山地性
21. カギモンキリガ		○			○					○	○	7	局地的
22. クロミミキリガ	○	○	○		○	○	○		○	○	○	16	
23. ブナキリガ	○	○	○		○	○						13	
24. クロデンキリガ	○	○	○		○					○	○	20	
25. ホソバキリガ	○	○	○		○	○		○	○		○	15	
26. ヨモギキリガ	○			○								2	注目種 局地的
27. シロヘリキリガ	○	○	○		○	○		○		○	○	22	
28. スモモキリガ	○	○	○		○	○		○	○		○	20	
29. チャイロキリガ	○	○	○	○	○	○	○			○	○	14	
30. ウスベニキリガ	○	○		○							○	5	注目種
31. カシウキリガ	○	○	○		○	○		○	○	○	○	20	
32. アカバキリガ	○	○	○	○	○	○			○	○	○	18	
33. フタオビキヨトウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	21	
34. ミヤマフタオビキヨトウ		○										1	注目種 局地的
35. オオフタオビキヨトウ	○						○					5	注目種 山地性
36. ナガフタオビキヨトウ						○	○	○	○			8	山地性
37. タンボキヨトウ		○				○						2	注目種
38. クロシタキヨトウ	○	○	○	○	○			○	○		○	20	
39. ミカウキヨトウ							○					1	注目種 局地的
40. マダラキヨトウ	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	16	
41. ツマアカキヨトウ							○		○			2	注目種 局地的
42. カバイロキヨトウ				○			○		○			5	注目種 局地的
43. ウラギンキヨトウ	○	○	○	○	○						○	13	
44. フタデンキヨトウ	○	○				○	○					8	
45. カバフクロデンキヨトウ	○	○		○			○		○		○	6	
46. スジクロキヨトウ		○							○		○	5	局地的

2000. 8. 31現在	神	阪	中	中	西	西	南	北	丹	淡	淡	記	
種 名	戸	神	東	東	播	播	但	但	波	路	路	録	備 考
	北	南	南	北	南	北				北	南	地	
	戸	南	南	北	南	北	但	但	波	北	南	数	
47. マメチャイロキヨトウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	17	
48. アウヨトウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12	
49. ウスイロキヨトウ						○						1	注目種 山地性
50. アカスジキヨトウ	○	○				○	○					4	注目種
51. ノヒラキヨトウ		○										1	注目種 局地的
52. スジシロキヨトウ	○	○		○		○		○	○	○	○	13	
53. アトシロキヨトウ	○	○		○						○	○	7	
54. クサシロキヨトウ		○	○	○	○		○			○	○	9	
55. ナカスジキヨトウ			○	○								2	注目種 局地的
	33	38	22	25	26	30	28	16	22	15	31		

45. *Mythimna salebrosa* (Butler) (3631)

カバフクロテンキヨトウ

中室下縁に沿う白色条は太くて鮮明、翅脈間の紫赤色条並びに中室内から翅頂下に連なる同色の斜影はよく発達する。関東以西、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。年2回の発生と思われる。かつてはオオスジシロキヨトウという和名が与えられていた。県下ではあまり採集例はなく、西播地域からは未記録である。

【採集記録】

神戸市(有馬,18.VIII.1960,-,森 博³⁰)
宝塚市(武田尾,2.V.1987,1♀,東正雄⁴³)
黒田庄町(喜多,19.V.1959,1ex.,岡本清²⁷)
氷ノ山(-,-,-,遼山ほか³¹)
柏原町(柏原,-,-,-,山本義丸⁶¹)
南淡町(灘,30.V.1968,-,藤平明²)

46. *Mythimna nigrilinea* (Leech) (3634)

スジグロキヨトウ

体翅とも灰褐色で、前翅翅底から中室下縁を走り翅頂下方の黒色影に連なる黒条を有する。暖地性の種で、伊豆半島以西の本州、四国、九州、対馬、屋久島、沖縄にまで分布する。本州では年2回の発生と思われる。県下では、宝塚市、猪名川町、柏原町、南淡町から記録されているだけであり、局地的で少ない種である。南部平坦地では他にも産地が見つかるだろう。

【採集記録】

宝塚市(武庫山,24.X.1969,1♂,遊磨正秀⁶³)
猪名川町(上阿古谷,1.IX.1982,1♂,夏秋ほか¹⁴)
柏原町(柏原,7.VI.1956,-,山本義丸⁵⁹)

南淡町(阿万上町,25.IX.1958,-,藤平明²; 同,20.IV.

1983,-,藤平明³; 同,29.X.1991,-,藤平明⁴; 筒井,15.V.1993,-,藤平明⁴)

47. *Mythimna stolidia* (Leech) (3635)

マメチャイロキヨトウ

関東以西から九州に至る本土域と対馬、屋久島、奄美、徳之島、沖縄、石垣島、西表島に分布する。また、伊豆諸島や南大東島にも産する。本土では4月から発生し、秋まで見られる。県下では、淡路を含む南部地域に広く分布しており、最近北但地域でも記録されている。平地を中心に各地に広く分布しているが、筆者は氷ノ山の屋町側標高約1,200m付近でも確認しており、かなり移動性が強いものと思われる。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,田中審⁴⁶)
西宮市(上夙原町,30.V.1950,1♀,東正雄⁴³)
宝塚市(南口2丁目,25.IX.1984,-,新家勝²²; 武庫川町,24.VIII.1983,-,新家勝²¹; 宝梅1,21.IX.1989,1♂,東正雄⁴³; 西谷西部,3.IX.1988,2♂1♀,東正雄⁴³; 武田尾,2.VI.1987,1♀,東正雄⁴³)
高砂市(-,29.X.1963,1ex.,岡本清²⁶)
黒田庄町(喜多,11.VIII.1960,1ex.; 29.IX.1960,1ex.; 4.VII.1961,1ex.; 13.IX.1962,1ex.,岡本清²⁷)
波賀町(引原,22.V.1976,1♀,遊磨正秀⁶⁴)
上郡町(行頭,26.V.1995,1♂,高島昭³⁷)
三日月町(下本郷,-.IX.-,-,川副昭人¹¹)
豊岡市(正法寺,29.IX.1998,1ex.,柴田剛; 同,30.X.1998,1ex.,柴田剛; 同,18.XI.1998,1ex.,柴田剛)
大屋町(氷ノ山,1.X.1999,1♂,高島昭)

津名町(大町畑,31.VII.1972,1♀,登日邦明⁵²⁾)

南淡町(阿万上町,20.VII.1973,-,藤平明³⁾:同,6.XII.1985,-,藤平明³⁾:同,6.V.1986,-,藤平明⁴⁾:福良向谷,10.X.1996,-;2.XI.1996,-,藤平明⁴⁾)

48. *Mythimna separata* (Walker) (3636)

アワヨトウ

イネ科の作物や牧草に被害を与える重要害虫として有名である。かなりの長距離を移動することが知られている。北海道から南西諸島まで、ほぼ日本全土で採集例があるが、土着北限はよくわかっていない。県下では南部の平地から低山地に記録が見られる。おそらく耕作地周辺ではもっと普遍的に見られるものと思われる。

【採集記録】

神戸市(六甲山,-,-.1933,-,堀江聡男⁵⁴⁾:摩耶山,-,-,-,田中蕃⁴⁶⁾:諏訪山公園,-.X.1985,-,山口福男⁵⁶⁾)

尼崎市(南塚口町,3.XI.1978,1♀;2.VI.1982,1♀,夏秋優¹⁷⁾)

宝塚市(武庫川町,3.X.1979,-,新家勝¹⁹⁾)

猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♂;20.VIII.1982,1♂,夏秋ほか¹⁴⁾)

黒田庄町(喜多,19.XII.1958,1ex.;28.IV.1959,1ex.;15.XI.1960,1ex.;29.XI.1960,1ex.,岡本清²⁷⁾)

姫路市(広嶺山,-,-.1982,-,木村三郎¹²⁾)

波賀町(引原,11.X.1975,1♀,遊磨正秀⁶⁴⁾:同,26.IX.1987,1ex.,高島昭³⁵⁾)

氷上郡(-,-,-,-,山本義丸⁶⁰⁾)

三原町(八木養宜,24.IX.1982,-;12.VII.1985,-;7.VI.1990,-;11.VII.1990,-,藤宮正昭⁵⁾)

南淡町(阿万上町,24.IX.1958,-;3.IX.1961,-,藤平明²⁾)

49. *Mythimna inanis* (Oberthür) (3638)

ウスイロキヨトウ 注目種

前翅は淡い紫褐色で、暗色鱗片を密布し、翅脈は淡色、中室端には「く」字状の紋を表す。縁毛はややピンク色を帯びる。北海道から本州中部に分布の中心があり、九州久住高原にも産することが知られている。年1回、6月頃に発生する。県下では波賀町で記録されているだけで、詳しい分布状況は不明である。北部の山地草原地帯には分布しているかもしれない。

【採集記録】

波賀町(引原,22.V.1976,1♂1♀,遊磨正秀⁶⁴⁾)

50. *Mythimna postica* (Hampson) (3639)

アカスジキヨトウ 注目種

前翅は淡い灰褐色、前縁部は淡色、翅脈内の細条は赤紫色を帯びる。中室の下縁、亜中脈襞の部分は淡色、後翅は一樣に暗色である。幼虫はハマニンニク、カモガヤ、ススキ、ヤマアワなどを食べることが確認されている。北海道から九州、対馬に産し、年2回の発生である。県下での分布は希薄で、能勢妙見山、波賀町、氷ノ山で記録があるほか、人と自然の博物館では神戸市産の標本を確認している。かなり局地的な発生をするものと思われる。

【採集記録】

神戸市(藍那,8.VI.1986,1♂,中川俊夫^{*})

妙見山(26.VIII.1983,1♀;29.VIII.1983,1♂,夏秋ほか¹⁵⁾)

波賀町(引原,18.V.1974,1♂;1.VI.1974,1♂;2.VI.1975,1♀,遊磨正秀⁶⁴⁾)

氷ノ山(6.VII.1956,1♂,山本義丸⁶⁰⁾:同,-,-,-,-,遠山ほか³¹⁾)

51. *Mythimna obsoleta* (Hübner) (3640)

ノヒラキヨトウ 注目種

外横線は単一の小点列で、中室下部に淡色点を表し、周辺は微かに暗色にぼかされる。北海道から本州にかけて分布するが、局地的な分布をする。湿地との結びつきが強い。年2回、5月及び7~8月に出現する。県下では宝塚市からの1例しか記録はない。武庫川の河原で発生したものと思われる。一時的な偶発なのかどうかはわからないが、近県では大阪府守口市の淀川河川敷での採集例もある。

【採集記録】

宝塚市(武庫川町,19.IX.1984,-,新家勝²²⁾)

52. *Mythimna striata* (Leech) (3641)

スジシロキヨトウ

前種に似るが大きい。翅底から中室下縁に沿う暗色条は顕著である。本種では外横線は常に二重の黒点列であり、前種との区別点になる。後翅の翅脈は暗色で外縁部の黒色部もよく発達している。関東地方を北限として南西日本に広く分布する。4~10月にかけて採集される。県下では各地で記録されているが、平地から低山地が主たる分布域である。

【採集記録】

神戸市(摩耶山,-,-,-,-,岡村八郎²⁰⁾:同,-,-,-,-,田中蕃⁴⁶⁾:諏訪山公園,-.IX.1985,-,山口福男⁵⁶⁾)

西宮市(上葭原町,13.X.1967,1♂;18.X.1968,1♀,東正雄⁴³⁾)

宝塚市(武庫川町,22.V.1979,-,新家勝¹⁹⁾)

猪名川町(上阿古谷,12.VIII.1982,1♀,夏秋ほか¹⁴⁾)

黒田庄町(喜多,9.X.1959,1ex.; 17.V.1960,1ex.; 30.IX.1960,1ex.; 10.X.1961,1ex.; 1.X.1962,1ex.,岡本清²⁷⁾)

波賀町(引原,22.V.1976,1♂,遊磨正秀⁶⁴⁾; 同,26.IX.1987,1ex.; 25.VII.1988,1♀,高島昭⁵⁶⁾)

豊岡市(正法寺,6.X.1997,1♀,柴田剛)

柏原町(柏原,-,-,-,山本義丸⁶¹⁾)

北淡町(常陸寺山,31.VII.1967,-,登日邦明⁴⁸⁾)

津名町(大町畑,3.V.1972,1♀,登日邦明⁴⁹⁾; 同,1.VII.1972,1♂,登日邦明⁵¹⁾)

南淡町(阿万上町,24.IX.1958,-; 17.XI.1958,-,藤平明²⁾; 同,14.V.1990,-; 24.V.1995,-,藤平明⁴⁾; 賀集,26.VII.1995,-,藤平明⁴⁾)

53. *Mythimna compta* (Moore) (3642)

アトジロキヨトウ

中室下端に沿う白色条は細く、中室端部に向かってやや太くなり、その外方は微小な暗色影で縁取られる。外横線は単一の小点列、後翅は白色である。幼虫はアシカキを食べる。伊豆半島以西の本州、四国、北九州、対馬、屋久島、奄美、沖縄、西表島で採集されている。移動性があるとされ、本土での記録は秋のものばかりであることから、土着しているかどうか疑わしい。県下では南部の平地から低山地で得られている。やはりいずれも秋の採集例で、南方からの飛来個体かそれに基づく一時的な発生によるものと思われる。なお、大阪府では5月の採集例があり、近畿地方でも越冬する可能性も示唆される。

[採集記録]

神戸市(有馬,20.IX.1947,1♂,東正雄⁴³⁾)

宝塚市(武庫川町,3.X.1979,-,新家勝¹⁹⁾)

川西市(黒川,20.IX.1997,1♂,高島昭⁵⁹⁾)

黒田庄町(喜多,12.X.1960,1ex.; 17.X.1960,1ex.,岡本清²⁷⁾)

南淡町(阿万上町,25.X.1958,-,藤平明²⁾; 筒井,15.V.1993,-,藤平明⁴⁾; 灘大川,25.X.1994,-,藤平明⁴⁾)

54. *Mythimna loreyi* (Duponchel) (3646)

クサシロキヨトウ

前翅は淡灰褐色で、翅脈間に暗色細条を密布する。翅脈から中室下縁に沿う暗色条があり、中室下角の小白点を越えて外方に延長する。この暗色条に接し、CuA₂脈基部付近に1暗色点を有する。外横線は単一の暗色点列となる。後翅は半透明様の白色。♀では翅脈は暗色に染められる。本種も南方系の種で関東以南で採集されている。移動性が強いいため、南方からの飛来個体か、それに基づく一時的な発生による場合が多いと思われる。県下では前種と同様、南

部の平地から低山地にかけて記録があり、但馬でも和田山町から見つかっている。秋の記録が多いが宝塚市、津名町、南淡町で春から初夏にかけての記録もあり、淡路島では土着している可能性が高いと思われる。

[採集記録]

宝塚市(南口2丁目,13.VI.1979,-,新家勝¹⁹⁾; 同,7.VI.1988,-; 19.VII.1988,-; 3.IX.1988,-,新家勝²⁴⁾)

高砂市(-,1.XI.1965,5exs.,岡本清²⁶⁾)

黒田庄町(喜多,14.IX.1960,1ex.,岡本清²⁷⁾)

姫路市(-,-,-.1968,1♀,相坂耕作: 香写台,16.XI.

1988,1♀,高島昭: 飾磨区入船町,8.IX.1969,1♂,相坂耕作)

上郡町(船坂,4.X.1997,1♀,高島昭)

和田山町(久世田,14.X.1998,1ex.,柴田剛)

津名町(大町畑,12.IV.1972,1♀,登日邦明⁴⁹⁾; 同,1.VII.1972,1♂,登日邦明⁵¹⁾)

南淡町(阿万上町,22.IV.1973,-,藤平明²⁾; 同,10.XII.1987,-; 8.X.1994,-,藤平明⁴⁾)

55. *Mythimna flammea* (Curtis) (3649)

ナカスジキヨトウ 注目種

北海道から九州にかけて分布する。年2回の発生である。産出は一般に局地的で、湿地や沼沢地でも特に多産することはないといわれる。県下では、黒田庄町と高砂市で古い記録があるだけで、その後確認されていない。これらの記録はおそらく加古川の河原に由来するものと思われるが、河川の環境は悪化する一方であり、いまでも生息しているかどうか確認する必要がある。また、本種に限らず、水辺や草原、湿原などに生息する種の分布実態を明らかにするため、千種川や円山川など比較的河床や河岸の自然度が高い河川での調査が望まれる。

[採集記録]

高砂市(-,12.VII.1965,1ex.,岡本清²⁸⁾)

黒田庄町(喜多,1.IX.1961,1ex.; 13.IX.1961,1ex.,岡本清²⁷⁾)

<今後記録される可能性のある種>

1. *Pseudopanolis takao* Inaba (3585)

タカオキリガ

年1回春に出現する。東南北部から中部山地と四国、九州南部の山地から得られているが極めて局地的。これまで宮城県牡鹿、福島県いわき市、高尾山、丹沢、伊川村、山梨県蘆ノ湯、中房温泉、梓川谷、石鎚山、高知県池川町、宮崎県大崩山、霧島などで記録がある。

2. *Dioszeghyana mirabilis* (Sugi) (3604)

アトジロキリガ

十勝西南部、宥森、秋田、岩手、関東～東海に分布する。局地的な分布をし、年1回春に出現するという。県下からは記録がないが、ヨトウガ亜科に属するキリガ類で県下から新たに発見されるとすれば本種ぐらいである。

3. *Tiracola aureata* Holloway (3609)

ヤクシマヨトウ

紀伊半島南部、四国南部、九州南部、屋久島、奄美、石垣に記録があり、幼虫は多食性であるという。淡路では発見されるかもしれない。

4. *Mythimna pudorina* (Denis & Schiffermüller)

(3613) ウスベニキヨトウ

前翅は暗い紫灰色で暗色鱗片を混する。中室下角付近に不整な黒色条を表す。北海道から岡山県まで産する。局地的な種で、湿地との結びつきが強いようである。年1回、夏に現れる。幼虫はハマニンニク、ヤマアワ、ススキ、ヨシなどから発見されている。県下では宝塚市から複数の記録があるが、これらのうち西谷西部産の個体は、記録に付して掲載されている写真を見る限り本種ではなく、キスジウスキヨトウかその近縁種と思われる。また、武田尾産の個体は西谷西部産のものとは明らかに異なるが、写真が不鮮明で判然としない。したがってこれらの記録は参考記録とし、再確認されるまで県産種としての扱いを保留したい。

[参考記録]

宝塚市(西谷西部, 18.VI.1988, 1♀, 東正雄⁴³: 武田尾, 13.VII.1991, 1♂, 東正雄⁴³)

5. *Mythimna rufipennis* Butler (3614)

アカバキヨトウ

北海道から中部以北の本州に分布するというが、箕面市からも記録がある。局地的で少ない種である。

6. *Mythimna chosenicola* (Bryk) (3632)

クロテンキヨトウ

北海道から九州にかけてと対馬に分布するという。県下からは今のところ見つからない。大阪府箕面では少ないながら確認されているため、兵庫県にも分布していると思われる。

7. *Mythimna polysticha* (Turner) (****)

ニセスジロキヨトウ

最近記載された種で、静岡県、知多半島、大阪府、

和歌山県、山口県、四国、九州、屋久島、奄美、沖縄の標本で記録がある。本州では南岸沿いに分布するのではないと思われる。スジシロキヨトウと外見で区別することは困難で、同定には交尾器を検する必要がある。

<参考文献>

- 1) 芦田 久(1981) 西宮市角石町で採集した蛾類数種の記録 きべりはむし9(2): 22-24.
- 2) 藤平 明(1974) 南淡の蛾(Ⅱ) PARNASSIUS(12): 5-13.
- 3) 藤平 明(1987) 南淡の蛾(自刊)
- 4) 藤平 明(1999) 淡路島南部の蛾, pp.96.
- 5) 藤富正昭(1994) 私版 淡路の昆虫リスト PARNASSIUS(41): 1-4.
- 6) 林 俊雄(1983) 淡路島産蛾類採集記録(Ⅰ) PARNASSIUS(28): 13-16.
- 7) 堀田 久(1976) 先山の昆虫相(Ⅰ) PARNASSIUS(16): 11-32.
- 8) 堀田 久(1983) ワモンキシタバの採集例 PARNASSIUS(29): 18.
- 9) 稲田和久(1997) 西播磨地方におけるキリガ類の採集記録 てんとうむし11: 37-39.
- 10) 井上 寛(1982) 日本産蛾類大図鑑(講談社・東京)
- 11) 川副昭人(1987) 佐用郡三日月町の蛾覚え書 てんとうむし10: 1-10.
- 12) 木村三郎(1984) 広峰・増位山系の昆虫 てんとうむし9: 53-58.
- 13) 村瀬ますみ(1998) 神戸市のハマオモトヨトウ 蛾類通信197, p.370.
- 14) 夏秋 優・佐々木 昇(1982) 能勢地方の蛾(Ⅰ) 上阿古谷・夏の蛾 Crude(23): 1-37.
- 15) 夏秋 優・佐々木 昇(1984) 能勢地方の蛾(Ⅲ) 妙見山・夏の蛾(Ⅰ) Crude(25): 15-22.
- 16) 夏秋 優・佐々木 昇(1994) 能勢地方の蛾(Ⅳ) キリガ(その3) Crude(39): 16-25.
- 17) 夏秋 優(1997) 兵庫県尼崎市塚口の蛾 Crude(41), p.20-25.
- 18) 日本野鳥の会(1992) 姫路市自然観察の森林内基礎調査報告書 4-6昆虫類 p.119-151.
- 19) 新家 勝(1981) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(その2) きべりはむし9(2): 17-20.
- 20) 新家 勝(1983) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その2) きべりはむし11(1): 6-10.
- 21) 新家 勝(1984) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その3) きべりはむし12(2): 53-55.

- 22) 新家 勝(1985) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その4) きべりはむし13(2): 36-40.
- 23) 新家 勝(1986) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その6) きべりはむし14(2): 30-33.
- 24) 新家 勝(1993) 宝塚大橋の照明灯で採集した蛾(続報その10) きべりはむし21(2): 53-64.
- 25) 西 隆広(1988) カバイロキョウトウの一記録について きべりはむし16(1): 16.
- 26) 岡本 清(1997) 高砂の蛾
てんとうむし11: 40-45.
- 27) 岡本 清(1998) 黒田庄町で採集した蛾(1)
てんとうむし12: 30-38.
- 28) 岡本 清(1999) 兵庫県で採集した蛾
てんとうむし13,p.50-58.
- 29) 岡村八郎(1987) 神戸市摩耶山の蛾類採集目録 てんとうむし10: 37-45.
- 30) 岡村八郎・森 博(1987) 有馬の蛾より
てんとうむし10: 66-67.
- 31) 奥谷慎一(1974) 中国山脈東端の昆虫相
東中国山地自然環境調査報告 173-191.
- 32) 柴田 剛(1998) 但馬で採集した注目すべき蛾 きべりはむし26(2):
- 33) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第1・2報): 48-54.
- 34) 高橋 匡(1975) 豊岡高等学校昆虫標本目録(第3報): 9-14.
- 35) 高島 昭(1995) 波賀町引原ダム周辺における蛾相第1報 きべりはむし23(1): 6-16.
- 36) 高島 昭(1996) 相生市三瀬山麓の蛾(1)
きべりはむし24(1): 27-39.
- 37) 高島 昭(1997) 上郡町で採集した蛾(1)
きべりはむし25(1): 31-38.
- 38) 高島 昭(1998) 西播地方で採集した注目すべき蛾 てんとうむし12: 68.
- 39) 高島 昭(1998) 黒川の蛾 きべりはむし26(1): 23-38.
- 40) 高島 昭(1998) 相生市三瀬山麓の蛾(2)
きべりはむし26(2): 59-64.
- 41) 高島 昭(1999) 兵庫県波賀町で採集した注目すべき蛾 誘蛾燈155,p.17-24.
- 42) 高島 昭(1999) 兵庫県西部山地で採集した注目すべき蛾 誘蛾燈157,p.93-96.
- 43) 宝塚市教育委員会(1993) 宝塚の昆虫Ⅴ蛾類(Ⅱ)
- 44) 宝塚市教育委員会(1996) 宝塚の昆虫Ⅶ(補遺)
- 45) 田中 蕃(1966) 神戸市摩耶山に産する若干の蛾類 蛾類通信45: 442-444.
- 46) 田中 蕃(1967) 神戸市摩耶山に産する大蛾類 佳香蝶19(71): 89-104.
- 47) 谷田昌也(1986) 扇ノ山の蛾類分布資料(Ⅰ) IRATSUME(10): 30-37.
- 48) 登日邦明(1967) 伊勢の森の蛾類 PARNASSIUS(4): 4-9.
- 49) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅰ) 蛾類通信73: 215-224.
- 50) 登日邦明(1973) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅳ) PARNASSIUS(11): 3-6.
- 51) 登日邦明(1973) 淡路島若干の蛾の記録 PARNASSIUS(9): 9-16.
- 52) 登日邦明(1974) 淡路島産蛾類分布資料(Ⅱ) 蛾類通信76: 261-266.
- 53) 登日邦明(1979) ハマオモトヨトウ淡路島に産す PARNASSIUS(20): 18.
- 54) 戸沢信義(1935) 六甲山産蛾類目録 関西昆虫雑誌2(3): 30-31.
- 55) 八木 剛(1998) 六甲山系布引公園および鉢伏山のキリガ類相 きべりはむし26(2),p.67-74.
- 56) 山口福男(1999) 諏訪山公園で採集した蛾 きべりはむし27(2),p.37-41.
- 57) 山本義丸(1955) 氷ノ山の蛾について(第一報) 兵庫生物3(1/2): 3-6.
- 58) 山本義丸(1956) 氷ノ山の蛾について(第二報) 兵庫生物3(3): 121-123.
- 59) 山本義丸(1958) 兵庫県氷上郡昆虫目録 12-50.
- 60) 山本義丸(1989) 氷ノ山の蛾類について(後報) 兵庫生物9(5): 295-297.
- 61) 山本義丸(1996) 兵庫県氷上郡地方の蛾類(1) きべりはむし24(2): 1-13.
- 62) 山本義丸(1997) 兵庫県で採集した蛾の記録 きべりはむし25(2): 54-57.
- 63) 遊磨正秀(1973) 六甲山地域の蛾類Ⅰ きべりはむし2(1): 1-9.
- 64) 遊磨正秀(1979) 宍粟郡波賀町引原ダムの蛾類について(Ⅱ) きべりはむし7(2): 2-16.
- 65) 遊磨正秀(1980) 朝来郡朝来町須留ヶ峰の蛾類について(Ⅰ) きべりはむし8(3): 1-8.
- 66) 遊磨正秀(1981) 養父郡大屋町田淵山の蛾類について(Ⅰ) きべりはむし9(1): 3-6.

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市密写2542-2)

兵庫県で採集した甲虫類の記録

内藤 隆夫

兵庫県で採集した甲虫類のうち、分布上および生態上興味ある種について報告する。なお、以下の採集者はすべて筆者である。

エンマムシ科 Histeridae

1. *Niponius obtusiceps* Lewis

ツノブトホソエンマムシ

1ex., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 3.VIII.2000

枯れ枝から得た。兵庫県下では神戸市烏原(高橋, 1991)の記録がある。

コブスジコガネ科 Trogidae

2. *Trox opacotuberculatus* Motschulsky

ヒメコブスジコガネ

7exs., 宍粟郡波賀町音水溪谷, 20.VI.2000; 6exs., 同所, 29.VI.2000

少量の骨と体毛だけになった野生哺乳類の死体から得た。

コガネムシ科 Scarabaeidae

3. *Aphodius troitzkyi* Jacobson

マルツヤマグソコガネ

8exs., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 16.V.2000; 2exs., 同所, 30.VI.2000; 5exs., 朝来郡和田山町糸井溪谷, 15.VI.2000

本種は、足立(1992)により出石町奥山から、兵庫県初記録として報告された。シカ糞から採集した。

4. *Aphodius superatratus* Nomura et Nakane

トゲクロツヤマグソコガネ

7exs., 朝来郡和田山町糸井溪谷, 24.IV.2000; 10exs., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 16.V.2000

シカ糞より得た。春季に現れる種のようなのである。

5. *Aphodius unifasciatus* Nomura et Nakane

クロオビマグソコガネ

11exs., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 4.IV.2000; 25exs., 同所, 13.IV.2000; 2exs., 同所, 16.V.2000

チャグロマグソコガネとともに春季のシカ糞に普通に見られる。波賀町付近からの報告がないようなので記録しておく。

6. *Aphodius isaburoi* Nakane

チャグロマグソコガネ

42exs., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 4.IV.2000; 16exs., 同所, 13.IV.2000; 5exs., 同所, 16.V.2000; 40exs., 朝来郡和田山町糸井溪谷, 24.IV.2000

篠山町から記録したが(内藤, 2000a)、その後広域から多数採集できた。県下のシカ生息地の多くに分布するものと予想される。

7. *Pollaplonyx flavidus* Waterhouse

オオキイロコガネ

8♂2♀, 宍粟郡波賀町原, 2.VI.2000

外灯に飛来した個体を採集した。発生地のおねらいを絞りにくく、成虫出現期間も短いことから採集しにくい種であるが、波賀町では坂の谷でも得られており(相馬, 1999)この付近には比較的多産するものと思われる。

8. *Gastroserica brevicornis* (Lewis)

コヒゲシマビロウドコガネ

3exs., 宍粟郡波賀町音水溪谷, 2-3.VIII.2000

兵庫県では養父郡八鹿町妙見山、大屋町田淵山、篠山市篠山町雨石山から記録されている(高橋, 1996)。全国的に見ると、地域によっては必ずしも少なくない種であるが、兵庫県より西の本州では記録がないようである。灯火に飛来した個体を得た。

タマムシ科 Buprestidae

9. *Aphanisticus yasumatsui* Y.Kurosawa

ヤスマツケシタマムシ

6exs., 朝来郡朝来町上岩津, 29.VIII.2000

スゲ葉上より得た。

コメツキムシ科 Elateridae

10. *Hypoganus miyatakei* Ôhira

ミヤタケヒメツヤヒラタコメツキ

1ex., 宍粟郡波賀町音水溪谷, 2-3.VIII.2000

本種は山梨県、長野県、奈良県、愛媛県、熊本県(以上は有本・水野, 1990)、愛知県(大平ほか, 1996)などから記録されている。灯火に飛来した個体を得た。



カッコウムシ科 Cleridae

11. *Isoclerus pictus* Lewis

ヨツモンチビカッコウムシ

1ex., 実栗郡波賀町赤西溪谷, 2.VI.2000

カワラタケ *Trametes versicolor* のついた落枝下面より得た。他県でも数例得ているが、いずれの個体も5、6月頃にカワラタケから採集した。

12. *Neohydnius hozumii* Nakane

ヤマトヒメメダカカッコウムシ

1ex., 加古川市宗佐, 18.IX.2000

ヨシのスィーピングによって得た。この場所では、ごく短時間の不十分な調査しかできていない。

13. *Allochotes dichrous* (Lewis)

ムネアカマルカッコウムシ

1ex., 実栗郡波賀町音水溪谷, 2-3.VIII.2000

灯火に飛来した個体を得た。

14. *Tenerus lewisi* Lohde ルリツツカッコウムシ

1ex., 美方郡温泉町扇ノ山, 23.IV.2000羽脱

エゾエノキの材よりホソツヤヒゲナガコバネカミキリなどとともに羽化脱出した。*Tenerus* 属の他種に比べて野外で見かけることが少ないように思われ、他県でもあまり記録されていないが、エノキやケヤキの枯れ枝によく見られるとの記述もある(宝塚市教育委員会, 1993)。筆者もキムネツツカッコウムシがエノキの枯れ枝から極めて多数羽化するのを観察しており、発生している材の近くでは多く見られることもあるのであろう。

ジョウカイモドキ科 Melyridae

15. *Laius takaraensis* Nakane

ルリキオビジョウカイモドキ

1♂1♀, 加古川市宗佐, 18.IX.2000

本種は、トカラ列島での分布が知られていたが、近年になって神奈川県、静岡県、愛知県、三重県、京都府などからも報告されるようになった。草間の石上やヨシの葉上から得た。



16. *Laius kishiii* Nakane

ベニオビジョウカイモドキ (左写真)

1♂1♀, 実栗郡山崎町五十波, 16.VI.2000

本種は京都市嵐山を模式産地とし、近畿地方を

中心に分布しているものと思われる。雄第三触角節の特徴のほか、頭部の幅が狭いことにより容易に同定できる。草間の石上から得た。

オオキノコムシ科 Erotylidae

17. *Spondotriplax horioi* Nakane et Nobuchi

カタモンチビオオキノコ

15exs., 実栗郡波賀町赤西溪谷, 30.VI.2000; 1ex., 実栗郡波賀町音水溪谷, 28.VII.2000; 22exs., 同所, 22.VIII.2000; 17exs., 同所, 28.VIII.2000

秋田・大沢(1990)には、本種の産地として福井県、東京都、愛知県、三重県、奈良県、京都府、岡山県、広島県が挙げられており、ほかにも石川県、神奈川県などから記録されている。

今回記録したもののうち、上翅肩部にある程度明瞭な淡色紋をもつ個体は数頭のみで、ほとんどの個体は全体が黒色であった。ウスヒラタケ *Pleurotus pulmonarius* から得た。

18. *Aporotritoma consobrina* (Lewis)

アカモンチビオオキノコ

1ex., 実栗郡波賀町音水溪谷, 28.VIII.2000

枯れ枝のビーティングによって得た。本種は京都北山では秋期に *Oligoporus* 属のキノコからセグロチビ、コヒゲチビ、キボシチビオオキノコとともに普通にみられる(個体数はあまり多くない)。これに対し、兵庫県西部では秋期の *Oligoporus* 属のキノコにはキボシチビオオキノコ(このなかにはアシグロチビオオキノコが含まれている可能性もある)が優占的で他の種はほとんどみかけなかった。

19. *Tritoma tanigutii* Chûjo

チャバネチビオオキノコ

5exs., 神戸市北区八多町, 29.IV.1999; 13exs., 篠山市篠山町小金ヶ岳, 29.IV.2000

実体のよく分らない種であったが、生川(1997)により詳しい解説がなされた。静岡県、岐阜県、三重県、大阪府、岡山県(以上は生川, 1997による)、茨城県(高野・大桃, 2000)、広島県(秋山, 1997)からの記録がある。

上記2例はいずれもエゴノキタケ *Daedaleopsis styracina* よりキベリハバビロオオキノコとともに得たものである。模式産地である箕面市でも、エゴノキタケから多数採集した。エゴノキタケは乾燥したエゴノキの立ち枯れについており、また菌そのものの含水量も少ないようで、乾燥に適応したオオキノコムシであるという印象を受ける。

20. *Tritoma rufipennis* (Lewis)

ベニバナチビオオキノコ

8exs., 兵庫県波賀町赤西溪谷, 19.X.1999; 2exs., 同所, 31.X.1999; 34exs., 同所, 2.VI.2000

本種については内藤(2000b)に言及があるが、具体的なデータがないので記録しておく。

10月に採集した個体5頭を容器内で飼育したところ、翌年5月まで生存していた。また、野外でも本種およびコモンチビオオキノコ、ミツボシチビオオキノコ、トウキョウムネビロオオキノコ、ヒゴノムネビロオオキノコは、秋期に得た個体に比べ春季から夏季に得た個体のほうが明らかに体色の発現がよく、体の硬化が進んでいることから、少なくとも兵庫県西部ではこれらの種は秋期に成虫が現れ、越冬して翌夏まで生存するものと考えられた。一方、ツマグロチビオオキノコは5~7月、トモンチビオオキノコは6~8月、オオサワチビオオキノコは8~10月頃に集中的に発生しているようである。ツマグロチビオオキノコについては、6月に幼虫および体の硬化した成虫、未成熟な成虫を同時に観察している(後者のグループも越冬態は成虫ではないかと想像しているのだが)。

21. *Tritoma tripartitaria* (Lewis)

カタベニチビオオキノコ

2exs., 兵庫県波賀町音水溪谷, 20.VI.2000; 1ex., 朝来郡朝来町上岩津, 29.VIII.2000

本種の県下の既知産地は、赤西溪谷であったが(内藤, 2000b)、上記の追加産地のほか扇ノ山でも目撃しており、広く分布すると思われる。

アミヒラタケ *Polyporus sequamosus*、ハチノスタケ *P. alveolaris*、アシグロタケ *P. (Polyporellus) badius*、チャミダレアミタケ属 *Daedaleopsis* のキノコなどいろいろな菌から採集している。

22. *Tritoma asahinai* Nakane

トモンチビオオキノコ

2exs., 兵庫県波賀町赤西溪谷, 30.VI.2000; 1ex., 同所, 21.VII.2000; 1ex., 同所, 3.VIII.2000

細い立ち枯れについたハチノスタケから得た。三重県では本種をかなり多数採集しているが、それらの個体も全てハチノスタケから得たものである。本種の兵庫県下の記録を知らない。

23. *Tritoma cenchris* (Lewis)

コモンチビオオキノコ

2exs., 兵庫県波賀町音水溪谷, 20.VI.2000; 1ex., 同所, 29.VI.2000; 1ex., 同所, 28.VII.2000

県下の既知産地は、赤西溪谷であった。ツヤウチワタケ *Microporus vernicipes* より得られた。

24. *Microsternus tokioensis* Nakane

トウキョウムネビロオオキノコ

1ex., 兵庫県波賀町音水溪谷, 16.VI.2000; 3exs., 同所, 20.VI.2000; 5exs., 同所, 29.VI.2000; 1ex., 同所, 28.VII.2000

県下の既知産地は、赤西溪谷であった。タバコウロコタケ科 *Phellinus* 属のネンドタケ *P. gilvus* の近縁菌より得た。ホストとなるキノコの量がかなり多い場所で見られる。

25. *Microsternus higonius* Lewis

ヒゴノムネビロオオキノコ

3exs., 兵庫県波賀町音水溪谷, 16.VI.2000; 10exs., 同所, 20.VI.2000; 3exs., 同所, 29.VI.2000

本種も県下の既知産地は、赤西溪谷であった。上記種と同じキノコおよびネンドタケから得た。赤西溪谷でも6月頃にチャアナタケ *Phellinus umbrinellus* と思われるキノコから多数が得られた。

ミジンクスイムシ科 Propalticidae

26. *Propalticus kiuchii* Sasaji

キウチミジンクスイ

1ex., 兵庫県波賀町坂の谷, 5.VIII.2000

テントウムシダマシ科 Endomychidae

27. *Endomychus nigropiceus* (Gorham)

ヒラノクロテントウダマシ

3exs., 兵庫県波賀町音水溪谷, 22.VIII.2000

チャミダレアミタケ属 *Daedaleopsis* のものと思われるキノコより得た。スエヒロタケには本種と近縁なルリテントウダマシが非常に多いが、今のところ兵庫県ではスエヒロタケで本種を見ていない。

なお、本種には *E. hiranoi* Sasaji の学名が与えられていたが、上記の学名に変更された。

テントウムシ科 Coccinellidae

28. *Hippodamia tredecimpunctata* (Linne)

ジュウサンホシテントウ

1ex., 加古川市宗佐, 18.IX.2000

ヨシをすくって採集した。県下の既知産地としては、宝塚市大原野(森, 1991)がある。また、正式な記録ではないが、建設省(1994)によれば加古川、揖保川流域で採集されており広く分布するものと思われる。

29. *Scymnus babai* Sasaji

ババヒメテントウ

2exs., 加古川市宗佐, 18.IX.2000

ヨシをすくって得た。ヨシ原に普通の種であるが、県下では宝塚市武田尾の記録しかないようである(宝塚市教育委員会,1994)。

ホソカタムシ科 Colydiidae

30. *Neotrichus hispidus* Sharp

サシゲホソカタムシ

1ex., 兵庫県波賀町音水溪谷, 28.VII.2000

カラスザンショウ倒木の樹皮下より得た。

31. *Glyphocryptus brevicollis* Sharp

ヒサゴホソカタムシ

1ex., 篠山市篠山町小金ヶ岳, 29.IV.2000

高橋(1994)によれば兵庫県では宝塚市からの記録(宝塚市教育委員会,1994)しかないようである。5月頃に、比較的高い位置にあるやや乾燥した細い枯れ枝を叩くと得られることが多い。

ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae

32. *Scaphidema discale* Lewis

ウスモンツヤゴミムシダマシ

1ex., 兵庫県波賀町音水溪谷, 20.VI.2000; 1ex., 兵庫県波賀町赤西溪谷, 30.VI.2000

少ない種ではないが、高橋(1990)に記録がないので記録しておく。細い立ち枯れから得た。

33. *Ischnodactylus parallelicornis* (Nakane)

ヒラツノキノコゴミムシダマシ

1♂2♀, 兵庫県波賀町坂の谷, 2.VIII.2000

ブナ立ち枯れに生じたエビタケ *Ganoderma tsunodae* から採集した。他県でもエビタケからしか採集したことがない。主にブナ帯で得られている種で、兵庫県では美方郡扇ノ山、城崎郡三川山から記録されている(高橋,1991)。

34. *Cryphaeus boleti* (Lewis)

コブヒメツノゴミムシダマシ

1♂, 兵庫県波賀町赤西溪谷, 7.VII.2000羽脱; 2♀, 同所, 10.VII.2000羽脱

あまり得られない種で、高橋(1993)には県下の記録は挙げられていない。

カラスザンショウの細い立ち枯れより羽化脱出した。この立ち枯れからは、キイロアラゲカミキリが200頭ほど羽化してきた。

35. *Simalura coerulea* (Lewis)

ルリツヤヒメキマワリモドキ

1ex., 篠山市篠山町小金ヶ岳, 29.IV.2000

兵庫県下の記録は多くないが、波賀町付近ではかなり得られる。

36. *Strongylium japanum* Marseul

シワナガキマワリ

1ex., 兵庫県波賀町音水溪谷, 21.VII.2000

倒木上で得た。ハネナシセスジキマワリ同様に、沿海部に多産する傾向があり、県下では浜坂町あたりに個体数が多く(内藤,1999)、京都府でも舞鶴市冠島に多産することが知られている。内陸部でも照葉樹林の保存された場所には多い。

37. *Strongylium gibbosipenne* Nakane

セコブナガキマワリ

1ex., 兵庫県波賀町赤西溪谷, 7.VII.2000死体発見

高橋(1993)には、県下における本種の記録はない。コブヒメツノゴミムシダマシと同じカラスザンショウの材より羽化脱出した。発見したときには既に死体の状態であったため、不完全な標本となった。

本種に比較的類似したウスイログミムシダマシは、細い枯れ枝や生枝を叩くと多数得られるが、太い樹幹部で見るとは少ない。これに対し、筆者は過去に太い倒木上から本種を採集したことがあり、樹洞内から本種が得られたという報告(川田,1995)もあることから、両種が活動域を異にしている可能性も考えられる。

ナガクチキムシ科 Melandryidae

38. *Stolius vagepictus* Lewis

ヨツボシキバネナガクチキ

1ex., 篠山市篠山町小金ヶ岳, 29.IV.2000

秋期から春季に成虫が現れるようである。ミツバアケビを叩いて得た。

39. *Eumelandrya duodecimmaculata* (Nakane et

Hayashi)

ジュウニホシナガクチキ

6exs., 兵庫県波賀町赤西溪谷, 2.VI.2000

西南日本に分布の中心があると考えられる種で、材から羽化したものを得ている例が多い。兵庫県では既に赤西溪谷から記録されている(芦田,1991)が、採集時の観察を含め追加報告しておく。

本種が得られたのは、最小直径4cm、最大直径15cmほどの1本のアワブキの落枝からで、本種のものと思われる飛孔もいくつかみられた。この枝は、枯死後5年ほど経過しているが樹皮は7割ほど付着し、ミヤベオオウロコタケ *Hymenochaete intricatae* かそれに近縁なタバコウロコタケ科のキノコがついていた。このキノコに対する本種の選好性の程度は不明である。本種は、枝についた上記のキノコ、樹

皮、腐朽した材部を後食し、かつ交尾・産卵していた。後食の際には、筆者が触ったため新たに傷つけられた部分に強く誘引されるのが観察された。

アリモドキ科 Anthicidae

40. *Derarimus clavipes* (Champion)

セマルツヤアリモドキ

1ex., 篠山市篠山町小金ヶ岳, 29.IV.2000

以前は産地の限られた種であったが、近年は多くの場所から記録されるようになった。県下では、神戸市摩耶山、宝塚市(宝塚市教育委員会, 1994)の記録がある。落ち葉下より得た。

カミキリムシ科 Cerambycidae

41. *Obrium japonicum* Pic

サドチビアメイロカミキリ

1ex., 美方郡温泉町扇ノ山, 19.V.2000羽脱

エゾエノキの材より、ホソツヤヒゲナガコバネカミキリ、アカネキスジトラカミキリ、ヨコヤマトラカミキリなどとともに羽化脱出した。本種のホストはヤチダモとされるが、エゾエノキからも比較よく得られるようである。兵庫県では赤西溪谷などで採集されている。扇ノ山からの記録の有無はよくわからないが一応記録しておく。

42. *Eumecocera minamii* Makihara

ジュウモンジニセリンゴカミキリ

1ex., 宍粟郡波賀町原, 2.VI.2000

外灯に飛来した個体を得た。この個体は、前胸背板中央横位の淡色微毛帯を欠くが、広島県産の典型的な本種の標本と比較したところ、体表面の微毛の色彩およびその出現パターンはよく一致していることから本種と判断した。岩田ほか(1993)は、「鞘翅会合縁における淡色の縁取りが、わずかにまたは顕著に現れる」ことを本種の同定ポイントとして挙げ、この基準によれば京都府からのセミスジニセリンゴカミキリの記録の多くはジュウモンジニセリンゴカミキリに含まれるとしている。永幡(1997)によれば、兵庫県では村岡町、生野町、佐用町などで採集されているようである。

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

43. *Notioxenus wollastoni* Sharp

ケチビヒョウタンヒゲナガゾウムシ

1ex., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 30.VI.2000

細い立ち枯れから採集した。

44. *Habrissus pardalis* (Sharp)

シロマダラネプトヒゲナガゾウムシ

1ex., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 20.VI.2000羽脱

サワグルミの材よりチチブニセリンゴカミキリなどとともに羽化脱出した。高橋(1987)、高橋遺稿(2000)には兵庫県における本種の記録はなく、県下初記録と思われる。

ゾウムシ科 Curculionidae

45. *Curculio ochrofasciatus* Morimoto

キオビシギゾウムシ

2exs., 神戸市北区八多町, 29.IV.1999

エゴノキの立ち枯れより得た。兵庫県下の記録を見ない。

46. *Macrotelephae ichihashii* Morimoto

オオヒメクモゾウムシ

2exs., 宍粟郡波賀町音水溪谷, 29.VI.2000

兵庫県下の記録を見ない。

47. *Pseudohylobius setosus* Morimoto

モジャモジャツチイロゾウムシ

1ex., 宍粟郡波賀町音水溪谷, 29.VI.2000; 1ex., 同所, 28.VIII.2000

西南日本に分布の中心があると思われる種で、場所によっては必ずしも稀ではない。兵庫県下の記録はなかったものと思われる。

沢沿いのフジ枯れ幹、ケヤキ枯れ枝より得た。

48. *Trachodes simulator* Morimoto et Miyakawa

1ex., 宍粟郡波賀町赤西溪谷, 2.VI.2000; 8exs., 同所, 10.VI.2000

シロカレキゾウムシなどとともに落枝を叩いて得た。本種と近縁な *T. monticola* という種が、群馬県、長野県あたりの山地から記録されているが、筆者の手元に三重県産の標本があり、この種

も西日本に分布しているようである。



49. *Acicnemis luteomaculata* Morimoto et Miyakawa

1♂+1ex., 宍粟郡波賀町音水溪谷, 16.VI.2000;

2exs., 同所, 30.VI.2000; 1ex., 同所, 28.VIII.2000

極く普通の種のようなものである。広葉樹枯れ枝より得られた。

末筆ながら、文献の便宜を図られた生川展行氏、

初宿成彦氏、高島昭氏に深謝申し上げる。

＜参考文献＞

足立義弘(1992) 野生鹿の糞から採集した食糞性コガネムシ IRATSUME(15,16): 45-46.
 秋田勝巳・大沢省三(1990) カタモンチビオオキノコとキオビチビオオキノコについて 月刊むし(237): 17-19.
 秋山美文(1997) 広島県産甲虫の分布記録(4) 比和科学博物館研究報告(35): 151-182.
 有本久之(1988) 長野県のコメツキムシ まつむし(77): 1-34.
 有本久之・水野弘造(1990) 奈良県産コメツキムシ科甲虫記録 KINOKUNI(37): 1-30.
 芦田 久(1991) 兵庫県におけるジュウニホシナガクチキの記録 月刊むし(239): 39.
 岩田ほか(1993) 京都府のカミキリムシ 関西甲虫談話会資料(5)
 川田一之(1995) セコブナガキマワリの神奈川県における記録 月刊むし(298): 10-11.
 河上康子・稲畑憲昭(2000) 大阪湾沿岸地域における海浜・河口汽水域の地表性甲虫調査 関西甲虫談話会資料(16)
 建設省河川治水課(監修)(1994) 平成4年度河川水辺の国勢調査年鑑 陸上昆虫類調査編
 森 和夫(1991) 宝塚市西谷地区の昆虫数種について きべりはむし19(1): 20-23.
 Morimoto, K. & Miyakawa, S. (1995) The Family Curculionidae of Japan. VIII., Esakia(35): 17-62.
 永幡嘉之(1997) 兵庫県北部におけるトホシカミキリ族の後食習性 IRATSUME(21): 1-7.
 内藤隆夫(1999) 兵庫県におけるイトヒゲナガゾウムシの記録 月刊むし(345): 43.
 — (2000a) 兵庫県で採集した甲虫数種の記録 きべりはむし28(1): 54-55.
 — (2000b) 兵庫県と京都府におけるオオキノコムシ科の記録 月刊むし(349): 26-28.
 仲田元亮(1982) 増補改訂 能勢の昆虫 甲虫の部下巻
 生川展行(1997) キベリハバビロオオキノコとチャバネチビオオキノコについて ねじればね(75): 3-6.
 大平ほか(1996) 設楽町誌 - 自然編-資料編 甲虫類
 相馬明直(1999) 宍粟郡産甲虫の記録 てんとうむし(13): 90.
 高橋 敏(1991) 木津川の甲虫類 京都の昆虫: 61-64. 京都新聞社
 高橋 匡(1981) 但馬地方昆虫目録(予報第5報) IRATSUME(5): 46-58.

— (1983) 但馬地方昆虫目録(予報第5報)訂正 IRATSUME(7): 22-23.
 高橋寿郎(1982) 兵庫県のカッコウムシ IRATSUME(6): 42-45.
 — (1982) 兵庫県のジョウカイモドキ きべりはむし10(2): 18-22.
 — (1987) 兵庫県のヒゲナガゾウムシ(2) 兵庫生物9(3): 153-156.
 — (1990) 兵庫県のゴミムシダマシ(3) 兵庫生物10(1): 25-27.
 — (1991) 兵庫県のゴミムシダマシ(4) 兵庫生物10(2): 72-74.
 — (1991) 兵庫県のエンマムシ きべりはむし19(1): 1-10.
 — (1992) 兵庫県のアリモドキ きべりはむし20(1): 5-16.
 — (1993) 兵庫県のゴミムシダマシ(6) Crude(38): 22-33.
 — (1994) ヒトクチャケとキカイガラタケおよび各種キノコにて採集した甲虫 IRATSUME(18): 65-73.
 — (1994) きべりはむし22(2): 51-52.
 — (1996) コヒゲシマビロウドコガネの分布について IRATSUME(20): 24-26.
 — (1997) 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(1) きべりはむし25(2): 13-22.
 — (1997) 中国山地をめぐる地域のコガネムシ相 ホシザキグリーン財団研究報告1: 205-209.
 — (1998) 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(2) きべりはむし26(2): 1-7.
 — (1999) 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(3) きべりはむし27(2): 47-53
 — (1999) 音水・赤西溪谷(宍粟郡)の甲虫相 てんとうむし(13): 15-25.
 高橋寿郎氏遺稿集(2000) 兵庫県のテントウムシ(2) きべりはむし28(1): 12-31.
 — (2000) 兵庫県産ゾウムシに関する文献目録(4) きべりはむし28(1): 32-41.
 高野 勉・大桃定洋(2000) 茨城県産甲虫リスト りぼし(23)
 宝塚市教育委員会(1992) 宝塚の昆虫II
 — (1993) 宝塚の昆虫IV
 — (1994) 宝塚の昆虫VII

(NAITO TAKAO 寝屋川市池田3-4-13)

オオムラサキとヘリグロチャバネ セセリと神戸の再度山 岡村 八郎

私は2000年7月10日(晴)に神戸の諏訪山から再度山へ自動車で上がり、二本松の所で降りた。東側に大きなクヌギがある。何やら発酵する匂いがするとしたら1m50cmぐらいの高さの所に樹液がしみ、そこにカナブンが8~10頭、オオムラサキが10~15頭群がっていた。時々高く舞い上がっては、又戻り樹液を吸いにくる。運転してきた谷本さんは、この場所は初めてと大感激、都心から20分程でオオムラサキに会えるとは！ 3頭採集。

さて、お目当てのヘリグロはいない、南風が強いのためか？ ようやく「再度公園」の看板の下に咲いていた白い花(ヒメジョオン)に1頭(♀)を見つけた。谷本さんが捕まえた。

ヘリグロチャバネセセリ *Thymelicus sylvaticus*

Bremer

<データ> 1♀ 神戸市再度山 2000年7月10日
13時 谷本祥二採集

私は昔、ヘリグロを1984年6月28日にこの場所で採集したことがある。

<参考文献>

1. 杉本雅志(1994) 神戸市街地近くのヘリグロチャバネセセリ 蝶研フィールド9(7): 27.
2. 法西 浩(2000) 兵庫県西宮市・宝塚市のヘリグロチャバネセセリ 蝶研フィールド15(3):
3. 加藤昌宏ほか(1981) 神戸の蝶(神戸の自然8) 神戸市立教育研究所刊

(OKAMURA HACHIRO

神戸市東灘区御影中町1丁目10-6)

鉢北高原でオニクワガタを採集 高島 昭

鉢北高原で夜間採集を実施した際に、オニクワガタが飛来した。本種は但馬を中心に県西北部の山地帯に広く生息しているようであるが、比較的採集記録が少ないと思われるので報告する。

村岡町鉢北高原 19.VIII.2000 1♂ 高島 昭採集

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

神戸市北区箕谷付近でも ナガサキアゲハの定着を確認 平尾 栄治

昨年夏からたびたび本種を目撃したり、自宅の庭に植栽したユズから幼虫を確認していたが、本年に入り、5月以降頻りに目撃を繰り返していた。

2000年7月15日に自宅の庭のカラタチに産卵中の新鮮な1♀を採集した。また約10日後に幼虫も確認したので合わせて報告する。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

ホシミスジの採集記録一例 広畑 政巳

近年分布を拡大して注目されている種の一つに本種がある。公園や住宅地に多く植えられるようになったユキヤナギやコデマリなどを食樹として分布を拡大していると思われる。

筆者は2000年7月1日に夢前町山宮にて1♀を採集しているので報告する。近隣の姫路市では多くの記録があり、加古川市、高砂市にも記録があるが夢前町、龍野市、香寺町、太子町からは報告がない。おそらく分布はこの地域にまで広がっていると思われるので今後の調査をが期待される。

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

丹生・帝釈山系のクロコノマチョウ (続報)

平尾 栄治

本誌第27巻第2号(1999年11月)で報告したクロコノマチョウ(1999.7.10採集)から調査を継続していたが、2000年9月2日午前10時頃、前回とは少し離れた神戸市北区山田町坂本の丹生神社参道から少し入った帝釈山登山道乗越で新鮮な秋型のクロコノマチョウ1♂を採集したので報告する。

(HIRAO EIJI 神戸市北区松が枝町3-4-4)

姫路市におけるクロコノマチョウの 採集記録二例 広畑 政巳

1951年の県下での初記録以来1970年代前半までの二十数年間は十数例の採集記録しかなく、県下において本種は迷蝶として扱われていた。しかし1970年代後半からは毎年採集されるようになり、それも県南部の地域から但馬に至るまで採集記録が見られるようになった。特に近年ではその数と地域が著しく増え、越冬個体の採集記録も毎年聞くようになり、県下では確実に土着し、珍しい種ではなくなっている。

姫路市においてもこれまで十数カ所での採集記録が報告されているが、報告されていない新しい記録として次の二例を報告する。

<採集記録>

姫路市六角 1♂ 24-VI-2000 広畑政巳

姫路市緑台 若令幼虫5頭 31-VII-1999 広畑政巳

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

冬季にアサギマダラの蛹を発見 広畑 政巳

アサギマダラの越冬の状況を南光町船越、加美町金蔵山、福崎町七種山、相生市能下などで観察しているが、越冬の形態はいずれの地でも若令幼虫である。温暖な地域では成虫越冬も確認されているようであるが、兵庫県下では幼虫以外での越冬は知られていない。

筆者は香寺町相坂にて2000年1月3日に本種の越冬調査を行った際キジョランで数頭の若令幼虫と生蛹一頭を確認した。蛹は確認の際、葉から落ちてつぶれたのでその後の経過は確認できなかったが蛹化したばかりの蛹であった。

普通では考えられないことであるが暖冬の影響ではないかと思われる。珍しいので報告をしておく。情報をご提供いただき調査にも同行いただいた木村三郎氏にお礼申しあげる。

(HIROHATA MASAMI 姫路市白鳥台3-11-8)

神戸市西区における クロコノマチョウの1年の記録 近藤 伸一

本年は神戸市西区榎谷町寺谷において、月3回の割合で蝶類の定点調査を行っているが、春から秋にかけてクロコノマチョウを確認することが出来た。近年当地域では毎年のように成虫が確認されており、また一年を通じた観察でも春、夏、秋と成虫が見られることから当地域では土着しているものと思われる。以下に採集・観察記録を報告する。場所は全て榎谷町寺谷、調査日は2000年4月9日から11月3日の間、---は成虫が見られなかったもので、観察者は全て筆者である。

調査記録

4月9日 --- ・4月20日 1ex. ・4月22日 2exs.
5月4日 1ex. ・5月14日 1ex. ・5月21日 ---
6月4日 --- ・6月18日 --- ・6月26日 ---
7月1日 --- ・7月14日 1ex. ・7月23日 1ex.
8月5日 --- ・8月12日 --- ・8月26日 1ex.
9月2日 2♀ ・9月17日 1♀ ・9月24日 1♀
10月1日 --- ・10月15日 --- 11月3日 3♂ 3♀
なお9月2日に採集した♀から採卵し、野外で飼育したが、10月末までに全て羽化した。

(KONDO SHINICHI

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

トゲナナフシの採集記録 柴田 剛

トゲナナフシ *Neohirasea japonica* De Haan は、兵庫県版レッドデータブックでCランクに位置づけられているが、兵庫県下にはかなり広く生息すると思われるにもかかわらず、その採集記録がほとんど報告されていない。

兵庫県内の2カ所で採集しているので、ここに報告しておく。

- 1 明石市明石公園 1♀ 30. X.1999
城跡のアベマキの幹にとまっていたもの
- 2 篠山市殿町 1♀ 24. K.2000
山すその農業用倉庫の軒下にいたもの

(SHIBATA TAKESHI 明石市太寺天王町2970-7)

音水溪谷でナガサキアゲハを採集 内藤 隆夫

筆者は、音水溪谷でナガサキアゲハ *Papilio memnon* を採集したが、県中部での本種の記録は少ないと思われるので報告する。

1♂, 兵庫県波賀町音水溪谷, 20.VI.2000

アオバセセリとともにウツギを訪花していたもので、かなり破損した個体であった。

<参考文献>

広畑政巳(1996) IRATSUME(20): 57-65.

(NAITO TAKAO 寝屋川市池田3-4-13)

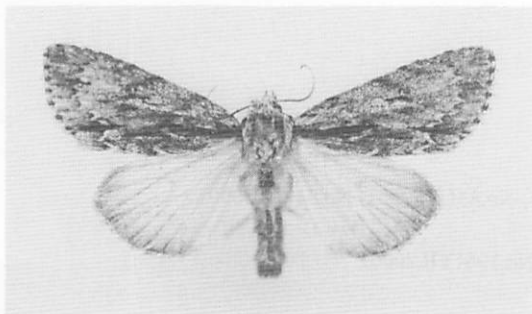
鉢北高原でゴマシオケンモンを採集

(兵庫県産蛾類分布資料・19)

高島 昭

ゴマシオケンモン *Triaena isocuspis* (Sugi) は冷温帯性の種で本州と四国の一部に分布し、中部地方などでは山地に普通に見られるが西南日本では少ない種である。本種はこれまで兵庫県から未記録であり、高島(1998)では今後記録される可能性がある種として示したが、鉢北高原で採集することができたので報告する。これで兵庫県に産するケンモンヤガ亜科は31種となる。

村岡町鉢北高原 19.VIII.2000 1♂ 高島 昭採集



現地は鉢伏山北東斜面の標高約800mの地点で、乾性草原とミズナラ、ブナ、ハルニレなどの温帯林が混在し、冬期はスキー場として利用されている。当日はほかにヒメクチバスズメ、キタバコガ、ムラサキオオアカキリバ、エゾシロシタバなども飛来した。なお、同行した兵庫県立人と自然の博物館の八

木氏はムラサキシタバ、オオシロシタバを採集されており、当ポイントは蛾の好採集地として注目される。

<参考文献>

高島 昭(1998) 兵庫県のウスベリケンモン亜科とケンモン亜科 きべりはむし26(2): p.44-58

(TAKASHIMA AKIRA 姫路市書写2542-2)

クビキリギスとクサキリ

近藤 伸一

南光町の千種川グリーンライン昆虫館に、今年の4月から館長をされている岩村 巖氏を訪ねた際、クビキリギスが話題になった。クビキリギスは直翅目の中ではツチイナゴとともに成虫越冬する数少ない種類で、昆虫館にとっては冬期も展示出来る重要な昆虫だそうである。最近はなかなか見つからず、西播磨で何度か採集を試みたが採集出来ないとのことであった。幸い神戸市西区には生息地が残っているので採集を約束した。

10月、上郡町赤松でシルビアシジミを撮影中にたまたまクビキリギスを見つけた。飛び方がおかしいと思いつつも4匹を採集し、その足で昆虫館に届けた。ちょうど前館長の内海功一氏がおられ、4匹ともクビキリギスでなくクサキリであるとの指摘を受けた。

その後、西区内でやっと本物のクビキリギスを採取し、無事昆虫館に届けることが出来たが、なじみの深いこの虫も最近ほとんど見る事がなくなった。「気がつけばいなくなっていた昆虫」に仲間入りしたようである。最近のクビキリギスの採集記録と、ついでにクサキリの記録を報告しておきたい。

クビキリギスの採集記録

川西市黒川 1♀ 3.XI.1996

神戸市西区榎谷町寺谷 1♂ 14.X.2000

クサキリの採集記録

川西市黒川 1♀・3.XI.1996

神戸市西区榎谷町寺谷 1♂ 12.VIII.2000

上郡町赤松 4exs. 8.X.2000

(KONDO SHINICHI)

神戸市西区岩岡町岩岡619-57)

県関係文献紹介

- 相坂耕作(2000) 兵庫県・播磨地方のホタル文化誌 「播磨の螢誌」
播磨昆虫民俗資料館研究紀要(1) B5版 32ページ

著者の相坂氏(本会会員)は姫路昆虫同好会の代表世話人を始め、播磨昆虫民俗資料館の館長も務められ、昆虫に関する民族文化の研究では第一人者として著名である。

人と昆虫の関わりという点では、古来より最も親しまれてきたホタルと民族文化について、多方面から多数の資料を蒐集し紹介されている。

昔なつかし螢籠のような昆虫採集用具から唱歌、玩具、酒、浮世絵まで螢に関するものなら何でも集めてしまおうという意欲的な作品であり、およそホタルの文化に関することならこの1冊を見ればわかる。

虫屋とはかく昆虫の分布、分類、生態等の研究、あるいは直接的に標本の収集に興味が集ましがちで、民族文化には縁のない人も多いが、今後自然とどう共生していくかが人間社会全体に与えられたテーマであり、昆虫と人間の関わりについて考えることも大切ではないだろうか。そんなことを考えさせられる資料である。聞くとところによると、ホタルに続いて第2弾、第3弾も計画中とのこと。氏の今後の活躍を祈りたい。入手希望の方は直接相坂氏まで。送料込みで1,000円とのこと。

交換誌・寄贈誌紹介

2000. 5. 1～2000. 10. 15

今年5月以降、下記の文献が事務局に届いています。ご利用下さい(掲載はアルファベット順)。
なお、県内関係記事の内容については連絡誌の方で紹介していますので、併せてご参照下さい。

県内(主として県内の記事を多く含むもの)

エコひょうご(ひょうご環境創造協会)
姫昆サロンニュース(姫路昆虫同好会連絡誌) No.135(VII.2000)
IRATSUME(但馬むしの会会誌) No.24(V.2000)
混蟲ずかん(但馬むしの会連絡誌) No.70(V.2000)
PARNASSIUS(淡路昆虫研究会会誌) No.49(IV.2000)

県外(県外の同好会誌、専門誌等)

蝶類年鑑 '96(蝶研出版)
いずも虫だより(山陰むしの会連絡誌) No.82(XII.1999), No.83(II.2000), No.84(IV.2000)
FUTAO(フタオ会会誌) No.34(IX.2000)
比婆科学(比婆科学教育振興会会誌) No.194(VI.2000), No.195(VII.2000)
KURAKON(倉敷昆虫同好会連絡誌) No.48(VII.2000)
LUCANUS WORLD No.20(VI.2000), No.21(VIII.2000), No.22(X.2000)
世界のクワガタムシ(株式会社環境調査研究所発行) 単行本(VII.2000)
すかしば(山陰むしの会会誌) No.48(III.2000)
寄せ蛾記(埼玉昆虫談話会会誌) No.96(V.2000), No.97(IX.2000)
誘蛾燈(誘蛾会会誌) No.160(VIII.2000)

※ 今回から会員異動は連絡誌「兵昆通信」に掲載します。

編 集 後 記

今年の夏も記録的な猛暑でした。農作物には干ばつの被害も出たようですが、虫の世界ではどうだったのでしょうか。今回は、山口福男氏から諏訪山の蝶、近藤伸一氏から蝶の訪花植物と、永年の観察記録の集大成が2編投稿されました。蛾については木下修一氏から池田の蛾の記録、とくに甲虫については柴田剛氏からアイヌハンミョウの県下の分布状況、八木剛氏から兵庫県のゲンゴロウ、内藤隆夫氏から県下の注目すべき甲虫の記録が寄せられるなど、盛りだくさんな内容となりました。短報も14編と充実しました。寄稿いただきました方々には厚く御礼申し上げます。故高橋寿郎さんの遺稿は前回からの続編として「兵庫県のクワガタムシ(2)」を掲載しています。

今号から目次を「報文」と「短報」に分けて表示することにしました。また、会員異動欄や会の内部のお知らせ等は、連絡誌の方に掲載するよう変更しています。

前号でお知らせしました高橋さんの著作目録、キベリハムシのまとめも原稿がほぼできあがっています。近いうちにお届けすることができると思います。

今回の「きべりはむし」の発行は2001年5月です。締切は一応2001年3月末日としますが、原稿は常時受け付けています。短報はきちんとした文章でなくても、メモ程度でも結構です。お気軽に御一報下さい。

2001年度の会費納入について、振込用紙を同封しますのでよろしくお願いします(詳細は連絡誌「兵昆通信」をご覧ください)。

(編集担当 高島 昭)

きべりはむし 第28巻 第2号

2000年11月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

編集：近藤伸一・高島昭

事務局、原稿送付先：

〒671-2201 姫路市書写2542-2 高島 昭 方

郵便振替口座：01170-3-26646

印刷：岩峰社・東京

目 次

【報 文】

阪訪山公園の蝶 第2報 (飛来消長と年次変動について)	山口福男	1
蝶類の観察記録 - 訪花・吸蜜植物等 -	近藤伸一	22
めざせ50種! 兵庫のゲンゴロウ	八木 剛	39
兵庫県のクワガタムシ(2) 故高橋寿郎氏遺稿集No. 8	兵庫昆虫同好会事務局編	42
アイヌハンミョウの兵庫県下における生息状況	柴田 剛	53
池田市北部の蛾 ヤガ科アツバ亜科・クルマアツバ亜科	木下修一	55
兵庫県のヨトウガ亜科 (兵庫県産蛾類分布資料・18)	高島 昭	59
兵庫県で採集した甲虫類の記録	内藤隆夫	77

【短 報】

ナナフシモドキを飼育して	近藤伸一	54
庭の昆虫雑文(2)	森口 紀	58
オオムラサキとヘリグロ チャバネセセリと神戸の再度山	岡村八郎	83
鉢北高原でオニクワガタを採集	高島 昭	83
神戸市北区箕谷付近でも ナガサキアゲハの定着を確認	平尾栄治	83
ホシミスジの採集記録一例	広畑政巳	83
丹生・帝釈山系のクロコノマチョウ(続報)	平尾栄治	83
姫路市における クロコノマチョウの採集記録二例	広畑政巳	84
冬季にアサギマダラの蛹を発見	広畑政巳	84
神戸市西区における クロコノマチョウの1年の記録	近藤伸一	84
トゲナナフシの採集記録	柴田 剛	84
音水渓谷でナガサキアゲハを採集	内藤隆夫	85
鉢北高原でゴマシオケンモンを採集 (兵庫県産蛾類分布資料・19)	高島 昭	85
クビキリギスとクサキリ	近藤伸一	85
県関係文献紹介		86
交換誌・寄贈誌紹介		86